

令和5年度 老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

「自治体による高齢者虐待対応の
標準化及び体制整備に資する AI 等の活用
に関する調査研究事業」

日本電気株式会社

令和6（2024）年3月

内容

1	調査研究の概要	4
(1)	目的	4
(2)	調査研究の意義	4
(3)	体制	5
(4)	実施期間	7
2	調査研究の実施内容	7
(1)	調査票の分析	7
(ア)	対象データ	7
(イ)	分析テーマと実証概要	7
(2)	帳票類の標準化	8
(ア)	対象データ	8
(イ)	標準化作業の概要	9
(3)	委員会の開催及び調査実施状況	10
3	調査研究の実証結果	11
(1)	調査票の分析	11
(ア)	使用したデータと分析の全体像	11
(イ)	テーマ①：全体傾向の分析	13
(ウ)	テーマ②：対応の違いに関する要因分析	38
(エ)	テーマ③：虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析	48
(オ)	テーマ④：終結・継続に関する要因分析	53
(カ)	テーマ⑤：虐待内容の名寄せ	66
(2)	帳票類の標準化	68
(ア)	標準帳票の作成	68
(イ)	帳票データの観察	72
4	今年度の調査研究から得られた示唆と課題	73
(1)	調査票の分析	73
(ア)	調査研究から得られた示唆	73
(イ)	今後の分析に向けた課題	73
(2)	帳票類の標準化	74
5	将来的なデータ活用案	74
(1)	高齢者虐待対応業務におけるデータ利活用のロードマップ（案）	74
(2)	データ活用案	75
(3)	令和6年度以降の調査研究の提言	76
(ア)	調査票データの分析	76
(イ)	自治体データを使用した分析	76
付録 1.	全体傾向の分析で使用した項目一覧	78
付録 2.	作成した標準帳票	86
付録 2-A.	養護者による虐待の記録用帳票	86
付録 2-A-1.	相談受付票	86
付録 2-A-2.	事実確認票	89

付録 2-A-3. リスクアセスメント	92
付録 2-A-4. 会議記録.....	98
付録 2-A-5. ケース進行管理表.....	107
付録 2-B. 従事者による虐待の記録用帳票	108
付録 2-B-1. 相談受付票.....	108
付録 2-B-2. 事実確認票.....	116
付録 2-B-3. リスクアセスメント.....	133
付録 2-B-4. 会議記録	135

1 調査研究の概要

(1) 目的

年々増加傾向にある高齢者虐待に対して、データを活用していくことで、自治体職員の異動・退職によるノウハウの継承問題に対し、誰でも一定の品質対応を実現し、業務を効率化する仕組みづくりを目的とする。

令和 4 年度では、「高齢者虐待の実態把握等のための調査」（以下、「法に基づく調査」という）により得られた令和 2 年度までの調査結果から高齢者虐待の全体的な傾向や虐待の緊急度に寄与する要因探索等を実施した。

令和 5 年度では、昨年度から引き続き調査結果の分析を令和 3 年度分のデータを追加して実施した。詳細については、「2 調査研究の実施内容(1)調査票の分析」及び「3 調査研究の実証結果」にて記載する。

また実際のケース対応において自治体職員が利用しているアセスメントシート等について標準化案を作成した。詳細は「2 調査研究の実施内容(2)帳票類の標準化」及び「3 調査研究の実証結果」に記載する。

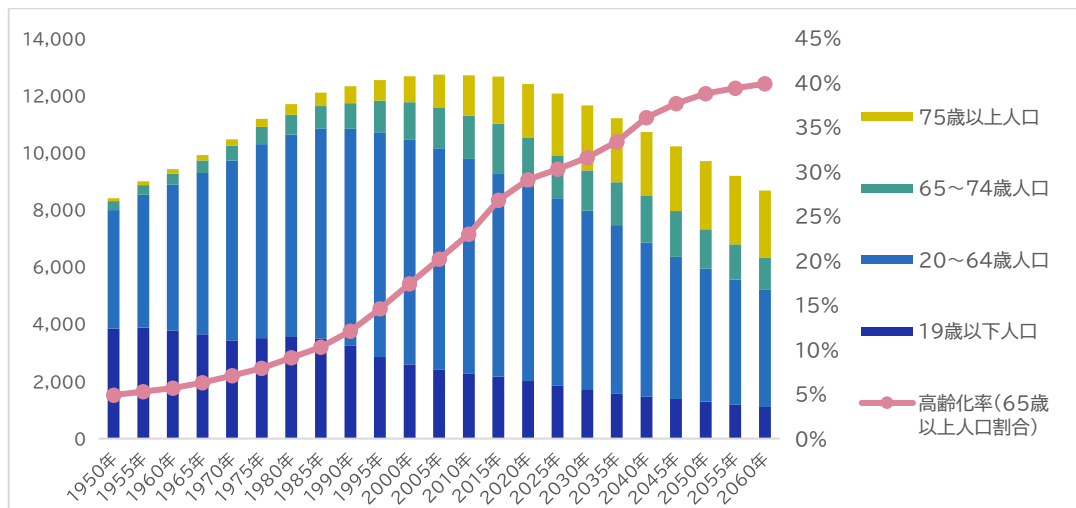
さらに今年度の分析結果、帳票類の標準化作業を通して、令和 6 年度に実施すべきテーマを提言し、必要となるデータ、分析手法、アウトプットとそれが自治体業務にどういった価値を提供できるのかを仮説として提言する。

(2) 調査研究の意義

平成 17 年に国会において「高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」（以下、高齢者虐待防止法）が議員立法で可決・成立し、平成 18 年 4 月 1 日から施行された。同法では高齢者虐待の防止に向けた基本的視点と、国、都道府県、市町村、国民、保健・医療・福祉関係者、養介護施設の設置者・養介護事業者の役割や責務を規定している。

こうした法整備が進む一方、高齢者虐待防止法を基にして実施された令和 2 年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」（厚生労働省）によると、養介護施設従事者等及び養護者による高齢者虐待の判断件数は年々増加傾向にある。平成 18 年と令和 2 年度の虐待判定件数を比較すると養護者による虐待は 12,569 件から 17,281 件、介護施設の従事者等による件数は、54 件から 595 件へと増加している。

また総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」による推計結果によると、日本の人口に占める 65 歳以上の割合は 2030 年には約 30%、2060 年には約 40%まで上昇するとされている（図表 1）。



図表 1 高齢化の推移と将来推計

高齢者の割合が増えることで高齢者虐待の件数が増加する可能性が高まる一方、生産年齢人口が減少する事でそれに対応する自治体・包括支援センター職員のリソースを十分に確保することが難しいと予想される。

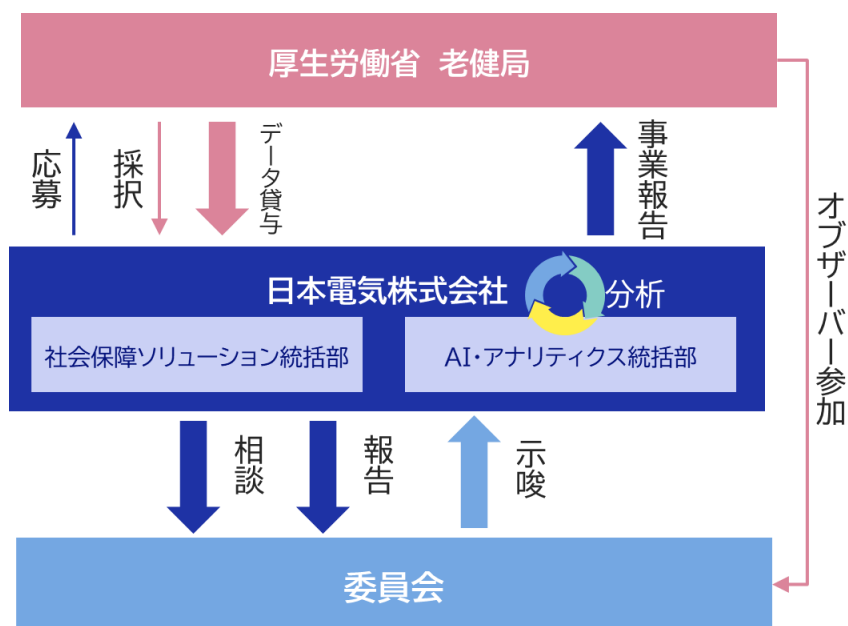
総務省の「自治体戦略 2040 構想研究会」によると、人口減少の影響を受けて 2040 年には自治体職員が半減し、今の半数の職員で自治体を支える必要があるとされている。自治体では、人口減少の深刻化による税収減少や老朽施設・インフラ維持管理費の増加等による財政逼迫化、ベテラン職員等の減少及び専門知識を有する職員の確保の難しさ等、人的・予算的に危機的状況に置かれることが想定される。

令和 4 度の本調査研究では、委員や自治体へのヒアリング結果から現場の課題感も確認できている。例えば虐待発見者に早期段階での相談・通報を促すことが大きな課題として挙げられた。虐待が重篤化してからの発覚は、被虐待者の生命を危険に晒すだけでなく、ケース対応に大きな工数を要するため、人手不足の状況において高い負荷となっている。他にも、自治体ごとに虐待のケースを記録する帳票の使い方・形式が異なる、データとして蓄積されていない等、分析に必要なデータを確保するためには帳票類の標準化とその利用促進が必要である。

本調査研究は、データの整備・蓄積から AI への活用によって、業務の効率化、属人性の解消、ノウハウの継承を支援することで自治体・包括支援センターの業務課題の解決に貢献するものである。

(3) 体制

調査研究における体制を図表 2 に示す。有識者による委員会を構成し、適宜助言をいただきながら分析業務を遂行した。また厚生労働省老健局にオブザーバー参加をいただき、国の政策との整合性を確認しながら実証を進めた。



図表 2 体制図

委員名簿を図表 3 に示す。委員会には、福祉・介護の領域における研究を推進する田園調布学園大学と認知症介護研究・研修仙台センター、自治体からは高齢者虐待の対応に従事する神奈川県福祉子どもみらい局福祉部と会津若松市の健康福祉部、また老人保健健康増進等事業における複数の調査研究事業に携わっている一般財団法人日本総合研究所、同じく老人保健健康増進等事業において自治体や包括支援センターの職員が使用するマニュアルである「市町村・地域包括支援センター・都道府県のための養護者による高齢者虐待対応の手引き」を作成している公益社団法人日本社会福祉士会、「お役立ち帳」を作成している公益財団法人東京都福祉保健財団、また法律の立場から福祉・介護に関わる長島・大野・常松法律事務所に参画いただいている。

◎印：委員長

氏名	所属・役職
◎ 村井 祐一	田園調布学園大学 社会福祉学科 教授
安藤 千晶	公益社団法人日本社会福祉士会 副会長
川崎 裕彰	公益財団法人東京都福祉保健財団 人材養成部福祉人材養成室
坂本 俊英	一般財団法人 日本総合研究所 所長 (理事)
椎名 紗彩	長島・大野・常松法律事務所
宮森 健一郎	会津若松市役所 健康福祉部 副部長兼健康増進課長
油井 智朗	神奈川県 福祉子どもみらい局福祉部 高齢福祉課
吉川 悠貴	認知症介護研究・研修仙台センター 研究部長

図表 3 委員名簿

(4)実施期間

採択日～2024年3月31日

2 調査研究の実施内容

(1) 調査票の分析

(ア) 対象データ

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査」の調査結果データ（以下、「調査票」または「調査票データ」と記載）の令和3年度分を昨年度分より追加で受領し、データ内容の確認、分析に向けたデータ加工を実施した。

B票・附B票（養介護施設従事者等による虐待）とC票（養護者による虐待）を対象に、補足情報としてA票とD票（市町村の対応状況）を合わせて分析対象としている。

尚、データの受領においては、老健局より記録媒体にて受領し、弊社より受領書を提出している。受領書に記載されている内容に基づき、受領したデータは、善良な管理者の注意義務をもって、当該データを本調査研究の目的のためにのみ使用するものとし、また、当該目的のために必要な作業の終了後は、当該データを返却または、消去する。

(イ) 分析テーマと実証概要

今年度の分析テーマを図表4に示す。

テーマ名	令和5年度の実施内容	期待される分析結果
テーマ①： 全体傾向の分析	データ全体をグループに分けて分析し、案件の全体としての傾向をつかむ	要因別に分けてから分類するなど分け方を工夫し、グループごとの特徴をより詳細に抽出する
テーマ②： 対応の違いに関する 要因分析	従事者による虐待事例では行政処分・行政指導についての項目、養護者による虐待事例では分離の有無についての項目に着目し、対応の違いに影響を与える要因を分析する	<ul style="list-style-type: none">従事者による虐待のデータについては、新規データを追加し、年度をまたぐ事例のデータを1つに突合することで、より精度の良い要因分析ができる養護者については新規データのみで分析を行い、昨年度の分析結果との傾向の違いを調査する
テーマ③： 虐待が繰り返し起こる 施設に関する要因分析	従事者による虐待のデータを用い、虐待が繰り返し起こるか否かに影響を与える要因を分析する	テーマ②の従事者による虐待のデータと同様、より精度の良い要因分析ができる
テーマ④： 終結・継続の要因分析	年度末時点で案件が終結したか否かを表す項目に着目し、終結する案件と継続中の案件の違いに関係する要因を分析する	<ul style="list-style-type: none">従事者による虐待のデータについては、テーマ②と同様に、より精度の良い要因分析ができる養護者については新規データのみで分析を

		行い、昨年度の分析結果との傾向の違いを調査する
テーマ⑤： 虐待内容の名寄せ	虐待の具体的内容（自由記述文）をテキスト分析し、5種類の虐待種別分類と紐づけて、虐待判断に使用できる例文を充実させる	新規データのみ分析し、昨年度の分析で作成した例文一覧に追加する

図表 4 令和 5 年度の分析内容

(2) 帳票類の標準化

(ア) 対象データ

まず、帳票類のフォーマットの調査のため、虐待対応の各所で用いられる帳票類を、外部公開されている帳票を中心に 4 都道府県、4 中核市、3 一般市、その他団体（東京都福祉保健財団等）から計 13 種類収集した。収集元と、後述する帳票の種類ごとの有無を図表 5 に示す。これらの帳票を調査・比較して標準化に用いた。

No	種別	自治体名	従事者	養護者	相談 受付票	事実 調査票	対応票	その後	会議 資料
1	政令指定都市 (神奈川県)の帳票)	横浜市	○	○	○	○	○	○	○
2	政令指定都市 (宮城県)の帳票)	仙台市	○	○	×	×	×	○	×
3	政令指定都市 (大阪府)の帳票)	大阪市	○	○	○	○	○	×	○
4	政令指定都市 (埼玉県)の帳票)	さいたま市	×	○	×	○	○	×	×
5	中核市	長崎市	×	○	○	○	×	×	×
6	中核市	尼崎市	×	○	○	○	○	○	○
7	中核市	函館市	○	○	○	○	○	×	×
8	中核市	長野市	×	○	○	○	○	○	○
9	一般市	松阪市	○	○	○	○	○	○	×
10	一般市	昭島市	×	○	○	○	×	×	○
11	一般市	天草市	○	○	○	○	×	×	×
12	その他	日本社会 福祉士会	○	○	○	○	○	×	○
13	その他	東京都福祉 保健財団	○	○	×	○	○	○	○

図表 5 収集した帳票一覧

また、帳票の具体的な内容例として、実際の虐待対応の事例データを江戸川区様より受領し、標準的な帳票の検討およびその帳票を用いた今後の分析テーマ検討に用いた。データは個人情報に関する部分を江戸川区様にて削除した状態で、養護者による虐待事例を 8 件受領した。帳票は、受付票、事実確認票、リスクアセスメン

ト、各種会議（コアメンバー会議、ケース会議、評価会議）から構成されていた。

（イ）標準化作業の概要

帳票の標準化は図表 6 に示す手順で実施した。収集した帳票は、図表 5 にあるように相談受付票、事実確認票（リスクアセスメントも含む）、対応票、会議資料、その他と分類した。このうち、相談受付票、事実確認票およびリスクアセスメント、会議資料（コアメンバー会議、ケース会議、評価会議の 3 種が別帳票）の 4 種を標準化の対象とした。4 種以外の帳票を対象外としたのは、これら 4 種の帳票を使用することで虐待の内容および対応の経過の大半の情報が収集できると考えたためと、4 種以外の帳票は公開されていないものが多く、また公開されていても自由記述欄が多いフォーマットとなっていることから、標準化およびデータを取得しての分析が難しいと考えたためである。

標準帳票案の作成においては、手順 3 の通り、毎年度実施している「高齢者虐待の実態把握等のための調査」における自治体職員の記載業務の負荷を軽減することを目的として、帳票に記入・保存するたびに調査への回答が出力されることを想定した項目を設定した。職員はこれまでと同様の手順で帳票を作成して記録を取り、年度末の調査の時点で出力されている最新のデータを提出するだけでよくなり、負荷が軽減されると考えられる。

手順	実施内容	実施時期
1	全国自治体から帳票用紙を収集し、虐待対応プロセスに応じて分類 ・ 相談受付票・事実調査票・リスクアセスメント・会議記録・その他に分類	2023 年 8 月
2	分類した各帳票について項目の差異を調査 ・ 複数の自治体の帳票で共通している項目は何か ・ 同じ帳票がベースでも、自治体によりアレンジしている場合は何が変わっているか	2023 年 9 月～11 月
3	帳票の共通項目を整理し、法に基づく調査の項目へのデータの流し込みが可能な標準帳票案を作成 ・ 神奈川県、東京都保険福祉財団、昭島市を基準の帳票として作成	2023 年 11 月 ～2024 年 2 月
4	数件の帳票データを入手し内容を確認 ・ 実際にどのような内容・値が、どのような帳票の構成で書かれているかを確認	2024 年 1 月～2 月

図表 6 帳票の標準化手順

(3) 委員会の開催及び調査実施状況

(1) 及び (2) の実施事績及び委員会の開催状況については以下の図表 7 のようになっている。

月	実証研究委員会	実施項目
6 月	老健局様向け調査概要説明	● 委員委嘱・スケジュール調整
7 月	委員就任依頼	● データ受領
8 月		委員への説明 データ観察 帳票類収集
9 月	第一回委員会 (9/14) ・調査研究の概要説明 ・スケジュール案の確認 ・分析の進め方の検討	テーマ決定 帳票類項目調査
10 月		● データ分析開始
11 月		データ分析 帳票を用いた分析案作成 標準化案策作成
12 月	第二回委員会	
1 月		
2 月	第三回委員会 ・分析結果報告 ・来年度の分析の進め方の提言 ・委員の皆様よりフィードバック	報告書作成
3 月	最終報告書の提出 ・ 2 月の委員会でのフィードバックを基に修正した報告書を提出 ・ 標準帳票のフォーマット最終版作成	● 最終報告書提出 (印刷・配布)

図表 7 年間スケジュール

3 調査研究の実証結果

(1) 調査票の分析

(ア) 使用したデータと分析の全体像

A) 分析テーマ

本調査研究では、毎年「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査」において収集されている調査票のうち、平成 29 年度、平成 30 年度、令和元年度、令和 2 年度、令和 3 年度の 5 年分のデータを使用した。調査票の中では、B 票及び附 B 票（養介護施設従事者等による虐待、以下「従事者による虐待」と記載）のデータと C 票（養護者による虐待）のデータを使用し、必要に応じて A 票（市町村における高齢者虐待防止法に基づく状況等に関する調査票）と D 票（市町村における高齢者虐待防止法に基づく状況等に関する調査票～対応のための体制整備について～）のデータも合わせて使用した。

No	内容	対象	使用データ					データの絞り込み	分析前の加工方法
			H 29	H 30	R 01	R 02	R 03		
テーマ ①	全体傾向の分析	従事者	○	○	○	○	○	年度をまたぐ事例の突合をする	「1対1」と「1対1以外」に分けてからクラスタリングを行う
		養護者					○	なし	加工なし
テーマ ②	対応の違いに関する要因分析	従事者		○	○	○	○	年度をまたぐ事例の突合をする	<ul style="list-style-type: none"> 改善命令、事業の制限、停止、認可取消→行政処分とする 改善計画書の提出依頼、報告徴収、質問、立入検査、改善勧告→行政指導とする
		養護者					○	なし	分離を行った事例と分離を行わなかった事例のみ使用（調整中、すでに分離済みは除く）
テーマ ③	虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析	従事者				○	○	年度をまたぐ事例の突合をする	加工なし
テーマ ④	終結・継続の要因分析	従事者		○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 年度をまたぐ事例の突合をする R03のみ下期通報事例は除く 	加工なし
		養護者					○	下期通報事例は除く	加工なし
テーマ ⑤	虐待内容の名寄せ	従事者・養護者					○	なし	加工なし（R4年度分析結果に追加する）

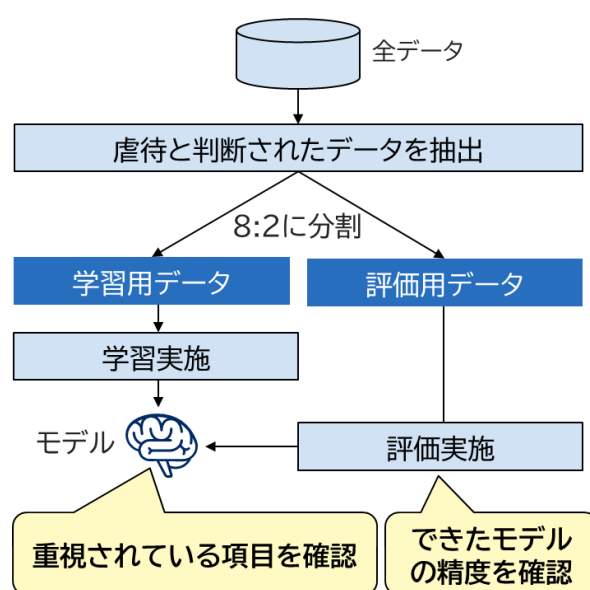
図表 8 分析テーマの全体像

分析テーマの全体像を図表 8 に示す。自治体名を匿名加工済みのデータを受領し、空欄の補完や分析で使用しやすいフォーマットへの変換などのデータクレンジング・加工を行った結果、5 年分の総数として B 票のデータは 12,156 件、附 B 票のデータは 6,364 件、A 票と D 票のデータは 8,705 件となった。C 票は令和 3 年度分のみ使用しており、45,136 件となった。これらのデータを元に、テーマ①からテーマ⑤までの 5 種類の分析を実施した。

データの項目は大きく分けて選択式の回答、数値での回答、日付、自由記述文での回答の 4 種類がある。このうち、テーマ⑤虐待内容の名寄せ以外の分析では選択式の回答と数値での回答、日付のみを用いている。分析テーマによって使用するデータの年数や項目が異なっており、使用したデータと項目の詳細は各分析内容の詳細で述べる。

B) 要因分析の手法と精度指標

本調査研究のテーマ②～④では、要因分析を行う。その際の分析の進め方を図表 9 に示す。まず、B 票における「問 3 市町村における事実確認調査状況 1-2) 事実確認調査を行った結果」が「a) 虐待の事実が認められた」となっているデータ、または C 票における「問 4 事実確認調査の結果 1) 調査の結果」が「a) 虐待を受けたまたは受けたとおもわれたと判断した事例」となっているデータを抽出し、学習用データと評価用データに 8 対 2 の割合で分割する。そして、学習用データを用いて AI（機械学習）によりモデルを構築する。構築されたモデルは学習データの性質を反映したものであるため、モデルに表れている特徴が本調査研究で得たい要因となる。例えばテーマ③の虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析をしたい場合は、再発するかどうかを予測するモデルを構築して特徴を見ていくことになる。本調査研究では、決定木分析のアルゴリズムのうち LightGBM というアルゴリズムを用いている。



図表 9 要因分析の進め方

モデルを構築する際、分析結果の 1 つの指標として精度を確認する。精度が低いモデルの場合は、モデルに表れている特徴の信頼性も低くなるためである。精度の計算は、評価用に分けておいたデータを用いて行う。モデルが構築できた場合の精度の評価は、図表 10 に示す混同行列を用いて行う。混同行列は、構築したモデルを用いて予測をした場合に、モデルが出した結果と実際の結果がどの程度一致しているかを示すものである。例えば図表 10 では、実際に再発した事例は 25 件あり、そのうち 20 件は予測でも再発となっていることを示している。モデルの精度の評価は、混同行列の数値から計算した正解率・適合率・再現率の 3 種類を用いて行う。

- 正解率：全事例の中で、再発・初発を正しく予測できた事例の割合
- 適合率：再発と予測した事例の中で、実際の再発事例の割合（間違いなく予測できたか）
- 再現率：実際の再発事例の中で、正しく再発と予測できた事例の割合（取りこぼしなく予測できたか）

全事例:100件

		予測結果	
		初発	再発
実績	初発	60	15
	再発	5	20

35件 (予測結果の合計)

25件 (実績の合計)

図表 10 混同行列の例

C) 従事者による虐待事例のデータ加工

テーマ①～④のうち従事者による虐待事例の分析では、複数の年度のデータを使用する。このとき、複数の年度をまたいでいる虐待事例は各年度のデータの中に含まれているため、そのまま使用すると同じ事例を重複して使用することになる。そのため、B 票の年度をまたいでいる虐待事例を突合し、最新年度のデータのみを分析に使用する処理を行った。具体的には、「整理情報」の「都道府県」、「市町村」、「問 1 相談通報受理日・時期・自治体」の「1) 相談・通報受理日」、「問 6 虐待事例の概要」の「1) 虐待の事実が確認された期日」が同一であるデータを同じ事例であると見なし、最新年度のデータ以外を削除した。

また、従事者による虐待事例は、B 票と附 B 票に分かれて回答が記載されている。B 票は通報等を受け付けた施設ごとに回答し、附 B 票には虐待の事実が確認された事例について、さらに被虐待者・虐待者の情報を個別に回答する形式となっている。そのため、本調査研究で使用する従事者による虐待事例のデータでは、B 票をベースに、附 B 票を突合する処理を行った。具体的には、「整理情報」の「都道府県」、「市町村」、「整理番号」と年度が、B 票と附 B 票で同一であるデータを同じ事例であると見なし、B 票のデータに附 B 票データを突合した。1 つの事例で被虐待者が複数人いる場合等、B 票 1 データに対して附 B 票が複数データ存在することがある。その場合は、附 B 票の「附 3 虐待の種別・類型」の「4) 虐待の深深刻度」が最も重いデータを使用して、B 票に突合した。

(イ) テーマ①：全体傾向の分析

A) 分析の概要

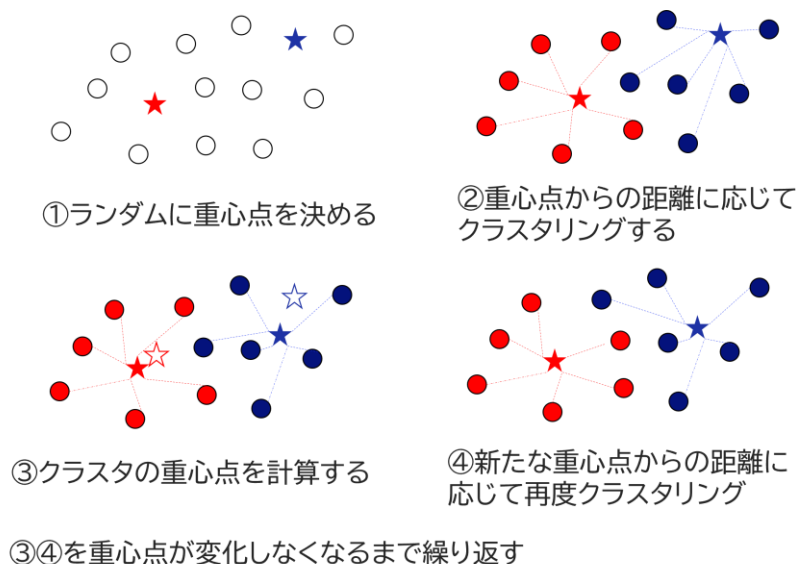
本章では、調査票への回答内容をもとに虐待事例をいくつかのグループに分けるクラスタリング分析を行った。

使用したデータ

B 票と附 B 票は受領した平成 29 年度～令和 3 年度の 5 年分、C 票は令和 3 年度分（1 年分）のみを使用した。C 票（養護者）分析では、D 票も合わせて使用した。

分析方法

k 平均法による非階層型クラスタリングを用いてグループ分けを行った。k 平均法は、未知のデータをいくつかのグループ（クラスタ）に分類する機械学習手法の 1 つであり、図表 11 の手順でグループ分けを行う。



図表 11 k 平均法のアルゴリズム

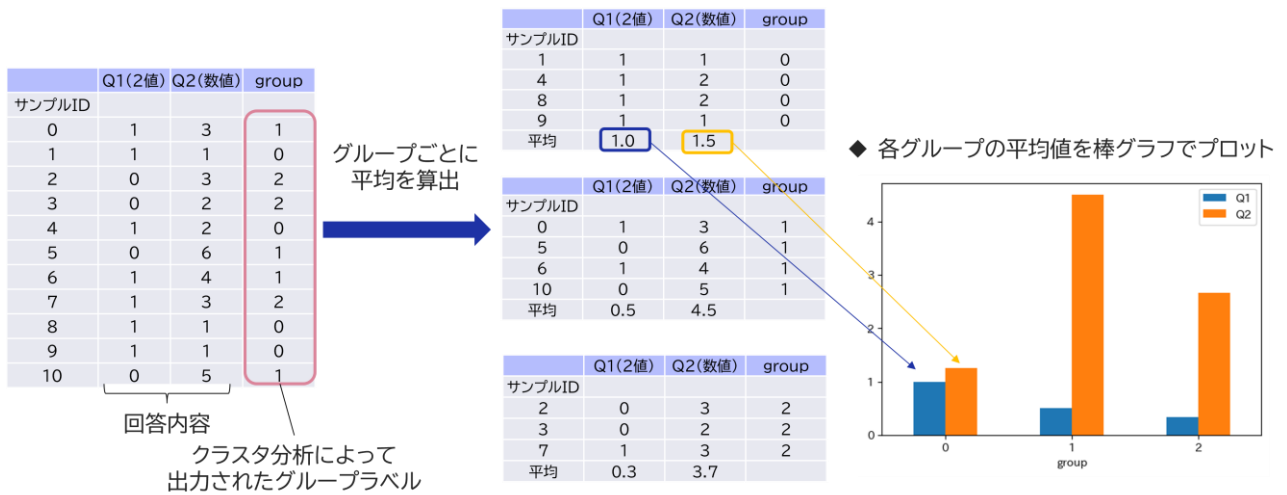
1. 最初にクラスタ数 k を決定し、データセット内から k 個の初期中心点をランダムに決定する。
2. それぞれのデータについて、最も近い中心点を見つけ、その中心点にそのデータを割り当てる。これにより、各クラスタに属するデータが決まる。
3. 各クラスタの重心を計算し、その値を新しい中心点として設定する。
4. 新たな中心点からの距離に応じて、再度クラスタリングを行う。
5. ステップ 3,4 を中心点に変化しなくなるまで繰り返し行い、最終的に、各データがどのクラスタに属するかが確定する。

使用した項目

ID 関連項目、自由記述項目、日付項目を除き、選択式の回答内容のみを使用した。詳細な設問項目の一覧は付録 1 に示す。

クラスタリング結果のまとめ方について

クラスタリング分析の結果の例について説明する。図表 12 のように、まずクラスタリング分析によって得られたグループに分けたのちに、グループごとに各回答項目についての平均値を算出する。それらの平均値をグループごとに比較したものが図表 12 の右の棒グラフである。この例では 3 つのグループに分けており、グループ 1 では質問項目 Q2 の数値が、他のグループ(0,2)に比べて高いことがわかる。



図表 12 クラスタリング分析の結果のまとめ方

B) 従事者による虐待事例 (B 票)

使用したデータ

平成 29 年度～令和 3 年度の 5 年分の B 票と附 B 票を使用した。B 票の「問 3 市町村における事実確認調査状況 1-2) 事実確認調査を行った結果」が「a) 虐待の事実が認められた」である事例に限定した。

分析にあたってのデータの分け方

従事者による虐待事例の有効な全データ数は、2,843 件であった。

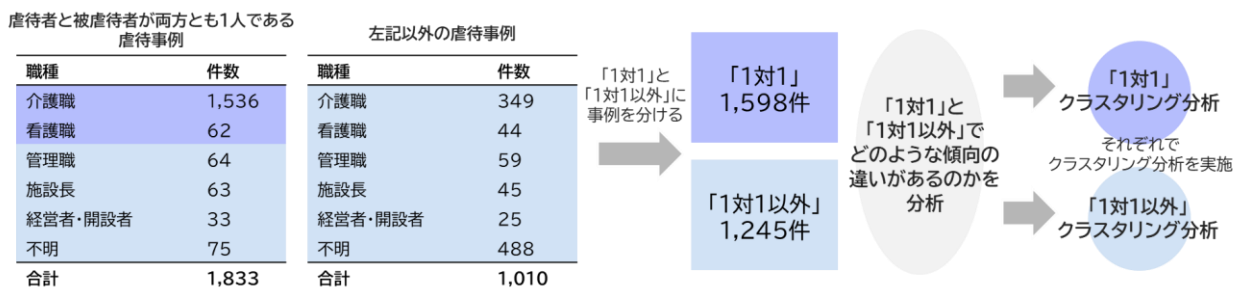
今年度の全体傾向の分析では、図表 13 で示すように、従事者による虐待事例を、2 つのデータの集合に分け、まずその 2 つの傾向の違いを分析し、その後 2 つについてそれぞれクラスタリングを実施した。2 つのデータの集合に分ける方法は以下の通りである。

○ 直接ケアしている 1 人がケアする相手 1 人を虐待している事例

具体的には、虐待者と被虐待者が両方とも 1 人である、介護職 1,536 件と看護職 62 件の合計 1,598 件である。本分析では、以降これらの事例を「1 対 1」と呼ぶ。

○ 上記以外

本分析では、以降これらの事例 1,245 件を「1 対 1 以外」と呼ぶ。



図表 13 「1 対 1」と「1 対 1 以外」の分け方と分析の流れ

このようなデータの分け方をしたのは、昨年度の同様の分析で、グループが「1 対 1」のケースと「1 対 1 以外」のケースに分かれてしまい、それ以上詳しい分析が難しくなってしまったためと、直接ケアする 1 人がケアする相手 1

人に虐待している事例と、組織的に虐待が行われている事例では、性質が異なると考えたためである。

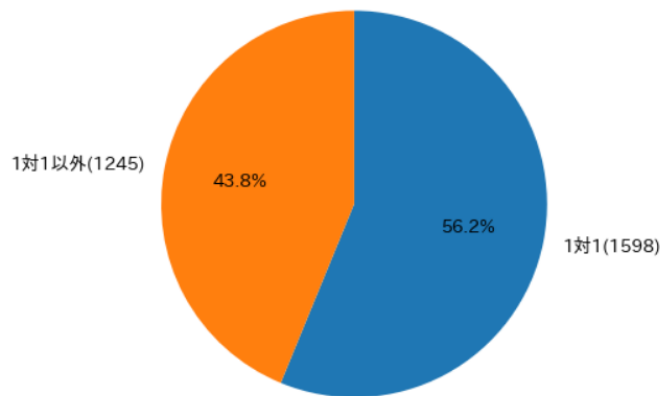
附 B 票データの分析結果の表示方法

本分析の分析結果のグラフにおいて、「（附 B 票）」と記載するグラフは、附 B 票の項目を使用して算出しグラフを表示している。

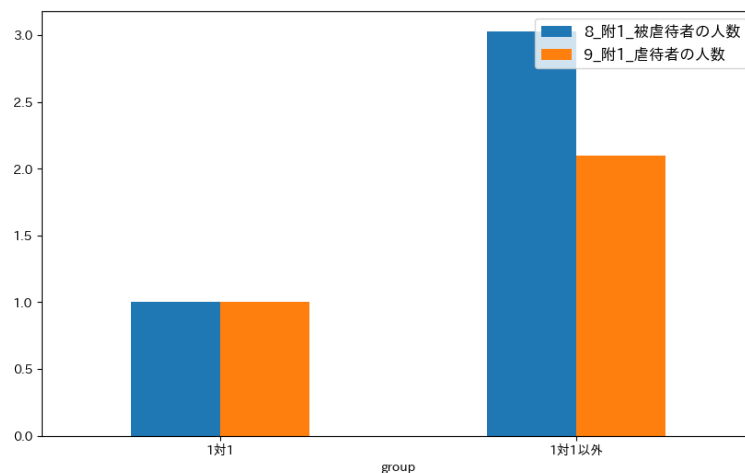
従事者の虐待事例において被虐待者・虐待者の人数が不特定多数の場合、調査票の仕様では、附 B 票の記入が不要（不可能）となる。その場合は附 B 票の項目は欠損してしまうため、附 B 票の項目のグラフのみ、そのような事例は削除して平均を算出した。対象となる項目は、被虐待者・虐待者の人数、虐待の種別、年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度などである。

【「1対1」と「1対1以外」の比較】

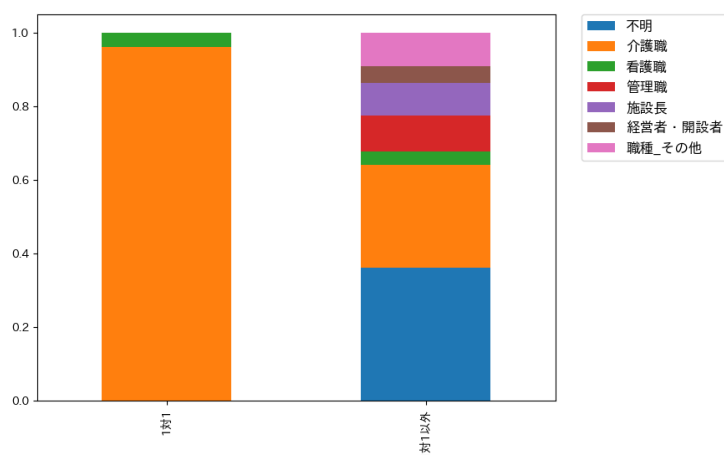
クラスタリング分析を実施する前に、「1対1」と「1対1以外」でどのような傾向の違いがあるのかを分析した。「1対1」と「1対1以外」に事例を分けた結果として、図表 14～16 のような分布の違いが見られた。



図表 14 「1対1」と「1対1以外」の件数



図表 15 「1対1」と「1対1以外」の被虐待者と虐待者の人数（附 B 票）

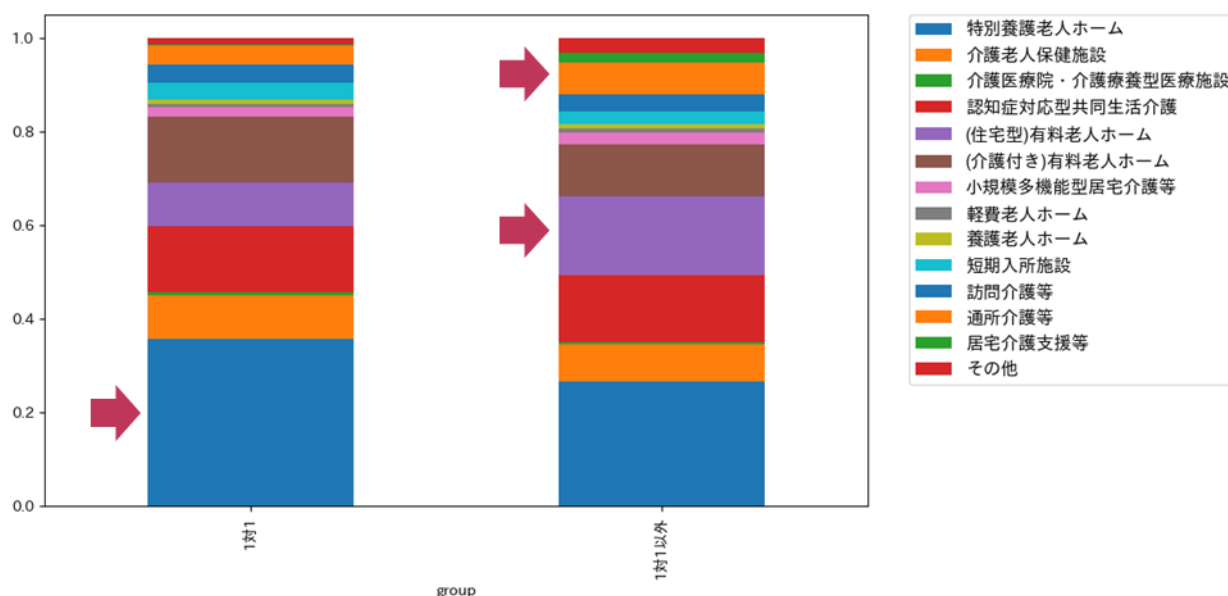


図表 16 「1対1」と「1対1以外」の虐待者の職種

以降では、「1対1」と「1対1以外」のそれぞれの回答状況を、設問項目をいくつかの設問群に区切って比較していく。説明では、「1対1」と「1対1以外」で、それぞれもう一方と比較して、相対的に割合が大きい小さいか、という観点で特徴をまとめている。割合が大きい選択肢の場合でも、「1対1」と「1対1以外」の両方に共通して大きい選択肢は記載していない。また、特徴として着目した部分に赤い矢印を付けている。

虐待があった施設・事業所のサービス種別

図表 17 に虐待があった施設・事業所のサービス種別の割合を示す。「1対1」は「特別養護老人ホーム」の割合が大きく、「1対1以外」は「（住宅型）有料老人ホーム」、「通所介護等」の割合が大きい。

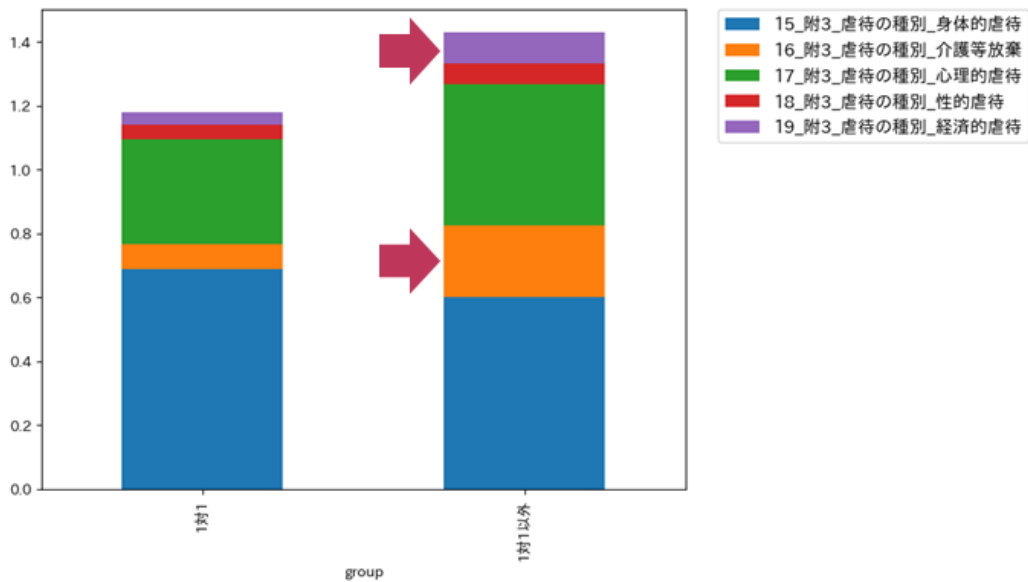


図表 17 「1対1」と「1対1以外」の虐待があった施設・事業所のサービス種別

虐待の種別（附B票）

図表 18 の通り、「1対1以外」の方が「介護等放棄」や「経済的虐待」の割合が大きい。

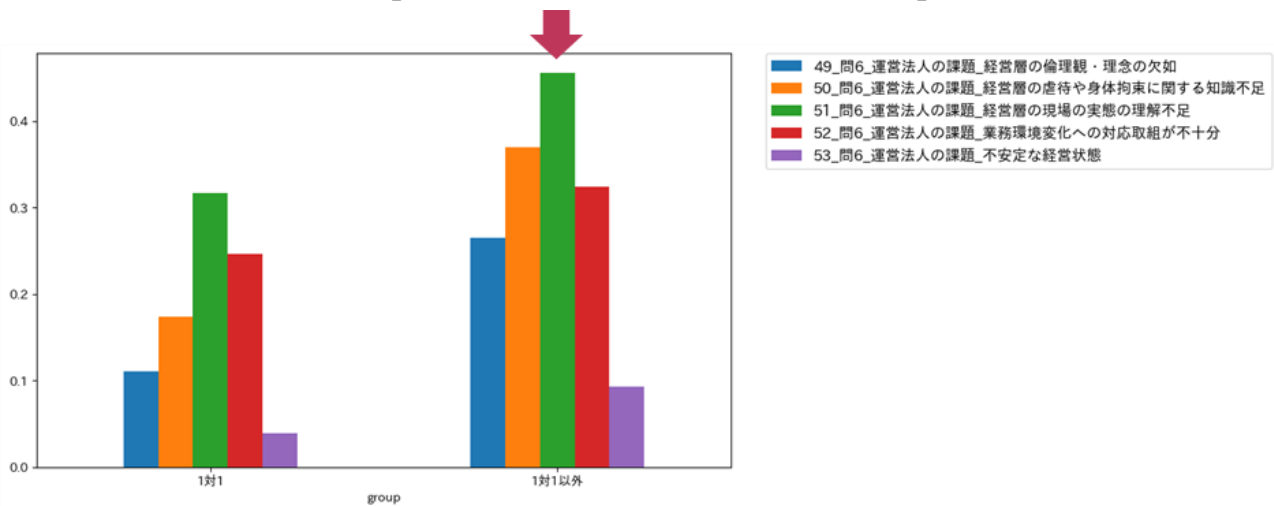
また、虐待の種別では、複数回答可であるため、積み上げ棒グラフにすると平均が 1 を超えている。「1対1以外」の方が複数回答した事例が多いことがわかる。



図表 18 「1対1」と「1対1以外」の虐待の種別 (附 B 票)

運営法人の課題

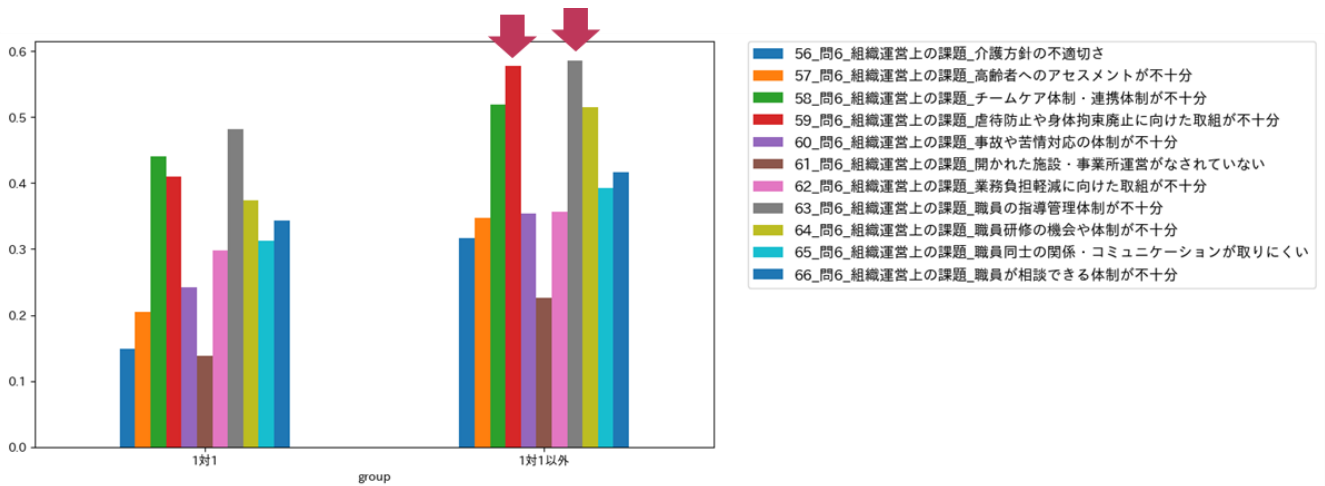
図表 19 の通り、「1対1以外」の方が「経営層の現場への実態の理解不足」など全体的に割合が大きい。



図表 19 「1対1」と「1対1以外」の運営法人の課題

組織運営上の課題

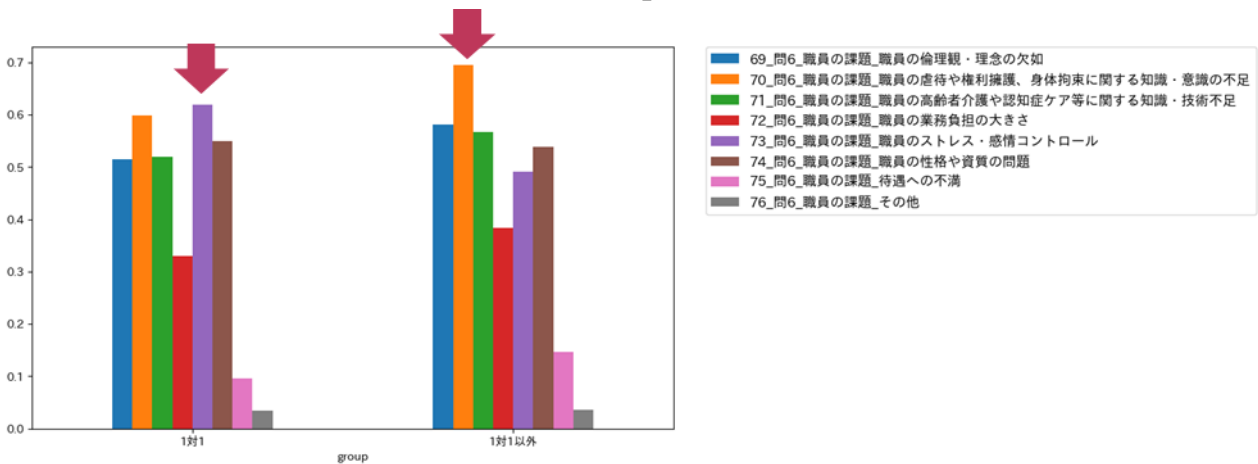
図表 20 の通り、「1対1以外」の方が「虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分」、「職員の指導管理体制が不十分」など全体的に割合が大きい。



図表 20 「1対1」と「1対1以外」の組織運営上の課題

職員の課題

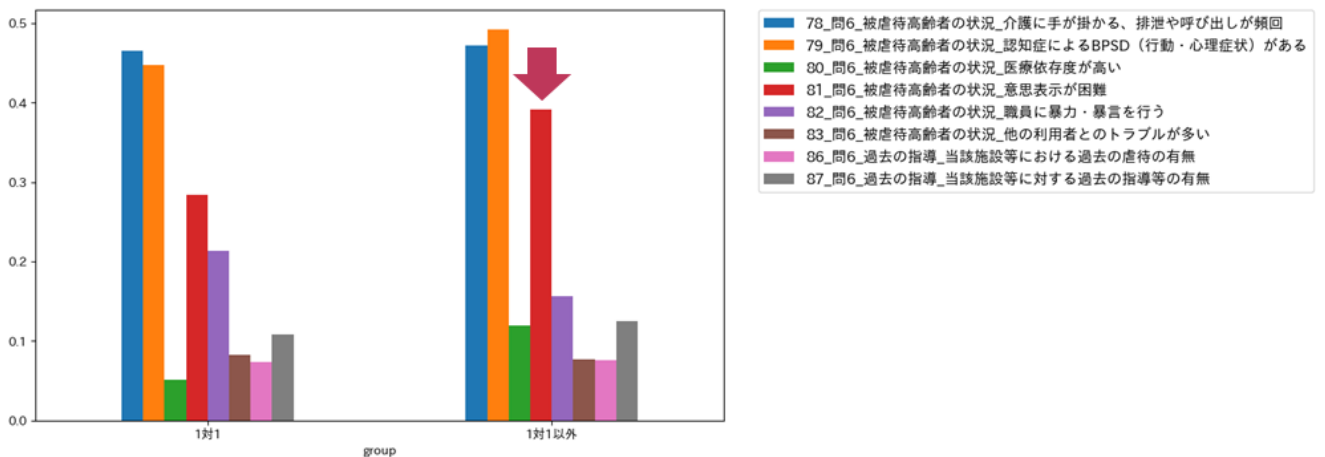
図表 21 の通り、「1対1」は「職員のストレス、感情コントロール」の割合が大きく、「1対1以外」は「職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足」の割合が大きい。



図表 21 「1対1」と「1対1以外」の職員の課題

被虐待者の状況・過去の指導

図表 22 の通り、「1対1以外」の方が「意思表示が困難」の割合が大きい。



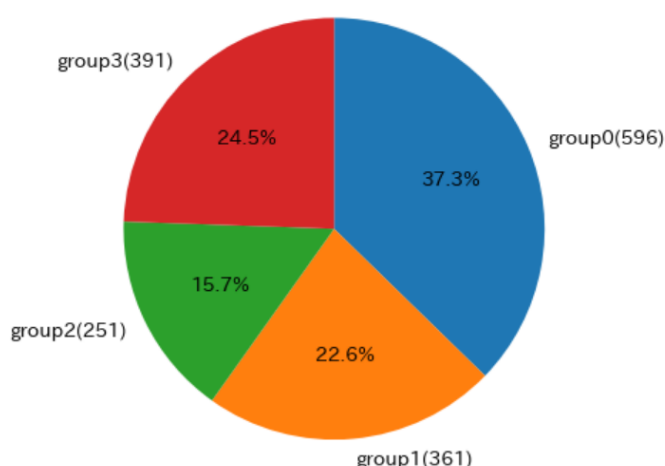
図表 22 「1対1」と「1対1以外」の被虐待者の状況・過去の指導

その他の項目（対応の内容、年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度など）では、「1対1」と「1対1以外」であまり差は見られなかったため、結果は割愛する。

【「1対1」のクラスタリング分析】

虐待者と被虐待者が両方とも1人である、介護職1,536件と看護職62件の合計1,598件を4つのクラスタに分類した。図表23に「1対1」の4つのクラスタの件数と割合を示し、図表24に各クラスタのgroup番号、件数、タイプを示す。

groupへのデータの分類はAIが行っており、タイプは分析者が各クラスタの回答データの平均を読み取り記載している。



図表 23 「1対1」の4つのクラスタの件数と割合

クラスタ	件数	タイプ
group0	596件	要介護度は平均「要介護3」～「要介護4」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度Ⅲ」、 寝たきり度は平均「B」、 被虐待者の年齢が平均「90～94歳」 (運営法人の課題多)
group1	361件	要介護度は平均「要介護3」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度M」、 寝たきり度は「不明」が多い
group2	251件	要介護度は平均「要介護2」～「要介護3」、 認知症日常生活自立度が「認知症の有無が不明」が多い、 寝たきり度は「不明」が多い (経済的虐待多)
group3	391件	要介護度は平均「要介護3」～「要介護4」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度Ⅲ」、 寝たきり度は平均「B」、 被虐待者の年齢が平均「75～79歳」 (性的虐待多)

図表 24 「1対1」の4つのクラスタの件数とタイプ名

以降では、各クラスターのそれぞれの回答状況を、設問項目をいくつかの設問群に区切って比較していく。説明では、各 group の回答の平均を他の group と比較して、相対的に割合が大きい小さいか、という観点で特徴をまとめている。割合が大きい選択肢の場合でも、すべての group に共通して大きい選択肢は記載していない。

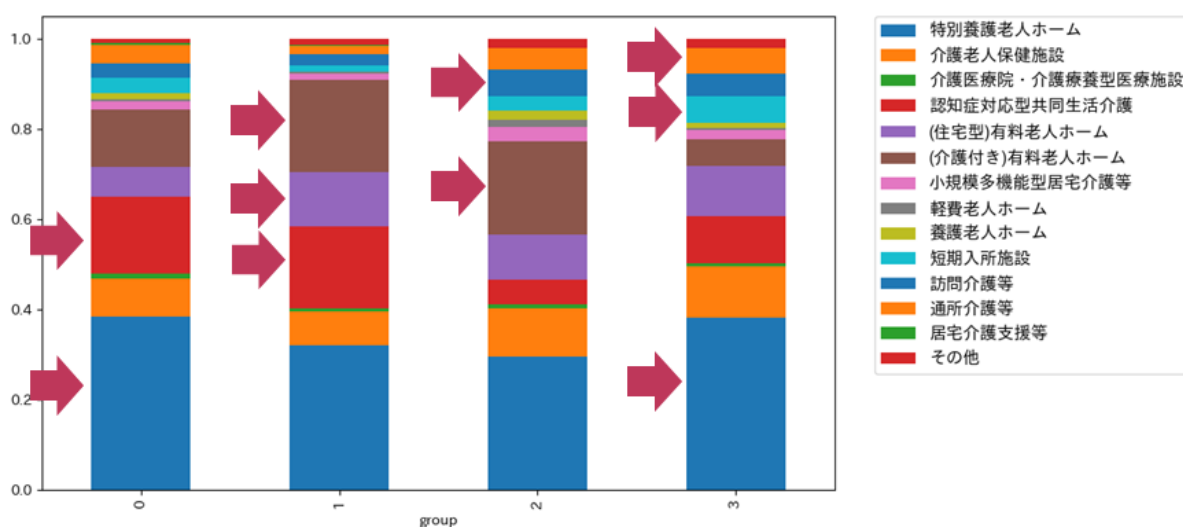
虐待があった施設・事業所のサービス種別

図表 25 の通り、group0 は、「特別養護老人ホーム」、「認知症対応型共同生活介護」の割合が大きい。

group1 は、「認知症対応型共同生活介護」、「（介護付き）有料老人ホーム」、「（住宅型）有料老人ホーム」の割合が大きい。

group2 は、「（介護付き）有料老人ホーム」、「訪問介護等」の割合が大きい。

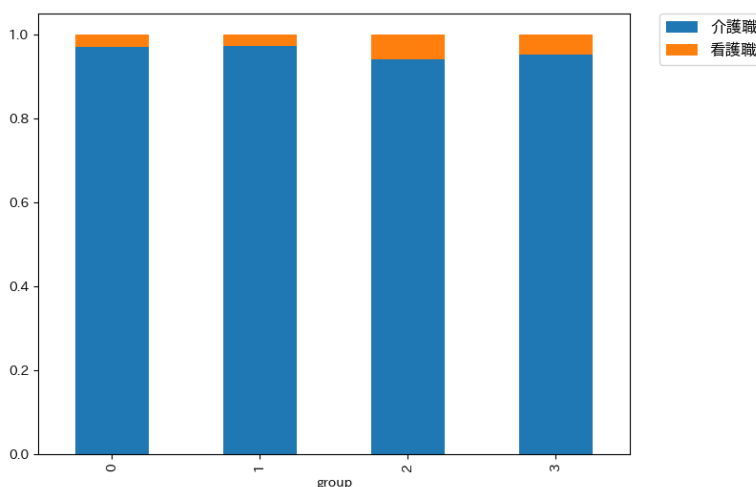
group3 は、「特別養護老人ホーム」、「通所介護等」、「短期入所施設等」の割合が大きい。



図表 25 「1 対 1」各クラスターの虐待があった施設・事業所のサービス種別

虐待者の職種

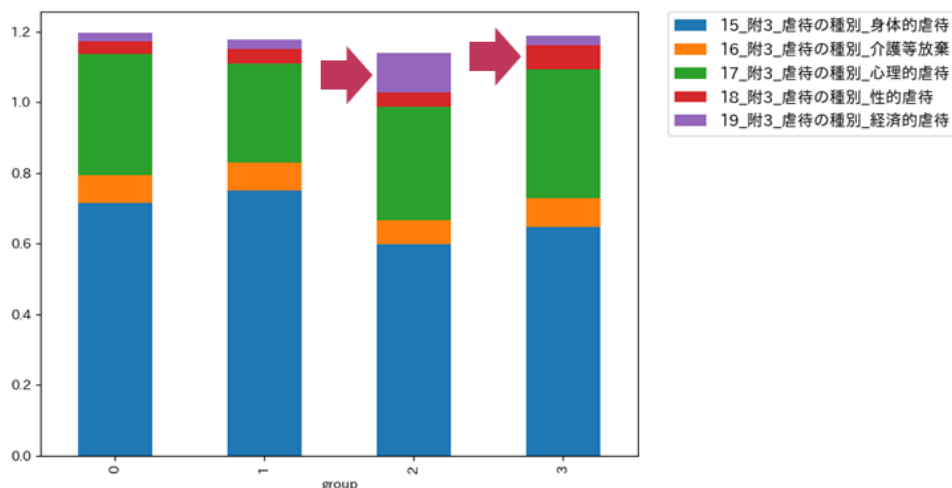
図表 26 の通り、「1 対 1」は介護職と看護職のみのため、すべての group で介護職がほとんどである。



図表 26 「1 対 1」各クラスターの虐待者の職種

虐待の種別（附 B 票）

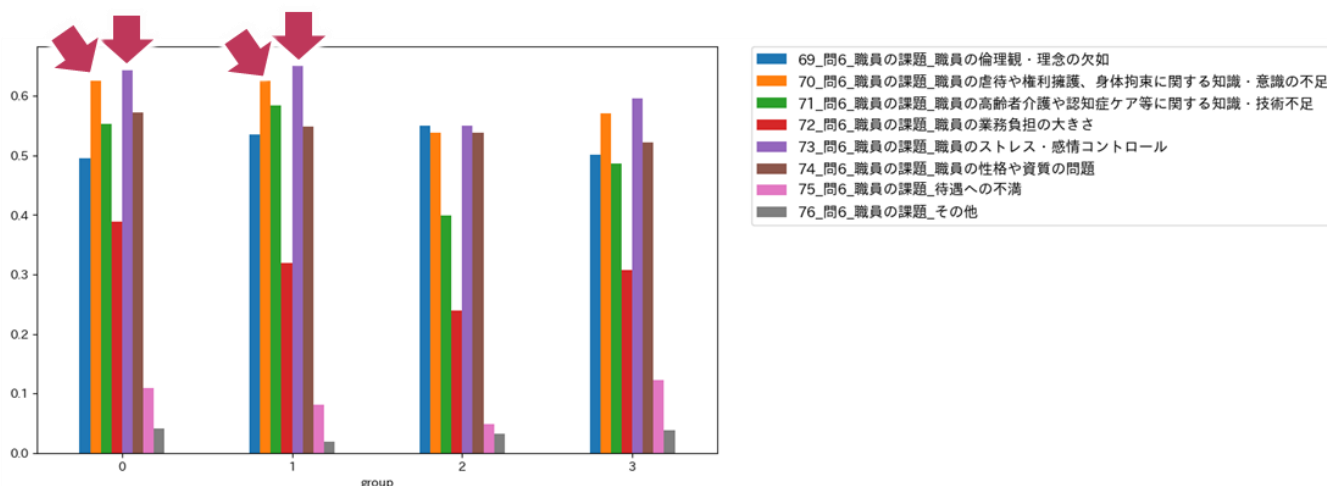
図表 27 の通り、group2 は「経済的虐待」の割合が大きく、group3 は「性的虐待」の割合が大きい。



図表 27 「1 対 1」各クラスターの虐待の種別（附 B 票）

職員の課題

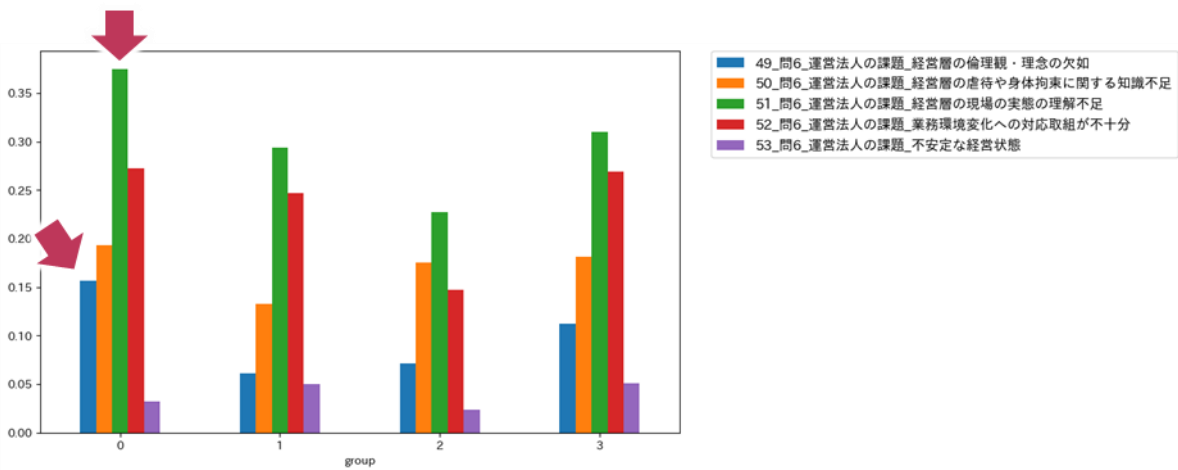
図表 28 の通り、group0、group1 は「職員のストレス・感情コントロール」、「職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足」の割合が大きい。



図表 28 「1 対 1」各クラスターの職員の課題

運営法人の課題

図表 29 の通り、group0 は「経営層の倫理観・理念の欠如」、「経営層の現場の実態の理解不足」の割合が大きい。



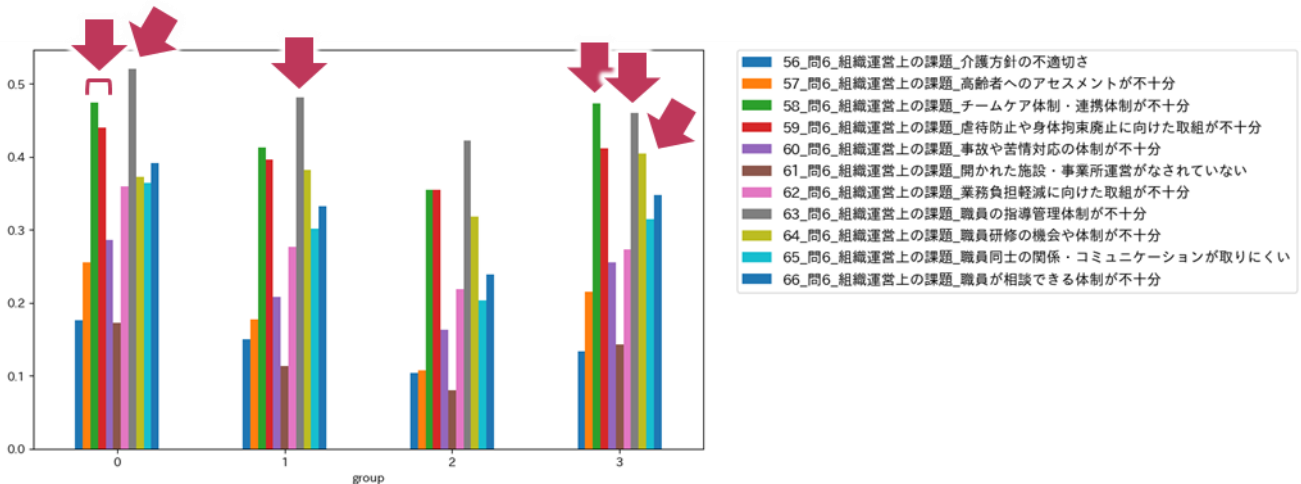
図表 29 「1対1」各クラスターの運営法人の課題

組織運営上の課題

図表 30 の通り、group0 は「職員の指導管理体制が不十分」、「チームケア体制・連携体制が不十分」、「虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分」の割合が大きい。

group1 は「職員の指導管理体制が不十分」の割合が大きい。

group3 は「チームケア体制・連携体制が不十分」、「職員の指導管理体制が不十分」、「職員研修の機会や体制が不十分」の割合が大きい。



図表 30 「1対1」各クラスターの組織運営上の課題

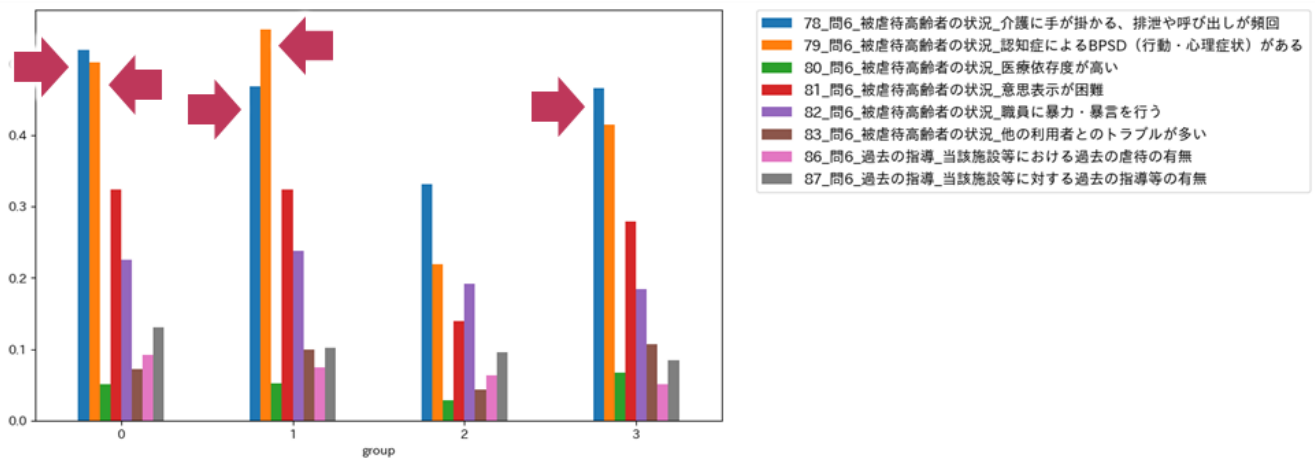
被虐待者の状況・過去の指導

図表 31 の通り、group0 は、「介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回」、「認知症による BPSD がある」の割合が大きい。

group1 は、「認知症による BPSD がある」が特に割合が大きく、「介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回」の割合もやや大きい。

group2 は全体的に項目に当てはまる割合が小さい（介護負担が小さい）。

group3 は「介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回」の割合がやや大きい。



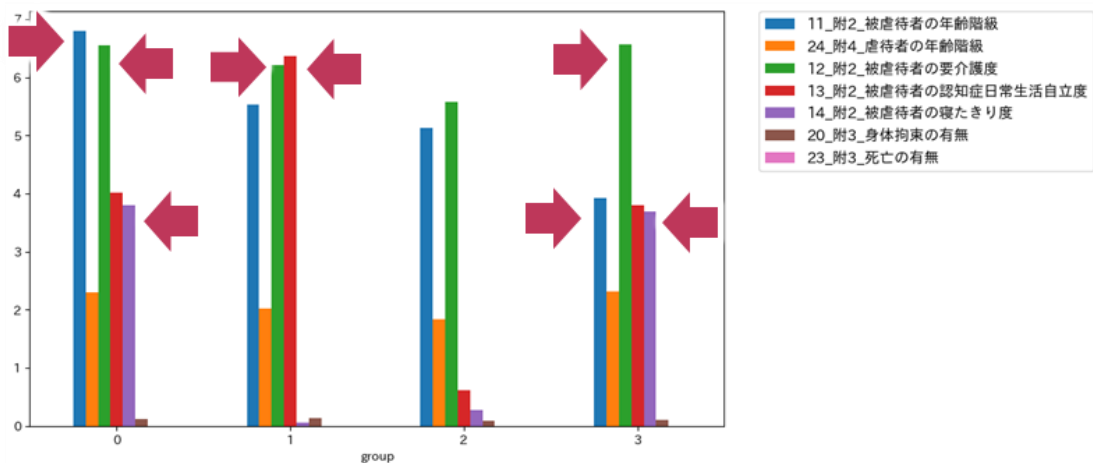
図表 31 「1 対 1」各クラスターの被虐待者の状況・過去の指導

年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度など（附 B 票）

図表 32 の通り、group0 は寝たきり度や要介護度が高く、被虐待者の年齢階級が高い。

group1 は認知症日常生活自立度が高く、要介護度が高い。

group3 は寝たきり度、要介護度が高く、被虐待者の年齢階級が低い。



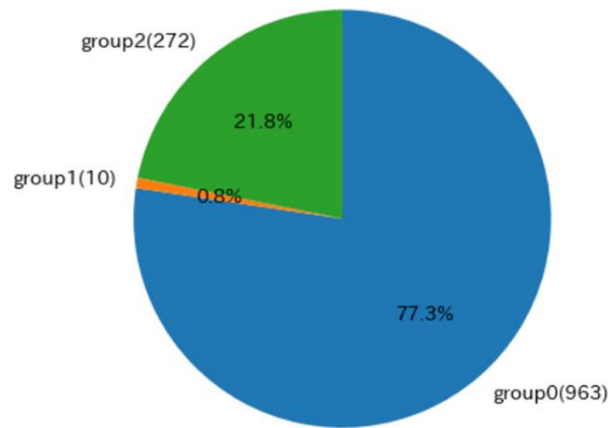
図表 32 「1 対 1」各クラスターの年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度など（附 B 票）

【「1 対 1 以外」のクラスタリング分析】

「1 対 1 以外」の事例 1,245 件を 4 つのクラスターに分類したところ、そのうち 2 つの group の特徴が似ていたため、それらをまとめて 3 つのクラスターで分析を行った。

図表 33 に「1 対 1 以外」のクラスターの件数と割合を示し、図表 34 に各クラスターの group 番号、件数、タイプを示す。

group へのデータの分類は AI が行っており、タイプは分析者が各クラスターの回答データの平均を読み取り記載している。「1 対 1 以外」のクラスタリング結果は、group によって件数に偏りがある。しかし、各 group の特徴はまとめており、件数の少ない group は大きくとがった特徴が出ていることから、件数に偏りはあるものの、問題のない結果であると考えられる。



図表 33 「1 対 1 以外」の 3 つのクラスタの件数と割合

	件数	タイプ
group0	963 件	要介護度は平均「養介護 4」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度Ⅳ」、 寝たきり度は平均「A」
group1	10 件	要介護度は平均「要介護 3」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度Ⅲ」、 寝たきり度は平均「J」～「A」 (組織的な課題多、介護等放棄・性的虐待多)
group2	272 件	要介護度は平均「要介護 2」、 認知症日常生活自立度は平均「自立度Ⅰ」～「自立度Ⅱ」、 寝たきり度は平均「自立」～「J」 (経済的虐待多)

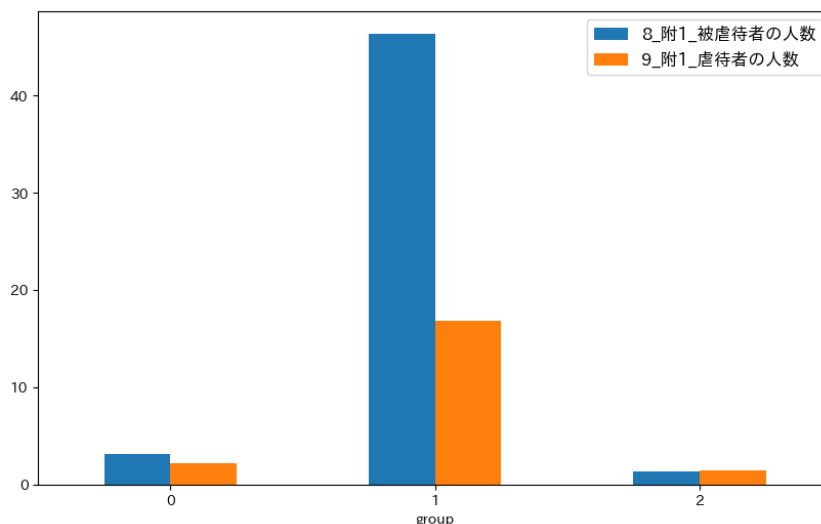
図表 34 「1 対 1 以外」の 3 つのクラスタの件数とタイプ名

以降では、各クラスタのそれぞれの回答状況を、設問項目をいくつかの設問群に区切って比較していく。説明では、各 group の回答の平均を他の group と比較して、相対的に割合が大きい小さいか、という観点で特徴をまとめている。割合が大きい選択肢の場合でも、すべての group に共通して大きい選択肢は記載していない。また、特徴として着目した部分に赤い矢印を付けている。

被虐待者・虐待者の人数（附 B 票）

図表 35 の通り、group1 は被虐待者、虐待者の人数が比較的多い。

group0、group2 では、被虐待者、虐待者ともに平均して数人程度であった。group0 では、約半数の事例で附 B 票の記載がなかった。附 B 票のあった約半数の事例では被虐待者や虐待者の人数は平均して数人程度であったが、残りの約半数の事例では被虐待者や虐待者が不特定多数であり、大人数である事例も含まれている可能性がある。



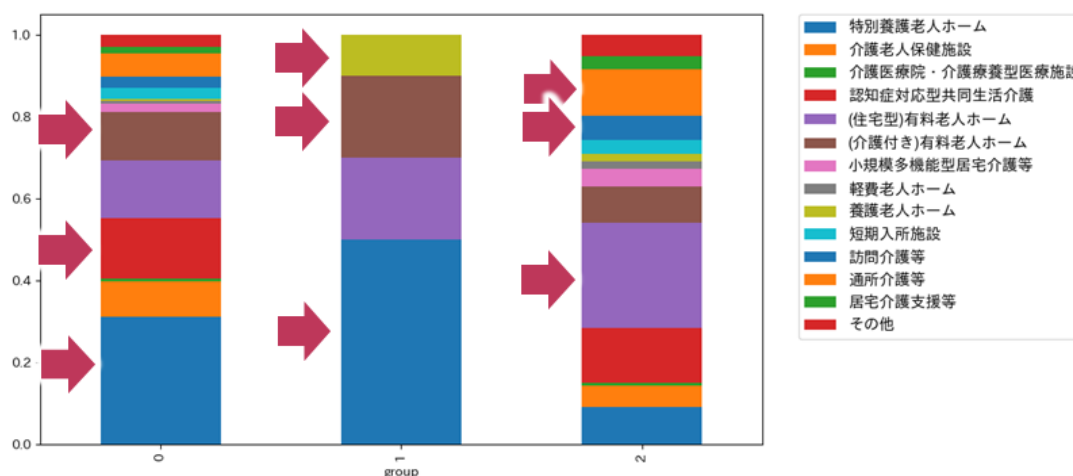
図表 35 「1対1以外」各クラスターの被虐待者・虐待者の人数（附B票）

虐待があった施設・事業所のサービス種別

図表 36 の通り、group0 は、「特別養護老人ホーム」、「認知症対応型共同生活介護」、「（介護付き）有料老人ホーム」の割合が大きい。

group1 は、「特別養護老人ホーム」、「（介護付き）有料老人ホーム」、「養護老人ホーム」の割合が大きい。

group2 は、「（住宅型）有料老人ホーム」、「訪問介護等」、「通所介護等」の割合が大きい。



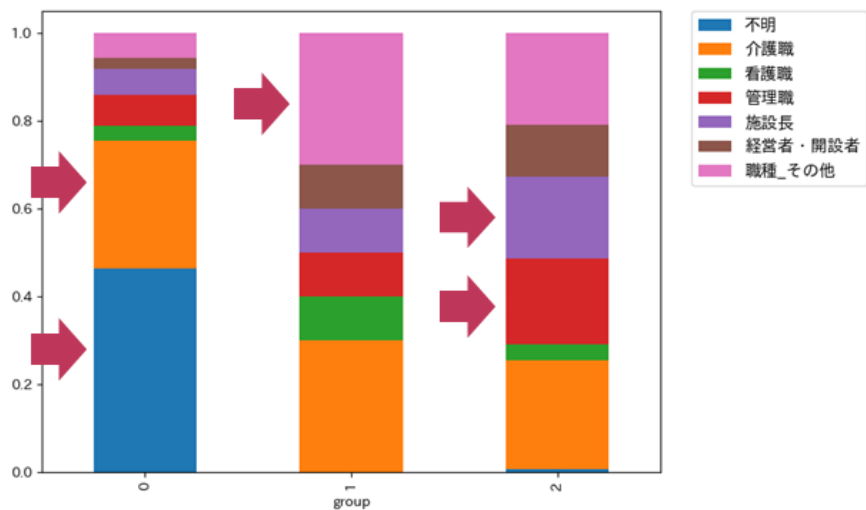
図表 36 「1対1以外」各クラスターの虐待があった施設・事業所のサービス種別

虐待者の職種

図表 37 の通り、group0 は「介護職」、「不明」の割合が大きい。

group1 は「その他」の割合が大きい。

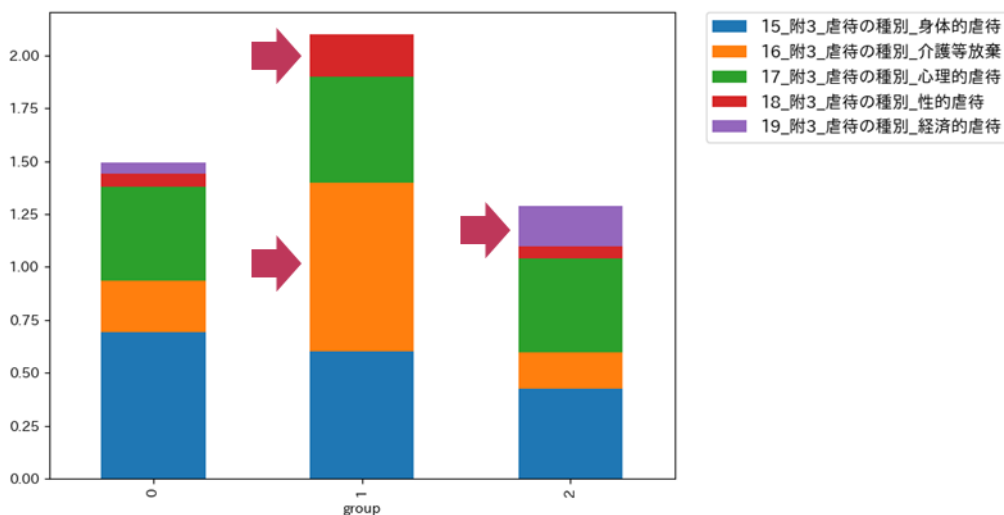
group2 は「施設長」、「管理職」の割合が大きい。



図表 37 「1対1以外」各クラスターの虐待者の職種

虐待の種別（附B票）

図表 38 の通り、group1 は「介護等放棄」、「性的虐待」の割合が大きい。
group2 は「経済的虐待」の割合が大きい。



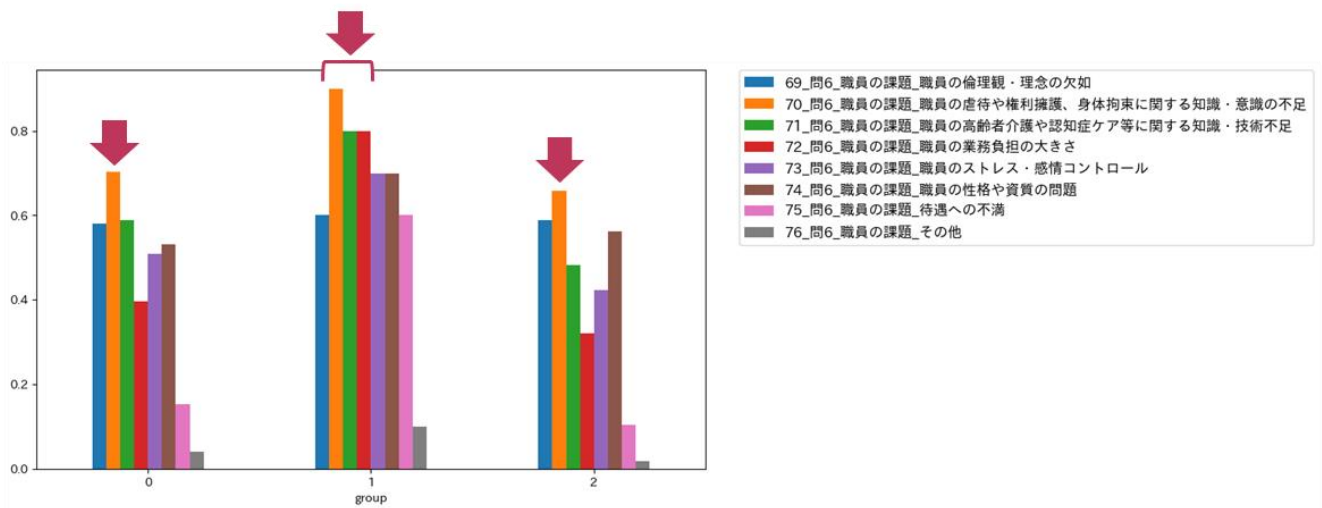
図表 38 「1対1以外」各クラスターの虐待の種別（附B票）

職員の課題

図表 39 の通り、group0 は、「職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足」の割合が大きい。

group1 は、「職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足」、「職員の高齢者介護や認知症ケア等に関する知識・技術不足」、「職員の業務負担の大きさ」など全体的に割合が大きい。

group2 は、「職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足」の割合が大きい。

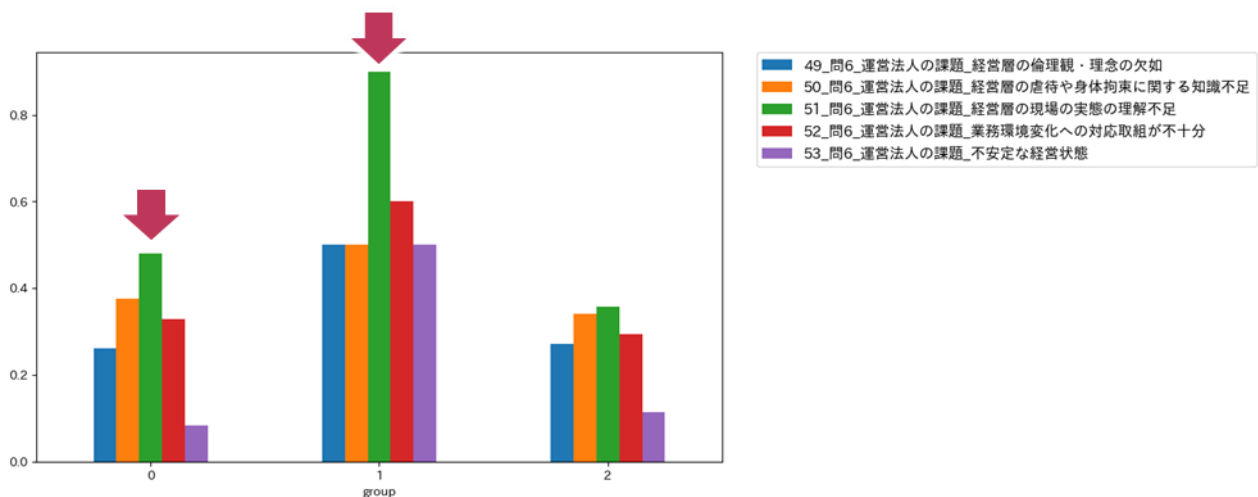


図表 39 「1対1以外」各クラスターの職員の課題

運営法人の課題

図表 40 の通り、group0 は、「経営層の現場の実態の理解不足」の割合が大きい。

group1 は、「経営層の現場の実態の理解不足」など全体的に割合が大きい。



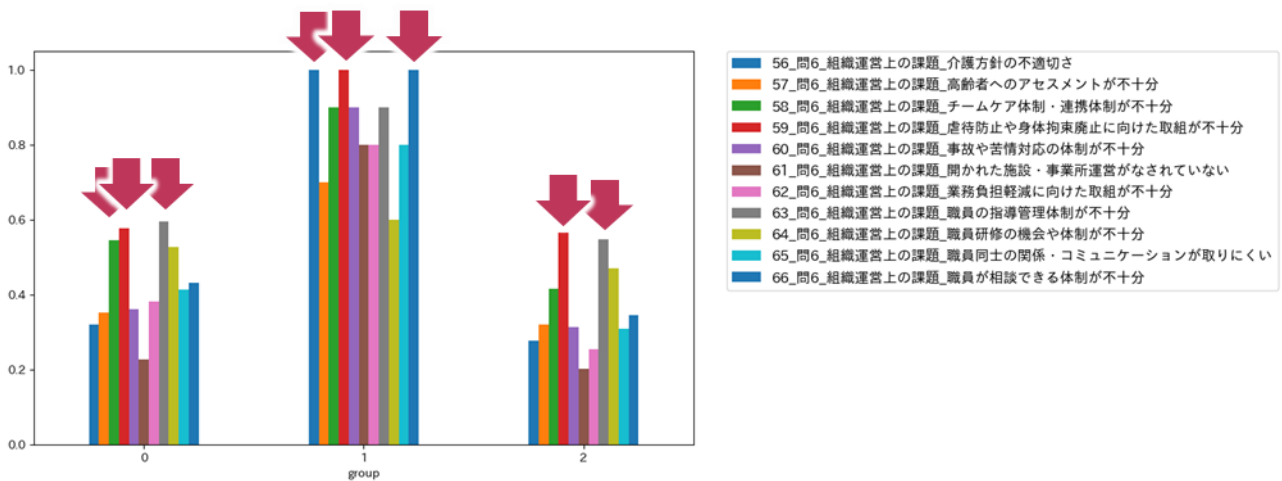
図表 40 「1対1以外」各クラスターの運営法人の課題

組織運営上の課題

図表 41 の通り、group0 は、「職員の指導管理体制が不十分」、「虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分」、「チームケア体制・連携体制が不十分」の割合が大きい。

group1 は、「介護方針の不適切さ」、「虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分」、「職員が相談できる体制が不十分」など全体的に割合が大きい。

group2 は、「虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分」、「職員の指導管理体制が不十分」の割合が大きい。



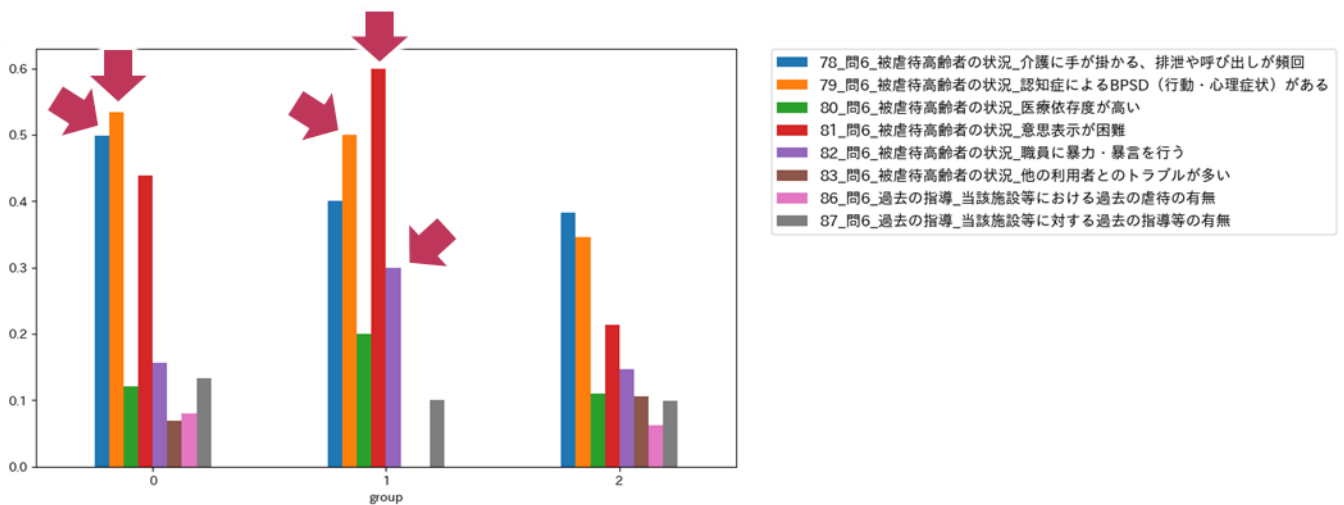
図表 41 「1 対 1 以外」各クラスターの組織運営上の課題

被虐待者の状況・過去の指導

図表 42 の通り、group0 は、「認知症による BPSD がある」、「介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回」の割合が大きい。

group1 は、「意思表示が困難」の割合が特に大きく、「職員に暴力・暴言を行う」、「認知症による BPSD がある」の割合が大きい。

group2 は、全体的に項目に当てはまる割合が小さい。（介護負担が小さい）

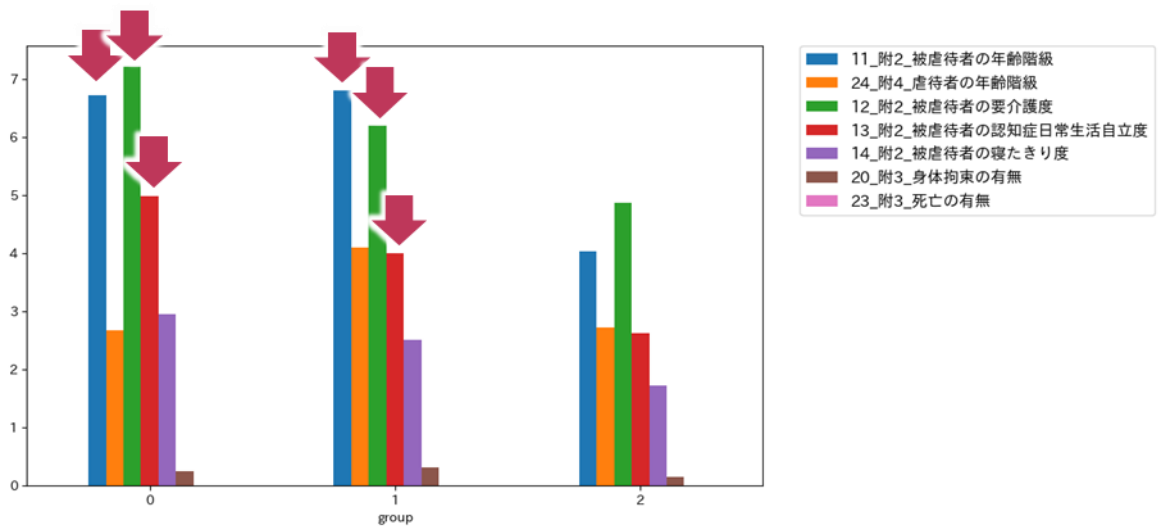


図表 42 「1 対 1 以外」各クラスターの被虐待者の状況・過去の指導

年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度など（附 B 票）

図表 43 の通り、group0 は被虐待者の年齢階級が高く、介護度や認知症日常生活自立度が高い。

group1 は被虐待者の年齢階級が高く、介護度や認知症日常生活自立度がやや高い。

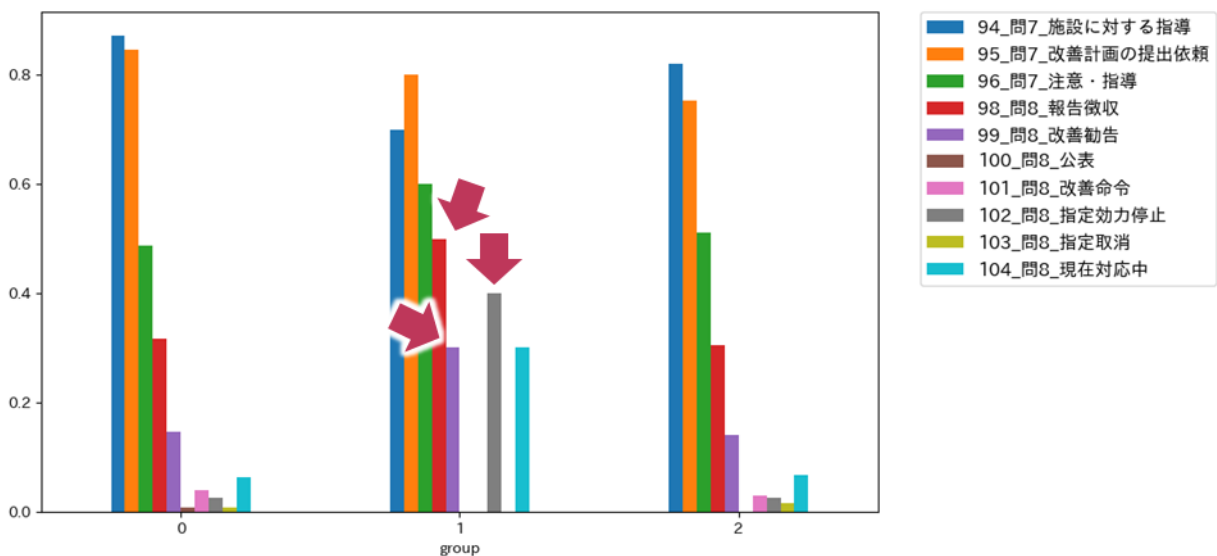


図表 43 「1対1以外」各クラスターの年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度など（附 B 票）

問 7 老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応

問 8 介護保険法の規定に基づく権限の行使

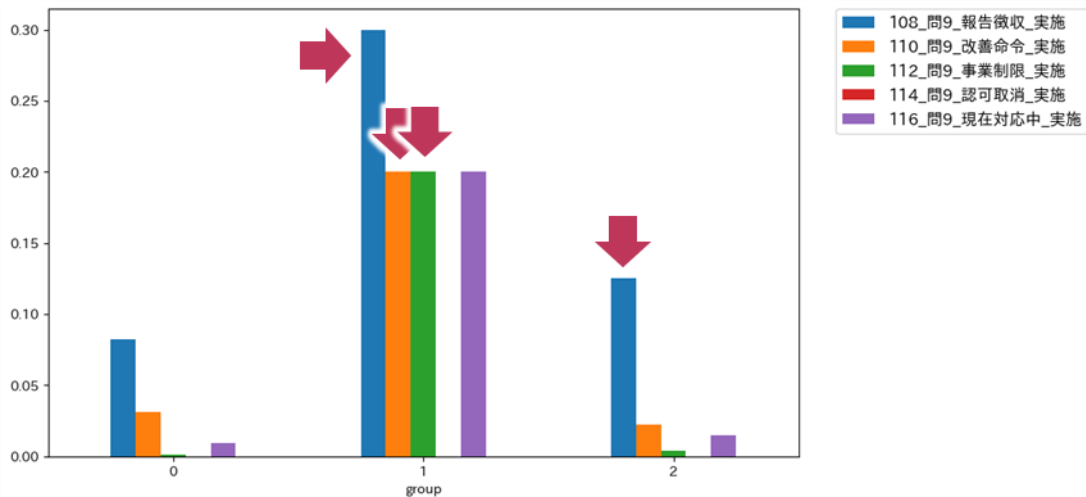
図表 44 の通り、group1 は介護保険法の規定に基づく権限の行使として、「報告徴収」、「改善勧告」、「指定効力停止」の割合が大きい。



図表 44 「1対1以外」各クラスターの老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応、介護保険法の規定に基づく権限の行使

問 9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使

図表 45 の通り、group1 は、「報告徴収」、「改善命令」、「事業制限」の割合が大きい。
group2 は「報告徴収」の割合がやや大きい。

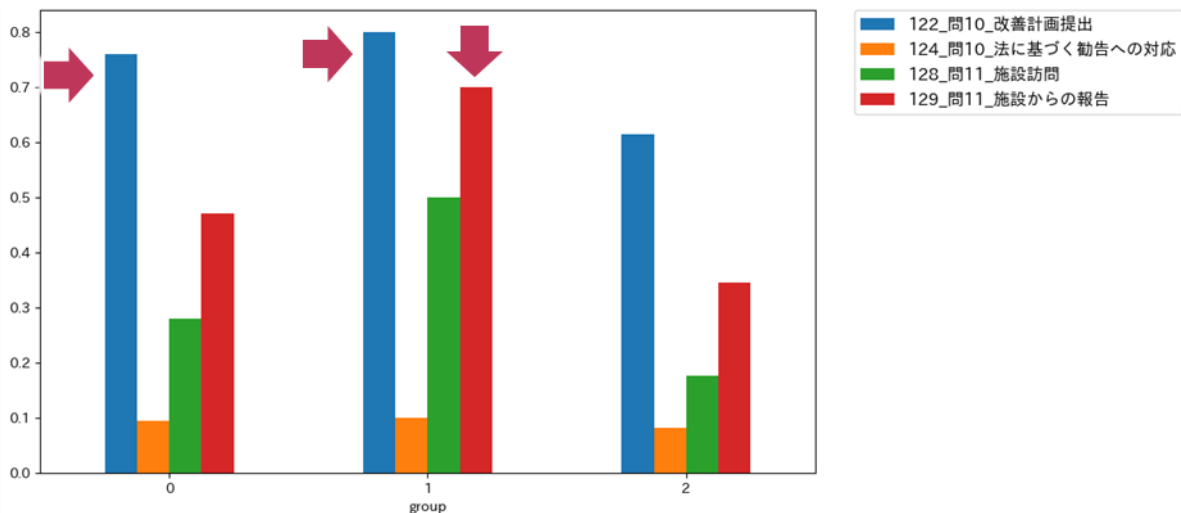


図表 45 「1対1以外」各クラスターの老人福祉法の規定に基づく権限の行使

問 10 市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置

図表 46 の通り、group0 は「改善計画提出」の割合が大きい。

group1 は、「改善計画提出」、「施設からの報告」の割合が大きい。



図表 46 「1対1以外」各クラスターの市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置

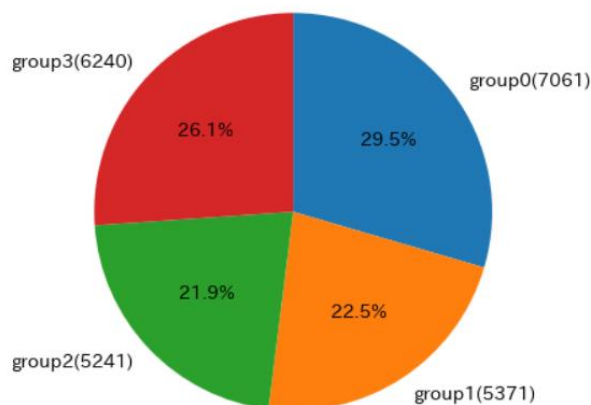
C) 養護者による虐待事例 (C票)

使用したデータ

令和3年度の1年分のC票とD票（従事者に関する項目以外）を使用した。C票の「問4 事実確認調査の結果 1)調査の結果」が「a)虐待を受けたまたは受けかと思われたと判断した事例」に限定した。

養護者による虐待事例 23,913 件を4つのクラスターに分類した。図表 47 に4つのクラスターの件数と割合を示し、図表 48 に各クラスターの group 番号、件数、タイプを示す。

group へのデータの分類は AI が行っており、タイプは分析者が各クラスターの回答データの平均から解釈し命名している。



図表 47 養護者事例 4 つのクラスタの件数と割合

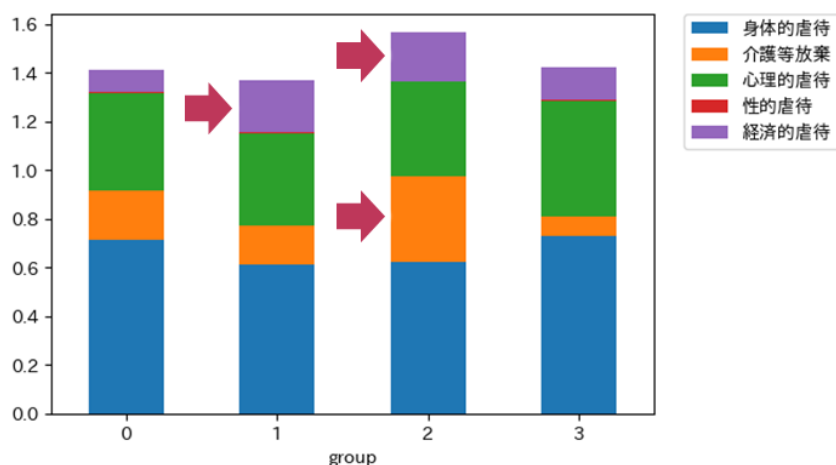
	件数	タイプ
group0	7,061 件	介護疲れした虐待者と介護負担の重い (「認知症の症状」、「身体的自立度の低さ」の割合が大きい) 被虐待者が同居タイプ
group1	5,371 件	虐待者と別居中で経済的虐待が多いタイプ
group2	5,241 件	虐待者にも家庭にも要因が多く、 介護等放棄、経済的虐待が多いタイプ
group3	6,240 件	精神状態が安定しない虐待者と 行政につながっていない被虐待者との間で関係悪化タイプ

図表 48 養護者事例 4 つのクラスタの件数とタイプ名

以降では、各クラスタのそれぞれの回答状況を、設問項目をいくつかの設問群に区切って比較していく。説明では、各 group の回答の平均を他の group と比較して、相対的に割合が大きい小さいか、という観点で特徴をまとめている。割合が大きい選択肢の場合でも、すべての group に共通して大きい選択肢は記載していない。また、特徴として着目した部分に赤い矢印を付けている。

虐待の種別

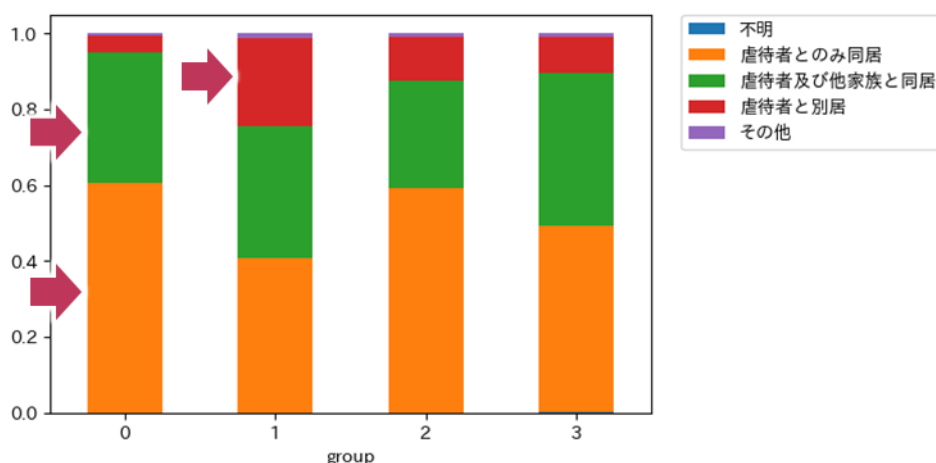
図表 49 の通り、group1 は「経済的虐待」の割合が大きい。
group2 は「介護等放棄」、「経済的虐待」の割合が大きい。



図表 49 養護者事例各クラスターの虐待の種別

虐待者との同居・別居

図表 50 の通り、group0 は「虐待者とのみ同居」、「虐待者及び他家族と同居」の割合が大きい。
group1 は「虐待者と別居」の割合が大きい。



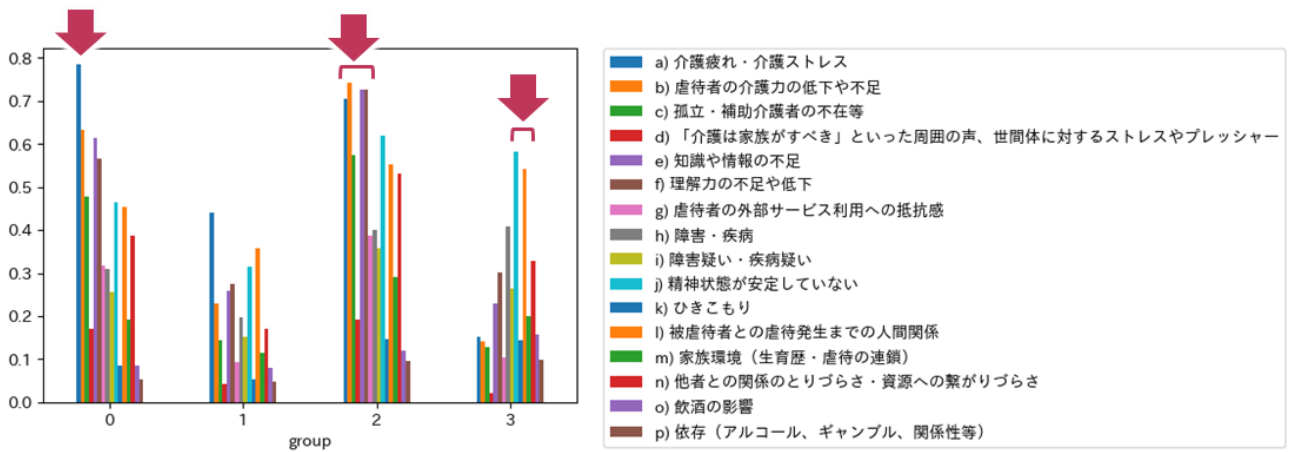
図表 50 養護者事例各クラスターの虐待者との同居・別居

虐待者側の要因

図表 51 の通り、group0 は「介護疲れ・介護ストレス」の割合が大きい。

group2 は、「介護疲れ・介護ストレス」、「虐待者の介護力の低下や不足」、「知識や情報の不足」、「理解力の不足や低下」など全体的に割合が大きい。

group3 は、「精神状態が安定していない」、「被虐待者との虐待発生までの人間関係」の割合がやや大きい。

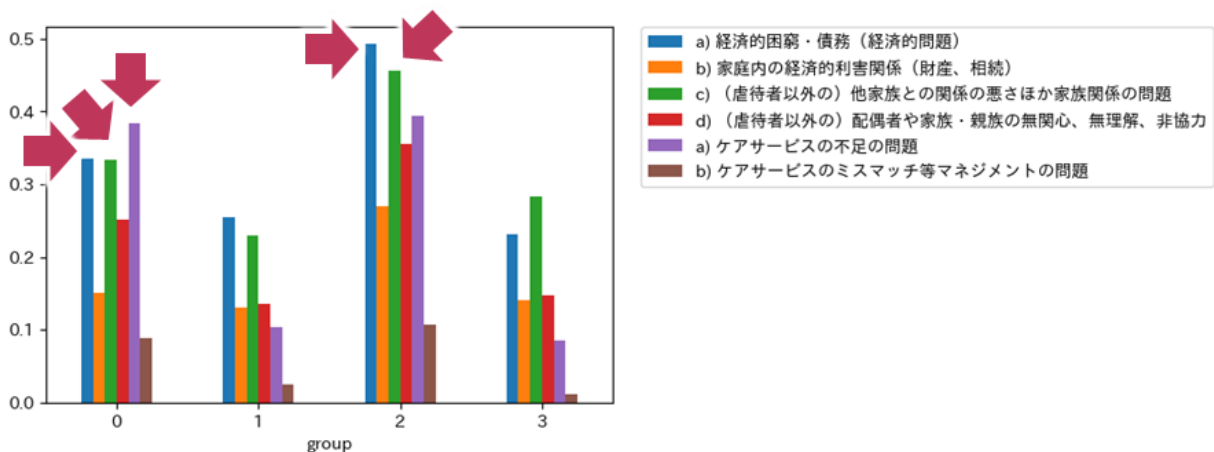


図表 51 養護者事例各クラスターの虐待者側の要因

家族・その他の要因

図表 52 の通り、group0 は、「経済的困窮・債務（経済的問題）」、「（虐待者以外の）他家族との関係の悪さほか家族関係の問題」、「ケアサービスの不足の問題」の割合がやや大きい。

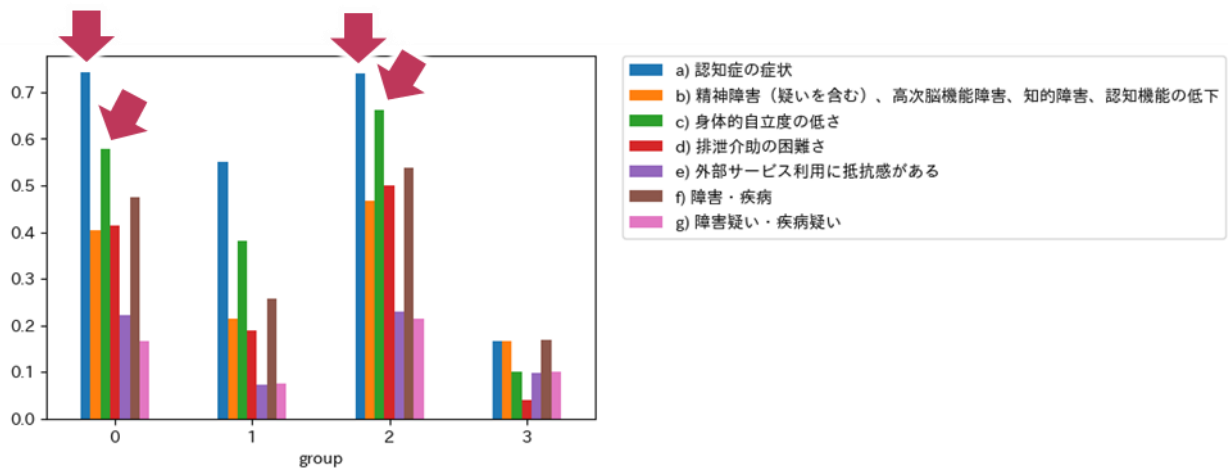
group2 は、「経済的困窮・債務（経済的問題）」、「（虐待者以外の）他家族との関係の悪さほか家族関係の問題」などの割合が大きく、全体的に家庭の要因やその他の要因が多い。



図表 52 養護者事例各クラスターの家族・その他の要因

被虐待者の状況

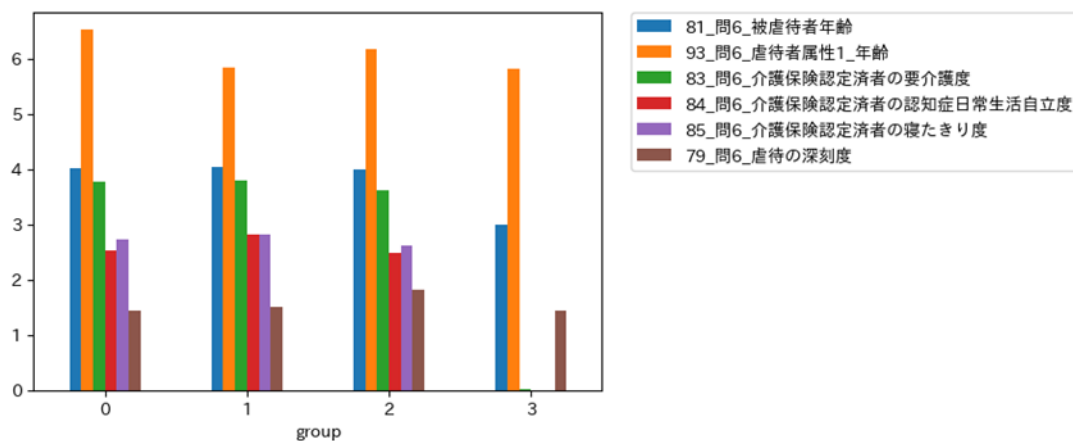
図表 53 の通り、group0、group2 は、「認知症の症状」、「身体的自立度の低さ」の割合が大きい。group3 は、被虐待者の状況として項目に当てはまる割合が小さい。（介護負担が小さい）



図表 53 養護者事例各クラスターの被虐待者の状況

年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度・深刻度

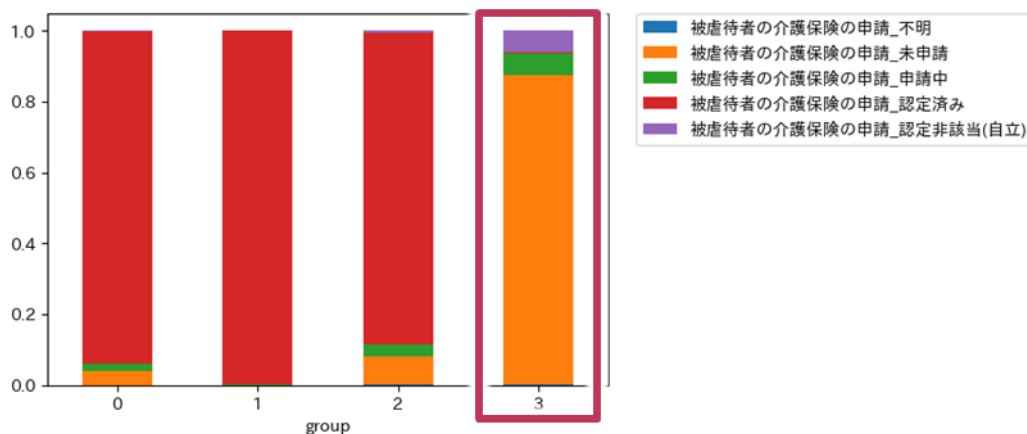
図表 54 の通り、group3 では、多くの事例で被虐待者の要介護度、認知症日常生活自立度、寝たきり度は、申請していないため値がない。



図表 54 養護者事例各クラスターの年齢・要介護度・認知症日常生活自立度・寝たきり度・深刻度

被虐待者の介護保険の申請

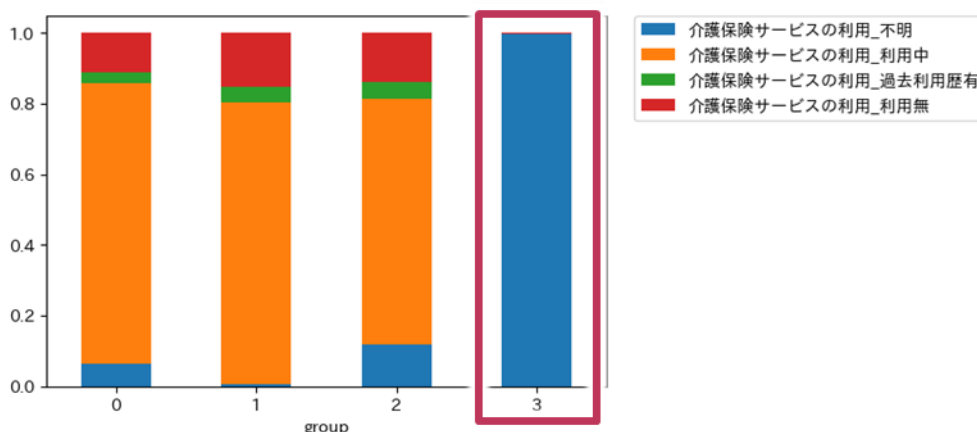
図表 55 の通り、group3 は、介護保険の申請は未申請の割合が大きい。



図表 55 養護者事例各クラスターの介護保険の申請

介護保険サービスの利用

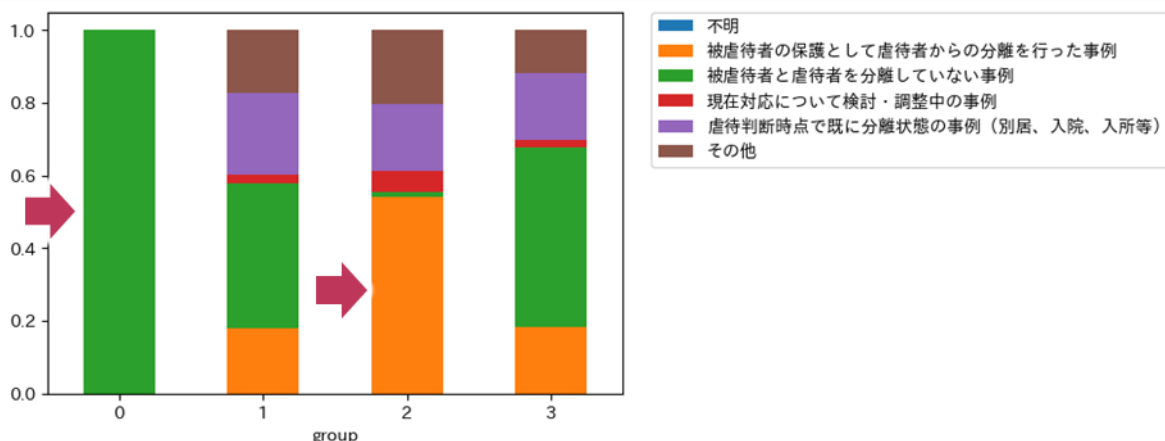
図表 56 の通り、group3 は、介護保険サービスの利用が不明の割合が大きい。



図表 56 養護者事例各クラスターの介護保険サービスの利用

分離の有無

図表 57 の通り、group0 は、ほとんどの事例が「被虐待者と虐待者を分離していない事例」であった。group2 は、「被虐待者の保護として虐待者からの分離を行った事例」の割合が大きい。



図表 57 養護者事例各クラスターの分離の有無

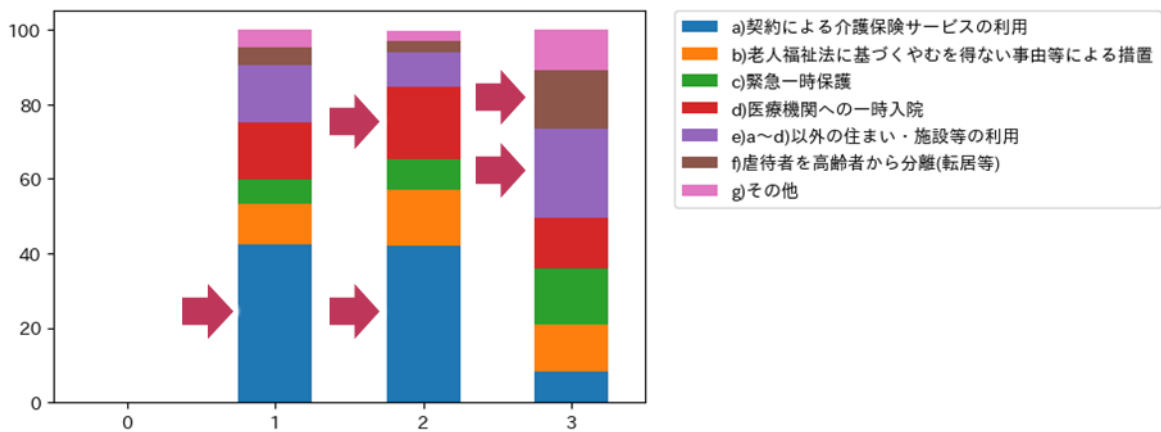
分離を行った場合の対応内容

図表 58 の通り、group0 は、ほとんどの事例で分離を行っていないため、値がない。

group1 は、「契約による介護保険サービスの利用」の割合が大きい。

group2 は、「契約による介護保険サービスの利用」、「医療機関への一時入院」の割合が大きい。

group3 は、「a～d 以外の住まい・施設等の利用」、「虐待者を高齢者から分離（転居等）」の割合が大きい。



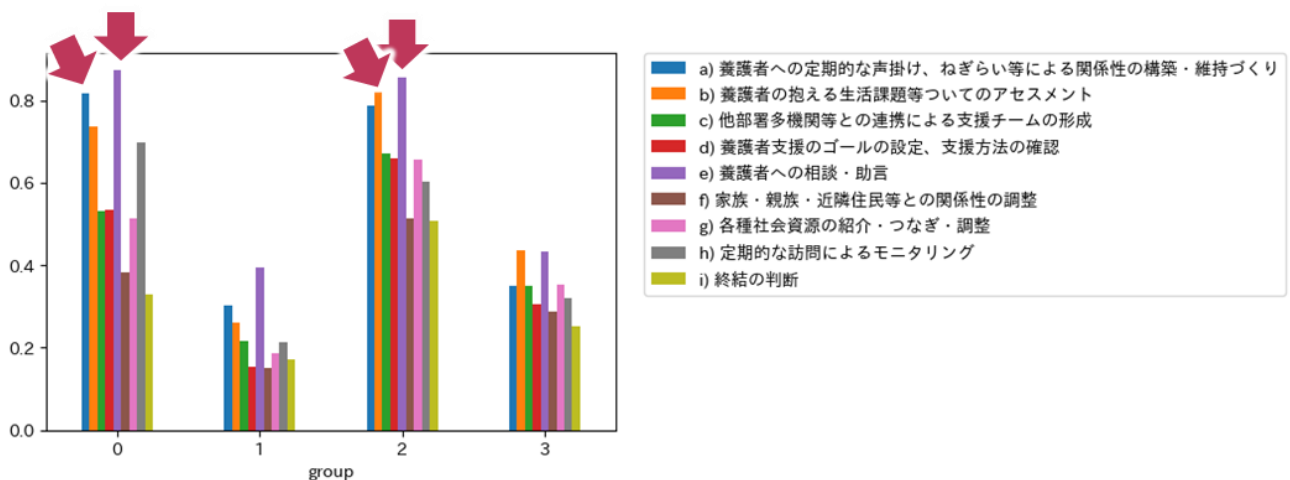
図表 58 養護者事例各クラスターの分離を行った場合の対応内容

養護者支援の取組

図表 59 の通り、group0 は、「養護者への相談・助言」、「養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり」の割合が大きい。

group1 は、全体的に取組内容が少ない。

group2 は、「養護者への相談・助言」、「養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント」などの割合が大きく、全体的に取組内容が多い。



図表 59 養護者事例各クラスターの養護者支援の取組

D) 全体傾向の分析のまとめ

従事者による虐待事例の分析では、昨年度の分析の結果を踏まえ、「1対1」と「1対1以外」で分けることで、直接ケアしている1人がケアする相手1人を虐待している事例と、組織的な事例を区別し、より納得感のある分析結果を得ることができた。「1対1」では、4つのクラスターに分類し、「1対1以外」では、3つのクラスターに分類した。

養護者による虐待事例では、4つのクラスターに分類した。令和3年度から追加された、虐待者側の要因や被虐待者の状況、養護者支援の取組などの項目を分析に使用することができ、昨年度の分析より詳細に各クラスターの特徴を見ることができた。

(ウ) テーマ②：対応の違いに関する要因分析

A) 従事者による虐待事例（B票）

使用したデータ

5年分受領した調査票のデータのうち、平成29年度はそれ以降と比べて存在しない項目が多かったため除外し、残りの4年分（平成30年度～令和3年度）を分析に用いた。本分析ではB票、附B票と、A票の一部の項目を使用した。

D票は、高齢者虐待防止法に基づく対応の体制整備について報告する調査票であり、令和2年度以前までは養護者による虐待に関する回答をする調査票であった。令和3年度の調査票から問19～問26の「養介護施設従事者等による高齢者虐待対応」が新設されたが、従事者による虐待事例の分析では4年分の共通項目のみ使用しており、該当の項目は使用できない。そのため、本分析ではD票は使用しないこととした。

目的変数の設定

行政処分にあたる対応を行ったものを1、それ以外の対応（行政指導）のみを行った場合を0として、各事例を振り分けた。1つの事例で複数の対応を行っている場合は、より重い対応から振り分けを判断した。具体的には、行政処分（1）とみなした項目と、行政指導（0）とみなした項目は次の通りである。

- 目的変数が1となる対応（行政処分）

次のような場合に1つでも当てはまれば、目的変数が1となる。

「問8 介護保険法の規定に基づく権限の行使」の「4）改善命令」、「5）指定の効力の全部又は一部停止」、「6）指定取消」のどれか1つ以上が、「市町村が実施」、「都道府県が実施」、「市町村・都道府県がそれぞれ実施」のいずれかである場合。または、「問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使」の「2）改善命令」、「3）事業の制限、停止、廃止」、「4）認可取消」のどれか1つ以上が、「市町村が実施」、「都道府県が実施」のいずれかである場合。

- 目的変数が0となる対応（行政指導）

上記の目的変数が1となる対応がなく、次のような場合に1つでも当てはまれば、目的変数が0となる。

「問7 老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応」の「1）施設等に対する指導」、「2）施設等からの改善計画の提出依頼」、「3）虐待を行った養介護施設従事者等への注意・指導」のどれか1つ以上が、「市町村が実施」、「都道府県が実施」、「市町村・都道府県がそれぞれ実施」のいずれかである場合。または、「問8 介護保険法の規定に基づく権限の行使」の「1）報告徴収、質問、立入検査」、「2）改善勧告」のどれか1つが、「市町村が実施」、「都道府県が実施」、「市町村・都道府県がそれぞれ実施」のいずれかである場合。または、「問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使」の「1）報告徴収、質問、立入検査」が「市町村が実施」、「都道府県が実施」のいずれかである場合。

いずれの対応も「無」となっているものに関しては扱いが難しいため、今回は削除した。

本分析に使用するデータは2,512件で、そのうち目的変数1（行政処分）は133件、0（行政指導）は2,379件である。データ件数の偏りがあったため、学習データは目的変数1が106件、0が318件となるよう調整を行った。評価データは偏りを調整せず、現実の比率そのままのものを扱い、1が27件、0が476件となって

いる。

説明変数の設定

B票の「問6 虐待事例の概要 4_2)運営法人(経営層)の課題」や、B票の「問6 虐待事例の概要 4_4)虐待を行った職員の課題」などの80項目を説明変数とした。ただし、ID関連項目、自由記述項目、日付項目は除外している。また、通報時点の情報の中から要因を抽出するため、「問10 市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置 1)施設等からの改善計画の提出」などの対応後の施設の取り組みに関する項目は説明変数からは除いた。附B票の「虐待の深刻度」は判断基準が途中で変更となったため、除外している。

モデルの精度

		予測結果	
		行政指導	行政処分
実績	行政指導	456	20
	行政処分	23	4

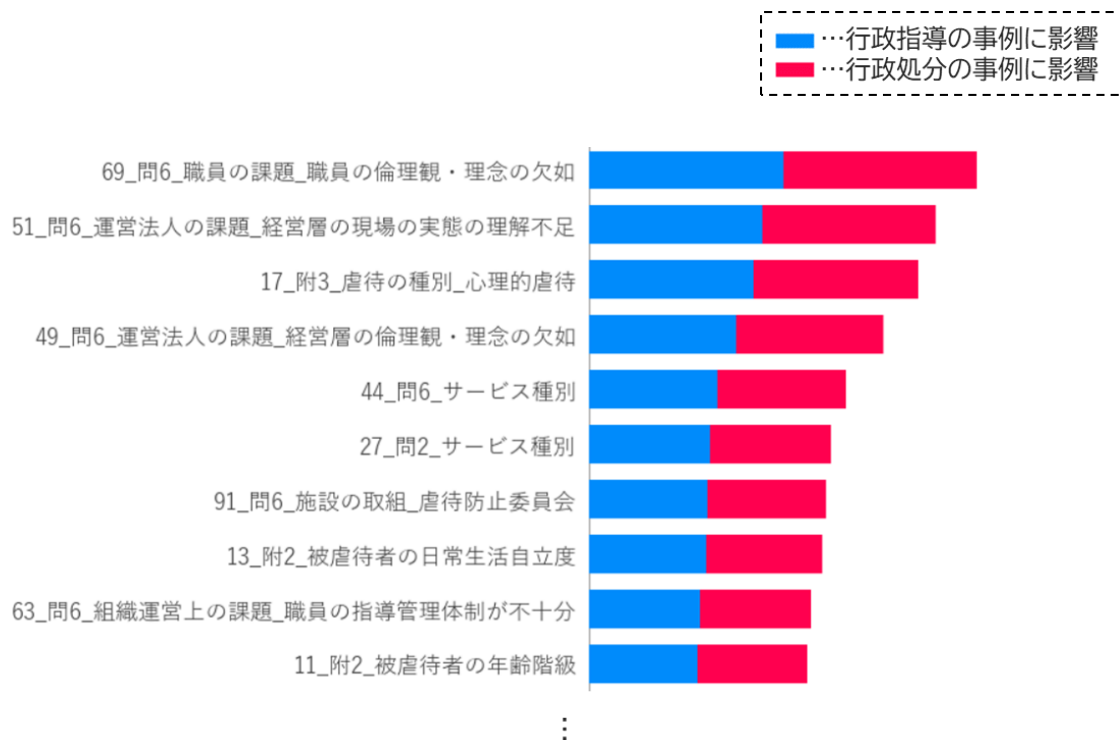
図表 60 対応の違いを予測するモデルの評価データに対する精度

構築したモデルの精度を図表 60 に示す。行政処分については、実際に行政処分であった事例の 14.8%が予測でき(再現率)、行政処分と予測した事例の 16.7%が実際に行政処分であるという結果(適合率)であった。正解率は 91.5%であったが、これは評価データにおいて行政指導の割合が大きいという偏りがあるため高くなっている。予測の精度が低い結果となり、モデルとしては不十分な結果となった。これは、従事者による虐待の中で行政処分となる件数が少なく、データ量が不十分であったためと考えられる。

抽出された要因

要因ごとの特徴量重要度を図表 61 に示す。特徴量重要度の上位 5 項目、つまり行政処分か否かに影響が大きい要因は以下であると言える。

- 職員の倫理観・理念の欠如(職員の課題)
- 経営層の現場の実態の理解不足(運営法人の課題)
- 心理的虐待
- 経営層の倫理観・理念の欠如(運営法人の課題)
- 虐待があった施設・事業所のサービス種別



図表 61 行政処分または行政指導になる事例にかかわる特徴量重要度

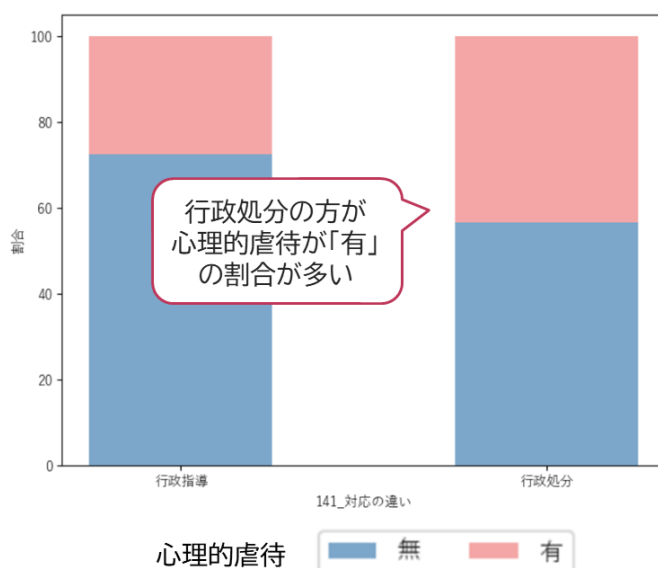
抽出された要因についての考察

抽出された要因のうち、職員の倫理観・理念の欠如、経営層の現場の実態の理解不足、経営層の倫理観・理念の欠如については、当てはまる場合に行政処分になるものと考えられる。ここでは、抽出された要因のうち行政処分か否かとの関係性が不明瞭である、心理的虐待の有無と、虐待があった施設・事業所のサービス種別の分析について深掘りした結果と考察を述べる。

心理的虐待の有無について、回答ごとの行政指導・行政処分の件数を図表 62 に示す。また、対応の違い（行政指導・行政処分）別に心理的虐待の有無についての回答の割合を、図表 63 に示す。これらの結果から、行政処分の方が、心理的虐待が「有」の割合が大きいことがわかった。心理的虐待の有無が直接、行政処分に関係するとは考えづらい。そのため、各事例で虐待の種別を複数選択する際に、結果的に心理的虐待が多かったという可能性がある。また、被虐待者があらゆる職員から常に心理的虐待を受けているような施設では、施設全体として課題がある場合があり、そういった事例で行政処分になりやすいことも考えられる。

		対応	
		行政指導	行政処分
心理的虐待	有	88	46
	無	230	60

図表 62 回答ごとの行政指導・行政処分の件数



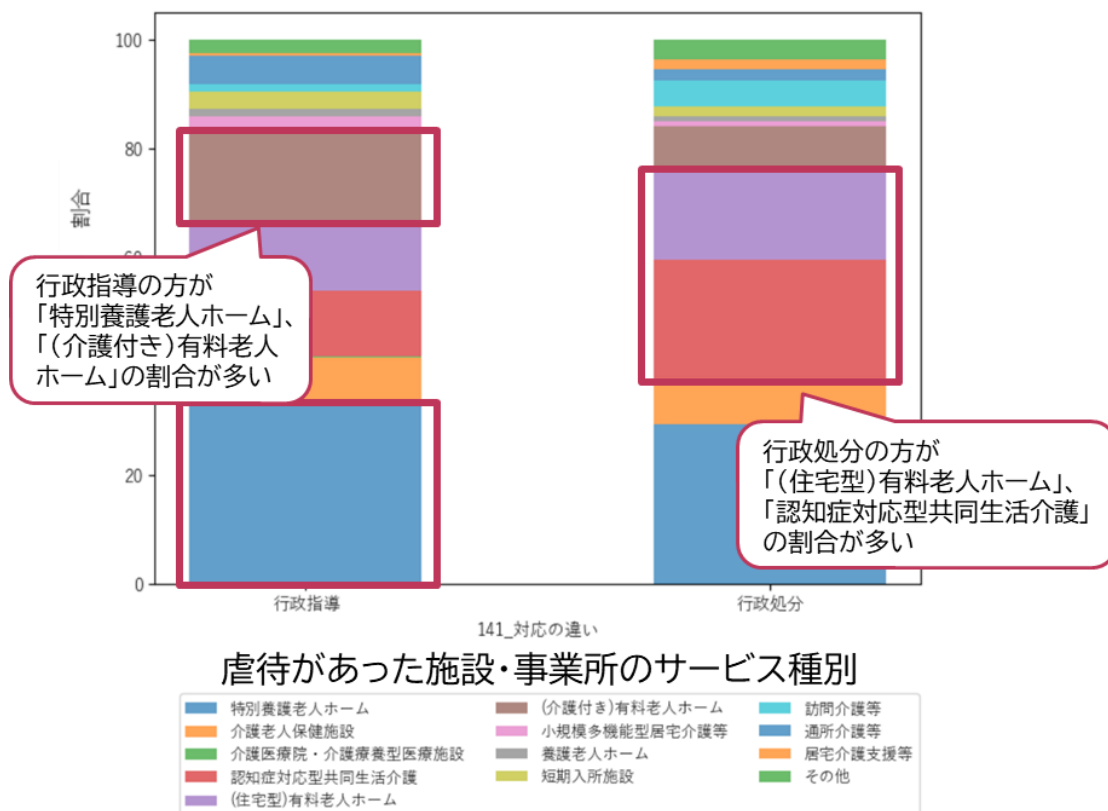
図表 63 対応の違い（行政指導・行政処分）別 回答の割合

虐待があった施設・事業所のサービス種別について、回答ごとの行政指導・行政処分の件数を図表 64 に示す。また、対応の違い（行政指導・行政処分）別にサービス種別についての回答の割合を、図表 65 に示す。

行政指導の方が「特別養護老人ホーム」、「（介護付き）有料老人ホーム」の割合が大きく、行政処分の方が「（住宅型）有料老人ホーム」、「認知症対応型共同生活介護」の割合が大きいことがわかった。

		対応	
		行政指導	行政処分
虐待があった施設・事業所のサービス種別	特別養護老人ホーム	106	31
	介護老人保健施設	26	9
	介護医療院・介護療養型医療施設	1	0
	認知症対応型共同生活介護	38	23
	（住宅型）有料老人ホーム	41	18
	（介護付き）有料老人ホーム	53	8
	小規模多機能型居宅介護等	8	1
	軽費老人ホーム	0	0
	養護老人ホーム	4	1
	短期入所施設	10	2
	訪問介護等	5	5
	通所介護等	16	2
	居宅介護支援等	2	2
	その他	8	4

図表 64 回答ごとの行政指導・行政処分の件数



図表 65 対応の違い（行政指導・行政処分）別 回答の割合

養護者による虐待事例の分析では、昨年度分析と今年度の分析で特徴量重要度上位 5 つを比較している。しかし、従事者による虐待事例の分析では、年度をまたいでいるデータを突合したことでデータの質が変わったため去年との比較は行っていない。同様の理由で、他のテーマの分析でも、従事者による虐待事例の分析では比較は行わなかった。

結論

特徴量重要度と解釈から、行政処分か否かには以下の 5 つの要因の影響が大きいと考えられる。

- 職員の倫理観・理念の欠如（職員の課題）
- 経営層の現場の実態の理解不足（運営法人の課題）
- 心理的虐待
- 経営層の倫理観・理念の欠如（運営法人の課題）
- 虐待があった施設・事業所のサービス種別

心理的虐待の有無が直接、行政処分に関係するとは考えづらいが、施設の状況や課題が心理的虐待の有無に関係があり、結果として心理的虐待があると行政処分になりやすいという分析結果になった可能性がある。

サービス種別では、行政指導の方が「特別養護老人ホーム」、「（介護付き）有料老人ホーム」の割合が大きく、行政処分の方が「（住宅型）有料老人ホーム」、「認知症対応型共同生活介護」の割合が大きいことがわかった。

B) 養護者による虐待事例（C 票）

使用したデータ

令和3年度（1年分）のC票と、AD票の一部の項目を使用した。D票の「養介護施設従事者等による高齢者虐待対応」の項目は、従事者による虐待に関する回答であるため、除外した。

目的変数の設定

「問7 虐待事例への対応状況 1)分離の有無 1-1)分離の有無」の項目が、

- a)被虐待者の保護として虐待者からの分離を行った事例
- b)被虐待者と虐待者を分離していない事例

のどちらであるかを目的変数とした。今回は、純粋に分離するかどうかの判別を行うため、「問7 虐待事例への対応状況 1)分離の有無 1-1)分離の有無」の項目が「a)被虐待者の保護として虐待者からの分離を行った事例」、「b)被虐待者と虐待者を分離していない事例」のみを使用することとした。「c)現在対応について検討・調整中の事例」、「d)虐待判断時点で既に分離状態の事例（別居、入院、入所等）」、「e)その他」のデータは除外した。

本分析に使用するデータは17,301件で、そのうち分離を行った事例は4,958件、分離していない事例は12,343件であった。データ件数の偏りがあったため、学習データは分離を行った事例、分離をしていない事例、共に3,966件ずつとなるよう調整を行った。評価データは偏りを調整せず、現実の比率そのままのものを扱い、分離を行った事例が992件、分離していない事例が2,469件となっている。

説明変数の設定

C票の「問2 相談・通報者」、「問4 事実確認調査の結果 6)_2 虐待者側の要因」などの93項目を説明変数とした。ただし、ID関連項目、自由記述項目、日付項目は除外している。また、通報時点の情報の中から要因を抽出するため、「問7 虐待事例への対応状況 2) 1)で分離を行った場合の対応内容」などの対応内容の項目は説明変数からは除いた。

モデルの精度

		予測結果	
		分離しない	分離する
実績	分離しない	1,733	736
	分離する	395	597

図表 66 対応の違いを予測するモデルの評価データに対する精度

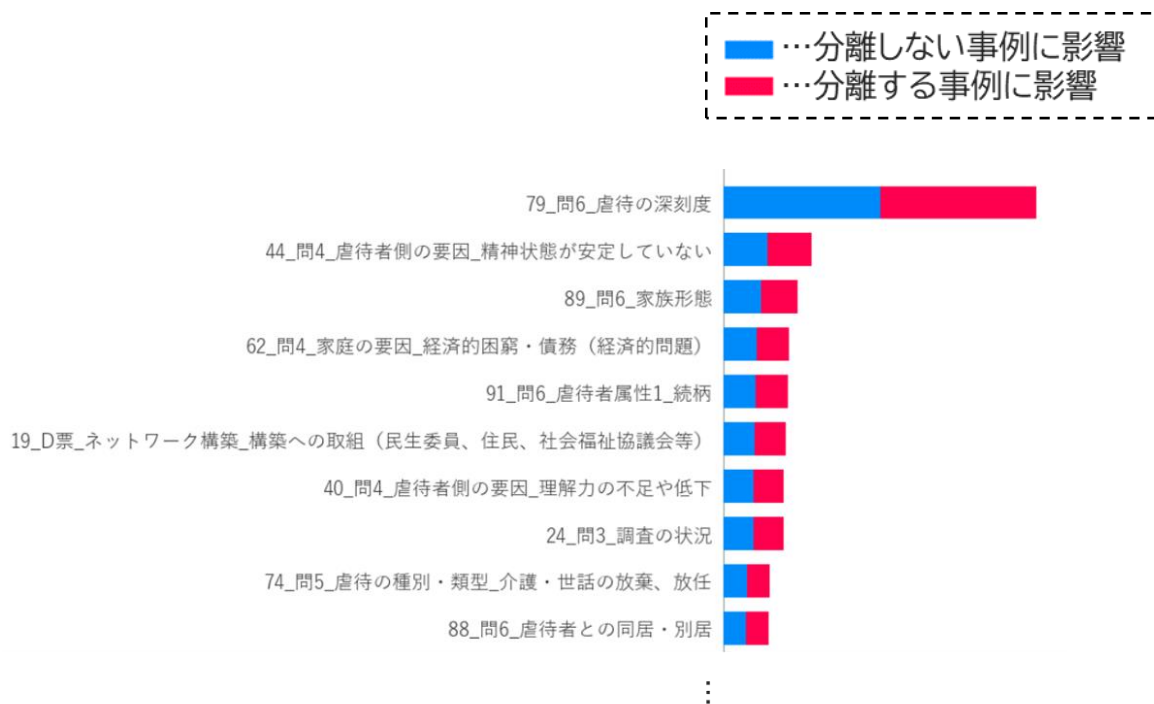
構築したモデルの精度を図表 66 に示す。実際に分離をした事例の60.2%が予測でき（再現率）、分離すると予測した事例の44.8%が実際に分離した事例であるという結果（適合率）であった。正解率は67.3%であった。これより、分離の有無を予測するモデルは、ランダムに深刻度を予測するよりも根拠のある予測をすることができるモデルと考えられる。

抽出された要因

要因ごとの特徴量重要度を図表 67 に示す。特徴量重要度の上位5項目、つまり分離するか否かに影響が

大きい要因は以下であると言える。

- 虐待の深刻度
- 精神状態が安定していない（虐待者側の要因）
- 家族形態
- 経済的困窮・債務（経済的問題）（家庭の要因）
- 被虐待者から見た虐待者の続柄



図表 67 分離の有無にかかわる特徴量重要度

抽出された要因についての考察

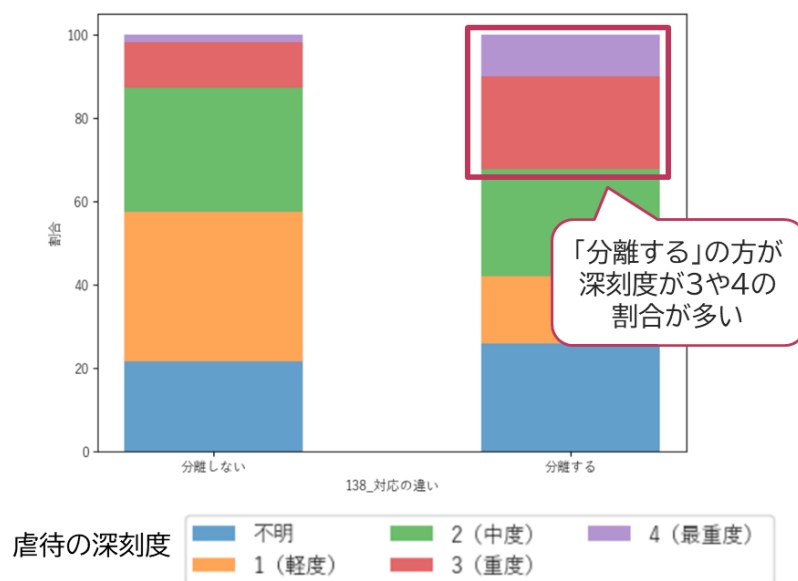
抽出された要因のうち、精神状態が安定していない、経済的困窮・債務（経済的問題）については、当てはまる場合に分離につながるものと考えられる。ここでは、抽出された要因のうち分離となるか否かとの関係性が不明瞭である、虐待の深刻度、家族形態、被虐待者から見た虐待者の続柄の分析について深掘りした結果と考察を述べる。

虐待の深刻度について、回答ごとの分離の有無の件数を図表 68 に示す。また、対応の違い（分離の有無）別に虐待の深刻度についての回答の割合を、図表 69 に示す。

「分離する」の方が、深刻度が「3（重度）」や「4（最重度）」の割合が大きいことがわかった。深刻度がより重度であるほど、虐待者と被虐待者を物理的に離す必要のある事例が多いからであると考えられる。

		対応	
		分離しない	分離する
虐待の深刻度	不明	849	1,023
	1(軽度)	1,428	638
	2(中度)	1,177	1,020
	3(重度)	433	888
	4(最重度)	79	397

図表 68 回答ごとの分離の有無の件数



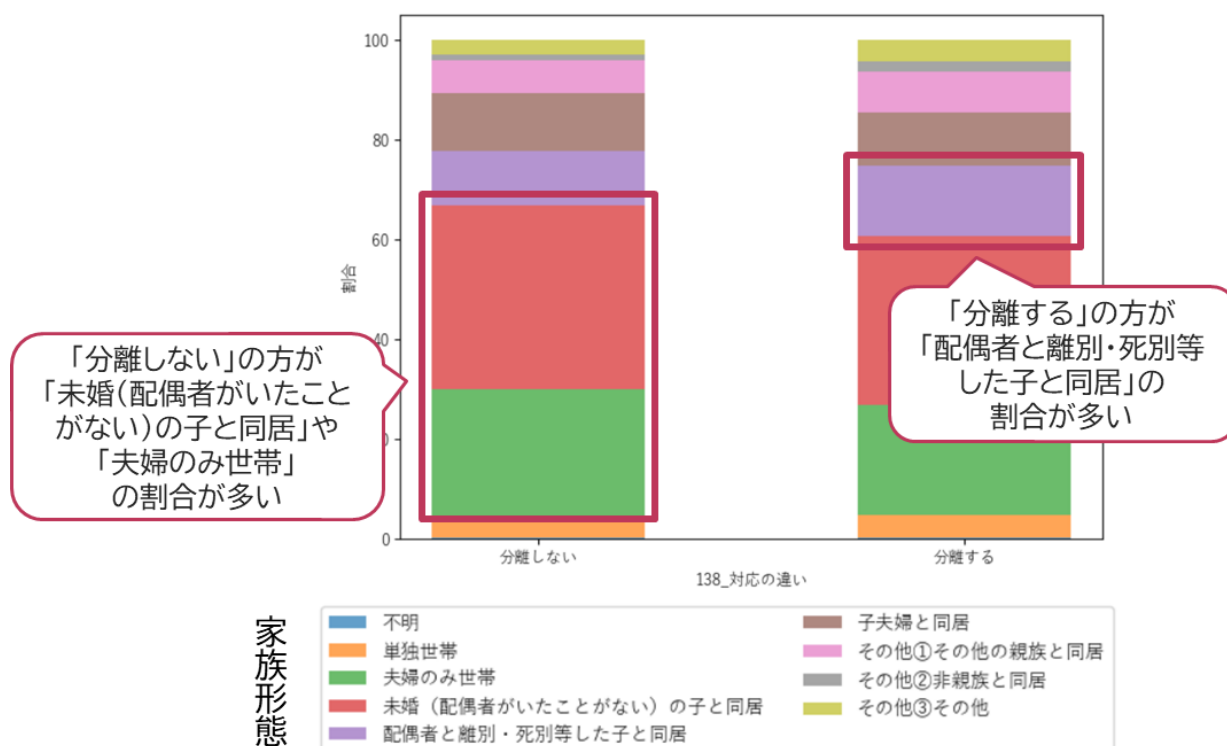
図表 69 対応の違い（分離の有無）別 回答の割合

家族形態について、回答ごとの分離の有無の件数を図表 70 に示す。また、対応の違い（分離の有無）別に家族形態についての回答の割合を、図表 71 に示す。

「分離しない」の方が「未婚（配偶者がいたことがない）の子と同居」や「夫婦のみ世帯」の割合が大きく、「分離する」の方が「配偶者と離別・死別等した子と同居」の割合が大きいことがわかった。

		対応	
		分離しない	分離する
家族形態	単独世帯	138	179
	夫婦のみ世帯	1,036	877
	未婚(配偶者がいたことがない)の子と同居	1,464	1,342
	配偶者と離別・死別等した子と同居	435	557
	子夫婦と同居	457	427
	その他①その他の親族と同居	261	323
	その他②非親族と同居	47	84
	その他③その他	120	174
	不明	8	3

図表 70 回答ごとの分離の有無の件数



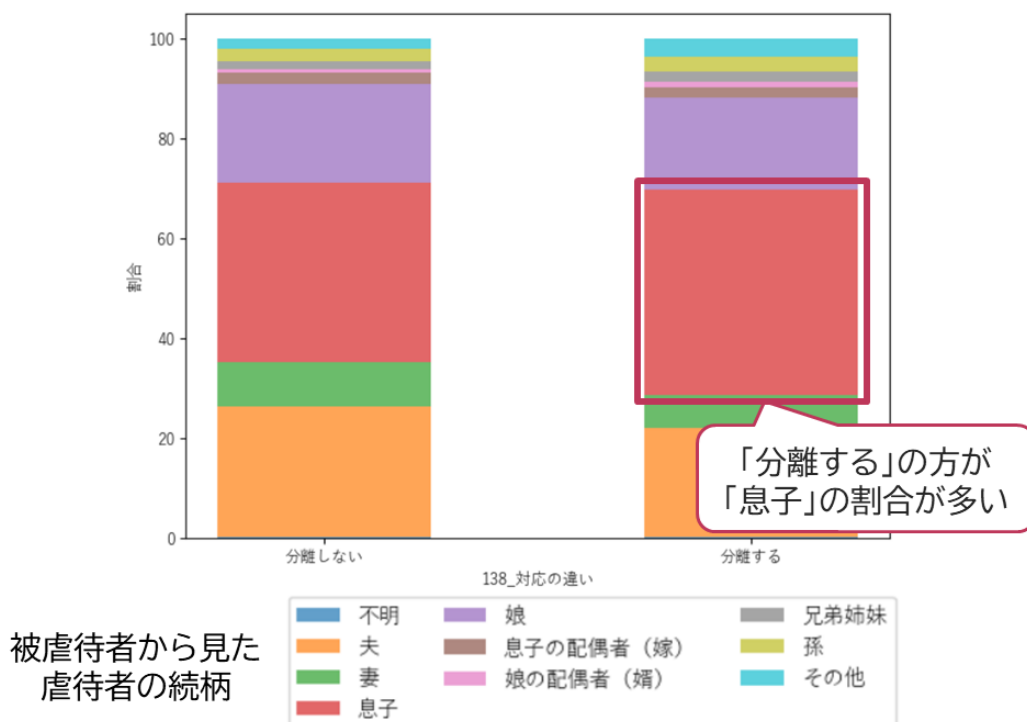
図表 71 対応の違い(分離の有無)別 回答の割合

被虐待者から見た虐待者の続柄について、回答ごとの分離の有無の件数を図表 72 に示す。また、対応の違い(分離の有無)別に被虐待者から見た虐待者の続柄についての回答の割合を、図表 73 に示す。

「分離する」の方が被虐待者から見た虐待者の続柄が「息子」の割合が大きい。

		対応	
		分離しない	分離する
被虐待者から見た虐待者の続柄	夫	1,045	867
	妻	349	267
	息子	1,421	1,628
	娘	787	732
	息子の配偶者(嫁)	90	83
	娘の配偶者(婿)	25	44
	兄弟姉妹	67	82
	孫	94	110
	その他	87	152
	不明	1	1

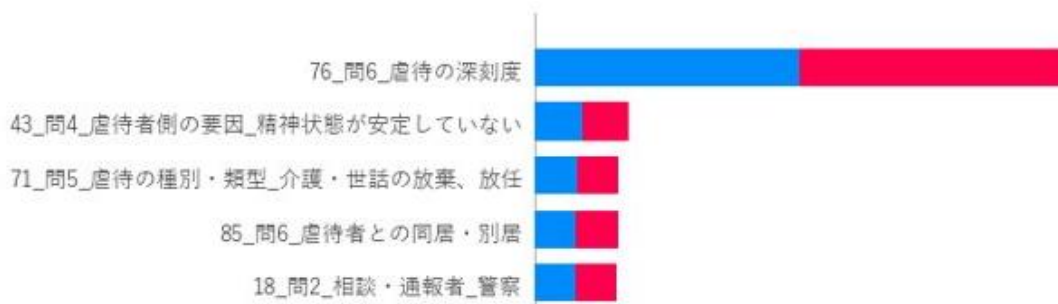
図表 72 回答ごとの分離の有無の件数



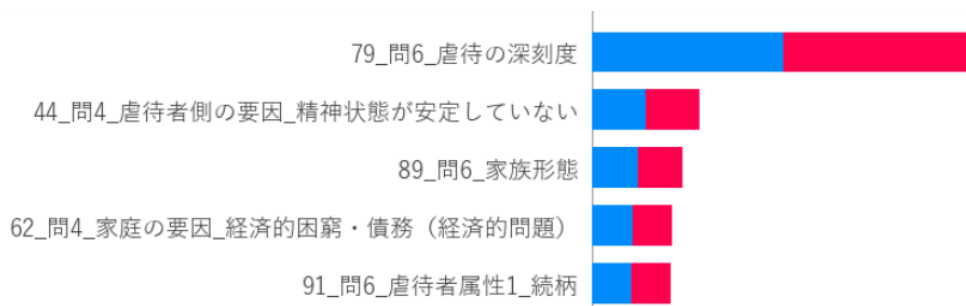
図表 73 対応の違い（分離の有無）別 回答の割合

特徴量重要度上位 5 つの比較において、令和 2 年度分のデータを使用した昨年度の分析を図表 74 に、令和 3 年度分のデータを使用した本分析を図表 75 に示す。

上位 5 つの要因を比較すると、どちらの分析においても、虐待の深刻度と虐待者の精神状態は、変わらず重要度が高い。また、重要度を表すグラフの長さの比較から、令和 2 年度分のデータを使用した分析では深刻度だけがずばぬけて重要度が高かったものの、令和 3 年度分のデータを使用した分析では、他の要因との重要度の差が縮まっていた。



図表 74 分離の有無にかかわる特徴量重要度（令和 2 年度分のデータを使用）



図表 75 分離の有無にかかわる特徴量重要度（令和 3 年度分のデータを使用）

結論

特徴量重要度と解釈から、分離するか否かには以下の 5 つの要因の影響が大きいと考えられる。

- 虐待の深刻度
- 精神状態が安定していない（虐待者側の要因）
- 家族形態
- 経済的困窮・債務（経済的問題）（家庭の要因）
- 被虐待者から見た虐待者の続柄

虐待の深刻度では、「分離する」の方が、深刻度が「3（重度）」や「4（最重度）」の割合が大きいことがわかった。深刻度がより重度であるほど、虐待者と被虐待者を物理的に離す必要のある事例が多いからであると考えられる。

家族形態では、「分離しない」の方が「未婚（配偶者がいたことがない）の子と同居」や「夫婦のみ世帯」の割合が大きく、「分離する」の方が「配偶者と離別・死別等した子と同居」の割合が大きいことがわかった。

被虐待者から見た虐待者の続柄では、「分離する」の方が「息子」の割合が大きかった。

また、令和 2 年度のデータを用いた場合と比較した結果、虐待の深刻度と虐待者の精神状態は、どちらの年の分析においても重要度が高い要因であった。

(工) テーマ③：虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析

要介護施設従事者等による虐待の中には、同じ施設で繰り返し発生しているケースが存在する。同一施設内での虐待再発防止を目的として、虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析を実施した。

使用したデータ

分析対象データとして令和 2, 3 年度の B 票、附 B 票 1,115 件を使用し、分析を実施した。

A 票は高齢者虐待防止法に基づく状況等に関する調査票であり、市町村の人口や地域包括支援センターの運営状況などの質問項目が存在する。虐待が繰り返し起こる施設への対処は急務だが A 票項目の状況は即時変えられるものではなく、要因として抽出されたとしても対処が困難となる。また D 票は、高齢者虐待防止法に基づく対応の体制整備について報告する調査票であり、令和 2 年度以前までは養護者による虐待に関する回答をする調査票であった。令和 3 年度の調査票から問 19～問 26 の「養介護施設従事者等による高齢者虐待対応」が新設されたが、従事者による虐待事例の分析では 4 年分の共通項目のみ使用しており、該当の項目は使用できない。そのため、本分析では A 票、D 票は使用しないこととした。

目的変数の設定

目的変数は、B 票の「問 6 虐待事例の概要 5)当該施設等に対する過去の指導等 5)-1 当該施設等における過去の虐待の有無」とした。学習データのうち、過去の虐待あり（再発）の事例は 154 データ、過去の虐待なし（初発）の事例は 738 件である。対して評価データは、再発の事例が 39 件、初発の事例が 184 件となっている。

説明変数の設定

説明変数は B 票の「問 6 虐待事例の概要 4_2)運営法人(経営層)の課題」や、B 票の「問 6 虐待事例の概要 6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組」などの 80 項目である。ただし、ID 関連項目、自由記述項目、日付項目、B 票の「問 7 老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応」などの虐待判断後の対応に関する項目は除外している。

モデルの精度

学習データを用いて再発事例を予測するモデルを作成した。評価データを用いてモデルが予測した結果を混合行列にまとめたものが図表 76 となる。正解率 78.5%、適合率 30.4%、再現率 18.0%という結果から、初発事例は予測できているものの再発事例は予測精度が良いとは言えない結果となっている。ただし再発事例は全データ中に 21%しか存在しないため、データ数の観点から考えると妥当な結果と考えられる。

		予測結果	
		初発	再発
実績	初発	168	16
	再発	32	7

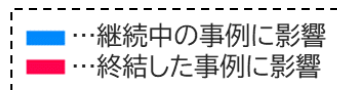
図表 76 再発事例を予測するモデルの評価データに対する精度

抽出された要因

モデルの特徴量重要度を図表 77 に示す。特徴量重要度の上位 5 項目、つまり事例の再発・初発判断に重要な項目は以下であると言える。

- ・ サービス種別
- ・ 業務負担軽減に向けた取り組みが不十分（組織運営上の課題）

- 業務環境変化への対応取り組みが不十分（運営法人の課題）
- 当該施設における職員に対する虐待防止に関する研修の実施
- 心理的虐待



図表 77 再発事例にかかわる特徴量重要度

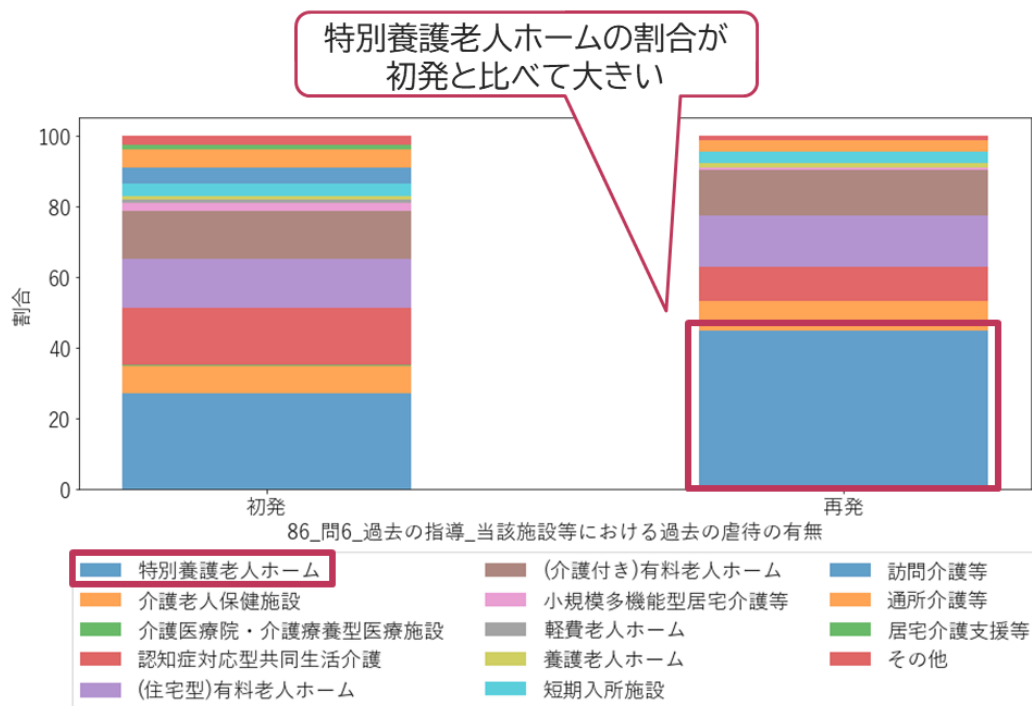
抽出された項目についての考察

抽出された要因のうち、サービス種別以外の 4 つについては、当てはまる場合に再発につながるものと考えられる。ここでは、本分析では、抽出された要因のうち再発との関係性が不明瞭である、サービス種別について深掘りした結果と考察を述べる。

サービス種別において、回答ごとに初発と再発のデータ数をまとめた結果が図表 78 図表 78、回答ごとに初発と再発の割合を比較した結果が図表 79 である。これからわかる通り、サービス種別が特別養護老人ホームである割合が、初発に比べ再発では大きくなっていった。この原因を考察するため、サービス種別と特徴量重要度が高い項目との関係性を調査した。

		対応状況	
		初発	再発
サービス種別	特別養護老人ホーム	200	69
	介護老人保健施設	58	13
	介護医療院・介護療養型医療施設	3	0
	認知症対応型共同生活介護	119	15
	(住宅型)有料老人ホーム	101	22
	(介護付き)有料老人ホーム	99	20
	小規模多機能型居宅介護等	17	1
	軽費老人ホーム	8	0
	養護老人ホーム	6	2
	短期入所施設	26	5
	訪問介護等	33	0
	通所介護等	38	5
	居宅介護支援等	10	0
	その他	20	2

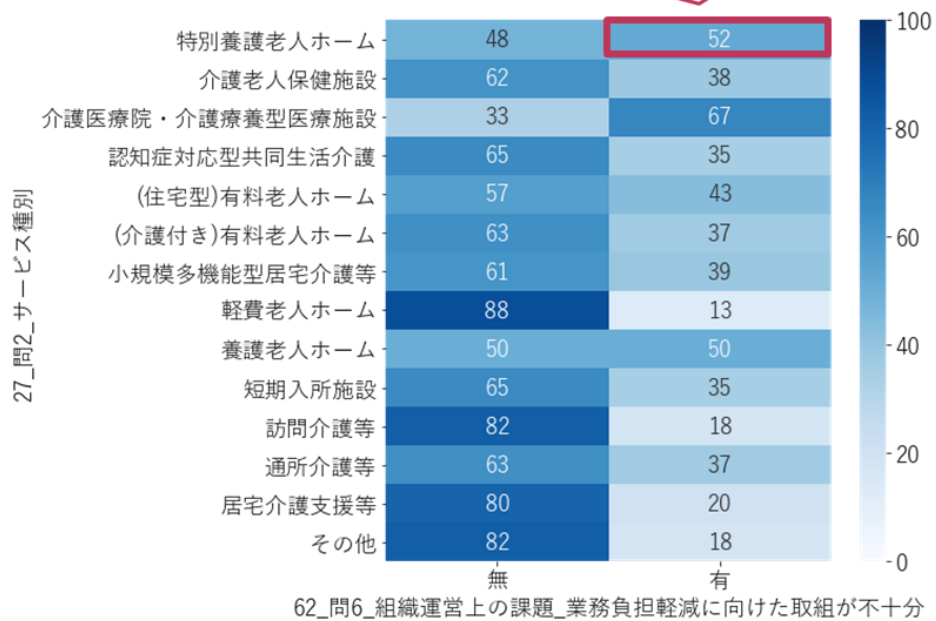
図表 78 各サービス種別の初発・再発データ数



図表 79 初発・再発におけるサービス種別の割合

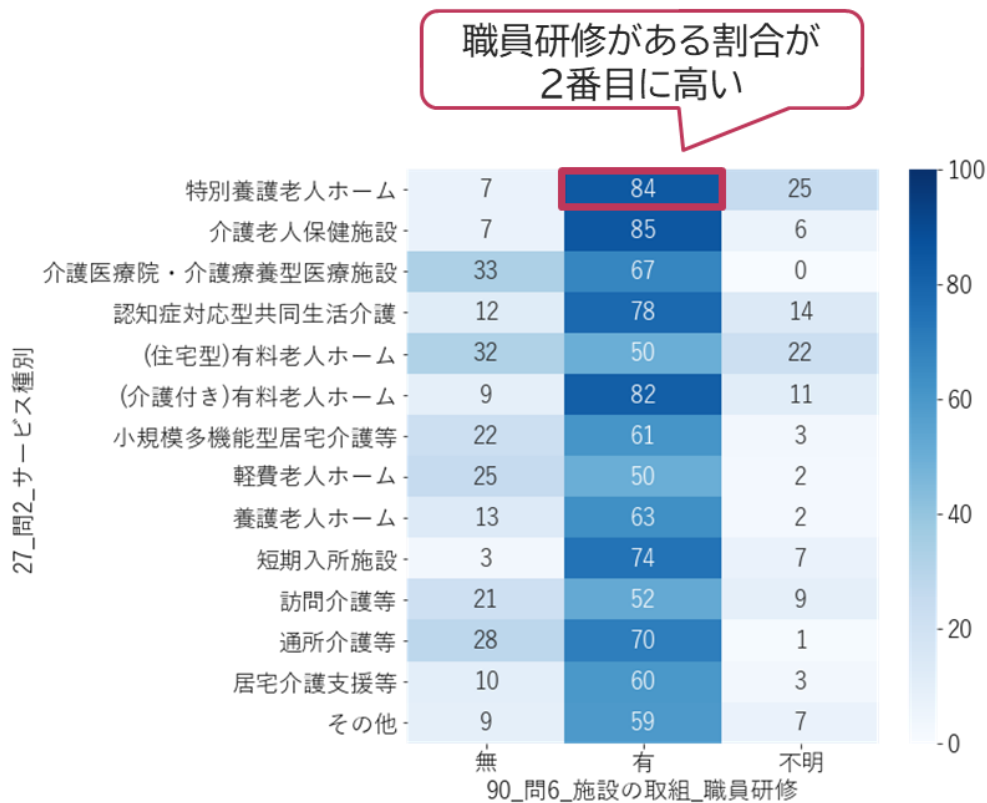
サービス種別ごとに業務負担軽減に向けた取り組みが不十分（組織運営上の課題）の回答割合を算出し、比較した結果が図表 80 である。特別養護老人ホームは他のサービス種別と比べ、組織運営上の課題のうち、業務負担軽減に向けた取り組みが不十分である割合が 2 番目に大きい。この結果から、業務負担軽減に向けた取り組みは進みにくく、特別養護老人ホームでの再発に繋がっていると推察する。

業務負担軽減に向けた取り組みが不十分である割合が
2番目に高い



図表 80 サービス種別ごとの業務負担軽減に向けた取り組みが不十分の回答割合

さらに、サービス種別ごとに当該施設における職員に対する虐待防止に関する研修の実施の回答割合を算出し、比較した結果が図表 81 である。特別養護老人ホームは他のサービス種別と比べ、虐待防止に関する職員研修を実施している割合が 2 番目に大きい。この結果から、特別養護老人ホームでは職員研修をすることで、再発した場合も発見できており、結果として再発での割合が大きくなっていると推察する。



図表 81 サービス種別ごとの当該施設における職員に対する虐待防止に関する研修の実施の回答割合

結論

特徴量重要度と解釈から、再発・初発判断には以下の 5 つの項目が重要だと考えられる。

- サービス種別
- 業務負担軽減に向けた取り組みが不十分（組織運営上の課題）
- 業務環境変化への対応取り組みが不十分（運営法人の課題）
- 当該施設における職員に対する虐待防止に関する研修の実施
- 心理的虐待

サービス種別に着目すると、初発事例と比べ再発事例では特別養護老人ホームの割合が増えている。特別養護老人ホームでは業務負担軽減に向けた取り組みが進みにくいことが、再発の一因になっている可能性がある。一方、特別養護老人ホームでは職員研修を実施していることから、再発を正しく発見し報告に至っているのではないかと考えられる。

(オ) テーマ④：終結・継続に関する要因分析

本章では、虐待の終結・継続に関して以下の 3 つの観点から要因分析を行った結果を示す。

分析① B 票・従事者による虐待

分析② C 票・養護者による虐待

分析③ C 票・従事者による虐待（分離なし）

A) 分析① B 票・従事者による虐待

使用したデータ

5年分受領した調査票のデータのうち、平成29年度分はそれ以降と比べて存在しない項目が多かったため除外し、残りの4年分のA票、B票、附B票を使用した。

D票は、高齢者虐待防止法に基づく対応の体制整備について報告する調査票であり、令和2年度以前までは養護者による虐待に関する回答をする調査票であった。令和3年度の調査票から問19～問26の「養介護施設従事者等による高齢者虐待対応」が新設されたが、従事者による虐待事例の分析では4年分の共通項目のみ使用しており、該当の項目は使用できない。そのため、本分析ではD票は使用しないこととした。

さらに、以下をすべて満たすデータに絞り込みを行った。ここで、通報日が調査日（年度末）に近い事例は通報を受理したばかりで終結していないことが多く、他のデータと合わせて分析すると正確な分析ができないため、3つ目の条件で通報日が調査日から半年以上前のデータに絞り込みを行っている。絞り込みの結果、データ総数は2,023件となった。

- B票の「問13 調査対象年度末日での状況 1)対応状況の種類」が回答されている
- 継続事例の場合はB票の「問1 相談通報受理日・時期・自治体 1) 相談・通報受理日」が各年度の9月30日以前

目的変数の設定

目的変数は、B票の「問13 調査対象年度末日での状況 1)対応状況の種類」とした。学習データのうち、終結事例は921件、継続事例は697件である。対して評価データは、終結事例が231件、継続事例が174件となっている。

説明変数の設定

説明変数はB票の「問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使 2)改善命令」や附B票の「附4 虐待を行った養介護施設等の従事者 3) 性別」などの114項目である。ただし、ID関連項目、自由記述項目、日付項目は除外している。またA票の都道府県人口や地域包括支援センターの設備状況は事例の終結・継続に関わらないと判断したため、附B票の虐待の深刻度は判断基準が途中で変更したため、除外している。

モデルの精度

学習データを用いて終結事例を予測するモデルを作成した。評価データを用いてモデルが予測した結果を混同行列にまとめたものが図表82となる。正解率72.1%、適合率70.9%、再現率86.6%という結果から、ランダムに終結・継続を予測するよりも根拠のある予測をすることができるモデルと考えられる。

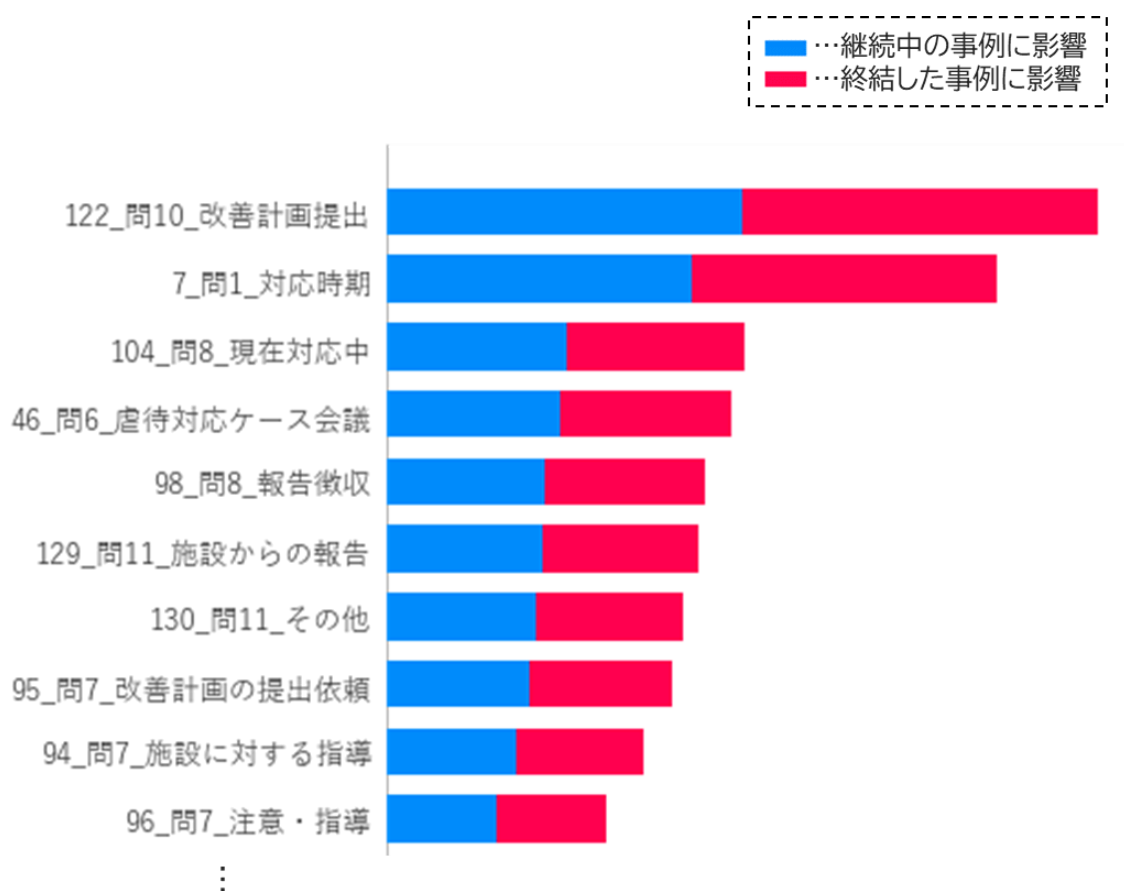
		予測結果	
		継続	終結
実績	継続	92	82
	終結	31	200

図表 82 終結事例を予測するモデルの評価データに対する精度

抽出された要因

モデルの特徴量重要度を図表 83 に示す。特徴量重要度の上位 5 項目、つまり事例の終結・継続判断に重要な項目は以下であると言える。

- 施設等からの改善計画の提出
- 通報・事実確認調査・虐待の対応時期
- 介護保険法の規定に基づく権限の行使（現在対応中）
- 虐待対応ケース会議での発生要因の分析
- 介護保険法の規定に基づく権限の行使（報告徴収、質問、立入検査）



図表 83 終結事例にかかわる特徴量重要度

抽出された要因についての考察

考察の前提として終結の形は多様である。終結の最低条件は「虐待が解消されたと確認できること」であり、虐待の解消によって高齢者が安心して生活を送ることに繋がるかについても見極める必要がある。つまり様々な観点から終結を判断するため、終結の形も多様となっている。以下ではデータ上で終結として記録されている事例の要因を深掘りする。

本分析では、抽出された要因のうち終結・継続との関係性が不明瞭である、虐待対応ケース会議での発生要因の分析について深掘りした結果と考察を述べる。

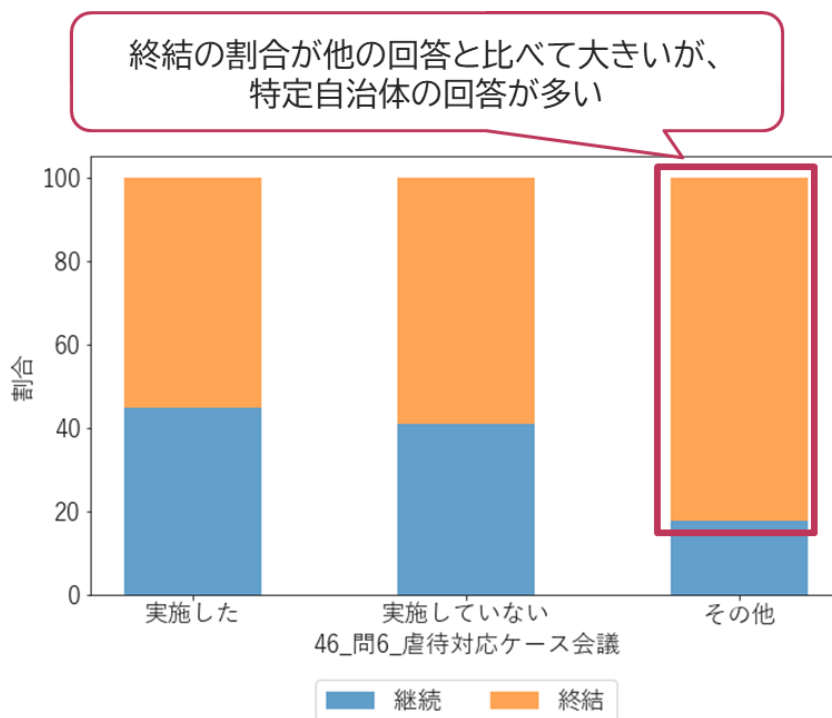
虐待対応ケース会議での発生要因の分析において、回答ごとに終結と継続のデータ数をまとめた結果が図表 84 図表 78、回答ごとに終結と継続の割合を比較した結果が図表 85 である。これらからわかる通り、虐待対応

ケース会議での発生要因の分析が「その他」の場合、それ以外に比べ終結の割合が大きくなっていった。ここで、回答が「その他」である事例は特定自治体の事例が多くなっていたため、「その他」であることには特別な意味はないと考えられる。また、実施した場合と実施していない場合で終結・継続の割合に大きな差がないことから、虐待対応ケース会議での発生要因の分析有無は終結に影響しないと考える。

回答がその他の事例における実施内容についての自由記述文を確認すると、虐待対応ケース会議外で発生要因の分析を実施する事例が多数存在した。そのため、虐待対応ケース会議での発生要因の分析有無と終結の関係は分からず、また現状のデータから読み取るとは難しいと考えられる。

		対応状況	
		継続	終結
虐待対応ケース会議での発生要因の分析	実施した	552	680
	実施していない	135	195
	その他	10	46

図表 84 虐待対応ケース会議での発生要因の分析の回答別終結・継続データ数



図表 85 虐待対応ケース会議での発生要因の分析の回答別終結・継続の割合

結論

特徴量重要度と解釈から、終結・継続判断には以下の 5 つの項目が重要だと考えられる。

- 施設等からの改善計画の提出
- 通報・事実確認調査・虐待の対応時期

- ・ 介護保険法の規定に基づく権限の行使（現在対応中）
- ・ 虐待対応ケース会議での発生要因の分析
- ・ 介護保険法の規定に基づく権限の行使（報告徴収、質問、立入検査）

ただし虐待対応ケース会議での発生要因の分析有無に関しては、考察の結果から終結に関係しないと判断した。これはあくまで虐待対応ケース会議で発生要因分析をしたか否かであり、発生要因の分析自体が終結に係るかどうかは不明である。

B) 分析② C 票・養護者による虐待

使用したデータ

分析対象データとして令和 3 年度の A 票、C 票、D 票を使用した。

さらに、以下をすべて満たすデータに絞り込みを行った。通報日で絞り込みを行っている理由は、分析①と同様である。絞り込みの結果、データ総数は 2,023 件となった。

- ・ C 票の「問 8 調査対象年度末日での状況 1)対応状況の種類」が回答されている
- ・ 継続事例の場合は C 票の「問 1 相談通報受理日・時期・自治体 1) 相談・通報受理日」が 2021 年 9 月 30 日以前

目的変数の設定

目的変数は、C 票の「問 8 調査対象年度末日での状況 1)対応状況の種類」とした。学習データのうち、終結事例は 5,243 件、継続事例は 7,916 件である。対して評価データは、終結事例が 1,979 件、継続事例が 1,311 件となっている。

説明変数の設定

説明変数は C 票の「問 2 相談・通報者 1)相談・通報者」や、C 票の「問 5 虐待の内容 1)虐待の種別・類型」などの 119 項目である。ただし、ID 関連項目、自由記述項目、日付項目、目的変数と似た意味をもつ項目は除外している。また A 票の都道府県人口や地域包括支援センターの設備状況は事例の終結・継続に関わらないと判断したため、D 票の「養介護施設従事者等による高齢者虐待対応」の項目は従事者による虐待に関する回答であるため、除外している。

モデルの精度

学習データを用いて終結事例を予測するモデルを作成した。評価データを用いてモデルが予測した結果を混同行列にまとめたものが図表 86 となる。正解率 65.4%、適合率 67.1%、再現率 83.2%という結果から、ランダムに終結・継続を予測するよりも根拠のある予測をすることができるモデルと考えられる。

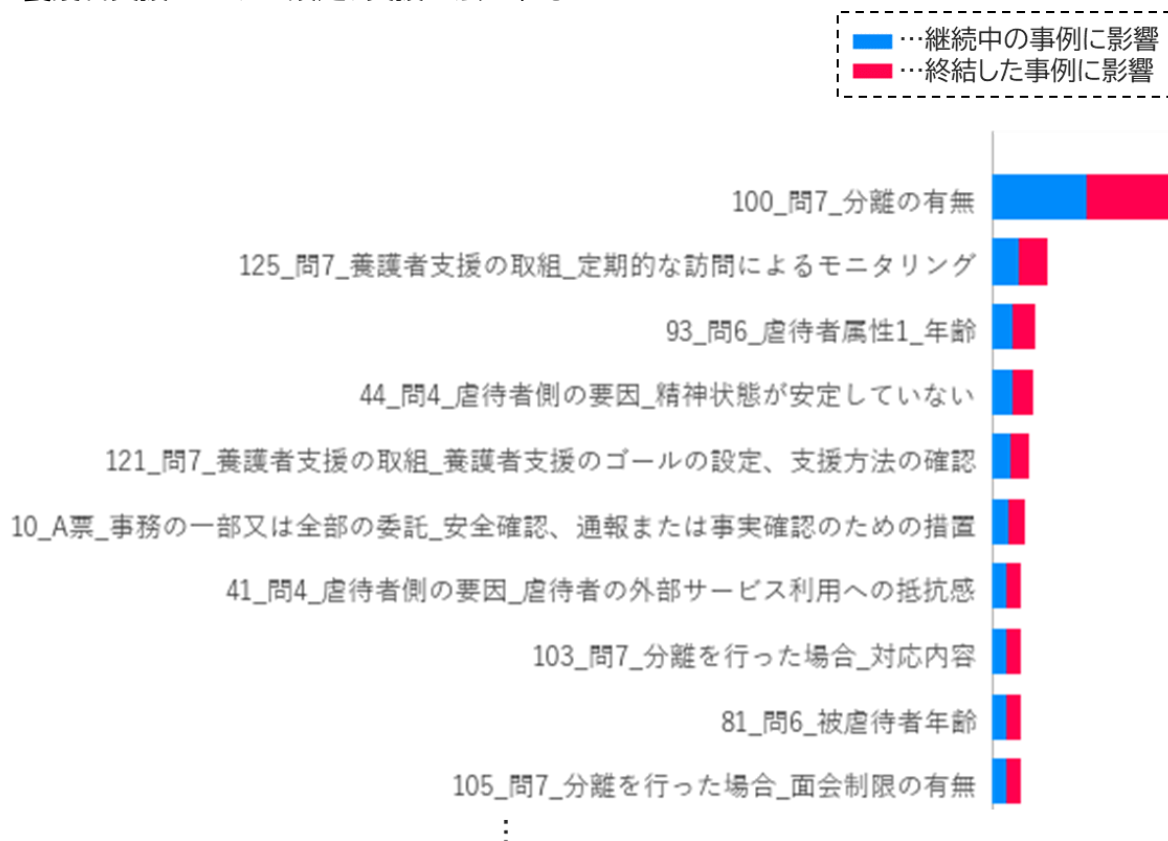
		予測結果	
		継続	終結
実績	継続	503	808
	終結	332	1,647

図表 86 終結事例を予測するモデルの評価データに対する精度

抽出された要因

モデルの特徴量重要度を図表 87 に示す。特徴量重要度の上位 5 項目、つまり事例の終結・継続判断に重要な項目は以下であると言える。

- ・ 分離の有無
- ・ 養護者支援を目的とした、定期的な訪問によるモニタリング
- ・ 虐待者の年齢
- ・ 虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）
- ・ 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認



図表 87 終結事例にかかわる特徴量重要度

抽出された要因についての考察

考察の前提として終結の形は多様である。終結の最低条件は「虐待が解消されたと確認できること」であり、虐待の解消によって高齢者が安心して生活を送ることに繋がるかについても見極める必要がある。つまり様々な観点から終結を判断するため、終結の形も多様となっている。以下ではデータ上で終結として記録されている事例の要因を深掘りする。

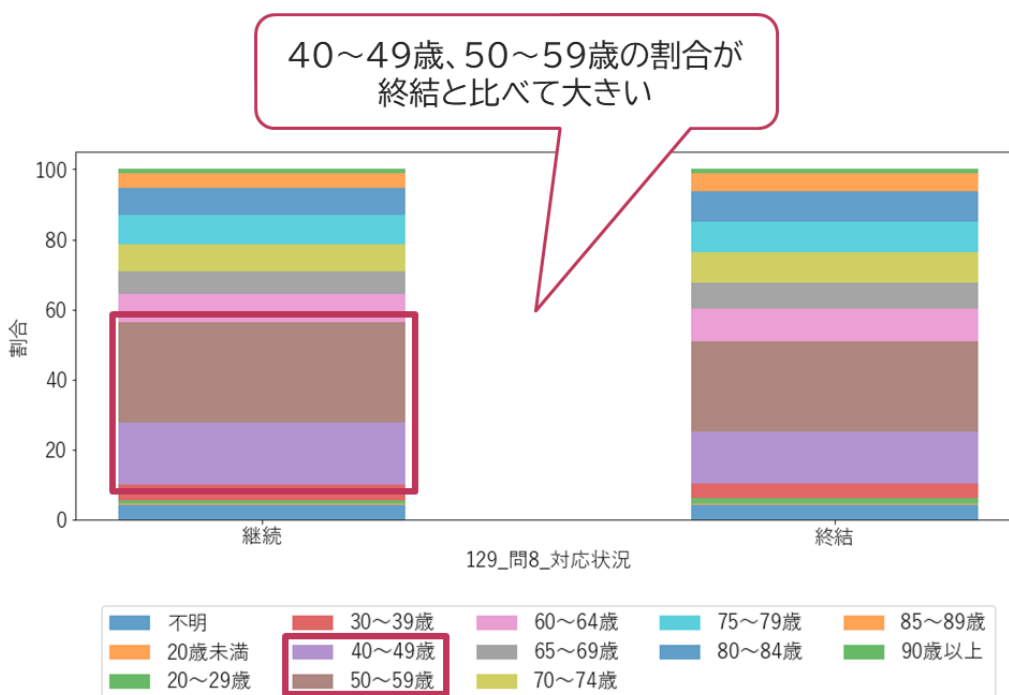
本分析では、抽出された要因のうち終結・継続との関係性が不明瞭である、虐待者の年齢と虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）について深掘りした結果と考察を述べる。また令和 2 年度のデータを用いた場合の特徴量重要度上位 5 つと比較し、どのような違いがあったかを調査する。

虐待者の年齢において、年齢ごとに終結と継続のデータ数をまとめた結果が図表 88、終結と継続で各年齢の割合を比較した結果が図表 89 である。これらからわかる通り、40~49 歳と 50~59 歳の割合が終結に比べ継続では大きくなっていった。40~59 歳は被虐待者の息子・娘世代である。つまり、被虐待者の息子・娘世代が虐

待している事例において養護者支援が行き届いておらず、事例が継続している可能性がある。

		対応状況	
		継続	終結
虐待者の年齢	不明	216	339
	20歳未満	15	24
	20～29歳	61	116
	30～39歳	239	327
	40～49歳	925	1,197
	50～59歳	1,499	2,032
	60～64歳	425	732
	65～69歳	343	598
	70～74歳	395	665
	75～79歳	434	689
	80～84歳	410	695
	85～89歳	226	403
	90歳以上	55	99

図表 88 虐待者の年齢別終結・継続データ数



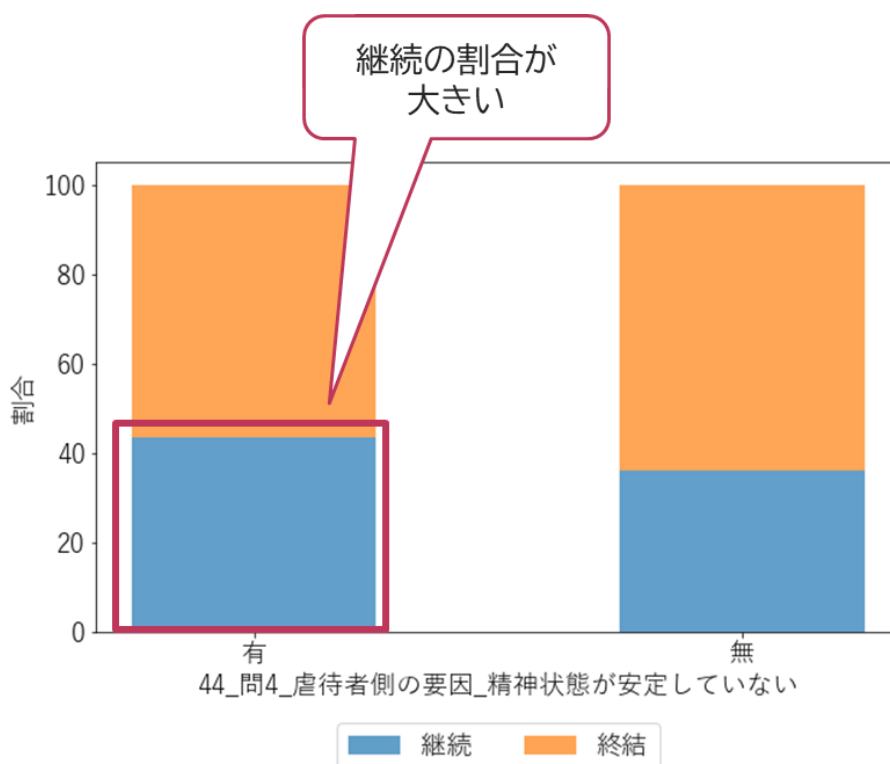
図表 89 終結・継続における虐待者の年齢割合

虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）において、回答ごとに終結と継続のデータ数をまとめた結果が図表 90 図表 78、回答ごとに終結と継続の割合を比較した結果が図表 91 である。これらからわかる通り、虐待者側の要因の 1 つに精神状態が安定していないことがある場合、ない場合に比べ継続の割合が大きくなっていた。精神状態が安定しない養護者を支援することは難しく、また、精神状態を安定させることも簡単ではない

と考えられる。そのため対応が長引き、継続している可能性がある。

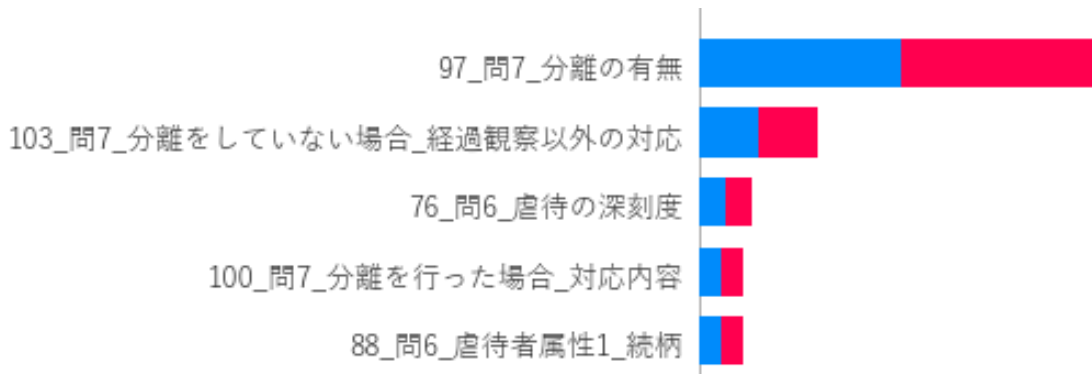
		対応状況	
		継続	終結
(虐待者側の要因) 虐待者の精神状態 が不安定	有	2,835	3,686
	無	2,408	4,230

図表 90 虐待者の精神状態が不安定の回答別終結・継続データ数

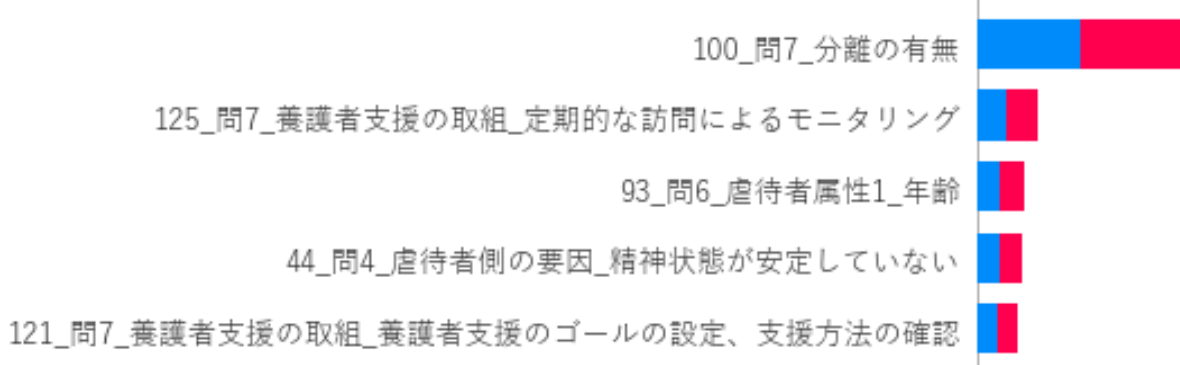


図表 91 虐待者の精神状態が不安定の回答別終結・継続の割合

特徴量重要度上位 5 つの比較において、令和 2 年度のデータを用いた場合の特徴量重要度上位 5 つを図表 92 に、令和 3 年度のデータを用いた場合の特徴量重要度上位 5 つを図表 93 に示す。これらを比較すると、分離の有無は変わらず重要度が高く、どちらの年度でも終結・継続の判断には分離が大きくかかわっていることがわかる。また図表 93 の特徴量重要度の上位 5 つには、令和 3 年度に新しく追加された養護者支援の取組内容の項目が 2 つ入ってきている。これらのことから、養護者支援の取組は終結・継続に関連が深い項目であり、調査により取得することが重要であると考えられる



図表 92 令和 2 年度のデータを用いた場合の特徴量重要度上位 5 つ



図表 93 令和 3 年度のデータを用いた場合の特徴量重要度上位 5 つ

結論

特徴量重要度と解釈から、終結・継続の判断には以下の 5 つの項目が重要だと考えられる。

- 分離の有無
- 養護者支援を目的とした、定期的な訪問によるモニタリング
- 虐待者の年齢
- 虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）
- 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認

虐待者の年齢に着目すると、終結事例と比べ継続事例では虐待者が 40～59 歳の割合が増えている。この結果から被虐待者の息子・娘世代への養護者支援に何かしら課題があり、対応が続いているのではないかと推測する。また虐待者側の要因の 1 つとして虐待者の精神状態に着目すると、終結事例と比べ継続事例では不安定の割合が増えている。精神状態が不安定な人に養護者支援をすることは難しいと考えられるため、まずは精神状態を安定させることが終結に繋がると考えられる。

また令和 2 年度のデータを用いた場合と比較した結果、分離の有無は特に重要な要因だと考えられる。また令和 3 年度に新たに追加された養護者支援の取組が重要項目の中に 2 つ入っているため、こちらも重要な要因と推察する。また新たに追加された項目が重要視されていることから、重要な項目を取得できるようになったと考えられる。

C) 分析③ C 票・養護者による虐待（分離なし）

使用したデータ

分析②で使用したデータに対し、C 票の「問 7 虐待事例への対応状況 1)分離の有無 1-1)分離の有無」が「b)被虐待者と虐待者を分離していない事例」であるデータに絞り込みを行った。その結果、データ総数は

8,330 件となった。

目的変数の設定

目的変数は、C 票の「問 8 調査対象年度末日での状況 1)対応状況の種類」とした。学習データのうち、終結事例は 3,435 件、継続事例は 3,229 件である。対して評価データは、終結事例が 859 件、継続事例が 807 件となっている。

説明変数の設定

分析②と同様の説明変数を使用している。

モデルの精度

学習データを用いて終結事例を予測するモデルを作成した。評価データを用いてモデルが予測した結果を混同行列にまとめたものが図表 94 となる。正解率 59.5%、適合率 60.0%、再現率 64.3%という結果から、ランダムに終結・継続を予測するよりも根拠のある予測をすることができるモデルと考えられる。

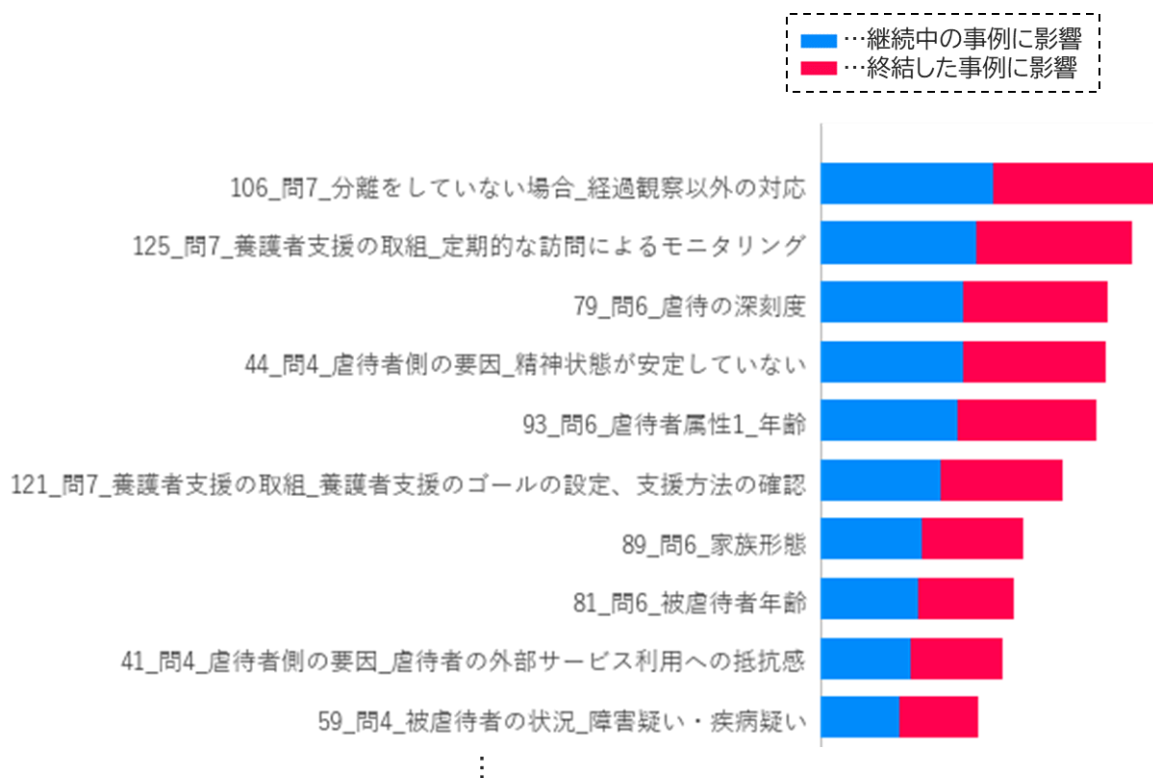
		予測結果	
		継続	終結
実績	継続	439	368
	終結	307	552

図表 94 分離なしの終結事例を予測するモデルの評価データに対する精度

抽出された要因

モデルの特徴量重要度を図表 95 に示す。特徴量重要度の上位 5 項目、つまり分離なしの事例の終結・継続判断に重要な項目は以下であると言える。

- 経過観察以外の対応有無
- 養護者支援を目的とした、定期的な訪問によるモニタリング
- 虐待の深刻度
- 虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）
- 虐待者の年齢



図表 95 分離なしの終結事例にかかわる特徴量重要度

抽出された要因についての考察

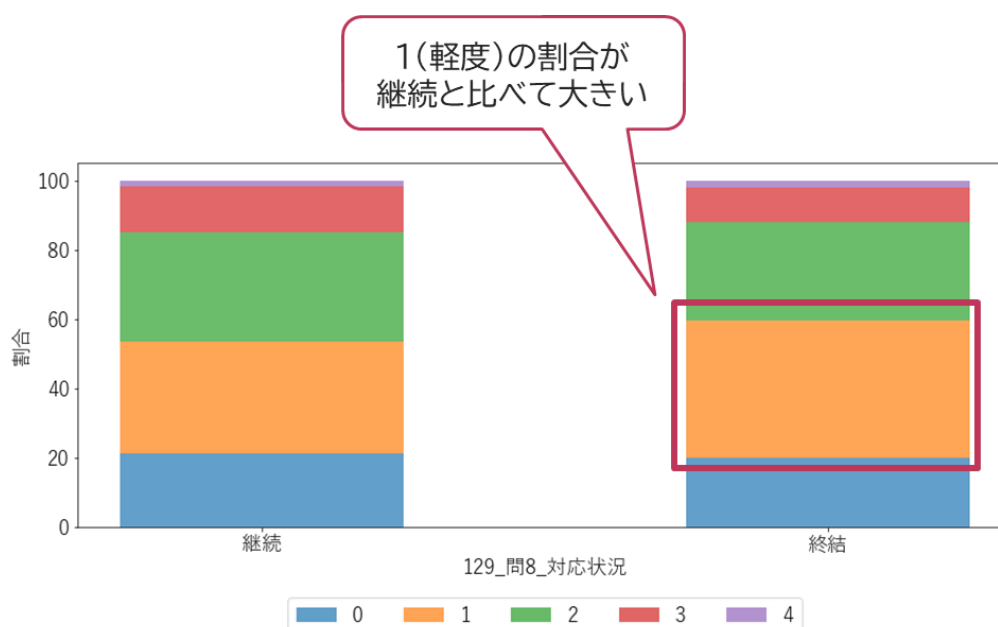
考察の前提として終結の形は多様である。終結の最低条件は「虐待が解消されたと確認できること」であり、虐待の解消によって高齢者が安心して生活を送ることに繋がるかについても見極める必要がある。つまり様々な観点から終結を判断するため、終結の形も多様となっている。以下ではデータ上で終結として記録されている事例の要因を深掘りする。

本分析では、抽出された要因のうち終結・継続との関係性が不明瞭である、虐待の深刻度と虐待者の年齢について深掘りした結果と考察を述べる。

虐待の深刻度において、深刻度ごとに終結と継続のデータ数をまとめた結果が図表 96 図表 78、終結と継続で各深刻度の割合を比較した結果が図表 97 である。これからわかる通り、虐待の深刻度が 1、つまり軽度である割合が、継続に比べ終結では大きくなっていた。深刻度が軽度である事例は虐待対応も複雑化しないと考えられるため、終結していると推測する。

		対応状況	
		継続	終結
虐待の深刻度	0(欠損)	685	691
	1(軽度)	1,045	1,356
	2(中度)	1,020	978
	3(重度)	422	343
	4(最重度)	57	67

図表 96 虐待の深刻度別終結・継続データ数（分離なし）

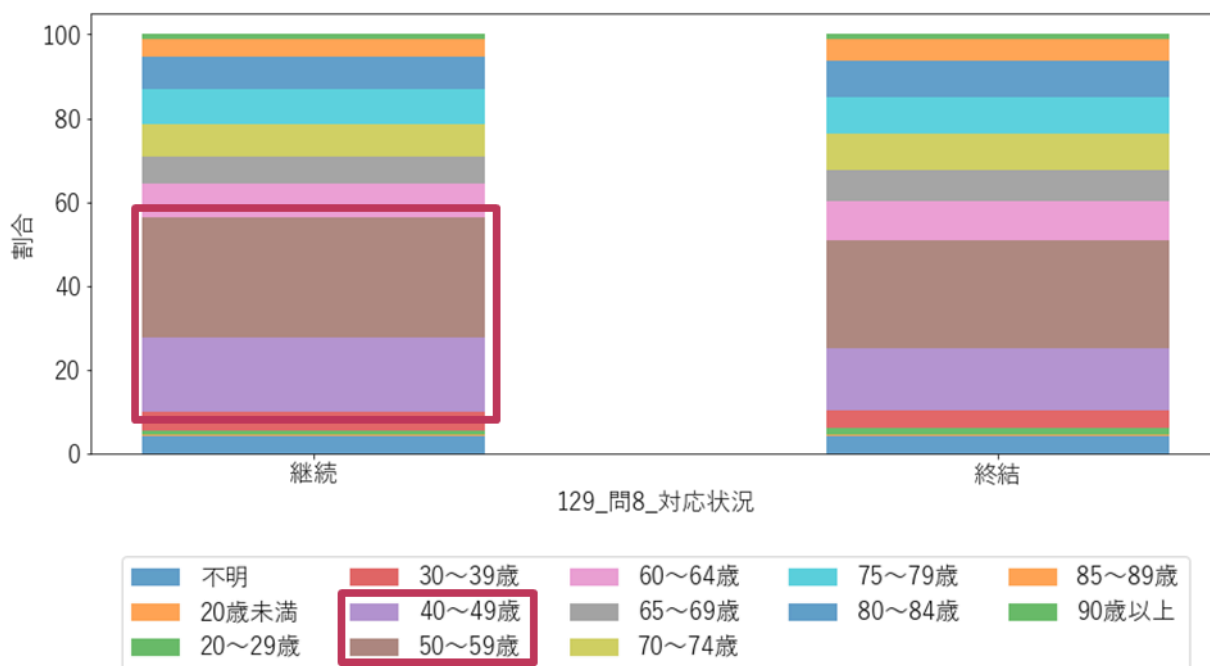


図表 97 終結・継続における虐待の深刻度の割合（分離なし）

虐待者の年齢において、年齢ごとに終結と継続のデータ数をまとめた結果が図表 98 図表 78、終結と継続で各年齢の割合を比較した結果が図表 99 である。これからわかる通り、40～49 歳と 50～59 歳の割合が終結に比べ継続では大きくなっていった。分析②の考察と同様に、被虐待者の息子・娘世代が虐待しかつ分離していない事例においても養護者支援が行き届いておらず、事例が継続している可能性がある。

		対応状況	
		継続	終結
虐待者の年齢	不明	138	124
	20歳未満	13	16
	20～29歳	47	50
	30～39歳	138	130
	40～49歳	504	447
	50～59歳	874	825
	60～64歳	283	310
	65～69歳	224	257
	70～74歳	269	303
	75～79歳	297	352
	80～84歳	259	350
	85～89歳	146	217
	90歳以上	37	54

図表 98 虐待者の年齢別終結・継続データ数（分離なし）



図表 99 終結・継続における虐待者の年齢割合（分離なし）

結論

特徴量重要度と解釈から、分離なしの事例の終結・継続判断には以下の5つの項目が重要だと考えられる。

- 経過観察以外の対応有無
- 養護者支援を目的とした、定期的な訪問によるモニタリング
- 虐待の深刻度
- 虐待者の精神状態が不安定（虐待者側の要因）
- 虐待者の年齢

虐待の深刻度に着目すると、継続事例と比べ終結事例では1（軽度）の割合が増えている。虐待の深刻度が軽度の場合は虐待対応が複雑化しないため、比較的終結に向かいやすいと考えられる。また虐待者の年齢に着目すると、終結事例と比べ継続事例では虐待者が40～59歳の割合が増えている。分析②と同様に、分離なしの場合も被虐待者の息子・娘世代への養護者支援に何かしら課題があり、対応が続いているのではないかと推測する。

(カ) テーマ⑤：虐待内容の名寄せ

本節では、虐待の具体的な内容が記述された自由記述文のテキスト分析を行う。令和4年度の「自治体による高齢者虐待対応の平準化に資するA Iの活用に関する調査研究事業」においては、平成29年度から令和2年度までの4年分の調査票に記載された自由記述文を対象に、似た内容の表現をまとめる名寄せを実施しており、名寄せの結果集約された2,666文を虐待内容の例文として整理した。今年度の分析においては、すでに整理済みの例文と新規に追加されたテキスト文を比較し、過去になかった新しい表現を抽出して、整理済みの例文を更新した。

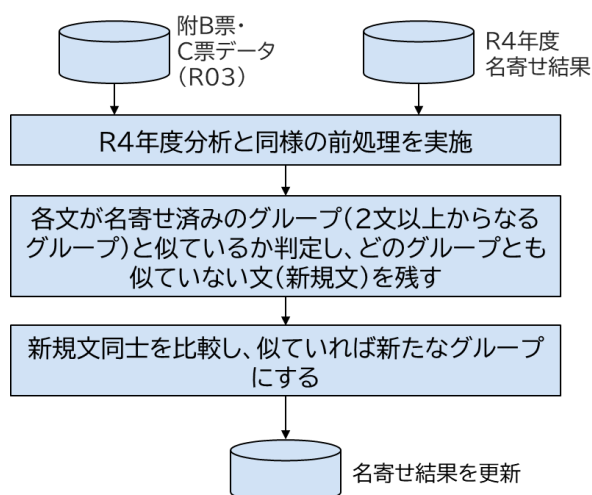
使用したデータと項目

令和4年度の分析と同様に、附B票（従事者による虐待）の項目「附3 虐待の種別・類型 3)具体的な虐待の内容(記入)」と、C票（養護者による虐待）の項目「問5 虐待の内容 2)具体的な虐待の内容(記入)」に記述された自由記述文をそれぞれ分析した。分析対象にしたのは令和3年度調査において新しく得られたデータであり、何らかのテキスト文が記入されたデータ数は附B票では1,115件、C票では4,801件であった。

分析方法

名寄せは図表100に示す手順で実施した。

分析の前処理の方法は令和4年度分析と同様である。まず、対象のデータを、虐待の種類により5種類（身体的虐待、介護等放棄、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待）のそれぞれに分類した。事例によっては1つのテキスト文に複数の虐待の種類が付与されていることがあり、その場合は両方に分類した。次に、それぞれのテキスト文を、単語（名詞表現で終わっているもの）と文章（それ以外）に分類した。これは、テキスト同士が似ているかどうかを比較する際に、テキストの長さやフォーマットがあまりに違っていると比較がしづらいためである。ここで、虐待内容を記述する項目については、回答時に典型的な虐待の文例がいくつか設けられており、それに当てはまる場合は文例の番号を記入するようになっているため、番号のみのテキストは以降の分析からは除いた。さらに、現在のマニュアル「市町村・都道府県における高齢者虐待への対応と養護者支援について」にすでに記載されている例文、およびそれと同等の意味と思われる表現を削除した。



図表 100 名寄せの手順

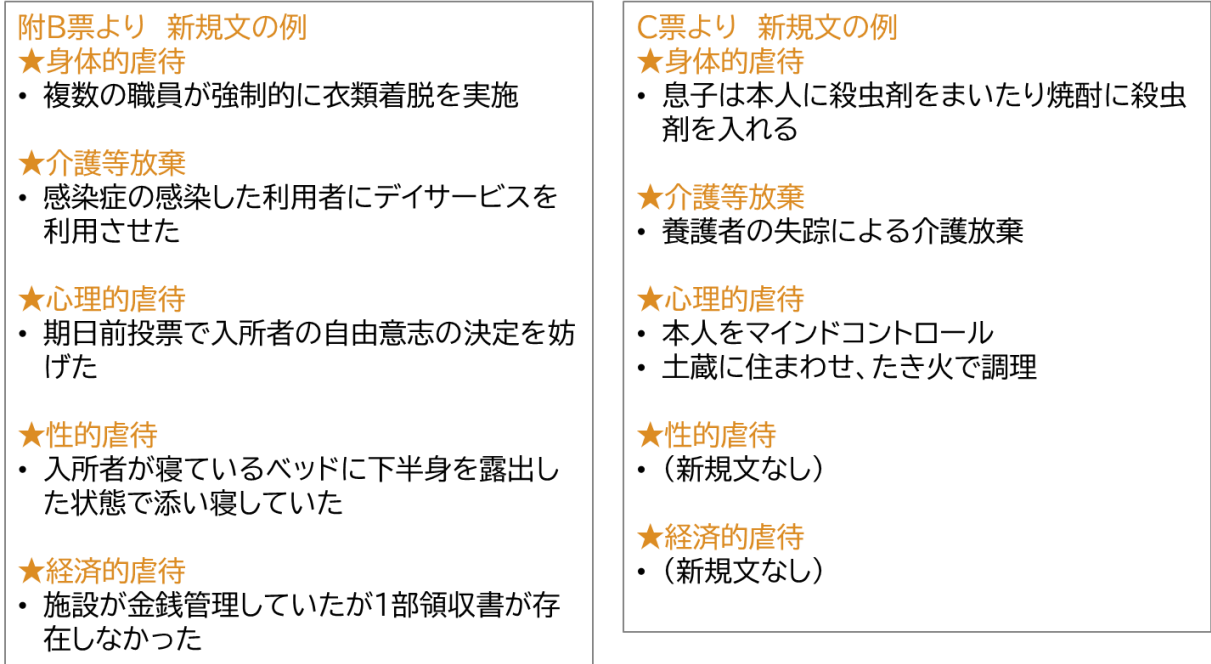
以上の処理を行った後、5種類の虐待の種類それぞれ、さらに単語と文章のそれぞれに対し、令和4年度の分析で作成した名寄せ済みのグループ（2文以上からなるグループ）と比較を行った。令和4年度の分析では、似た意味のテキストをグループにした上で各グループの代表文を選定しており、比較は各グループの代表文と新規の文とで行った。比較のためにテキストを数値で表現する技術に関しては、令和4年度と同様に、テキストを処理するBERTと呼ばれるAI技術を用いた。

分析結果

図表 101 に作成された文章・単語のグループ数を示す。新規に抽出された表現は、附B票の場合は文章20個、単語13個であった。C票の場合は文章14個、単語15個であった。図表 102 に各虐待の類型ごとに抽出された新規表現の例を示す。

	附B票					C票				
	入力数	文章数	新規数	単語数	新規数	入力数	文章数	新規数	単語数	新規数
身体的虐待	541	376	5	198	7	2,062	1,012	7	584	7
放棄・放任	166	98	3	88	5	794	324	0	326	2
心理的虐待	338	221	5	123	1	1,326	560	7	410	6
性的虐待	37	31	2	12	0	26	13	0	14	0
経済的虐待	33	17	5	12	0	593	238	0	209	0
合計	1,115	743	20	433	13	2,062	2,147	14	1,543	15

図表 101 新規に抽出された文数と単語数



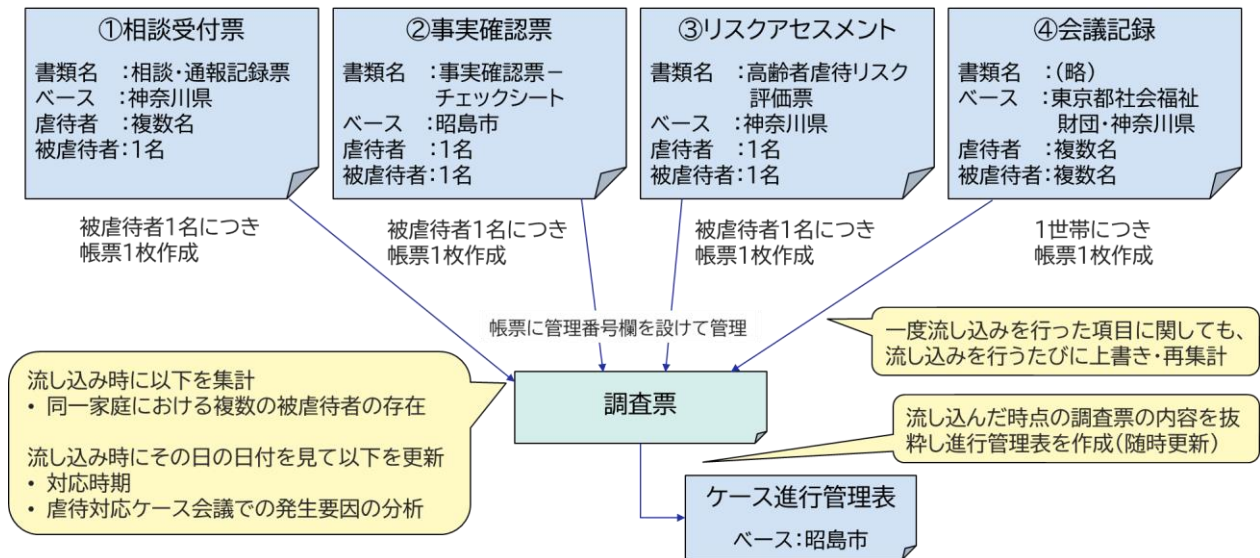
図表 102 抽出された新しい表現の例

(2) 帳票類の標準化

(ア) 標準帳票の作成

養護者による虐待の記録用帳票

養護者による虐待の対応時に記録に用いる帳票について、作成した標準帳票と調査票へのデータの流し込みの関係を図表 103 に示す。収集した帳票類のうち、養護者による虐待・従事者による虐待共にある程度帳票が揃っている神奈川県を基準とし、一部を昭島市と東京都社会福祉財団の帳票で補う形とした。



図表 103 養護者用の帳票の全体像

①の相談受付票に関しては、神奈川県を基準帳票とした。相談・通報の状況、被虐待者・虐待者のプロフィール等を記載する帳票であり、記入者の負荷を下げるため、できるだけ元の帳票の形を変えずに項目

を修正・追記する形にしている。相談受付票は基本的には通報ごとに記録するものであり、被虐待者 1 名に対して 1 枚帳票を作成することを想定している。また、被虐待者が複数名いる場合でも同時に記載ができる帳票となっている。

図表 104 に、作成した帳票の一部を掲載している。帳票の全体像は付録 2 に記載している。黒字の部分は基準にした帳票にあった文言、オレンジ色の部分は追記した文言、緑色の部分は削除した文言を示す。また、青色の吹き出しは、帳票の各項目が調査票のどの項目に対応するかを示している。

被虐待者 1 名につき 1 枚

オレンジ色は追加

自治体独自の管理番号

管理番号

相談・通報随時記録票

問 1 相談・通報受理日	日 時	年 月 日 ()	時 分 ~ 時 分	記録主任
経 路	<input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 ()		<input type="checkbox"/> 相談歴 <input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 継続	
相 談 者	氏 名	男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/>	生 年 月 日 (歳)	
問 2 相談・通報者	住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他	連絡先	
問 9 養護者の虐待等による死亡事例への該当	高 齢 者 と の 関 係	<input type="checkbox"/> 介護支援専門員 (ケアマネジャー) <input type="checkbox"/> 介護保険事業所職員 <input type="checkbox"/> 医療機関関係者 <input type="checkbox"/> 近隣住民・知人 <input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 被虐待者本人 <input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 虐待者自身 <input type="checkbox"/> 当該市町村行政職員 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 親族 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他		
	合 意 の 有 無	調査等協力の意思が <input type="checkbox"/> 無 (匿名) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 条件により一部可 ()		
	死 亡 事 例 へ の 該 当	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当		
問 6 被虐待者・虐待者の状況	対 象 の 高 齢 者	氏 名	男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/>	生 年 月 日 (歳)
		住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他	連絡先
	問 6 被虐待者・虐待者の状況	不明時の理由:		
	問 6 被虐待者・虐待者の状況	不明時の理由:		
	問 6 被虐待者・虐待者の状況	2) 被虐待者年齢		
	問 6 被虐待者・虐待者の状況	3) 被虐待者の介護保険の申請		
	問 6 被虐待者・虐待者の状況	4) 介護保険認定済者の要介護度		
	医 療 情 報 (かかりつけ等)	<input type="checkbox"/> 入院中 (機関:) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()		
	介 護 保 険 状 況	<input type="checkbox"/> 未申請 <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 要支援: 1・2 <input type="checkbox"/> 要介護: 1・2・3・4・5 (不明時の理由:)		
問 6 被虐待者・虐待者の状況	7) 介護保険サービスの利用	※調査票では虐待判断時点とあるが、ここでは相談時点として記載		
		事業所:	氏名:	
		連絡先:	備考 ()	
		<input type="checkbox"/> 介護サービスを受けている <input type="checkbox"/> 過去受けていたが現時点では受けていない <input type="checkbox"/> 過去も含め受けていない <input type="checkbox"/> 不明 (理由:)		

図表 104 養護者用の相談受付票の基準帳票の例

②の事実確認票については、昭島市のフォーマットを基準帳票とした。調査票への流し込みという観点では、これ以外の帳票から必要な項目を取得することが可能であるが、事実調査の際の現場でのチェックリストとして有用と考え、帳票一式に追加した。

③のリスクアセスメントについては、神奈川県フォーマットを基準帳票とした。この帳票からは虐待の発生要因（虐待者の要因、被虐待者の要因、家庭の要因等）を取得することを想定している。調査票へのデータの流し込みを想定し、基準帳票にあった項目を適宜分割・追加している。帳票上の項目と調査票の項目の対応については付録 2 に記載している。

④の会議記録については、コアメンバー会議およびケース会議は東京都社会福祉財団、評価会議は神奈川県
の帳票を基準帳票とした。この帳票からは虐待判定結果（虐待か否か、類型）と対応方法を取得することを
想定している。

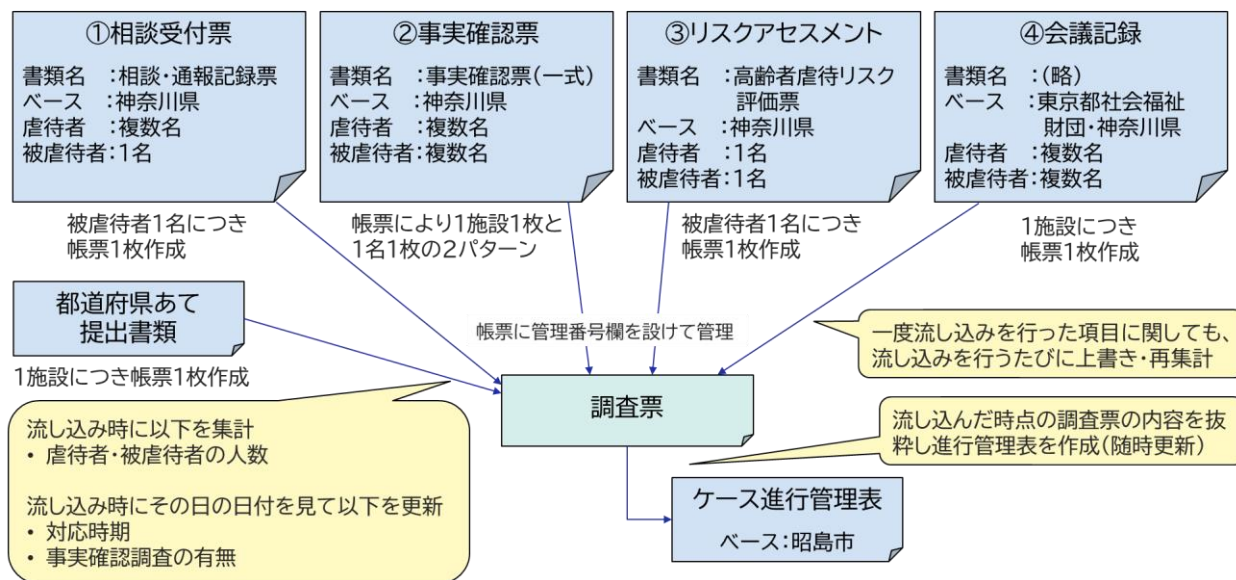
虐待が終結するまではコアメンバー会議やケース会議を何度も行うことを想定し、両会議は同じフォーマットとし
て、同じ項目が会議を行うたびに更新されるようであれば、調査票データも合わせて更新できるようにした。対応方
法は種類が多いため、調査票の項目との対応関係については付録 2 に対応表を記載している。

評価会議については、神奈川県
の帳票に、帳票作成時点での終結または継続の状況を記載する項目を追加した。評価会議の帳票からは、調査票データのうち年度末時点での状況（終結したか継続中か）を流し込
む。評価会議の帳票が作成されていればそのまま該当する項目を転記し、評価会議の帳票がまだ作成されてい
ない場合、つまり通報の直後であったり、コアメンバー会議等対応途中の段階であったりする場合は、どの帳票ま
で作成されているかを元に、「通報を受けた段階であり、事実調査の前である」や「事実調査の後、コアメンバー会
議で対応方法の検討中である」といった内容を流し込む想定をしている。

図表 103 では、4 種類の帳票をそれぞれ作成して調査票にデータを流し込むと、ケース進行管理表が自動
生成される流れを記載している。ケース進行管理表は昭島市の帳票を参考にしており、各事例の対応がどの段
階まで進んでいるかを一覧表にしたものである。複数の事例への対応を長期間かけて並行して行う中で、少しで
も状況の把握の負担が軽減できるよう追加した。

従事者による虐待の記録用帳票

従事者による虐待の対応時に記録に用いる帳票について、作成した標準帳票と調査票へのデータの流し込
みの関係を図表 105 に示す。こちらも養護者による虐待の帳票と同様、神奈川県
の帳票を基準とし、一部を東
京都社会福祉財団の帳票で補う形とした。



図表 105 従事者用の帳票の全体像

①の相談受付票に関しては、神奈川県
のフォーマットを基準帳票とした。相談・通報の状況、被虐待者・虐待者のプロフィール等を記載する帳票であり、記入者の負担を下げるため、できるだけ元の帳票の形を変えずに項目を修正・追記する形にしている。

養護者による虐待と同様に、基本的には通報ごとに記録することを想定しており、また被虐待者 1 名に対して

1枚の帳票を作成することを想定している。しかし、養介護施設での虐待の場合には、一度の通報で被虐待者が複数名存在するケースも多い。現在使用されている帳票では、被虐待者が複数名存在する場合は備考欄に自由記述にて記載することとなっており、標準帳票でもその形を踏襲している。データを蓄積・分析する観点では、できるかぎり被虐待者ごとに帳票を分けることが望ましいが、同じ内容を重複して記載しなければならない手間が生じる。今後、帳票のさらなる改良、または5章で示すロードマップのように帳票を用いて取得した情報をクラウド等に蓄積する際には、共通の項目は自動入力されるなどできるだけ手間を軽減する仕組みの検討が必要である。

図表106に、作成した帳票の一部を掲載している。帳票の全体像は付録に記載している。同じ相談受付票であっても、図表104に示した養護者による虐待への対応で使用する帳票とは項目が異なっている。

問1 相談通報受理日・時期・自治体
1) 相談・通報受理日

問1 相談通報受理日・時期・自治体
3) 通報受理団体

管理番号

養介護施設従事者による高齢者虐待相談受付票

受付者: _____

受付日: 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () 時間: ____ : ____ ~ ____ : ____

通報の方法: 電話 郵便 電話 来所 その他 () 回目

受理者: 市町村 都道府県

問5 都道府県における事実確認調査状況
2) 都道府県が直接相談・通報等を受理した事例

1 相談者

氏名	<input type="checkbox"/> 匿名	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	情報保護希望	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
続柄 関係	<input type="checkbox"/> 本人による届出 <input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 当該施設・事業所職員 <input type="checkbox"/> 当該施設・事業所元職員 <input type="checkbox"/> 施設・事業所の管理者 <input type="checkbox"/> 医療機関従事者(医師含む) <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> 介護士 <input type="checkbox"/> 地域包括センター職員 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会職員 <input type="checkbox"/> 国民健康保険団体連合会 <input type="checkbox"/> 都道府県から連絡 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 家族 () <input type="checkbox"/> 元職員 <input type="checkbox"/> 現職員 (公益通報の説明 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> その他 ()				
連絡先	<input type="checkbox"/> 秘密				
特記	後日連絡の可否: <input type="checkbox"/> 可 他に虐待を認識している者の有無: <input type="checkbox"/> 有 ()				

問2 相談・通報
1) 相談・通報者

2 被虐待者(疑いも含む)

氏名	<input type="checkbox"/> 未確認	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	年齢	歳 <input type="checkbox"/> 未確認
要介護認定	<input type="checkbox"/> 要介護 () <input type="checkbox"/> 要支援 () <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明				
認知症	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (程度:)				

図表106 従事者用の相談受付票の基準帳票の例

②の事実確認票については、同様に神奈川県フォーマットを基準帳票とした。従事者による虐待の帳票の場合、事実確認時に用いる帳票が複数種類存在し、1枚の帳票を作成する単位がそれぞれ異なっている(図表107)。各種事実確認調査票を用いてどのような虐待が行われていたかの情報を取得し、聞き取り調査票からは虐待を行っている職員や施設の課題などを取得する。調査の結果を受けて決定した対応方針については、神奈川県の場合は事実確認票の最後に記載する欄が設けられている。対応方針についてはこの後に行うコアメンバー会議やケース会議でも検討する内容であるため、事実確認票・コアメンバー会議録・ケース会議録で項目を統一し、それぞれの段階で決定した内容を随時取得できるフォーマットにした。

帳票名	記載内容	記載する対象
事実確認実施準備確認票	調査を行う対象の施設、調査対象者の一覧など	一施設
事実確認調査票（身体的虐待）	身体的虐待に関する項目への当てはまり有無	被虐待者一名
事実確認調査票（放棄・放任）	放棄・放任に関する項目への当てはまり有無	被虐待者一名
事実確認調査票（心理的虐待）	心理的虐待に関する項目への当てはまり有無	被虐待者一名
事実確認調査票（性的虐待）	性的虐待に関する項目への当てはまり有無	被虐待者一名
事実確認調査票（経済的虐待）	経済的虐待に関する項目への当てはまり有無	被虐待者一名
事実確認調査票（虐待ではないが不適切な事例）	虐待の五類型以外の項目への当てはまり有無	被虐待者一名
高齢者聞き取り・観察調査票	被虐待者（疑い含む）へのヒアリング内容	高齢者一名
職員聞き取り調査票（一般職員用）	虐待者（疑い含む）へのヒアリング内容で、現場職員の観点のもの	職員一名
職員聞き取り調査票（管理者用）	虐待者（疑い含む）へのヒアリング内容で、管理職の観点のもの	管理職一名
事実確認時の指示・指導等の内容	他の調査結果のまとめで、対応方針も記載	被虐待者一名

図表 107 事実確認票を構成する帳票の種類と内容

③のリスクアセスメントについては、神奈川県フォーマットを基準帳票とした。この帳票からは虐待の発生要因（虐待者の要因、被虐待者の要因、家庭の要因等）を取得することを想定している。養護者による虐待の帳票と同様に、調査票へのデータの流し込みを想定し、基準帳票にあった項目を適宜分割・追加している。

④の会議記録については、養護者による虐待の帳票と同様に、コアメンバー会議およびケース会議は東京都社会福祉財団、評価会議は神奈川県の帳票を基準帳票とした。この帳票からは虐待判定結果（虐待か否か、類型）と対応方法を取得することを想定している。コアメンバー会議とケース会議の帳票は同じ項目にしており、さらに②の事実確認票でも述べた通り、事実確認票の最後に記載する対応内容の一覧と同じ項目を設定している。

（イ）帳票データの観察

帳票の具体的な内容例として、実際の虐待対応の事例データを江戸川区より受領し、観察を行った。

受領した事例は8事例あり、いずれも養護者による終結した虐待事例であった。終結までの経過としては、分離を行ったものも行わなかったものの両方が含まれていた。また、帳票は、江戸川区独自のもので、受付票、事実確認票、リスクアセスメント、各種会議（コアメンバー会議、ケース会議、評価会議）から構成されていた。江戸川区では本実証と同様に調査票へのデータの流し込みができる帳票になっていた。

それぞれの事例のデータ観察の結果、対応の各段階で作成される帳票のデータを合わせることで、発生から終結までの対応のプロセスが順を追って取得できることが確認できた。江戸川区の帳票では、受付時点、事実確認時点、コアメンバー会議等開催時点の各時点でリスクアセスメントを行っており、その時点のリスク（深刻度）が数値として見えるようになっている。そして、虐待に対して何らかの対応を行うことで深刻度や各虐待タイプのリスクが変化していき、すべてのリスク解消となると終結となる経過を読み取ることができた。調査票データにおいては、終結した事例は行った対応のみをまとめて記載することとなるが、帳票を用いて詳細な経過を追っていくことで、事例

の状況とそれに対する対応の様子が細かく分析できる可能性があると考えられる。

なお、帳票のフォーマットに関しては、江戸川区では初回のコアメンバー会議と二回目のコアメンバー会議では項目が一部異なっていた。現場での記入の手間を考えると、会議ごとに必要最低限の項目にしたほうがよいが、データの蓄積や分析の観点では各回でフォーマットが同じになっているほうがよく、現場での運用も考慮しながら改善を図る余地があると考えられる。

4 今年度の調査研究から得られた示唆と課題

(1) 調査票の分析

(ア) 調査研究から得られた示唆

以下では、今年度の調査研究から得られたポイントを整理する。

- 事例全体をグループに分類しそれぞれの特徴を抽出(テーマ①)
 - 従事者による虐待事例の分析では、昨年度の分析の結果を踏まえ、「1対1」と「1対1以外」で分けることで、直接ケアしている1人がケアする相手1人を虐待している事例と、組織的な事例を区別した。
 - 養護者による虐待事例では、令和3年度から追加された、虐待者側の要因や被虐待者の状況、養護者支援の取組などの項目を分析に使用することができた。
昨年度の分析結果と比べ、従事者による虐待事例の分析ではより納得感のある分析結果を得ることができ、養護者による虐待事例ではより詳細に各クラスタの特徴を見ることができた。
- 研修・養護者支援などの取組が事態の改善に繋がることをデータで検証(テーマ③、テーマ④)
 - 再発の有無の違い、終結・継続の違いに関連する要因を抽出した。
 - 研修の実施や養護者支援に関する項目が要因として抽出されているため、高齢者虐待対応の取組が事態の改善に繋がっていることを検証できた。
- 現場の肌感覚をデータで検証(全テーマ)
 - 調査票データの分析結果に納得感があり、現場の肌感覚をデータで検証することができた。

(イ) 今後の分析に向けた課題

- 令和4年度以降の調査票データを加えることで分析を深める
今年度実施した分析のうち、従事者による虐待への対応の違いや再発の有無の要因分析では、予測したい事例の絶対数が少ない、または古い調査票には項目がないなどの理由により、データが不足し十分な精度のモデルの構築ができなかった。これらに対し、今後の調査票データを蓄積してデータの絶対量を増やすことで、よりよい分析ができると考えられる。
- 自治体で使用している帳票類を追加することで分析を深める
調査票には現場が持っている情報がすべて記載されているわけではないため、実際に対応方法を検討する際などに判断材料として使用しているデータが不足している可能性が高い。そのため、自治体職員がケース対応に実際に使用している帳票類のデータを入手することで、より深い要因分析ができる可能性がある。また、対応方法が適切であったかどうかに関する情報は調査票にはないため、そのようなデータを追加で収集する、または適切な対応をした場合の模擬データを作るなどして、目指すべき状態を元にした分析を行うこと

も重要と考えられる。

- 年度をまたいで調査票を紐づけることにより分析を深める
調査票には経年の紐づけをするキー情報が存在しない。B 票は年度をまたいだ虐待事例の突合をしているが、あくまで事例の情報から同一事例と考えられる条件を推定し突合しているにすぎない。そのため、同一事例として突合できていない事例、もしくは誤って同一事例として突合している事例が存在する可能性がある。キー情報があれば、すべての帳票でより簡単かつ正確に年度をまたぐ事例を突合して分析可能となる。また経年で事例の情報を把握することができるため、新たな視点の分析を実施できる可能性がある。

(2) 帳票類の標準化

まず、調査した帳票の形式についての示唆と課題は次の通りである。収集した 13 種類の帳票の項目を比較したところ、独自の形式を用いている自治体が多かったが、基本的な記入事項はほぼ同じであった。ただし、例えば対応方法を事実確認票に記載する自治体とコアメンバー会議録に記載する自治体（または両方に記載することもありうる）があるなど、同じ内容をどの帳票に記載するかは自治体により異なるようであった。この点に関しては、現時点では帳票の項目のみしか見ていないため、自治体での帳票の運用方法を詳細に知ることで、より現場に即した、記載の負担の少ない帳票が作成できると考えられる。

次に、帳票により取得したデータの活用についての示唆と課題は次の通りである。受領した事例データの観察により、1 つの帳票を用いて何度も記録が行われることがあり、その経過を追っていくことで点ではなく線の情報が得られることがわかった。各帳票の中に記載されている情報の中には、現在の調査票データの分析では用いられていない情報も多数あり、それらを合わせて分析を行うことで、事例の性質をより深く分析できる可能性があると考えられる。活用の可能性については、5 章 将来的なデータ活用案にも記載している。

5 将来的なデータ活用案

(1) 高齢者虐待対応業務におけるデータ利活用のロードマップ（案）

虐待対応における担当職員の異動等に伴うノウハウ蓄積が困難といった課題に対して、弊社が提案する AI 活用を通して虐待対応の標準化を実現し、業務の効率化、質の維持を実現することを目標とする。

具体的なデータ活用案については、「5 将来的なデータ活用案(2)データ活用案」に記す。

データ活用実現における課題として、都道府県、市町村で利用している各種帳票類が全国で標準化されていないこと、データとして蓄積されていないこと、個人情報保護の観点から研究開発に使用できないことが挙げられる。

今年度は、「2 調査研究の実施内容」にあるとおり、帳票類の標準化案の作成を実施した。将来的には自治体職員が標準帳票を使用し、対応記録を残すことでデータとして蓄積され、AI 作成や分析に活用することを想定している。

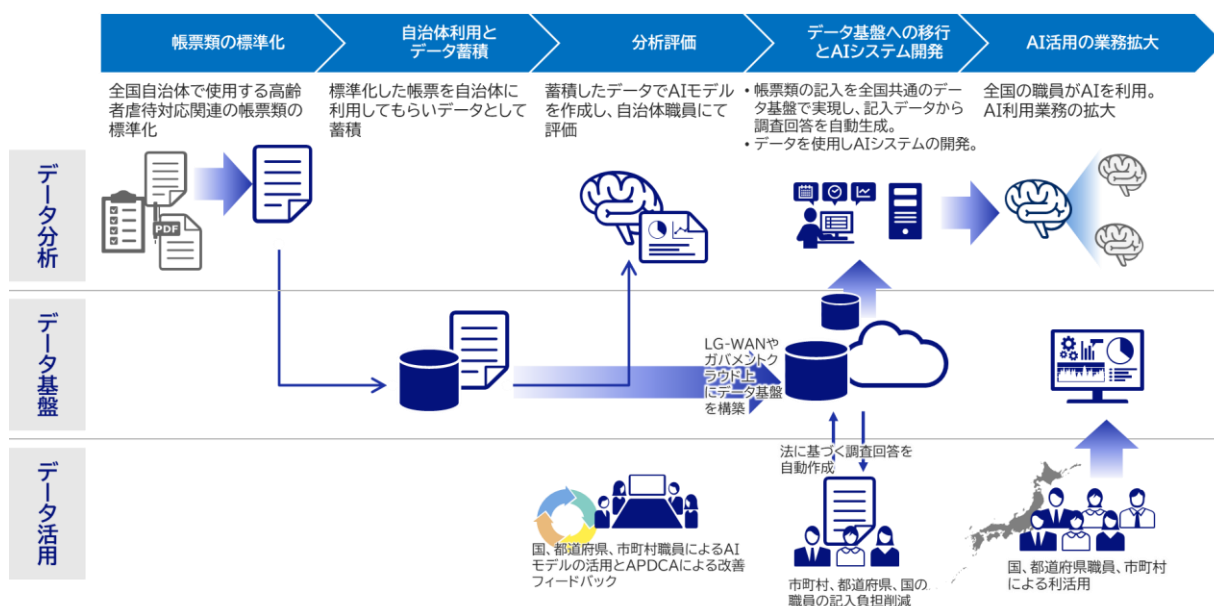
データ活用の実現まで、具体的には以下のステップを想定している。

1. 標準化された帳票類の整備と帳票データの蓄積。
2. 蓄積されたデータを使用した AI モデル作成による実証実験と、自治体による評価実施。
3. AI 活用について、一定の有効性が確認できれば、LG-WAN やガバメントクラウド上に帳票類を登録・蓄積する基盤を構築。併せて基盤に帳票類を登録すると、法に基づく調査への回答が自動作成される仕組みも構築。
4. AI 活用について、一定の有効性が実証された場合、全国の自治体が同機能を利用して AI を使用で

きるシステムを構築。

5. さらに業務への AI 活用範囲を順次拡大し、職員の業務効率化、属人性の解消を実現。

上記のステップを図表 108 に記す。



図表 108 データ利活用のロードマップ

(2) データ活用案

将来的なデータの活用案として、自治体や地域包括支援センター職員がケース対応時に行う虐待の有無や深刻度の判断、対応計画の策定において AI 技術等を用いて支援し、自治体業務の効率化、属人性の解消を目標とする。また介護事業者が保有するケアプランに関するデータとの連携ができれば、課題にもあった虐待の早期発見にも貢献できると考えている。ケアプランの作成時にケアマネージャは要介護者へのヒアリングを通してアセスメントを行う。そのアセスメント結果は介護の初期段階での要介護者や養護者に関わる詳細情報である。これらのデータを活用して、ケアプラン策定のタイミングで虐待リスクを予測し、リスクが高いとされた世帯に注視していくことで、実際に虐待が発生していた場合、比較的早いタイミングで発見することが可能性であるとする。

分析テーマの一覧を図表 109 に示す。

テーマ案	分析内容	想定アウトプット
テーマ①： 類似事例検索	<ul style="list-style-type: none"> 自治体職員が担当しているケースと類似した過去事例がないか、ケースの概要を入力して検索できるようにする 過去のケースを表形式のデータで保存し、キーワードではなく文章ベースでの検索を実現することで精度の高い検索結果を提示する 	<ul style="list-style-type: none"> 類似度が高い順に過去の類似ケースを複数提示
テーマ②： 虐待リスク推定	<ul style="list-style-type: none"> 相談・通報の内容を入力として、虐待の有無や深刻度を予測する アセスメント結果を入力として、虐待の有無や 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待である確率、深刻度の推定値

	深刻度の予測をする	
テーマ③： 対応計画レコメンド	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント結果を入力として、分離の必要度や対応計画及び過去の類似事例のレコメンドをする 	<ul style="list-style-type: none"> 分離の必要度とその確率 対応計画案 過去の類似ケース
テーマ④： ケアプラン策定時のリスク予測	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネージャがケアプランを策定する際のアセスメントデータとその結果のケアプランを入力として、虐待リスクを予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待発生リスクの確率

図表 109 高齢者虐待対応におけるデータ活用案

(3) 令和 6 年度以降の調査研究の提言

令和 6 年度も調査研究事業が継続された場合、主に「(ア) 調査票データの分析」、「(イ) 自治体データを使用した分析」を実施することを提言する。

(ア) 調査票データの分析

「高齢者虐待の実態把握等のための調査」により得られた令和 4 年度分のデータを追加した分析を実施する。特に養護者においては、令和 2 年度、3 年度、4 年度の分析結果を経年で比較・確認し、年度ごとの変化や特徴を分析する。令和 4 年度は、コロナ禍において社会状況が変化してきた年であり、令和 2 年度、3 年度と比較して分析結果に違いが確認できる可能性がある。

テーマとしては今年度の分析と同様の以下を想定しているが、協議内容に応じて追加・修正も実施する。

- ① 全体傾向分析（従事者・養護者）
- ② 対応の違いに関する要因分析（従事者・養護者）
- ③ 虐待が繰り返し起こる施設に関する要因分析（従事者）
- ④ 終結・継続の要因分析（従事者・養護者）
- ⑤ 虐待内容の名寄せ（従事者・養護者）

(イ) 自治体データを使用した分析

一部自治体では、帳票類の記録をシステム入力しており、データとして保有している。そのデータを借用することができれば「(2) データ活用案」にて示した AI モデル作成に向けた先行検証が可能と考える。その場合の分析テーマを、図表 110 に記載する。

テーマ案	分析内容	想定アウトプット
テーマ①： 類似事例検索	<ul style="list-style-type: none"> クラスタリングによってケースを分類し、グループ毎にどんな対応がとられる傾向が多いか分析する 相談・受付時に、そのケースがどのグループに該当するか分類する 相談受付票のデータの類似分析により、相 	<ul style="list-style-type: none"> 新規に受け付けたケースが、どのグループに属するか分類し、所属グループでよく選択されている対応などを確認 新規に受け付けたケースと類似度が高

	談・受付時に過去の類似ケースを分析する	い順に過去の類似ケース候補を複数提示
テーマ②： 対応の効果分析	<ul style="list-style-type: none"> 相談受付票、事実確認シート、コメンター会議、リスクアセスメントシートを使用して、終結に至るまでのプロセスにおいて、選択された対応とその効果を分析する 	<ul style="list-style-type: none"> • どのような対応を選択すると虐待の状況が改善されていくか、終結までのプロセスを可視化 • 相談受付票、事実確認シートの情報を入力すると、虐待の状況を改善すると推測される対応方針を出力

図表 110 自治体データを使用した分析テーマ案

上記の分析テーマの検証を通じて、将来的なデータ分析案の実現性や追加で必要な検証などを明確化していく。

また令和 7 年度では、法に基づく調査事業との協業も視野に入れる。帳票類は個人情報を含み、匿名化を実施しても研究・実証への利用に制限があるため、同事業と連携することでこういった課題を解決できる可能性があるためである。

以上

付録 1. 全体傾向の分析で使用した項目一覧

従事者による虐待事例の分析に使用した設問項目（B 票）

番号	設問	回答
問 6 虐待事例の概要	2) 虐待があった施設・事業所のサービス種別	a) 特別養護老人ホーム b) 介護老人保健施設 c) 介護医療院・介護療養型医療施設 d) 認知症対応型共同生活介護 e) (住宅型)有料老人ホーム f) (介護付き)有料老人ホーム g) 小規模多機能型居宅介護等 h) 軽費老人ホーム i) 養護老人ホーム j) 短期入所施設 k) 訪問介護等 l) 通所介護等 m) 居宅介護支援等 n) その他
	4-2) 運営法人の課題	a) 経営層の倫理観・理念の欠如 b) 経営層の虐待や身体拘束に関する知識不足 c) 経営層の現場の実態の理解不足 d) 業務環境変化への対応取組が不十分 e) 不安定な経営状態
	4-3) 組織運営の課題	a) 介護方針の不適切さ b) 高齢者へのアセスメントが不十分 c) チームケア体制・連携体制が不十分 d) 虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分 e) 事故や苦情対応の体制が不十分 f) 開かれた施設・事業所運営がなされていない g) 業務負担軽減に向けた取組が不十分 h) 職員の指導管理体制が不十分 i) 職員研修の機会や体制が不十分 j) 職員同士の関係・コミュニケーションが取りにくい k) 職員が相談できる体制が不十分
	4-4) 虐待を行った職員の課題	a) 職員の倫理観・理念の欠如 b) 職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足 c) 職員の高齢者介護や認知症ケア等に関する知識・技術不足 d) 職員の業務負担の大きさ e) 職員のストレス・感情コントロール f) 職員の性格や資質の問題 g) 待遇への不満 h) その他
	4-5) 被虐待高齢者の状況	a) 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回 b) 認知症による BPSD（行動・心理症状）がある

		c) 医療依存度が高い d) 意思表示が困難 e) 職員に暴力・暴言を行う f) 他の利用者とのトラブルが多い
	5) 過去の指導等	5)-1 当該施設等における過去の虐待の有無 5)-2 当該施設等に対する過去の指導等の有無
問 7 老人福祉法、介護 保険法上の権限行 使以外の対応	1) 施設に対する指導 2) 改善計画の提出依頼 3) 注意・指導	
問 8 介護保険法の規定 に基づく権限の行使	1) 報告徴収 2) 改善勧告 3) 公表 4) 改善命令 5) 指定効力停止 6) 指定取消 7) 現在対応中	市町村が実施 /都道府県が実施 /市町村・都道府県がそれぞれ実施 /無
問 9 老人福祉法の規定 に基づく権限の行使	1) 報告徴収 2) 改善命令 3) 事業制限 4) 認可取り消し 5) 現在対応中	市町村が実施 /都道府県が実施 /無
問 10 市町村・都道府県の 対応に対して当該養 介護施設等において 行われた措置	1) 改善計画の提出 2) 法に基づく勧告への対 応	有/無
問 11 改善取組のモニタリ ング評価	1) 施設訪問 2) 施設からの報告	
問 13 調査対象年度末日 での状況	1) 対応状況	対応終結/継続

従事者による虐待事例の分析に使用した設問項目（附 B 票）

番号	設問	回答
附 1 事例ごとの被虐待 者・虐待者数	1) 被虐待者の人数 2) 虐待者の人数	(数値で回答) (数値で回答)
附 2 被虐待高齢者	1) 被虐待者の性別 2) 被虐待者の年齢階級	男/女/不明 65 歳未満障害者 65～69 歳

		70～74 歳 75～79 歳 80～84 歳 85～89 歳 90～94 歳 95～99 歳 100 歳以上 不明
	3) 要支援・要介護状態区分	自立 要支援 1 要支援 2 要介護 1 要介護 2 要介護 3 要介護 4 要介護 5 不明
	4) 認知症日常生活自立度区分	自立または認知症なし 自立度 I 自立度 II 自立度 III 自立度 IV 自立度 M 認知症あるが自立度は不明 認知症の有無が不明
	5) 介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	自立 J A B C 不明
附 3 虐待の種別・類型	1) 虐待種別	a) 身体的虐待 b) 介護等放棄 c) 心理的虐待 d) 性的虐待 e) 経済的虐待
	2) 身体拘束	有/無
	5) 死亡の有無	有/無
附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者	1) 虐待者の年齢階級	～29 歳 30～39 歳 40～49 歳 50～59 歳 60 歳以上

		不明
	2) 被虐待者の職名または職種	介護職（介護福祉士） 介護職（介護福祉士以外） 介護職（介護福祉士か不明） 看護職 管理職 施設長 経営者・開設者 その他 不明
	3) 被虐待者の性別	男/女/その他

養護者による虐待事例の分析に使用した設問項目（C票）

番号	設問	回答
問 4 事実確認調査 の結果	3) この事例での被虐待者の人数	(数値で回答)
	4) この事例での虐待者(養護者)の人数	(数値で回答)
	6)-2 虐待者側の 要因	a) 介護疲れ・介護ストレス b) 虐待者の介護力の低下や不足 c) 孤立・補助介護者の不在等 d) 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー e) 知識や情報の不足 f) 理解力の不足や低下 g) 虐待者の外部サービス利用への抵抗感 h) 障害・疾病 i) 障害疑い・疾病疑い j) 精神状態が安定していない k) ひきこもり l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係 m) 家族環境（生育歴・虐待の連鎖） n) 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ o) 飲酒の影響 p) 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）
	6)-3 被虐待者の状況	a) 認知症の症状 b) 精神障害（疑いを含む）、高次脳機能障害、知的障害、認知機能の低下 c) 身体的自立度の低さ d) 排泄介助の困難さ e) 外部サービス利用に抵抗感がある f) 障害・疾病 g) 障害疑い・疾病疑い

	6)-4 家庭の要因	a) 経済的困窮・債務（経済的問題） b) 家庭内の経済的利害関係（財産、相続） c) （虐待者以外の）他家族との関係の悪さほか家族関係の問題 d) （虐待者以外の）配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力
	6)-5 その他	a) ケアサービスの不足の問題 b) ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題
問 5 虐待の内容	1) 虐待の種別・類型	a) 身体的虐待 b) 介護・世話の放棄、放任 c) 心理的虐待 d) 性的虐待 e) 経済的虐待
	3) 虐待の深刻度	1（軽度）/2（中度）/3（重度）/4（最重度）
問 6 被虐待者 ・虐待者の状況	1) 被虐待者の性別	男/女/不明
	2) 被虐待者の年齢	65～69 歳 70～74 歳 75～79 歳 80～84 歳 85～89 歳 90 歳以上 不明
	3) 被虐待者の介護保険の申請	未申請/申請中/認定済み/認定非該当(自立)/不明
	4) 介護保険認定済者の要介護度	要支援 1 要支援 2 要介護 1 要介護 2 要介護 3 要介護 4 要介護 5 不明
	5) 介護保険認定済者の認知症日常生活自立度	自立または認知症なし 自立度 I 自立度 II 自立度 III 自立度 IV 自立度 M 認知症あるが自立度は不明 認知症の有無が不明

6)介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	自立 J A B C 不明
7) 介護保険サービスの利用	介護サービスを受けている 過去受けていたが判断基準では受けていない 過去も含め受けていない 不明
8) 虐待者との同居・別居	虐待者とのみ同居 虐待者及び他家族と同居 虐待者と別居 その他 不明
9) 家族形態	a)単独世帯 b)夫婦のみ世帯 c)未婚（配偶者がいたことがない）の子と同居 d)配偶者と離別・死別等した子と同居 e)子夫婦と同居 f)その他①その他の親族と同居 g)その他②非親族と同居 h)その他③その他 i)不明
11) 虐待者属性 被虐待者から見た続柄	夫 妻 息子 娘 息子の配偶者（嫁） 娘の配偶者（婿） 兄弟姉妹 孫 その他 不明
11) 虐待者属性 年齢	20 歳未満 20～29 歳 30～39 歳 40～49 歳 50～59 歳 60～64 歳 65～69 歳 70～74 歳 75～79 歳

問 7 虐待事例への 対応状況		80～84 歳 85～89 歳 90 歳以上 不明
	1) 分離の有無	a) 被虐待者の保護として虐待者からの分離を行った事例 b) 被虐待者と虐待者を分離していない事例 c) 現在対応について検討・調整中の事例 d) 虐待判断時点で既に分離状態の事例（別居、入院、入所等） e) その他
	2-1) 分離内容	a) 契約による介護保険サービスの利用 b) 老人福祉法に基づくやむを得ない事由等による措置 c) 緊急一時保護 d) 医療機関への一時入院 e) a～d)以外の住まい・施設等の利用 f) 虐待者を高齢者から分離(転居等) g) その他
	2-2) 面会制限	有/無
	3-1) 経過観察以外の対応	行った/経過観察(見守り)のみ
	3-2) 経過観察以外の対応内容	a) 養護者に対する助言・指導 b) 養護者が介護負担軽減のための事業に参加 c) 被虐待者が新たに介護保険サービスを利用 d) 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し e) 被虐待者が介護保険サービス以外のサービスを利用
	4-1) 成年後見制度利用の開始	成年後見制度利用手続き中 調査対象年度以前に成年後見制度利用開始済 調査対象年度内に成年後見制度利用開始済 利用手続きなし
	4-2) 市町村長申立の有無	有/無
	4-3) 日常生活自立支援事業利用の開始	有/無
	5) 養護者支援の取組内容	a) 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり b) 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント c) 他部署多機関等との連携による支援チームの形成 d) 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認 e) 養護者への相談・助言 f) 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整 g) 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整 h) 定期的な訪問によるモニタリング i) 終結の判断
問 8	1) 対応状況の種類	対応継続/終結

調査対象年度末日での状況	
--------------	--

養護者による虐待事例の分析に使用した設問項目（D票）

分類	設問
広報・普及啓発	問 1 養護者による高齢者虐待対応窓口の住民への周知
	問 2 地域包括支援センター等の関係者へ的高齢者虐待に関する研修（調査対象年度中）
	問 3 高齢者虐待について、講演会や市町村広報誌等による、住民への啓発活動（調査対象年度中）
	問 4 居宅介護サービス事業者へ高齢者虐待防止法について周知（調査対象年度中）
	問 5 介護保険施設へ高齢者虐待防止法について周知（調査対象年度中）
	問 6 独自の高齢者虐待対応のマニュアル、業務指針、対応フロー図等の作成
ネットワーク構築	問 7 民生委員、住民、社会福祉協議会等からなる「早期発見・見守りネットワーク」の構築への取組
	問 8 介護保険サービス事業者等からなる「保健医療福祉サービス介入支援ネットワーク」の構築への取組
	問 9 行政機関、法律関係者、医療機関等からなる「関係専門機関介入支援ネットワーク」の構築への取組
行政連携	問 10 成年後見制度の市区町村長申立が円滑にできるように役所・役場内の体制強化
	問 11 地域における権利擁護・成年後見体制の整備に向けた中核機関の立ち上げ・体制整備
	問 12 高齢者虐待防止法に定める警察署長に対する援助要請等に関する警察署担当者との協議
	問 13 老人福祉法の規定による措置を採るために必要な居室確保のための関係機関との調整
	問 14 高齢者虐待対応・養護者支援が円滑にできるよう生活困窮者支援、DV 担当課等の役所・役場内の体制強化
相談・支援、事後検証	問 15 高齢者虐待対応・養護者支援が円滑にできるよう保健所、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等の関係機関との連携強化
	問 16 虐待を行った養護者に対する相談、指導または助言
	問 17 居宅において日常生活を営むのに支障がありながら、必要な福祉サービス及び保健医療サービスを利用していない高齢者の権利利益の養護を図るための早期発見の取組や相談等
	問 18 終結した虐待事案の事後検証について

付録 2. 作成した標準帳票

付録 2-A. 養護者による虐待の記録用帳票

付録 2-A-1. 相談受付票

被虐待者 1 名につき 1 枚

オレンジ色は追加

自治体独自の管理番号

管理番号

問 1 相談・通報受理日

相談・通報記録票

日 時	年 月 日 ()		時 分 ~ 時 分		(記録主印)
経 路	<input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 ()		相談歴	<input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 継続	
相 談 者	氏 名		男 女	生 年 月 日	年 月 日 (歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他		連絡先	
問 2 相談・通報者	高齢者との関係	<input type="checkbox"/> 介護支援専門員 (ケアマネジャー) <input type="checkbox"/> 介護保険事業所職員 <input type="checkbox"/> 医療機関従事者 <input type="checkbox"/> 近隣住民・知人 <input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 被虐待者本人 <input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 虐待者自身 <input type="checkbox"/> 当該市町村行政職員 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 親族 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他			
問 9 養護者の虐待等による死亡事例への該当	合意の有無	調査等協力の意思が <input type="checkbox"/> 無 (匿名) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 条件により一部可 ()			
	死亡事例への該当	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当			
対象の高齢者	氏 名		男 女	生 年 月 日	年 月 日 (歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他		連絡先	
問 6 被虐待者・虐待者の状況 1) 被虐待者性別			不明		不明時の理由: ()
問 6 被虐待者・虐待者の状況 2) 被虐待者年齢					不明時の理由: ()
医療情報 (かかりつけ等)	<input type="checkbox"/> 入院中 (機関:) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 未申請 <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 要支援: 1・2 <input type="checkbox"/> 要介護 1・2・3・4・5 (不明時の理由:)				
問 6 被虐待者・虐待者の状況 3) 被虐待者の介護保険の申請 4) 介護保険認定済者の要介護度					
問 6 被虐待者・虐待者の状況 7) 介護保険サービスの利用 ※調査票では虐待判断時点とあるが、ここでは相談時点として記載	事業所:	氏名:			
	連絡先:	備考:			
	<input type="checkbox"/> 介護サービスを受けている <input type="checkbox"/> 過去受けていたが現時点では受けていない <input type="checkbox"/> 過去も含め受けていない <input type="checkbox"/> 不明 (理由:)				
利用状況	(受けている/受けていた場合の内容) <input type="checkbox"/> 訪問介護 <input type="checkbox"/> 訪問入浴 <input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> 訪問リハビリ <input type="checkbox"/> 通所介護 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ <input type="checkbox"/> 居宅療養管理指導 <input type="checkbox"/> 地域密着型 <input type="checkbox"/> 短期入所 <input type="checkbox"/> 施設 (福祉 <input type="checkbox"/> 保健) <input type="checkbox"/> 福祉用具 <input type="checkbox"/> その他 ()				
経済情報	<input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 預金 (円) <input type="checkbox"/> 扶養 <input type="checkbox"/> 親族 () <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> 年金 (種類:) 受給額: (円) <input type="checkbox"/> 不明				
相談内容	<input type="checkbox"/> 虐待に関する相談 <input type="checkbox"/> 生活不安 (経済) に関する相談 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 健康に関する相談 <input type="checkbox"/> 制度等に関する相談 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	問 6 被虐待者・虐待者の状況 (サービスを受けている/受けていた場合の内容) ※相談時の情報、過去の情報なし				

高齢者の虐待が疑われる内容を含んでいるか 《注意するポイント》 ・発生時期 ・場所 ・加害者とその関係 ・被害状況 ・現状の安全性	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	【記録】 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 問5 虐待の内容 2)具体的な虐待の内容(記入) </div>
	終結 <input type="checkbox"/> 相談者ニーズの解決 <input type="checkbox"/> 他課・他所属に伝達 ()	
本人の意向	<input type="checkbox"/> 在宅生活の継続 <input type="checkbox"/> 一時的な保護 <input type="checkbox"/> 施設入所希望 <input type="checkbox"/> 不明	
疑われる虐待種別	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 介護放棄 <input type="checkbox"/> 経済的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待	
虐待の頻度	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日 <input type="checkbox"/> 週に数回 <input type="checkbox"/> 月に数回 <input type="checkbox"/> 特定の時期 ()	
相談時の危険度	<input type="checkbox"/> A (高) <input type="checkbox"/> B (中) <input type="checkbox"/> C (低) ※「高齢者虐待リスクアセスメント票」の基準より	

主な被虐待高齢者の健康状態 <small>※把握した時点で記載</small>	【歩行】	自立・一部自立・全介助	【整容】	自立・一部自立・全介助	
	【食事】	自立・一部自立・全介助	【洗濯】	自立・一部自立・全介助	
	【調理】	自立・一部自立・全介助	【清掃】	自立・一部自立・全介助	
	【食欲】	旺盛・普通・不振	【着脱】	自立・一部自立・全介助	
	【服薬】	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()	【入浴】	自立・一部自立・全介助	
	【管理】	自己・一部介助・全介助	【睡眠】	多い・普通・少ない	
	【金銭】	自立・一部自立・全介助	【排泄】	自立・一部自立・全介助	
	【買物】	自立・一部自立・全介助	【その他】	()	
	寝たきり度	<input type="checkbox"/> J1 <input type="checkbox"/> J2 <input type="checkbox"/> A1 <input type="checkbox"/> A2 <input type="checkbox"/> B1 <input type="checkbox"/> B2 <input type="checkbox"/> C1 <input type="checkbox"/> C2 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 自立 (不明時の理由:)			
	対人関係	<input type="checkbox"/> 拒否的 <input type="checkbox"/> 攻撃的 <input type="checkbox"/> 協力的 <input type="checkbox"/> その他 ()			
認知症自立度	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> M <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 自立または認知症なし <input type="checkbox"/> 認知症あるが自立度は不明 <input type="checkbox"/> 認知症の有無が不明 (不明時の理由:) <input type="checkbox"/> 徘徊 <input type="checkbox"/> 失禁 <input type="checkbox"/> 異食 <input type="checkbox"/> 見当識 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 意思疎通困難				
主疾患等	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
精神症状	<input type="checkbox"/> 不安 <input type="checkbox"/> 焦燥 <input type="checkbox"/> 抑うつ <input type="checkbox"/> 不穏興奮 <input type="checkbox"/> 幻覚妄想 <input type="checkbox"/> その他				
問題行動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
特記事項	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (依存症状等:)				
世帯状況	名前 (虐待者は☑)	続柄	年齢	同居	職業・健康状態・特性等
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
	(不明時の理由:)				
家族形態	<input type="checkbox"/> 単独世帯 <input type="checkbox"/> 夫婦のみ世帯 <input type="checkbox"/> 未婚 (配偶者がいたことがない) の子と同居 <input type="checkbox"/> 配偶者と離別・死別等した子と同居 <input type="checkbox"/> 子夫婦と同居 <input type="checkbox"/> その他①その他の親族と同居 <input type="checkbox"/> その他②非親族と同居 <input type="checkbox"/> その他③その他 <input type="checkbox"/> 不明 (不明時の理由:)				
虐待の認識	虐待者に虐待の認識が <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 虐待者も支援を希望している) 不明				
成年後見人制度	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (氏名: 開始年度:) <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 不明				
【家族構成 (ファミリー)】	【高齢者を取り巻く環境】				

問6 被虐待者・虐待者の状況
6) 介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)



問6 被虐待者・虐待者の状況
5) 介護保険認定済者の認知症日常生活自立度

問6 被虐待者・虐待者の状況
11) 虐待者属性

問7 虐待事例への対応状況
4) 権利擁護に関する対応状況
4-1) 成年後見制度利用の開始

問6 被虐待者・虐待者の状況
8) 虐待者との同居・別居
9) 家族形態
10) その他の場合の説明
※調査票の選択肢が以下なので、この表の入力を見て値変換する
*虐待者との同居、虐待者及び他家族と同居、虐待者と別居、その他、不明

※男□、女○、死亡☒、対象者◎、同居は---線で囲む

【高齢者の身体状況（正面）】 	【高齢者の身体状況（背面）】 
<p>問3 事実確認の状況 1) 調査の状況</p>	
<p>今後の対応方針 (決定日 /)</p>	<p><input type="checkbox"/> 事実確認調査を行った（開始日： ）</p> <p><input type="checkbox"/> 訪問調査により事実確認を行った</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関等からの情報収集のみで事実確認を行った</p> <p><input type="checkbox"/> 親族・知人と接触した（調査・介入）</p> <p><input type="checkbox"/> 立入調査により事実確認を行った（警察も同行した）</p> <p><input type="checkbox"/> 立入調査により事実確認を行った（警察への援助要請は行わなかった）</p> <p><input type="checkbox"/> 事実確認調査を行っていない</p> <p><input type="checkbox"/> 相談・通報を受理した段階で、明らかに虐待ではなく事実確認調査不要と判断した</p> <p><input type="checkbox"/> 後日、事実確認調査を予定している（予定日： ）</p> <p><input type="checkbox"/> 事実確認調査の要否を検討中</p> <p><input type="checkbox"/> 保護等の緊急時対応を行った</p> <p><input type="checkbox"/> 県機関（警察含む）へ相談した <input type="checkbox"/> 他自治体へ相談した</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関等への調査（情報収集） <input type="checkbox"/> 親族・知人と接触（調査・介入）</p> <p><input type="checkbox"/> 県機関（警察含む） <input type="checkbox"/> 他自治体へ相談 <input type="checkbox"/> 保護等の緊急時対応</p> <p><input type="checkbox"/> 現地訪問調査（ 年 月 日で調整） <input type="checkbox"/> その他（ ）</p>

問3 事実確認の状況
1) 調査の状況

問3 事実確認の状況
2) 事実確認調査の開始日
3) 警察の同行
※立入調査実施時のみ

事実確認票－チェックシート(昭島市版)

管理番号

確認 年 月 日 ～ 年 月 日 作成者

高齢者本人氏名		性別	男	女	生年月日		年齢		歳
確認場所	<input type="checkbox"/> 居宅 <input type="checkbox"/> 来所 <input type="checkbox"/> その他()	確認時の養護者の有無				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			

虐待の事実	1	なし	3	目視など	5	聞き取り
	2	写真など	4	支援経過記録	6	不明



1. 身体的虐待	サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
あざや傷の有無	頭部に傷、顔や腕に腫脹、身体に複数のあざ、頻繁なあざ	
あざや傷の説明	つじつまが合わない、求めても説明しない、隠そうとする	
行為の自由度	自由に外出できない、自由に家族以外の人と話すことができない	
態度や表情	おびえた表情、急に不安がる、家族のいる場面いない場面で態度が異なる	
話の内容	「怖い」「痛い」「怒られる」「家にいたくない」「殴られる」といった発言がある	

3. 心理的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	体重の増減	急な体重の減少、やせすぎ、拒食や過食が見られる	
	態度や表情	無気力な表情、なげやりな態度、無表情、急な態度の変化がある	
	話の内容	話したがるらない、自分を否定的に話す、「ホームに入りたい」「死にたい」などの発言がある	
	適切な睡眠	不眠の訴え、不規則な睡眠	
	高齢者に対する態度	冷淡、横柄、無関心、支配的、攻撃的、拒否的	
	高齢者への話の内容	「早く死んでしまえ」など否定的な発言、コミュニケーションをとろうとしない	
	その他		
現状と対応			
4. 性的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	出血や傷の有無	生殖器等の傷、出血、かゆみの訴え	
	態度や表情	おびえた表情、怖がる、人目を避けたがる	
	支援のためらい	関係者に話すことをためらう、援助を受けたがらない	
	その他		
現状と対応			
5. 経済的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	訴え	「お金をとられた」「年金が入ってこない」「貯金がなくなった」などの発言がある	
	生活状況	資産と日常生活の大きな落差、食べる物にも困っている、年金通帳・預貯金通帳がない	
	支援のためらい	サービス利用負担が突然払えなくなる、サービス利用をためらう	
	その他		
現状と対応			
6. その他		上記項目以外に気づいたこと、気になることがある場合に記入	
発生状況	虐待が始まったと思われる時期		全体状況
	虐待が発生する頻度		
	虐待が発生するきっかけ		
	虐待が発生しやすい時間帯		

出典) 首都大学東京 副田あけみ教授作成の様式を一部修正

付録 2-A-3. リスクアセスメント

被虐待者1名につき1枚

管理番号

問4 事実確認調査の結果

- 6) 2 虐待者側の要因
- 6) 3 被虐待者の状況
- 6) 4 家庭の要因
- 6) 5 その他

については別の対応表の通り流し込み

高齢者虐待リスク評価票

被虐待者の状況	
思疎通が可能である	
事実と照らし合わせて、現在の危険度を評価すること。	
な意思の疎通が困難である	
、聴取情報ならびに看護・介護記録、事故報告等の客観的な記録情報と照らし合わせて評価すること。また、既に重症化している可能性が高いことに注意すること。	
客観的な事実確認により得た情報	危険度
1、当事者が保護を求めている	A (緊急度：高) 速やかに保護等の緊急措置を検討する必要がある
<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている	
<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている	
2、すでに重大な結果が生じている	B (緊急度：中) 集中的な支援のほか、保護等の緊急措置の検討が必要である
<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷（血腫・骨折）、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況	
3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	
<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「〇〇が怖い」「何も食べていない」等の訴え	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
<input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え	
4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
5、繰り返されるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し <input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定、判断力の低下、非現実的な認識 <input type="checkbox"/> ⑩ 虐待者の判断力の低下、非現実的な認識	
6、過去に虐待をされた旨で訴えがある（現在進行形でない）	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
<input type="checkbox"/> ⑪ 「昔、〇〇をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など	
7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑫ 認知症程度：Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M <input type="checkbox"/> ⑬ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など <input type="checkbox"/> ⑭ 寝たきり度：J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2 <input type="checkbox"/> ⑮ 性格の問題（偏り）：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など <input type="checkbox"/> ⑯ 精神疾患（ ） 依存症（ ） <input type="checkbox"/> ⑰ 外部サービス利用に抵抗感がある <input type="checkbox"/> ⑱ 障害・疾病（口疑い）	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑲ 被虐待者への拒否的感情や態度がある <input type="checkbox"/> ⑳ 重い介護負担感や介護疲れ <input type="checkbox"/> ㉑ 認知症や介護に関する知識・技術不足 <input type="checkbox"/> ㉒ 性格の問題（偏り）：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的など <input type="checkbox"/> ㉓ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など（口疑い） <input type="checkbox"/> ㉔ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存 <input type="checkbox"/> ㉕ 介護力の低下や不足 <input type="checkbox"/> ㉖ 孤立・補助介護者の不在等	

<input type="checkbox"/> ⑳ 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー <input type="checkbox"/> ㉑ 外部サービス利用への抵抗感 <input type="checkbox"/> ㉒ ひきこもり <input type="checkbox"/> ㉓ 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ <input type="checkbox"/> ㉔ 飲酒の影響 <input type="checkbox"/> ㉕ 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）	
9、虐待につながる家庭状況がある	
<input type="checkbox"/> ㉖ 長期にわたる虐待者・被虐待者間の不和の関係 <input type="checkbox"/> ㉗ 虐待者・被虐待者の共依存関係 <input type="checkbox"/> ㉘ 虐待者が暴力の被害者 <input type="checkbox"/> ㉙ その他の家族・親族の無関心 <input type="checkbox"/> ㉚ 住環境の悪さ：狭い、被虐待者の居室なし 非衛生的 <input type="checkbox"/> ㉛ 家庭内の経済的利害関係（財産、相続） <input type="checkbox"/> ㉜ （虐待者以外の）他家族との関係の悪さほか家族関係の問題	
その他	
<input type="checkbox"/> ㉝ ケアサービスの不足の問題 <input type="checkbox"/> ㉞ ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題 <input type="checkbox"/> ㉟ その他の要因（ ）	

リスクアセスメントの帳票と調査票の項目対応表(赤字は元帳票に追加した項目)

帳票			調査票 (空欄は対応なし)				
大分類	小分類	項目 (赤は追加)	6)_2 虐待者側の要因	6)_3 被虐待者の状況	6)_4 家庭の要因	6)_5 その他	
—	被虐待者の状況	<input type="checkbox"/> ア 被虐待者自身による意思疎通が可能である					
		<input type="checkbox"/> イ 認知症等により、正確な意思の疎通が困難である					
危険度 A	1、当事者が保護を求めている	<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている					
		<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている					
	2、すでに重大な結果が生じている	<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷(血腫・骨折)、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況					
		3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「○○が怖い」「何も食べていない」等の訴え <input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え				
危険度 B	4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況					
		5、繰り返されるおそれが高い	<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し <input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定 ※2つに分割 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の判断力の低下、非現実的な認識	q) その他 j) 精神状態が安定していない f) 理解力の不足や低下			
	危険度 C	6、過去に虐待をされた旨で訴えがある(現在進行形でない)	<input type="checkbox"/> ⑩ 「昔、○○をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など				
			7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	<input type="checkbox"/> ⑪ 認知症程度：Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M	a) 認知症の症状		
<input type="checkbox"/> ⑫ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など				d) 排泄介助の困難さ			
	<input type="checkbox"/> ⑬ 寝たきり度：J1・J2・A1・	c) 身体的自立					

	A2・B1・B2・C1・C2		度の低さ		
	<input type="checkbox"/> ⑭ 性格的問題（偏り）：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など		h)その他		
	<input type="checkbox"/> ⑮ 精神疾患 依存症		b) 精神障害 （疑いを含む）、高次脳機能障害、知的障害、認知機能の低下		
	<input type="checkbox"/> 外部サービス利用に抵抗感がある		e) 外部サービス利用に抵抗感がある		
	<input type="checkbox"/> 障害・疾病（ <input type="checkbox"/> 疑い）		f) 障害・疾病 g) 障害疑い・疾病疑い		
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	<input type="checkbox"/> ⑯ 被虐待者への拒否的感情や態度がある	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係			
	<input type="checkbox"/> ⑰ 重い介護負担感や介護疲れ	a) 介護疲れ・介護ストレス			
	<input type="checkbox"/> ⑱ 認知症や介護に関する知識・技術不足	e) 知識や情報の不足			
	<input type="checkbox"/> ⑲ 性格的問題（偏り）：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的など	q) その他			
	<input type="checkbox"/> ⑳ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など（ <input type="checkbox"/> 疑い）	h) 障害・疾病 i) 障害疑い・疾病疑い			
	<input type="checkbox"/> ㉑ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存			a) 経済的困窮・債務（経済的問題）	
	<input type="checkbox"/> 介護力の低下や不足	b) 介護力の低下や不足			
	<input type="checkbox"/> 孤立・補助介護者の不在等	c) 孤立・補助介護者の不在等			
<input type="checkbox"/> 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー	d) 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体				

			に対するストレスやプレッシャー			
		<input type="checkbox"/> 外部サービス利用への抵抗感	g) 外部サービス利用への抵抗感			
		<input type="checkbox"/> ひきこもり	k) ひきこもり			
		<input type="checkbox"/> 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ	n) 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ			
		<input type="checkbox"/> 飲酒の影響	o) 飲酒の影響			
		<input type="checkbox"/> 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）	p) 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）			
9、虐待につながる家庭状況がある		<input type="checkbox"/> ㉔ 長年にわたる虐待者・被虐待者間の不和の関係	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係			
		<input type="checkbox"/> ㉔ 虐待者・被虐待者の共依存関係	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係			
		<input type="checkbox"/> ㉔ 虐待者が暴力の被害者	m) 家族環境（生育歴・虐待の連鎖）			
		<input type="checkbox"/> ㉔ その他の家族・親族の無関心			d) (虐待者以外の) 配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力	
		<input type="checkbox"/> ㉔ 住環境の悪さ：狭い被虐待者の居室なし 非衛生的			e) その他	
		<input type="checkbox"/> 家庭内の経済的利害関係（財産、相続）			b) 家庭内の経済的利害関係（財産、相続）	

		<input type="checkbox"/> (虐待者以外の) 他家族との関係の悪さほか家族関係の問題			c) (虐待者以外の) 他家族との関係の悪さほか家族関係の問題	
その他		<input type="checkbox"/> ケアサービスの不足の問題				a) ケアサービスの不足の問題
		<input type="checkbox"/> ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題				b) ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題
		<input type="checkbox"/> その他の要因				c) その他

付録 2-A-4. 会議記録
コアメンバー会議用帳票

被虐待者 1 名につき 1 枚

第 回コアメンバー会議録

管理番号

本人氏名 _____ 記録者氏名 _____
虐待者氏名 _____

会議日時： 年 月 日 時 分～ 時 分

出席者			
虐待事実の判断 <small>※疑いの場合は事実確認の継続必須 ※一時的解消の場合は再発可能性に留意</small>	1. 身体的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 ()	問 4 事実確認調査の結果 2)虐待の事実が確認された期日 ※判断「有」の場合転記
	具体的内容と判断根拠	問 5 虐待の内容 1)虐待の種別・類型	
	2. 放棄・放任	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	
	具体的内容と判断根拠	根拠等()参照	
	3. 心理的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	
	具体的内容と判断根拠	根拠等()参照	
問 4 事実確認調査の結果 1)調査の結果「c)虐待の事実の判断に至らなかった」理由	4. 性的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	問 5 虐待の内容 3)虐待の深刻度
	具体的内容と判断根拠	根拠等()参照	
	5. 経済的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	
具体的内容と判断根拠	虐待の判断に至らなかった場合の理由		
深刻度区分 ^{※1} <small>※「深刻度指標」=「被虐待高齢者が虐待によって被害を受けた程度」</small>	<input type="checkbox"/> 4. 最重度 生命・身体・生活の危機的状況	<input type="checkbox"/> 3. 重度 重大な健康被害が生じている、生活の継続に重大な支障が生じている	<input type="checkbox"/> 2. 中度 虐待が繰り返されている、心身への被害・影響や生活に支障が出ている状態
	<input type="checkbox"/> 1. 軽度 本人意思を無視した行為や介護者の都合に合わせたケアが行われている、軽度の被害・影響が生じている状態		
本人の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
養護者の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
その他家族・後見人等の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
背景要因	高齢者本人の因子	<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	関係性・世帯の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	養護者・親族の因子	<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	地域・支援者側の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	因子の確認が「その他」の場合の具体的内容		
強み・スト	高齢者本人の強み	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	関係性・世帯の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	養護者・親族の強み	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認

レ ン グ ス		
パターン（行動・思考・問題解決方法等） <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
緊急性の判断（緊急対応に必要な状況の確認）※共通の指標（リスクアセスメントシート）等様票を用いている場合は、その様票を参照		
緊急性 <input type="checkbox"/> 高い（「緊急分離・保護」実施） <input type="checkbox"/> 低い（「分離・保護」検討） <input type="checkbox"/> 不明（定期的な状況確認・支援/分離・保護の可能性の検討）		
		様票等（ ）参照

問7 虐待事例への対応状況
2) 1)で分離を行った場合の対応内容
2-2) 面会制限の有無

	には具体的内容を記入	担当者	備考 (いつまで・注意事項等)	
緊急	<input type="checkbox"/> 警察への連絡・相談 (<input type="checkbox"/> 被害相談 <input type="checkbox"/> 告発 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 立入調査 (法 11 条) <input type="checkbox"/> 警察への援助要請 (法 12 条) <input type="checkbox"/> 高齢者の保護・分離 (対応開始日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 措置入所 () <input type="checkbox"/> 緊急一時保護 () <input type="checkbox"/> 養護受託 () <input type="checkbox"/> 介護保険を利用した契約入所 (契約支援者・代筆者等) <input type="checkbox"/> 医療機関への一時入院 <input type="checkbox"/> 虐待者を高齢者から分離(転居等) <input type="checkbox"/> 上記以外の住まい・施設の利用 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 在宅サービス措置 ()) <input type="checkbox"/> 面会制限 (<input type="checkbox"/> 法 13 条 <input type="checkbox"/> その他)) <input type="checkbox"/> 高齢者・養護者の受診支援 (入院支援・レスパイト入院) <input type="checkbox"/> 生活保護の医療扶助単給 <input type="checkbox"/> 介護保険制度 要介護認定申請 (申請日 /) <input type="checkbox"/> 財産保全 <input type="checkbox"/> 金融機関への紛失届 <input type="checkbox"/> 年金振込先の変更 <input type="checkbox"/> 金融機関への協力依頼 <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援事業利用 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> ライフラインの確保 <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 1)分離の有無 2) 1)で分離を行った場合の対応内容 3) 1)で分離をしていない場合の対応内容 については別の対応表の通り流し込み
成年後見人等申立	<input type="checkbox"/> 選任済 (開始年度: 年/市町村長申立 <input type="checkbox"/> 有) <input type="checkbox"/> 申立中 (市町村長申立 <input type="checkbox"/> 有) <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 申立要検討 (<input type="checkbox"/> 審判前の財産保全処分) <input type="checkbox"/> 後見人等の有無を調査			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-2)市町村長申立の有無
各種支援	<input type="checkbox"/> 虐待の事実の確認の継続 (虐待事実の判断「有」としている場合も含む) <input type="checkbox"/> 本人のアセスメント (情報収集や支援の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 判断能力程度確認 <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> 意思決定支援 (ガイドラインの活用、チーム支援、意思決定支援会議等) <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 養護者のアセスメント (情報収集や支援の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 支援の必要性の確認 <input type="checkbox"/> 虐待行為についての告知・意識づけ <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> その他関係機関からの情報収集 ()) <input type="checkbox"/> 関係部署・機関への協力要請 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> 障害福祉 <input type="checkbox"/> 保健所・保健センター <input type="checkbox"/> 自殺予防 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 認知症疾患医療センター <input type="checkbox"/> 若年性認知症総合支援センター <input type="checkbox"/> 精神保健福祉センター <input type="checkbox"/> 発達障害者支援センター <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> 生活困窮者支援 <input type="checkbox"/> 成年後見制度推進機関/中核機関 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援事業利用の開始 (開始日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 各種制度利用手続き支援等 ()) <input type="checkbox"/> 在宅サービス導入・調整支援 ()) <input type="checkbox"/> 専門医紹介・医療導入支援 ()) <input type="checkbox"/> 養護者が介護負担軽減のための事業に参加 <input type="checkbox"/> 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-1)成年後見制度利用の開始 ● 開始済み→年度により以前が対象年度中に開始 ● 申立中→利用手続き中 ● それ以外→利用手続きなし
その他	<input type="checkbox"/> 虐待判断時点で既に分離状態 (別居、入院、入所等) <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-3)日常生活自立支援事業利用の開始 4-4)権利擁護対応開始日

養護者支援の内容

- 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり
- 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント
- 他部署多機関等との連携による支援チームの形成
- 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認
- 養護者への相談・助言
- 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整

問7 虐待事例への対応状況
5) 養護者支援の取組内容

- 具体的な支援内容
- 計画期間
- 次回の会議の予定
- 連絡体制（情報集約先）
- 注意事項

上記以外にはなし

（公財）東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成（令和4年4月版）

※注）令和2年度老人保健健康増進等事業「高齢者虐待における事例研究等に関する調査研究事業報告書」に基づく

※ケース会議用帳票はコアメンバー会議用帳票と同フォーマットのため割愛

コアメンバー会議用帳票と調査票の項目対応表

帳票		調査票（空欄は対応なし）			
分類	項目（赤は追加）	問 7 虐待事例への対応状況 1) 分離の有無	問 7 虐待事例への対応状況 2) 1) で分離を行った場合の対応内容	問 7 虐待事例への対応状況 3) 1) で分離をしていない場合の対応内容	問 7 虐待事例への対応状況 5) 養護者支援の内容
緊急 対応	<input type="checkbox"/> 警察への連絡・相談 （ <input type="checkbox"/> 被害相談 <input type="checkbox"/> 告 発 <input type="checkbox"/> その他）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		f) その他	
	<input type="checkbox"/> 立入調査 （法 11 条） <input type="checkbox"/> 警察への援助要請 （法 12 条）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		f) その他	
	<input type="checkbox"/> 高齢者の保護・分離	チェックがついていれ ば a) 分離			
	<input type="checkbox"/> 措置入所		b) やむ措置		
	<input type="checkbox"/> 緊急一時保護		c) 緊急一時保護		
	<input type="checkbox"/> 養護受託		b) やむ措置		
	<input type="checkbox"/> 介護保険を利用し た契約入所		a) 契約による介護保険 サービスの利用		
	<input type="checkbox"/> 医療機関への一時 入院		d) 医療機関への一時入 院		
	<input type="checkbox"/> 虐待者を高齢者か ら分離（転居等）		f) 虐待者を高齢者から 分離（転居等）		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の住ま い・施設の利用		e) a～d 以外の住ま い・施設等の利用		
	<input type="checkbox"/> その他		g) その他		
	<input type="checkbox"/> 在宅サービス措置	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		c) 被虐待者が新たに介 護保険サービスを利用	
	<input type="checkbox"/> 面会制限 （ <input type="checkbox"/> 法 13 条 <input type="checkbox"/> その他）	チェックがついていれ ば a) 分離	法 13 条にチェックが ある場合は b) 措置 その他にチェックがあ る場合は g) その他と し、自由記述欄に「施 設管理権」と記載（空 欄に何か記載があれば それも記載）		
<input type="checkbox"/> 高齢者・養護者の受 診支援（入院支援・ レスパイト入院）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		e) 被虐待者が介護保険 サービス以外のサー ビスを利用		

	<input type="checkbox"/> 生活保護の医療扶助 単給	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		e)被虐待者が介護保険 サービス以外のサー ビスを利用	
	<input type="checkbox"/> 介護保険制度 要介護認定申請 (申請日 /)	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> 財産保全 <input type="checkbox"/> 金融機関への 紛失届 <input type="checkbox"/> 年金振込先の変更 <input type="checkbox"/> 金融機関への協力 依頼 <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援 事業利用 <input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> ライフラインの確保	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
各種 支援	<input type="checkbox"/> 虐待の事実の確認の 継続（虐待事実の判 断「有」としている 場合も含む）	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			
	<input type="checkbox"/> 本人のアセスメント (情報収集や支援の 必要性の分析) <input type="checkbox"/> 判断能力程度確認 <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> 意思決定支援（ガ イドラインの活 用、チーム支援、 意思決定支援会議 等) <input type="checkbox"/> その他	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			
	<input type="checkbox"/> 養護者のアセスメン ト（情報収集や支援 の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 支援の必要性の 確認 <input type="checkbox"/> 虐待行為について	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			

<p>の告知・意識づけ</p> <p><input type="checkbox"/>意思意向の確認</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>				
<p><input type="checkbox"/>その他関係機関からの情報収集</p>	<p>緊急対応にチェックがなくここにチェックがあれば c)検討・調整中</p>			
<p><input type="checkbox"/>関係部署・機関への協力要請</p> <p><input type="checkbox"/>警察</p> <p><input type="checkbox"/>社会福祉協議会</p> <p><input type="checkbox"/>障害福祉</p> <p><input type="checkbox"/>保健所・保健センター</p> <p><input type="checkbox"/>自殺予防</p> <p><input type="checkbox"/>医療機関</p> <p><input type="checkbox"/>認知症疾患医療センター</p> <p><input type="checkbox"/>若年性認知症総合支援センター</p> <p><input type="checkbox"/>精神保健福祉センター</p> <p><input type="checkbox"/>発達障害者支援センター</p> <p><input type="checkbox"/>生活保護</p> <p><input type="checkbox"/>生活困窮者支援</p> <p><input type="checkbox"/>成年後見制度推進機関／中核機関</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>緊急対応にチェックがなくここにチェックがあれば c)検討・調整中</p>			
<p><input type="checkbox"/>日常生活自立支援事業利用の開始（開始日： 年 月 日）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	
<p><input type="checkbox"/>各種制度利用手続き支援等</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>f)その他</p>	
<p><input type="checkbox"/>在宅サービス導入・調整支援</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>c)被虐待者が新たに介護保険サービスを利用</p>	
<p><input type="checkbox"/>専門医紹介・医療導入支援</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>f)その他</p>	

	<input type="checkbox"/> 養護者が介護負担軽減のための事業に参加	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		b) 養護者が介護負担軽減のための事業に参加	
	<input type="checkbox"/> 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		d) 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し	
	<input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f) その他	
その他	<input type="checkbox"/> 虐待判断時点で既に分離状態（別居、入院、入所等）	ここにチェックがあれば d) すでに分離			
	<input type="checkbox"/> その他	上のいずれにもチェックがなくここにチェックがあれば e) その他			
養護者 支援	<input type="checkbox"/> 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり	(対象外)			a) 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり
	<input type="checkbox"/> 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント	(対象外)			b) 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント
	<input type="checkbox"/> 他部署多機関等との連携による支援チームの形成	(対象外)			c) 他部署多機関等との連携による支援チームの形成
	<input type="checkbox"/> 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認	(対象外)			d) 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認
	<input type="checkbox"/> 養護者への相談・助言	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		a) 養護者に対する助言・指導	e) 養護者への相談・助言
	<input type="checkbox"/> 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整	(対象外)			f) 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整
	<input type="checkbox"/> 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整	(対象外)			g) 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整
	<input type="checkbox"/> 定期的な訪問によるモニタリング	(対象外)			h) 定期的な訪問によるモニタリング
	<input type="checkbox"/> 終結の判断	(対象外)			i) 終結の判断
<input type="checkbox"/> その他	(対象外)			j) その他	

被害待者1名につき1枚

管理番号

供覧

評価ケース検討会議記録

開催日	年 月 日 ()
開催時間	時 分 ~ 時 分
開催場所	

検討対象氏名			ケース提出者	
会議出席者	所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名
経過				
検討課題				
検討内容	問13 調査対象年度末日での状況 ※シートが作成されるたびに終結/継続を判定し、終結日、継続時の選択内容を更新			
評価結果のまとめ	<input type="checkbox"/> 虐待対応の終結 (終結理由:) <input type="checkbox"/> 現在の虐待対応計画内容に基づき対応を継続 (現在の状況:)			
結論				
残された課題				
他部署・他制度等への引継ぎ				
次回開催日	年 月 日 () を予定			

付録 2-A-5. ケース進行管理表

管理 番号	方針	入力 日	名前	フリ ガナ	通報 日	事実 確認 開始 日	養護 者	虐待 の 類型	認定 の 有無	認定 日	分離 日	分離 先	死亡	終結 日	現状

付録 2-B. 従事者による虐待の記録用帳票

付録 2-B-1. 相談受付票

問1 相談通報受理日・時期・自治体 1) 相談・通報受理日	問1 相談通報受理日・時期・自治体 3) 通報受理団体	管理番号			
介護施設従事者による高齢者虐待相談受付票					
受付日：平成 年 月 日 ()		受付者： _____			
時間： _____ : _____ ~ _____ : _____					
通報の方法： <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 郵便 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 来所 <input type="checkbox"/> その他 () 回目					
受理者： <input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 都道府県					
問5 都道府県における事実確認調査状況 2) 都道府県が直接相談・通報等を受理した事例					
1) 相談・通報者					
1 相談者					
氏名	<input type="checkbox"/> 匿名	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	情報保護希望	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
続柄関係	<input type="checkbox"/> 本人による届出 <input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 当該施設・事業所職員 <input type="checkbox"/> 当該施設・事業所元職員 <input type="checkbox"/> 施設・事業所の管理者 <input type="checkbox"/> 医療機関従事者（医師含む） <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> 介護相談員 <input type="checkbox"/> 地域包括センター職員 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会職員 <input type="checkbox"/> 国民健康保険団体連合会 <input type="checkbox"/> 都道府県から連絡 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 家族 () <input type="checkbox"/> 元職員 <input type="checkbox"/> 現職員（公益通報の説明 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無） <input type="checkbox"/> その他 ()				
連絡先	<input type="checkbox"/> 秘匿				
特記	後日連絡の可否： <input type="checkbox"/> 可 他に虐待を認識している者の有無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
2 被虐待者（疑いも含む）					
氏名	<input type="checkbox"/> 未確認	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	年齢	歳 <input type="checkbox"/> 未確認
要介護認定	<input type="checkbox"/> 要介護 () <input type="checkbox"/> 要支援 () <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明				
認知症	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（程度： _____） 後見人： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（ <input type="checkbox"/> 後見 <input type="checkbox"/> 保佐 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 任意後見 <input type="checkbox"/> 申立て中 <input type="checkbox"/> 不明）				
備考	<input type="checkbox"/> 被虐待者が複数名（複数の場合は備考又は裏面に記載）				
3 施設・虐待者情報					
施設名	問2 相談・通報				
法人名	2) 相談・通報が寄せられた施設・事業所のサービス種別				
施設種別	<input type="checkbox"/> 特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 介護老人保健施設 <input type="checkbox"/> 介護医療院・介護療養型医療施設 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 <input type="checkbox"/> （住宅型）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> （介護付き）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護等 <input type="checkbox"/> 軽費老人ホーム <input type="checkbox"/> 養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 短期入所施設 <input type="checkbox"/> 訪問介護等 <input type="checkbox"/> 通所介護等 <input type="checkbox"/> 居宅介護支援等 <input type="checkbox"/> その他 施設種別名 ()				
虐待者名	<input type="checkbox"/> 不明	職種	<input type="checkbox"/> 不明		

備 考	<input type="checkbox"/> 虐待者が複数名（複数の場合は備考又は裏面に記載）
-----	---

4 虐待（通報）の内容（様式2にチェックを行う）

発生日時	平成 年 月 日 時頃	発生場所	
種 別	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放任 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 経済的虐待 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
緊急性	<input type="checkbox"/> 生命・身体に危険がある <input type="checkbox"/> 継続的に虐待の恐れがある		
把握方法	<input type="checkbox"/> 現認 <input type="checkbox"/> 伝聞（誰に： ） <input type="checkbox"/> 記録を見た <input type="checkbox"/> 証拠資料有		
聞取り 内 容			

※情報提供の内容が多い場合は裏面に記載

5 その他聞取り内容及び特記事項

問3 市町村における事実確認調査状況
1-3) 事実確認調査を行っていない理由

問5 都道府県における事実確認調査状況
3) 1)もしくは2)で事実確認を行った場合の形態

6 事実調査の判断

	事実調査を実施する (<input type="checkbox"/> 都道府県と市町村で共同 <input type="checkbox"/> 都道府県単独)
	事実調査を実施しない
	相談・通報を受理した段階で、明らかに虐待ではなく、事実確認調査不要と判断
	後日、事実確認調査を予定しているまたは、事実確認調査の要否を検討中
	都道府県へ事実確認調査を依頼
	その他 ()

虐待相談・通報参考 (問合せがあった場合、必要があると判断された場合説明する)

	業務上知りえた情報であっても、虐待の通報は、法令違反にならない。ただし、虚偽、及び、過失であるものは除かれる。 (個人情報保護法16条、高齢者虐待防止法21条)
	通報者等の情報は保護され、外部に漏れることはない (高齢者虐待防止法23条、地方公務員法34条)
	通報等による解雇、その他不利益な取扱いは禁止されている。ただし、虚偽、及び、過失であるものは除かれる。 (公益通報者保護法3条・5条、高齢者虐待防止法21条)

養介護施設従事者等による高齢者虐待相談受付票（内容）

受付者：_____

区分	具体例	チェック
身体的虐待	1 あざ、傷、火傷等がある。	
	2 叩く、蹴る、つねる等の暴力がある。	
	3 ベッド等から降りられないように、体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	4 ベッド等に降りられないように、柵等をしている。	
	5 立ち上がれないように、イス・車椅子に体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	6 立ち上がれないような、イス・車椅子を使用する。	
	7 点滴・経管栄養等の医療行為のために、四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	8 手足の機能を制限するミトン型の手袋等を使用する。	
	9 脱衣・オムツはずし等を制限するため、つなぎ服を使用する。	
	10 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に使用する。	
	11 自分で扉を開けられない部屋に隔離する。	
	12 微熱を理由に、ベッド上での生活を強制された。	
	13 声掛けの為に腰を叩かれ、とても痛がった。	
	14 大きなスプーンで口一杯に入れる為、上手く呑み込めず、むせてしまうことがある。	
	15 車椅子の移動、あるいは食事の介助、衣服の着脱時等、乱暴であったり、テンポが速く、入居者がおどおどとしている場面を見ることが多い。	
	16 人としての扱いに欠けているような気がする。	
	17 患者の方に布団を掛ける時、投げ捨てるように掛けた。	
	18 可動制限があるにも関わらず、健側（障害を受けていない側）から無理矢理着替えをさせた。	
	19 左手が使えないのに、両手でしか出来ない作業を与えられた。	
	20 食事をまだ口にしていないのに、強い薬（抗生剤）を飲ませようとした。	
	21 最初から、粉薬をご飯に混ぜてしまう。	
	22 鼻から入れているチューブを抜き取る事があったので、ベッドに手を縛られた。縛り方に問題があり、痛々しかった。	
	23 ベッドへ移動する時、少し乱暴に寝かせているのを見かける。	
	24 ベッドから車椅子への移乗を依頼したら、「乗っければいいんですね」と物扱いされた。	
	25 車椅子のベルトで拘束されているのを目撃した。	
	26 トイレに閉じこめられた。	
	27 つねられたか、はたかれたようで、手足に触れると「痛い、痛い」という。腕や足につねったような傷跡と内出血があった。	
	28 認知症だから分からないだろうと思って、頭を叩かれた。	
	29 車椅子を強く押し放つ。	
	30 点滴のアザと打撲と間違えるような対応の仕方があった。	
	31 声掛けなしに、ベッドから車椅子に移乗させた。	

区分	具体例	チェック
介護・世話の放棄・放任	1 入浴していない。髪・ひげ、爪が伸びている。髪・皮膚・爪が汚れている。等	
	2 トイレを使用できるのにオムツを使う。オムツが汚れているのに放置している。等	
	3 水分補給、食事量・質（消費期限等）が不十分。	
	4 衣服を汚れた（破れた）ままにしている。理由が無くいつも同じ服を着せている。季節に合わない服を着せている。	
	5 長時間、必要な介護等が行われていない。	
	6 適切な医療を受けさせていない。	
	7 必要な眼鏡、義歯、補聴器等がない	
	8 ナースコール等を使用させていない。ナースコールを意図的に無視する。	
	9 頼まれたことを意図的に行わない。	
	10 汚い・異臭がする、暑すぎる・寒すぎる等、不衛生・劣悪な生活環境がある。	
	11 他利用者からの暴力等に対策を講じていない。	
	12 まだ十分トイレで対応できる時も朝の1回のみトイレで対応。朝以外はオムツ対応。	
	13 訪問の度にめやにがたまっている。	
	14 洋服がはだけたり、汚れているのにそのまま。	
	15 いつ面会に行っても、同じ服を着ていることが多い。	
	16 夜間はオムツ交換をしてくれず、寝間着からシーツがびしょびしょになり、冷たかった。	
	17 汚れたシーツをすぐに替えてくれなかった。	
	18 ベッドのシーツ上の食べこぼしが常にある。	
	19 入浴後、髪の毛を乾かしてもらえない。	
	20 排泄後のズボンがねじれていることが結構ある。	
	21 食事量が減少している患者さんに「食べないと死んじゃうよ。」と言っていた。	
	22 一日中おしゃべりさせたり、椅子に座らせっぱなしだったり、積極的に働きかけをする姿勢がない。	
	23 忙しい時間帯は寝かされている。	
	24 床ずれで足が曲がったままである。	
	25 発熱時、家族が面会に行き、やっとう枕をしてもらえた。	
	26 発熱者を寝間着に着替えさせず、服のまま、ベッドで寝かせていた。	
	27 一週間、汗疹（あせも）に気付かなかった。	
	28 涼しい日にカーディガンを着せてもらえなかった。	
	29 食事介助のスピードが早い。	
	30 介助法を工夫して、食事摂取量を増やして欲しいとお願いしたが、「うちでは出来ない。嫌なら他施設に移ってくれ。」と言われた。	
	31 粥を落下させてしまった人に対して、「あら残念ね」と言って、代わりにものを運んでこなかった。	
	32 今は忙しいから、後でと言われた。	
	33 大小便の処置に困り、呼んだが、なかなか来てくれなかった。	
	34 呼び出しボタンを押しても、なかなか来ない。	

35	職員を呼んでもなかなか来てくれないことが何度もあった。	
36	数十分ほど、食堂の片隅に留め置いた。	
37	座らせっぱなしなので、足の甲がむくんだ。	
38	ベッド上で1週間生活したため、歩けなくなった。	

区分	具体例	チェック
心理的虐待	1 怒鳴る。暴言を吐く、罵る。	
	2 脅す。	
	3 嫌がらせをする。	
	4 車椅子やベッドを蹴る。	
	5 排泄行為等の失敗を嘲笑する。	
	6 からかったり、侮辱的なことを言う。	
	7 人前で恥をかかせる。	
	8 話しかけ・ナースコール等を意図的に無視をする。	
	9 侮辱的な子供扱い。	
	10 他者との交流を制限されている。	
	11 耳の遠い方が多い為、声が大きくなるが、正常な方は怒られているように感じる。	
	12 「入院しているのは、あなた1人じゃないんだから」と言われた。	
	13 医師の心ない発言に対し、不信感を持った。	
	14 認知症老人に対して、「同じ事を何回も言わない。」「何回言ったら分かるの?」「さっきトイレに行っただけでしょう。」等と言葉を荒げて言う。	
	15 食べ残しをすると、「残した物は捨てなければならないのよ」と強い口調で言われた。	
	16 上から物を言う。高齢者(=年長者)を敬う態度から遠い。	
	17 名前を間違えられた。	
	18 「何やってるんだ」「何ぐずぐずしているんだ」等、乱暴な言葉遣い。	
	19 母の名前を呼び捨てや「お婆さん」と呼ぶ。	
	20 「それはやめましょう。駄目です。」等の指示している態度。	
	21 本人の前で気になるような言葉をしゃべっている。	
	22 本人のいる前で、トイレ(便のこと)に関して話された。	
	23 手が掛かる人に対して、聞こえない素振りをした。	
	24 忙しいことを理由に話を聞いてもらえない。	
	25 「早く食べて」と急がせる言葉を使う人がいる。	
	26 返事をしない職員がいた。	
	27 車椅子の老婦人が「帰りたい」と言っていることに対し、無視している。	
	28 怪我をした際、必要以上に「〇〇さん、分かりましたか?」と色々な職員に確認された。	
	29 認知症なので、本人は分からないが、あだ名を付けて呼んでいた。	
	30 「臭い、臭い」「ばっちいね」と声掛けしながらオムツ交換をした。	
	31 厳しい口調で入居者に対応しているのを見た。エアコンの温度を下げたら、「勝手に下げないでくれ」と言った。	

32	自室での喫煙はしていないのに、「煙草の臭いがする」と言われ、「嘘つき」と言われた。	
33	同じ事を何度も言う人、「うるさい」と言う。	
34	化粧をしている母に対し、眉の描き方がおかしいと平気で言う。	
35	子供に対してするように、頭を撫でる。	
36	お願い事をした際、不快な顔をされ、少し嫌な感じだった。	
37	対応に事務的なところを感じる。	
38	一分一秒でもいたくない態度が見える。	
39	夜間の失敗に対して、「待機している人が1,000人もいるのに、入れたんだから」と思着せがましいことを言った。	
40	オムツ交換時、「またこんなに汚して」と言った。	
41	「お前なんか早く死んじゃえ。そしたら自分たちが楽になる。」と言われた。	
42	意思疎通の出来ない人に対し、「もう食べないの?」と言った。	
43	「何回も鳴らすな!」と不機嫌な顔で叱られた。	
44	「あれが悪い」「これが悪い」と短所ばかり言う。	

区分	具体例	フィック
性的虐待	1 本人の同意のない性的行為やその強要。	
	2 本人の意に反して性的な話をする・聞く。	
	3 キス、性器等への接触	
	4 下半身を露出し放置	
	5 上半身を露出し放置（女性の場合）	
	6 猥褻な行為を行わせる	
	7 カーテンを開けっ放しで、女性のオムツ交換をしていた。	
	8 カーテンもせず、廊下から丸見えの状態で、すぐ側にパンツを脱がせっぱなし。	
	9 下着を履いているかどうか、ズボンを下げて確かめる。	
	10 下着をおろした状態のまま、ズボンを履かされていた。	
	11 入浴、排泄等、身体介護で恥ずかしい、嫌だと感じたことがあった。	
	12 女性看護師に「女として恥ずかしいことをされた」と言っていた。	
	13 いきなり懐に手を入れ、脇の下を触る。	
	14 男性看護師が母のオムツ替えに来たとき、他の入所者の性的なことを話題に挙げて話をしていたようだ。	
	15 男性スタッフにお風呂や下の世話をしてもらうこと。	
	16 男性が入浴介助をしてくれることに戸惑った。	
	17 短期入所の身体検査の際、傷の有無を体中調べられ、肛門まで見られた父はどんなに恥ずかしい思いをしたか。	

区分	具体例	チェック
経済的虐待	1 日常的に使用するお金を制限。	
	2 金銭管理契約の不履行。	
	3 金銭管理を施設等に任せるように強要する。	
	4 金銭・財産等の着服・窃盗等。	
	5 金銭・財産等の一時的な無断流用等	
	6 財産を無断で処分。	
	7 不本意な寄付。	
	9 高齢者に者を買わせる（本人が使用しないもの。本来、施設が負担すべきもの等）。	
	10 ヘルパーさんに金品を要求された。	
	11 出金日が決まっていて、好きなときにおろせない。	
	12 父は見聞きが満足に出来ないのに、かなり高額なテレビ使用量を取られている。	
	13 刺激を与える事を理由に、見てもいないテレビの利用料を1日630円も取られている。	
	14 不当な料金を請求されている。	
	15 事前連絡なしに、お小遣い預かり金でゴム印を購入されていた。	
	16 お風呂に入っていないのに、料金を取られた。	

付録 2-B-2. 事実確認票

1 施設につき 1 枚

管理番号

問 3 市町村における事実確認調査状況
1-1) 事実確認調査の開始日

問 2 相談・通報
2) 相談・通報が寄せられた施設・事業所のサービス種別

事実確認実施準備確認票

作成者： _____ 平成 ____ 月 ____ 日

1 事実確認の日程・対象施設

実施日時	平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () : ____ : ____ / 回目		
法人名	代表者		
施設名			
施設種別	<input type="checkbox"/> 特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 介護老人保健施設 <input type="checkbox"/> 介護医療院・介護療養型医療施設 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 <input type="checkbox"/> （住宅型）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> （介護付き）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護等 <input type="checkbox"/> 軽費老人ホーム <input type="checkbox"/> 養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 短期入所施設 <input type="checkbox"/> 訪問介護等 <input type="checkbox"/> 通所介護等 <input type="checkbox"/> 居宅介護支援等 <input type="checkbox"/> その他 (_____)		
事業所番号	管理者		
所在地			
電話番号	ファクシミリ		
備考			

2 対象施設への連絡

連絡日	平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () 時 ____ 分		
連絡者	相手氏名		
伝達内容	<input type="checkbox"/> 虐待に関する通報があったこと。 <input type="checkbox"/> 事実確認の為事業所に訪問すること。(____ 月 ____ 日 ____ 時から ____ 時 ____ 分) <input type="checkbox"/> 虐待をされた疑いがある高齢者の状況を確認すること。 <input type="checkbox"/> 調査の進展状況により施設関係者から聴取をおこなう場合があること。		
備考			

3 事実確認参加職員

	氏名	所属	職種	役割
①				統括
②				
③				
④				
⑤				

4 携帯品・使用機材

<input type="checkbox"/> 身分証明書（担当者全員）	<input type="checkbox"/> ICレコーダー・録音テープ
<input type="checkbox"/> 「事実確認通知（必要があれば）」	(____ 台) (<input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> テープ)

問 6 虐待事例の概要
2) 虐待があった施設・事業所のサービス種別

<input type="checkbox"/> 事実確認票 (部) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> カメラ (台) (<input type="checkbox"/> フィルム・メモ리카ード <input type="checkbox"/> 電池)
--

5 事実確認実施手順確認

		担当者	備考
1	訪問の目的・職務の説明		
2	調査事項についての説明		
3	高齢者の権利についての説明		
4	施設従事者等の権利の説明		
5	情報保護の説明		
6	書類調査		
7	聞き取り調査		
8	総括		

6 被虐待者（疑いも含む）確認対象者

	氏名	虐待の種別	担当者	備考
1				
2				
3				
4				

附 1 事例ごとの被虐待者・虐待者数
2) 虐待者の人数
※コアメンバー会議録等で人数確定したら更新

7 聴取対象職員（虐待を行った疑いがある職員の、虐待者の欄には○を記入）

	氏名	地位・職種	担当者	虐待者
1		施設管理者		
2				
3				
4				
5				

8 調査必要書類（事実確認を行う際に必ず確認を行う書類とその担当者を記入）

	書類名	担当者	備考
1			
2			
3			
4			
5			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（身体的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容		
通報	確認	内容
1		あざ、傷、火傷等がある。
2		叩く、蹴る、つねる等の暴力がある。
3		ベッド等から降りられないように、体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。
4		ベッド等に降りられないように、柵等をしている。
5		立ち上がれないように、イス・車椅子に体・四肢を、ひも・ベルト等で固定。
6		立ち上がれないような、イス・車椅子を使用する。
7		点滴・経管栄養等の医療行為のために、四肢を、ひも・ベルト等で固定する。
8		手足の機能を制限するミトン型の手袋等を使用する。
9		脱衣・オムツはずし等を制限するため、つなぎ服を使用する。
10		行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に使用する。
11		自分で扉を開けられない部屋に隔離する。
12		その他
事実確認の証拠		
①	<input type="checkbox"/> なし	
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由	
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況	
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付	
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付	
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑪	<input type="checkbox"/> 身体拘束の理由の記録（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））	
⑫	<input type="checkbox"/> 身体拘束の同意書（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））	
⑬	<input type="checkbox"/> 抗精神薬処方箋（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））	
⑭	<input type="checkbox"/> 証言（誰が）※「聞き取り調査票」参照	
⑮	<input type="checkbox"/> その他	
備考		

このシートを作成した高齢者のうち、「事実確認時の指示・指導等の内容」に被虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の高齢者のデータを調査票に流し込む
・チェックがついている内容またはその他を具体的な虐待の内容に転記
・3～11 に該当する場合は身体拘束有とする

事実確認調査票（放棄・放任）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			入浴していない。髪・ひげ、爪が伸びている。髪・皮膚・爪が汚れている。等
2			トイレを使用できるのにオムツを使う。オムツが汚れているのに放置している。等
3			水分補給、食事量・質（消費期限等）が不十分。
4			衣服を汚れた（破れた）ままにしている。 理由も無くいつも同じ服を着せている。 季節に合わない服を着せている。
5			長時間、必要な介護等が行われていない。
6			適切な医療を受けさせていない。
7			必要な眼鏡、義歯、補聴器等がない。
8			ナースコール等を使用させていない。ナースコールを意図的に無視する。
9			頼まれたことを意図的に行わない。
10			汚い・異臭がする、暑すぎる・寒すぎる等、不衛生・劣悪な生活環境がある。
11			他利用者からの暴力等に対策を講じていない。
12			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由 ））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況 ）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が ）※「聞き取り調査票」参照		
⑫	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（心理的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容		
	通報	確認
1		怒鳴る。暴言を吐く、罵る。
2		脅す。
3		嫌がらせをする。
4		車椅子やベッドを蹴る。
5		排泄行為等の失敗を嘲笑する。
6		からかったり、侮辱的なことを言う。
7		人前で恥をかかせる。
8		話しかけ・ナースコール等を意図的に無視をする。
9		侮辱的な子供扱い。
10		他者との交流を制限されている。
11		他利用者からの暴力等に対策を講じていない。
12		その他
事実確認の証拠		虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし	
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由 ））	
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況 ）	
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が ）※「聞き取り調査票」参照	
⑫	<input type="checkbox"/> その他	
備考		

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（性的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			本人の同意のない性的行為やその強要。
2			本人の意に反して性的な話をする・聞く。
3			キス、性器等への接触
4			下半身を露出し放置
5			上半身を露出し放置（女性の場合）
6			猥褻な行為を行わせる
7			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が） ※「聞き取り調査票」参照		
⑫	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（経済的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			日常的に使用するお金を制限。
2			金銭管理契約の不履行。
3			金銭管理を施設等に任せるように強要する。
4			金銭・財産等の着服・窃盗等。
5			金銭・財産等の一時的な無断流用等。
6			財産を無断で処分。
7			不本意な寄付。
8			高齢者に物を買わせる (本人が使用しないもの。本来、施設が負担すべきもの等)。
9			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 目視等 (確認時の状況)		
③	<input type="checkbox"/> 看護記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
④	<input type="checkbox"/> 介護記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑤	<input type="checkbox"/> 生活相談記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑥	<input type="checkbox"/> 事故報告書 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑦	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑧	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑨	<input type="checkbox"/> 金銭管理・寄付契約書等 (種類) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑩	<input type="checkbox"/> 通帳等 (種類) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑪	<input type="checkbox"/> 出納帳		
⑫	<input type="checkbox"/> 領収書 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑬	<input type="checkbox"/> 証言 (誰が) ※「聞き取り調査票」参照		
⑭	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（虐待ではないが不適切な事例）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容（※虐待相談受付票から転記）			
	通報	確認	内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由 ））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況 ）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑩	<input type="checkbox"/> 証言（誰が ）※「聞き取り調査票」参照		
⑪	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

高齢者聞き取り・観察調査票

担当者:

1 聞き取り調査対象高齢者

氏名		生年月日	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大
年齢	歳	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/>
介護認定	<input type="checkbox"/> 要介護 () <input type="checkbox"/> 要支援 () <input type="checkbox"/> その他		
認知症	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (日常生活自立度)		
寝たきり度	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> J <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> 不明		
居所			

このシートを作成した高齢者のうち、「事実確認時の指示・指導等の内容」に被虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の高齢者のデータを調査票に流し込む
 附2 被虐待高齢者
 1) 性別
 2) 年齢階級
 3) 要支援・要介護状態区分
 4) 認知症日常生活自立度区分
 5) 介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

2 聞き取り内容 (ゆっくり、端的に問いかけ、回答はゆっくり待つ。反応があれば様子などを記載してください。)

氏名		年齢	歳
生年月日	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 昭 年 月 日 <input type="checkbox"/> わからない		
表情	<input type="checkbox"/> 硬い <input type="checkbox"/> 柔らかい <input type="checkbox"/> 読み取れない	質問への回答	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
保護訴え			
1 施設での生活	ここ(施設)での生活はいかがですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	ご飯はおいしいですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	お風呂は気持ちよく入っていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	時々、外出はされていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	夜はよく眠れていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	寒い(暑い)ことはないですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
2 虐待(怖いこと等)	職員の方達はやさしいですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員の方は呼ぶとすぐ来てくれますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員の方に怒られることはありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	何か怖いこと等がありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	他の人が叩かれているところを見たことがありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員に叩かれることはありませんか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
3 要望・その他	なにかして欲しいことはありませんか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	

相手 1 名につき 1 枚

管理番号

職員聞き取り調査票（一般職員用）

担当者： _____ / 作成日：平成 ____ 月 ____ 日

所要時間： ____ 時 ____ 分 ~ ____ 時 ____ 分

1 対象者

氏名		職種	
勤続年数		性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

2 聞き取り内容

		はい	いいえ
1	仕事は大変ですか。（ねぎらい）		
2	仕事をしていて疲れたとか、ストレスを感じていますか。		
3	施設の中の雰囲気は明るいと感じますか。		
4	高齢者虐待防止法の内容を知っていますか。		
5	神奈川県が作成した、「施設職員の為の高齢者虐待防止の手引き」を知っていますか。		
6	手引きをご覧になったことはありますか。		
7	施設内で、閲覧したのですか。		
8	施設で、何か高齢者虐待防止や人権擁護に関する取り組みを行っていますか。		
9	虐待防止（権利擁護）についての職員会議を開催していますか。		
10	外部の研修などに参加していますか。		
11	どのような研修に参加していますか。		
12	施設内で、研修が行われていますか。		
13	どのような研修が行われていますか。		
14	施設に虐待に関する、マニュアル等がありますか。		
15	虐待が起きたときの報告手順などが、施設で決まっていますか。		
16	利用者の方から怒られたり、怒鳴られたりすることはありますか。		
17	利用者の方から叩かれるようなことはありますか。		
18	他の職員がご利用者から怒られたり、怒鳴られたことを見たり、噂で聞いたことはありますか。		

このシートを作成した職員のうち、別帳票に虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の職員のデータを調査票に流し込む
 附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者
 1) 年齢階級
 2) 職名または職種
 3) 性別

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.2) 職員に対する虐待防止に関する研修の実施

19	他の職員がご利用者から叩かれているのを見たり、噂で聞いたことはありますか。			
20	あなたは利用者を、怒鳴ったりしたことはありますか。			
21	他の職員が利用者を怒鳴っているのを見たり、行っているという噂を聞いたりすることはありますか。			
22	この施設で以前虐待が行われたという噂等を聞いたことはありますか。			
23	聞いた場合、どのような内容ですか。			
24	利用者が特定の職員を怖がっているという噂を聞いたことはありますか。			
25	入浴時や排泄介助時に身体の傷やあざ等のチェックをしていますか。			
26	傷等があった場合どのように対処していますか。			
27	傷等があった場合家族への報告はしていますか。			
28	傷等があった場合内容を記録していますか。			
29	虐待を疑うような、傷等を見たことがありますか。			
30	医師の判断を要するような利用者の事故はありましたか。			
31	特に事故または、けがが多いと思う利用者の方はいますか。			
32	施設では事故が発生した場合、市町村や県に報告していますか。			
33	こちらの施設では、介護・看護の記録はどこまで決裁していますか。			
34	施設では、上司が介護・看護の記録を見て、何らかの指導や指示はありますか。			
35	あなたはこちらの職場に不満はありますか。			
36	あなたは仕事に不満はありますか。			
37	あるとすれば、どのような点ですか。（傾聴）			
38	施設の職員の定着率が悪いと感じたことはありますか。			
39	職員会議等で、職員が自由に発言できますか。			
40	あなたはこちらの職場で不公平だと感じたりしたことはありますか。			

問 6 虐待事例の概要
4.4)虐待を行った職員の課題
g)待遇への不満
※35, 36, 40 のいずれかに当てはまれば「あり」とする

41	この施設では、職員同士のコミュニケーションは取りやすいですか。				
42	あなたは業務負担が大きいと感じますか。				
以下は個別に聞き取るか、ここまでの聞き取り内容から当てはまる場合はチェックをしてください。					
43	倫理観・理念が欠如しているか				
44	虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識が不足しているか				
45	高齢者介護や認知症ケア等に関する知識・技術が不足しているか				
46	ストレス・感情コントロール				
47	性格や資質の問題				
48	その他				

問 6 虐待事例の概要
4.3) 組織運営上の課題
選択肢 j) に使用

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
d) 職員の業務負担の大きさ

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
43→a), 44→b), 45→c), 46→e),
47→f) に対応

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
ここに記載があれば h) = あり、とし
た上で書かれた文章を転記

※お礼：「お忙しい中、ご協力ありがとうございました。」

相手 1 名につき 1 枚

管理番号

職員聞き取り調査票（管理者用）

担当者： _____ / 作成日：平成 ____ 月 ____ 日

所要時間： ____ 時 ____ 分 ~ ____ 時 ____ 分

1 対象者

氏名		職種	
勤続年数		性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

2 聞き取り内容

		はい	いいえ
1	施設の中をご覧になることはありますか。		
2	施設の中の雰囲気は明るいと感じますか。		
3	高齢者虐待防止法の内容をご存知ですか。		
4	神奈川県が作成した、「施設職員の為の高齢者虐待防止の手引き」をご存知ですか。		
5	手引きをご覧になったことはありますか。		
6	施設内で、回覧しましたか。		
7	施設で、何か高齢者虐待防止や人権擁護に関する取り組みを行っていますか。		
8	虐待防止（権利擁護）についての職員会議を開催していますか。		
9	職員の方を外部の研修などに参加をしてもらっていますか。		
10	どのような研修に参加してもらっていますか。		
11	施設内で、研修を開催していますか。		
12	どのような研修を開催していますか。		
13	施設内で、管理者研修を開催していますか。		
14	どのような研修を開催していますか。		
13	施設に虐待に関する、マニュアル等がありますか。		
14	虐待が起きたときの報告手順などが、施設で決まっていますか。		
15	利用者の方から怒られたり、怒鳴られたりすることはありますか。		
16	利用者の方から叩かれるようなことはありますか。		
17	他の職員がご利用者から怒られたり、怒鳴られたことを見たり、噂で聞いたことはありますか。		

このシートを作成した管理者のうち、別帳票に虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の職員のデータを調査票に流し込む
 附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者
 1) 年齢階級
 2) 職名または職種
 3) 性別

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.3) 虐待防止委員会の設置

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.1) 管理者の虐待防止に関する研修の実施

18	他の職員がご利用者から叩かれているのを見たり、噂で聞いたことはありますか。			
19	利用者を、怒鳴ったりしたことはありますか。			
20	他の職員が利用者を怒鳴っているのを見たり、行っているという噂を聞いたりすることはありますか。			
21	この施設で以前虐待が行われたという噂等を聞いたことはありますか。			
22	聞いた場合、どのような内容ですか。			
23	利用者が特定の職員を怖がっているという噂を聞いたことはありますか。			
24	入浴時や排泄介助時に身体の傷やあざ等のチェックをしていますか。			
25	傷等があった場合どのように対処していますか。			
26	傷等があった場合家族への報告はしていますか。			
27	傷等があった場合内容を記録していますか。			
28	虐待を疑うような、傷等を見たことがありますか。			
29	医師の判断を要するような利用者の事故はありましたか。			
30	特に事故または、けがが多いと思う利用者の方はいますか。			
31	施設では事故が発生した場合、市町村や県に報告していますか。			
32	こちらの施設では、介護・看護の記録はどこまで決裁していますか。			
33	あなたが、介護・看護の記録を見て、何らかの指導や指示をすることはありますか。			
34	あなたは職場に対する不満を聞くことはありますか。			
35	あるとすれば、どのような内容ですか。(傾聴)			
36	施設の職員の定着率が悪いと感じたことはありますか。			
37	職員会議等で、職員は自由に発言できますか。			
38	管理者として、問題があると考えている職員はいますか。			
39	経営層の倫理観・理念が欠如していると思いませんか。			

40	経営層の虐待や身体拘束に関する知識は十分だと思いますか。	問 6 虐待事例の概要 4.2) 運営法人の課題 33~44 を使用		
41	経営層は現場の実態を十分理解していると思いますか。			
42	経営層による業務環境変化への対応取組は十分だと思いますか。			
43	経営状態は安定していると思いますか。			
44	その他に、経営層について課題と感ずることはありますか。			
45	この施設の介護方針は適切だと思いますか。	問 6 虐待事例の概要 4.3) 組織運営上の課題 7, 9~12, 31, 33, 37, 45~50 を使用		
46	この施設では、利用者へのアセスメントは十分に行なわれていますか。			
47	この施設では、チームケア体制・連携体制は十分ですか。			
48	この施設では、開かれた施設・事業所運営がなされていると思いますか。			
49	この施設では、業務負担の軽減に向けた取組は十分に行われていますか。			
50	その他に、組織運営について課題と感ずることはありますか。			
51	その他			

※お礼：「お忙しい中、ご協力ありがとうございました。」

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認時の指示・指導等の内容

1 被虐待者の状況

本人要望	
健康状態	
精神状態	
生活状況	
その他	

2 虐待の確認

<input type="checkbox"/> 明らかな虐待が確認できた	<input type="checkbox"/> 事業者から虐待の報告があった → 指示・指導等
<input type="checkbox"/> 虐待は認められないが改善を要する → 指示	
<input type="checkbox"/> 事実確認のみを行い、担当課にもどり検討	
指示・指導の内容（指示・指導を行った場合）	

問 3 市町村における事実確認調査状況
1-2) 事実確認調査を行った結果

3 事実確認の結果と今後の対応（市町村に戻り、責任者とともに検討し該当項目にチェック）

<input type="checkbox"/>	虐待が認められた		
<input type="checkbox"/>	虐待が確認できなかった	<input type="checkbox"/>	虐待が確認できなかったが指示・指導が必要
虐待の判断に至らなかった（理由：）			
悪質なケースであり、〇〇県との連携をもとに迅速な対応が必要			
<input type="checkbox"/>	施設・事業者が事実確認に応じない		
<input type="checkbox"/>	重篤な事態が想定され、早急に老人福祉法・介護保険法に基づく指導等が必要		
<input type="checkbox"/>	過去にも虐待が起きた施設・事業者である （詳細：）		
<input type="checkbox"/>	指導等を繰り返している施設・事業者で県として介入する必要がある （詳細：）		
〇〇県と共同して事実確認を行う必要がある			
介護保険法の規定に基づく権限行使を行う（開始日： 年 月 日）			
<input type="checkbox"/>	報告徴収、質問、立入検査を行う		
<input type="checkbox"/>	改善勧告を行う		

問 6 虐待事例の概要
5) 当該施設等に対する過去の指導等

問 4 都道府県への報告状況
2-1) 市町村で調査を行ったが虐待の事実の判断に至らず、都道府県に調査を依頼

問 8 介護保険法の規定に基づく権限の行使

問 5 都道府県における事実確認調査状況
1) 市町村から「都道府県と共同して事実確認を行う必要がある」と報告された事例

	改善勧告に従わない場合の公表を行う
	改善命令を行う
	指定の効力の全部又は一部停止を行う
	指定取消を行う
	現在対応中
	その他（ ）
老人福祉法の規定に基づく権限行使を行う（開始日： 年 月 日）	
	報告徴収、質問、立入検査
	改善命令
	事業の制限、停止、廃止
	認可取消
	現在対応中
	その他（ ）
老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応（開始日： 年 月 日）	
	施設等に対する指導
	施設等からの改善計画の提出を依頼する
	虐待を行った養介護施設従事者等への注意・指導
	介護保険法の規定に基づく勧告・命令・処分（主に地域密着型）
	その他（ ）

問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使

問7 老人福祉法、介護保険法上の
権限行使以外の対応

4 決定権者（日付・職位・氏名）

平成 年 月 日

印

付録 2-B-3. リスクアセスメント

管理番号=1施設(1ケース)が1番号
 対象者氏名=非虐待者氏名(1人につきこのシート1枚作成)

管理番号
 対象者氏名

高齢者虐待リスク評価票

被虐待者の状況	
<input type="checkbox"/> ア 被虐待者自身による意思疎通が可能である ⇒ 本人の訴え、客観的な事実と照らし合わせて、現在の危険度を評価すること。	
<input type="checkbox"/> イ 認知症等により、正確な意思の疎通が困難である ⇒ 本人の訴えを基礎とし、聴取情報ならびに看護・介護記録、事故報告等の客観的な記録情報と照らし合わせて評価すること。また、既に重症化している可能性が高いことに注意すること。	
客観的な事実確認により得た情報	危険度
1、当事者が保護を求めている	A (緊急度：高) 速やかに保護等の緊急措置を検討する必要がある
<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている	
<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている	
2、すでに重大な結果が生じている	
<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷(血腫・骨折)、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況	
3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	B (緊急度：中) 集中的な支援のほか、保護等の緊急措置の検討が必要である
<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「〇〇が怖い」「何も食べていない」等の訴え	
<input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え	
4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況	
5、繰り返されるおそれが高い	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置を検討する必要がある
<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し	
<input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避	
<input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定、判断力の低下、非現実的な認識	
6、過去に虐待をされた旨で訴えがある(現在進行形でない)	問6 虐待事例の概要 4.5) 被虐待高齢者の状況 a) 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回→16 b) 認知症によるBPSD(行動・心理症状)がある→12 c) 医療依存度が高い→17 d) 意思表示が困難→上の「ア」 e) 職員に暴力・暴言を行う→12 f) 他の利用者とのトラブルが多い→18 g) その他→14、15
<input type="checkbox"/> ⑩ 「昔、〇〇をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など	
7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑪ 認知症程度：I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M	
<input type="checkbox"/> ⑫ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など	
<input type="checkbox"/> ⑬ 寝たきり度：J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2	
<input type="checkbox"/> ⑭ 性格の問題(偏り)：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など	
<input type="checkbox"/> ⑮ 精神疾患() 依存症()	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑯ 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑰ 医療依存度が高い	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑱ 他の利用者とのトラブルが多い	
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑲ 被虐待者への拒否的感情や態度がある	
<input type="checkbox"/> ⑳ 重い介護負担感や介護疲れ	
<input type="checkbox"/> ㉑ 認知症や介護に関する知識・技術不足	
<input type="checkbox"/> ㉒ 性格の問題(偏り)：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的	
<input type="checkbox"/> ㉓ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など	
<input type="checkbox"/> ㉔ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存	
9、虐待につながる家庭状況がある	

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ㉔ 長期にわたる虐待者・被虐待者間の不和の関係 | |
| <input type="checkbox"/> ㉕ 虐待者・被虐待者の共依存関係 | |
| <input type="checkbox"/> ㉖ 虐待者が暴力の被害者 | |
| <input type="checkbox"/> ㉗ その他の家族・親族の無関心 | |
| <input type="checkbox"/> ㉘ 住環境の悪さ：狭い 被虐待者の居室なし 非衛生的 | |

付録 2-B-4. 会議記録
コアメンバー会議用帳票

第 回コアメンバー会議録

管理番号

本人氏名

記録者氏名

問 6 虐待事例の概要

1) 虐待の事実が確認された期日

(1~5いずれかが有の場合にデータ流し込み)

会議日時: 年 月 日 時 分~ 時 分

虐待事実の判断 ※疑いの場合は事実確認の継続必須 ※一時的解消の場合には再発可能性に留意	1. 身体的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠	附 3 虐待の種別・類型 1) 虐待の種別		帳票等 () 参照
	2. 放棄・放任	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠			帳票等 () 参照
	3. 心理的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
具体的内容と判断根拠			帳票等 () 参照	
4) 虐待の深刻度	4. 性的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠			帳票等 () 参照
	5. 経済的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
具体的内容と判断根拠			帳票等 () 参照	
深刻度区分 [※] ※「深刻度指標」=「被虐待高齢者が虐待によって被害を受けた程度」	<input type="checkbox"/> 4. 最重度 生命・身体・生活の危機的状況	<input type="checkbox"/> 3. 重度 重大な健康被害が生じている、生活の継続に重大な支障が生じている	<input type="checkbox"/> 2. 中度 虐待が繰り返されている、心身への被害・影響や生活に支障が出ている状態	<input type="checkbox"/> 1. 軽度 本人意思を無視した行為や介護者の都合に合わせたケアが行われている、軽度の被害・影響が生じている状態
被虐待者の死亡の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
本人の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
介護者の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
その他家族・後見人等の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
背景要因	高齢者本人の因子 (不明・未確認の場合は理由を記述)		<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	関係性・世帯の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	介護者・親族の因子		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の因子 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	因子の確認が「その他」の場合の具体的内容			
強み・ストレングス	高齢者本人の強み		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	関係性・世帯の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	介護者・親族の強み		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認

附 3 虐待の種別・類型
4) 虐待の深刻度

附 3 虐待の種別・類型
5) 被虐待者の死亡の有無

問 6 虐待事例の概要
3) 虐待対応ケース会議での発生要因の分析

問 6 虐待事例の概要
4.1) 虐待の発生要因
ケース会議の内容と結合して流し込み

パターン（行動・思考・問題解決方法等）
不明 未確認

緊急性の判断（緊急対応の必要な状況の確認）※共通の指標（リスクアセスメントシート）等帳票を用いている場合は、その帳票を参照
 緊急性高い（「緊急分離・保護」実施）低い（「分離・保護」検討）不明（定期的な状況確認・支援/分離・保護の可能性の検討）

帳票等（ ）参照

支援内容 ※都道府県とともに協議

	悪質なケースであり、〇〇県との連携をもとに迅速な対応が必要である
	施設・事業者が事実確認に応じない
	重篤な事態が想定され、早急に老人福祉法・介護保険法による指導監査等が必要
	過去にも虐待が起きた施設・事業者である (詳細:)
	指導等を繰り返している施設・事業者で県として介入することが必要 (詳細:)
	〇〇県と共同して事実確認を行う必要がある
	介護保険法の規定に基づく権限行使を行う（開始日: 年 月 日）
	報告徴収、質問、立入検査を行う
	改善勧告を行う
	改善勧告に従わない場合の公表を行う
	改善命令を行う
	指定の効力の全部又は一部停止を行う
	指定取消を行う
	現在対応中
	その他 ()
	老人福祉法の規定に基づく権限行使を行う（開始日: 年 月 日）
	報告徴収、質問、立入検査
	改善命令
	事業の制限、停止、廃止
	認可取消
	現在対応中
	その他 ()
	老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応（開始日: 年 月 日）
	施設等に対する指導
	施設等からの改善計画の提出を依頼する
	虐待を行った養介護施設従事者等への注意・指導
	介護保険法の規定に基づく勧告・命令・処分（主に地域密着型）
	その他 ()

問8 介護保険法の規定に基づく権限の行使

問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使

問7 老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応

※ケース会議用帳票はコアメンバー会議用帳票と同フォーマットのため割愛

管理番号

供 覧

評価ケース検討会議記録

開催日	年 月 日 ()
開催時間	時 分 ~ 時 分
開催場所	

検討対象 氏 名			ケース 提出者	
	所属 (職種)	氏 名	所属 (職種)	氏 名
会 議 出 席 者				
経 過				
検討課題				
検討内容	問 10 市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置			
市町村・都道府 県の対応に 対して施設・事 業所等で 行われた措置	<input type="checkbox"/> 改善計画の提出 (提出日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 老人保健法、介護保険法の規定に基づく勧告・命令等への対応 (対応日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> その他 ()			
モニタリング 評価	<input type="checkbox"/> 施設訪問による確認 <input type="checkbox"/> 施設からの報告 <input type="checkbox"/> その他 ()			
老人福祉法、介 護保険法に 基づく措置を 行った場合の 具体的内容	問 12 老人福祉法、介護保険法に基づく措置を行った事例の具体的内容			

問 10 市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置

問 11 改善取組のモニタリング評価

問 12 老人福祉法、介護保険法に基づく措置を行った事例の具体的内容

評価結果のまとめ	(年 月 日現在の状況) <input type="checkbox"/> 虐待対応の終結 (終結理由：) <input type="checkbox"/> 現在の虐待対応計画内容に基づき対応を継続 (現在の状況：)
結 論	
残された課題	
次回開催日	年 月 日 () を予定

問13 調査対象年度末日での状況

※シートが作成されるたびに、終結/継続を判定し、終結日、継続時の選択内容を更新

※ケース進行管理表は養護者用帳票と同フォーマットのため割愛

付録 1. 全体傾向の分析で使用した項目一覧

従事者による虐待事例の分析に使用した設問項目（B票）

番号	設問	回答
問 6 虐待事例の概要	2) 虐待があった施設・事業所のサービス種別	a) 特別養護老人ホーム b) 介護老人保健施設 c) 介護医療院・介護療養型医療施設 d) 認知症対応型共同生活介護 e) (住宅型)有料老人ホーム f) (介護付き)有料老人ホーム g) 小規模多機能型居宅介護等 h) 軽費老人ホーム i) 養護老人ホーム j) 短期入所施設 k) 訪問介護等 l) 通所介護等 m) 居宅介護支援等 n) その他
	4-2) 運営法人の課題	a) 経営層の倫理観・理念の欠如 b) 経営層の虐待や身体拘束に関する知識不足 c) 経営層の現場の実態の理解不足 d) 業務環境変化への対応取組が不十分 e) 不安定な経営状態
	4-3) 組織運営の課題	a) 介護方針の不適切さ b) 高齢者へのアセスメントが不十分 c) チームケア体制・連携体制が不十分 d) 虐待防止や身体拘束廃止に向けた取組が不十分 e) 事故や苦情対応の体制が不十分 f) 開かれた施設・事業所運営がなされていない g) 業務負担軽減に向けた取組が不十分 h) 職員の指導管理体制が不十分 i) 職員研修の機会や体制が不十分 j) 職員同士の関係・コミュニケーションが取りにくい k) 職員が相談できる体制が不十分
	4-4) 虐待を行った職員の課題	a) 職員の倫理観・理念の欠如 b) 職員の虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識の不足 c) 職員の高齢者介護や認知症ケア等に関する知識・技術不足 d) 職員の業務負担の大きさ e) 職員のストレス・感情コントロール f) 職員の性格や資質の問題 g) 待遇への不満 h) その他
	4-5) 被虐待高齢者の状況	a) 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回 b) 認知症による BPSD（行動・心理症状）がある

		c) 医療依存度が高い d) 意思表示が困難 e) 職員に暴力・暴言を行う f) 他の利用者とのトラブルが多い
	5) 過去の指導等	5)-1 当該施設等における過去の虐待の有無 5)-2 当該施設等に対する過去の指導等の有無
問 7 老人福祉法、介護 保険法上の権限行 使以外の対応	1) 施設に対する指導 2) 改善計画の提出依頼 3) 注意・指導	
問 8 介護保険法の規定 に基づく権限の行使	1) 報告徴収 2) 改善勧告 3) 公表 4) 改善命令 5) 指定効力停止 6) 指定取消 7) 現在対応中	市町村が実施 /都道府県が実施 /市町村・都道府県がそれぞれ実施 /無
問 9 老人福祉法の規定 に基づく権限の行使	1) 報告徴収 2) 改善命令 3) 事業制限 4) 認可取り消し 5) 現在対応中	市町村が実施 /都道府県が実施 /無
問 10 市町村・都道府県の 対応に対して当該養 介護施設等において 行われた措置	1) 改善計画の提出 2) 法に基づく勧告への対 応	有/無
問 11 改善取組のモニタリ ング評価	1) 施設訪問 2) 施設からの報告	
問 13 調査対象年度末日 での状況	1) 対応状況	対応終結/継続

従事者による虐待事例の分析に使用した設問項目（附 B 票）

番号	設問	回答
附 1 事例ごとの被虐待 者・虐待者数	1) 被虐待者の人数 2) 虐待者の人数	(数値で回答) (数値で回答)
附 2 被虐待高齢者	1) 被虐待者の性別 2) 被虐待者の年齢階級	男/女/不明 65 歳未満障害者 65～69 歳

		70～74 歳 75～79 歳 80～84 歳 85～89 歳 90～94 歳 95～99 歳 100 歳以上 不明
	3) 要支援・要介護状態区分	自立 要支援 1 要支援 2 要介護 1 要介護 2 要介護 3 要介護 4 要介護 5 不明
	4) 認知症日常生活自立度区分	自立または認知症なし 自立度 I 自立度 II 自立度 III 自立度 IV 自立度 M 認知症あるが自立度は不明 認知症の有無が不明
	5) 介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	自立 J A B C 不明
附 3 虐待の種別・類型	1) 虐待種別	a) 身体的虐待 b) 介護等放棄 c) 心理的虐待 d) 性的虐待 e) 経済的虐待
	2) 身体拘束	有/無
	5) 死亡の有無	有/無
附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者	1) 虐待者の年齢階級	～29 歳 30～39 歳 40～49 歳 50～59 歳 60 歳以上

		不明
	2) 被虐待者の職名または職種	介護職（介護福祉士） 介護職（介護福祉士以外） 介護職（介護福祉士か不明） 看護職 管理職 施設長 経営者・開設者 その他 不明
	3) 被虐待者の性別	男/女/その他

養護者による虐待事例の分析に使用した設問項目（C票）

番号	設問	回答
問 4 事実確認調査 の結果	3) この事例での被虐待者の人数	(数値で回答)
	4) この事例での虐待者(養護者)の人数	(数値で回答)
	6)-2 虐待者側の 要因	a) 介護疲れ・介護ストレス b) 虐待者の介護力の低下や不足 c) 孤立・補助介護者の不在等 d) 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー e) 知識や情報の不足 f) 理解力の不足や低下 g) 虐待者の外部サービス利用への抵抗感 h) 障害・疾病 i) 障害疑い・疾病疑い j) 精神状態が安定していない k) ひきこもり l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係 m) 家族環境（生育歴・虐待の連鎖） n) 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ o) 飲酒の影響 p) 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）
	6)-3 被虐待者の状況	a) 認知症の症状 b) 精神障害（疑いを含む）、高次脳機能障害、知的障害、認知機能の低下 c) 身体的自立度の低さ d) 排泄介助の困難さ e) 外部サービス利用に抵抗感がある f) 障害・疾病 g) 障害疑い・疾病疑い

	6)-4 家庭の要因	a) 経済的困窮・債務（経済的問題） b) 家庭内の経済的利害関係（財産、相続） c) （虐待者以外の）他家族との関係の悪さほか家族関係の問題 d) （虐待者以外の）配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力
	6)-5 その他	a) ケアサービスの不足の問題 b) ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題
問 5 虐待の内容	1) 虐待の種別・類型	a) 身体的虐待 b) 介護・世話の放棄、放任 c) 心理的虐待 d) 性的虐待 e) 経済的虐待
	3) 虐待の深刻度	1（軽度）/2（中度）/3（重度）/4（最重度）
問 6 被虐待者 ・虐待者の状況	1) 被虐待者の性別	男/女/不明
	2) 被虐待者の年齢	65～69 歳 70～74 歳 75～79 歳 80～84 歳 85～89 歳 90 歳以上 不明
	3) 被虐待者の介護保険の申請	未申請/申請中/認定済み/認定非該当(自立)/不明
	4) 介護保険認定済者の要介護度	要支援 1 要支援 2 要介護 1 要介護 2 要介護 3 要介護 4 要介護 5 不明
	5) 介護保険認定済者の認知症日常生活自立度	自立または認知症なし 自立度 I 自立度 II 自立度 III 自立度 IV 自立度 M 認知症あるが自立度は不明 認知症の有無が不明

6)介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	自立 J A B C 不明
7) 介護保険サービスの利用	介護サービスを受けている 過去受けていたが判断基準では受けていない 過去も含め受けていない 不明
8) 虐待者との同居・別居	虐待者とのみ同居 虐待者及び他家族と同居 虐待者と別居 その他 不明
9) 家族形態	a)単独世帯 b)夫婦のみ世帯 c)未婚（配偶者がいたことがない）の子と同居 d)配偶者と離別・死別等した子と同居 e)子夫婦と同居 f)その他①その他の親族と同居 g)その他②非親族と同居 h)その他③その他 i)不明
11) 虐待者属性 被虐待者から見た続柄	夫 妻 息子 娘 息子の配偶者（嫁） 娘の配偶者（婿） 兄弟姉妹 孫 その他 不明
11) 虐待者属性 年齢	20 歳未満 20～29 歳 30～39 歳 40～49 歳 50～59 歳 60～64 歳 65～69 歳 70～74 歳 75～79 歳

問 7 虐待事例への 対応状況		80～84 歳 85～89 歳 90 歳以上 不明
	1) 分離の有無	a) 被虐待者の保護として虐待者からの分離を行った事例 b) 被虐待者と虐待者を分離していない事例 c) 現在対応について検討・調整中の事例 d) 虐待判断時点で既に分離状態の事例（別居、入院、入所等） e) その他
	2-1) 分離内容	a) 契約による介護保険サービスの利用 b) 老人福祉法に基づくやむを得ない事由等による措置 c) 緊急一時保護 d) 医療機関への一時入院 e) a～d)以外の住まい・施設等の利用 f) 虐待者を高齢者から分離(転居等) g) その他
	2-2) 面会制限	有/無
	3-1) 経過観察以外の対応	行った/経過観察(見守り)のみ
	3-2) 経過観察以外の対応内容	a) 養護者に対する助言・指導 b) 養護者が介護負担軽減のための事業に参加 c) 被虐待者が新たに介護保険サービスを利用 d) 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し e) 被虐待者が介護保険サービス以外のサービスを利用
	4-1) 成年後見制度利用の開始	成年後見制度利用手続き中 調査対象年度以前に成年後見制度利用開始済 調査対象年度内に成年後見制度利用開始済 利用手続きなし
	4-2) 市町村長申立の有無	有/無
	4-3) 日常生活自立支援事業利用の開始	有/無
	5) 養護者支援の取組内容	a) 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり b) 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント c) 他部署多機関等との連携による支援チームの形成 d) 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認 e) 養護者への相談・助言 f) 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整 g) 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整 h) 定期的な訪問によるモニタリング i) 終結の判断
問 8	1) 対応状況の種類	対応継続/終結

調査対象年度末日での状況	
--------------	--

養護者による虐待事例の分析に使用した設問項目（D票）

分類	設問
広報・普及啓発	問 1 養護者による高齢者虐待対応窓口の住民への周知
	問 2 地域包括支援センター等の関係者へ的高齢者虐待に関する研修（調査対象年度中）
	問 3 高齢者虐待について、講演会や市町村広報誌等による、住民への啓発活動（調査対象年度中）
	問 4 居宅介護サービス事業者に高齢者虐待防止法について周知（調査対象年度中）
	問 5 介護保険施設に高齢者虐待防止法について周知（調査対象年度中）
	問 6 独自の高齢者虐待対応のマニュアル、業務指針、対応フロー図等の作成
ネットワーク構築	問 7 民生委員、住民、社会福祉協議会等からなる「早期発見・見守りネットワーク」の構築への取組
	問 8 介護保険サービス事業者等からなる「保健医療福祉サービス介入支援ネットワーク」の構築への取組
	問 9 行政機関、法律関係者、医療機関等からなる「関係専門機関介入支援ネットワーク」の構築への取組
行政連携	問 10 成年後見制度の市区町村長申立が円滑にできるように役所・役場内の体制強化
	問 11 地域における権利擁護・成年後見体制の整備に向けた中核機関の立ち上げ・体制整備
	問 12 高齢者虐待防止法に定める警察署長に対する援助要請等に関する警察署担当者との協議
	問 13 老人福祉法の規定による措置を採るために必要な居室確保のための関係機関との調整
	問 14 高齢者虐待対応・養護者支援が円滑にできるよう生活困窮者支援、DV 担当課等の役所・役場内の体制強化
相談・支援、事後検証	問 15 高齢者虐待対応・養護者支援が円滑にできるよう保健所、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等の関係機関との連携強化
	問 16 虐待を行った養護者に対する相談、指導または助言
	問 17 居宅において日常生活を営むのに支障がありながら、必要な福祉サービス及び保健医療サービスを利用していない高齢者の権利利益の養護を図るための早期発見の取組や相談等
	問 18 終結した虐待事案の事後検証について

付録 2. 作成した標準帳票

付録 2-A. 養護者による虐待の記録用帳票

付録 2-A-1. 相談受付票

被虐待者 1 名につき 1 枚

オレンジ色は追加

自治体独自の管理番号

管理番号

問 1 相談・通報受理日

相談・通報記録票

日 時	年 月 日 ()		時 分 ~ 時 分		(記録主任)
経 路	<input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 ()		相談歴	<input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 継続	
相 談 者	氏 名		男 女	生 年 月 日	年 月 日 (歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他		連絡先	
問 2 相談・通報者	高齢者との関係	<input type="checkbox"/> 介護支援専門員 (ケアマネジャー) <input type="checkbox"/> 介護保険事業所職員 <input type="checkbox"/> 医療機関従事者 <input type="checkbox"/> 近隣住民・知人 <input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 被虐待者本人 <input type="checkbox"/> 家族・親族 <input type="checkbox"/> 虐待者自身 <input type="checkbox"/> 当該市町村行政職員 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 親族 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> サービス提供者 () <input type="checkbox"/> その他			
問 9 養護者の虐待等による死亡事例への該当	合意の有無	調査等協力の意思が <input type="checkbox"/> 無 (匿名) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 条件により一部可 ()			
	死亡事例への該当	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当			
対象の高齢者	氏 名		男 女	生 年 月 日	年 月 日 (歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他		連絡先	
問 6 被虐待者・虐待者の状況 1) 被虐待者性別			不明		不明
	不明時の理由:				
問 6 被虐待者・虐待者の状況 2) 被虐待者年齢					不明
	不明時の理由:				
医療情報 (かかりつけ等)	<input type="checkbox"/> 入院中 (機関:) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
問 6 被虐待者・虐待者の状況 3) 被虐待者の介護保険の申請 4) 介護保険認定済者の要介護度	<input type="checkbox"/> 未申請 <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 要支援: 1・2 <input type="checkbox"/> 要介護: 1・2・3・4・5 (不明時の理由:)				
問 6 被虐待者・虐待者の状況 7) 介護保険サービスの利用 ※調査票では虐待判断時点とあるが、ここでは相談時点として記載	事業所:	氏名:			
	連絡先:	備考:			
	<input type="checkbox"/> 介護サービスを受けている <input type="checkbox"/> 過去受けていたが現時点では受けていない <input type="checkbox"/> 過去も含め受けていない <input type="checkbox"/> 不明 (理由:)				
利用状況	(受けている/受けていた場合の内容)				
	<input type="checkbox"/> 訪問介護 <input type="checkbox"/> 訪問入浴 <input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> 訪問リハビリ <input type="checkbox"/> 通所介護 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ <input type="checkbox"/> 居宅療養管理指導 <input type="checkbox"/> 地域密着型 <input type="checkbox"/> 短期入所 <input type="checkbox"/> 施設 (福祉 <input type="checkbox"/> 保健) <input type="checkbox"/> 福祉用具 <input type="checkbox"/> その他 ()				
経済情報	<input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 預金 (円) <input type="checkbox"/> 扶養 <input type="checkbox"/> 親族 () <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> 年金 (種類:) 受給額: (円) <input type="checkbox"/> 不明				
相談内容	<input type="checkbox"/> 虐待に関する相談 <input type="checkbox"/> 生活不安 (経済) に関する相談 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 健康に関する相談 <input type="checkbox"/> 制度等に関する相談 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	問 6 被虐待者・虐待者の状況 (サービスを受けている/受けていた場合の内容) ※相談時の情報、過去の情報なし				

高齢者の虐待が疑われる内容を含んでいるか 《注意するポイント》 ・発生時期 ・場所 ・加害者とその関係 ・被害状況 ・現状の安全性	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	【記録】 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 問5 虐待の内容 2)具体的な虐待の内容(記入) </div>
	終結 <input type="checkbox"/> 相談者ニーズの解決 <input type="checkbox"/> 他課・他所属に伝達 ()	
本人の意向	<input type="checkbox"/> 在宅生活の継続 <input type="checkbox"/> 一時的な保護 <input type="checkbox"/> 施設入所希望 <input type="checkbox"/> 不明	
疑われる虐待種別	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 介護放棄 <input type="checkbox"/> 経済的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待	
虐待の頻度	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日 <input type="checkbox"/> 週に数回 <input type="checkbox"/> 月に数回 <input type="checkbox"/> 特定の時期 ()	
相談時の危険度	<input type="checkbox"/> A (高) <input type="checkbox"/> B (中) <input type="checkbox"/> C (低) ※「高齢者虐待リスクアセスメント票」の基準より	

主な被虐待高齢者の健康状態 <small>※把握した時点で記載</small>	【歩行】	自立・一部自立・全介助	【整容】	自立・一部自立・全介助	
	【食事】	自立・一部自立・全介助	【洗濯】	自立・一部自立・全介助	
	【調理】	自立・一部自立・全介助	【清掃】	自立・一部自立・全介助	
	【食欲】	旺盛・普通・不振	【着脱】	自立・一部自立・全介助	
	【服薬】	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()	【入浴】	自立・一部自立・全介助	
	【管理】	自己・一部介助・全介助	【睡眠】	多い・普通・少ない	
	【金銭】	自立・一部自立・全介助	【排泄】	自立・一部自立・全介助	
	【買物】	自立・一部自立・全介助	【その他】	()	
	寝たきり度	<input type="checkbox"/> J1 <input type="checkbox"/> J2 <input type="checkbox"/> A1 <input type="checkbox"/> A2 <input type="checkbox"/> B1 <input type="checkbox"/> B2 <input type="checkbox"/> C1 <input type="checkbox"/> C2 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 自立 (不明時の理由:)			
	対人関係	<input type="checkbox"/> 拒否的 <input type="checkbox"/> 攻撃的 <input type="checkbox"/> 協力的 <input type="checkbox"/> その他 ()			
認知症自立度	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> M <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 自立または認知症なし <input type="checkbox"/> 認知症あるが自立度は不明 <input type="checkbox"/> 認知症の有無が不明 (不明時の理由:) <input type="checkbox"/> 徘徊 <input type="checkbox"/> 失禁 <input type="checkbox"/> 異食 <input type="checkbox"/> 見当識 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 意思疎通困難				
主疾患等	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
精神症状	<input type="checkbox"/> 不安 <input type="checkbox"/> 焦燥 <input type="checkbox"/> 抑うつ <input type="checkbox"/> 不穏興奮 <input type="checkbox"/> 幻覚妄想 <input type="checkbox"/> その他				
問題行動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()				
特記事項	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (依存症状等:)				
世帯状況	名前 (虐待者は☑)	続柄	年齢	同居	職業・健康状態・特性等
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
	(不明時の理由:)				
家族形態	<input type="checkbox"/> 単独世帯 <input type="checkbox"/> 夫婦のみ世帯 <input type="checkbox"/> 未婚 (配偶者がいたことがない) の子と同居 <input type="checkbox"/> 配偶者と離別・死別等した子と同居 <input type="checkbox"/> 子夫婦と同居 <input type="checkbox"/> その他①その他の親族と同居 <input type="checkbox"/> その他②非親族と同居 <input type="checkbox"/> その他③その他 <input type="checkbox"/> 不明 (不明時の理由:)				
虐待の認識	虐待者に虐待の認識が <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 虐待者も支援を希望している) 不明				
成年後見人制度	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (氏名: 開始年度:) <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 不明				
【家族構成 (ファミリー)】	【高齢者を取り巻く環境】				
問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応状況 4-1) 成年後見制度利用の開始	問6 被虐待者・虐待者の状況 8) 虐待者との同居・別居 9) 家族形態 10) その他の場合の説明 ※調査票の選択肢が以下なので、この表の入力を見て値変換する *虐待者との同居、虐待者及び他家族と同居、虐待者と別居、その他、不明				
※男□、女○、死亡☒、対象者◎、同居は---線で囲む					

3. 心理的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	体重の増減	急な体重の減少、やせすぎ、拒食や過食が見られる	
	態度や表情	無気力な表情、なげやりな態度、無表情、急な態度の変化がある	
	話の内容	話したくない、自分を否定的に話す、「ホームに入りたい」「死にたい」などの発言がある	
	適切な睡眠	不眠の訴え、不規則な睡眠	
	高齢者に対する態度	冷淡、横柄、無関心、支配的、攻撃的、拒否的	
	高齢者への話の内容	「早く死んでしまえ」など否定的な発言、コミュニケーションをとろうとしない	
	その他		
現状と対応			
4. 性的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	出血や傷の有無	生殖器等の傷、出血、かゆみの訴え	
	態度や表情	おびえた表情、怖がる、人目を避けたがる	
	支援のためらい	関係者に話すことをためらう、援助を受けたがらない	
	その他		
現状と対応			
5. 経済的虐待		サイン; 当てはまるものがあれば○で囲む	
	訴え	「お金をとられた」「年金が入ってこない」「貯金がなくなった」などの発言がある	
	生活状況	資産と日常生活の大きな落差、食べる物にも困っている、年金通帳・預貯金通帳がない	
	支援のためらい	サービス利用負担が突然払えなくなる、サービス利用をためらう	
	その他		
現状と対応			
6. その他		上記項目以外に気づいたこと、気になることがある場合に記入	
発生状況	虐待が始まったと思われる時期		全体状況
	虐待が発生する頻度		
	虐待が発生するきっかけ		
	虐待が発生しやすい時間帯		

出典) 首都大学東京 副田あけみ教授作成の様式を一部修正

付録 2-A-3. リスクアセスメント

被虐待者1名につき1枚

管理番号

問4 事実確認調査の結果

- 6) 2 虐待者側の要因
- 6) 3 被虐待者の状況
- 6) 4 家庭の要因
- 6) 5 その他

については別の対応表の通り流し込み

高齢者虐待リスク評価票

被虐待者の状況	
思疎通が可能である	
事実と照らし合わせて、現在の危険度を評価すること。	
な意思の疎通が困難である	
、聴取情報ならびに看護・介護記録、事故報告等の客観的な記録情報と照らし合わせて評価すること。また、既に重症化している可能性が高いことに注意すること。	
客観的な事実確認により得た情報	危険度
1、当事者が保護を求めている	A (緊急度：高) 速やかに保護等の緊急措置を検討する必要がある
<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている	
<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている	
2、すでに重大な結果が生じている	B (緊急度：中) 集中的な支援のほか、保護等の緊急措置の検討が必要である
<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷（血腫・骨折）、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況	
3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	
<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「〇〇が怖い」「何も食べていない」等の訴え	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
<input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え	
4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
5、繰り返されるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し <input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定、判断力の低下、非現実的な認識 <input type="checkbox"/> ⑩ 虐待者の判断力の低下、非現実的な認識	
6、過去に虐待をされた旨で訴えがある（現在進行形でない）	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
<input type="checkbox"/> ⑪ 「昔、〇〇をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など	
7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑫ 認知症程度：Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M <input type="checkbox"/> ⑬ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など <input type="checkbox"/> ⑭ 寝たきり度：J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2 <input type="checkbox"/> ⑮ 性格の問題（偏り）：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など <input type="checkbox"/> ⑯ 精神疾患（ ） 依存症（ ） <input type="checkbox"/> ⑰ 外部サービス利用に抵抗感がある <input type="checkbox"/> ⑱ 障害・疾病（口疑い）	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置をとる必要性は低い、虐待に繋がる要因は有しているため、総合的な支援が必要である。
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑲ 被虐待者への拒否的感情や態度がある <input type="checkbox"/> ⑳ 重い介護負担感や介護疲れ <input type="checkbox"/> ㉑ 認知症や介護に関する知識・技術不足 <input type="checkbox"/> ㉒ 性格の問題（偏り）：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的など <input type="checkbox"/> ㉓ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など（口疑い） <input type="checkbox"/> ㉔ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存 <input type="checkbox"/> ㉕ 介護力の低下や不足 <input type="checkbox"/> ㉖ 孤立・補助介護者の不在等	

リスクアセスメントの帳票と調査票の項目対応表(赤字は元帳票に追加した項目)

帳票			調査票 (空欄は対応なし)				
大分類	小分類	項目 (赤は追加)	6)_2 虐待者側の要因	6)_3 被虐待者の状況	6)_4 家庭の要因	6)_5 その他	
—	被虐待者の状況	<input type="checkbox"/> ア 被虐待者自身による意思疎通が可能である					
		<input type="checkbox"/> イ 認知症等により、正確な意思の疎通が困難である					
危険度 A	1、当事者が保護を求めている	<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている					
		<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている					
	2、すでに重大な結果が生じている	<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷(血腫・骨折)、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況					
		3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「○○が怖い」「何も食べていない」等の訴え <input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え				
危険度 B	4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況					
		5、繰り返されるおそれが高い	<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し <input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定 ※2 つに分割 <input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の判断力の低下、非現実的な認識	q) その他 j) 精神状態が安定していない f) 理解力の不足や低下			
	危険度 C	6、過去に虐待をされた旨で訴えがある(現在進行形でない)	<input type="checkbox"/> ⑩ 「昔、○○をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など				
			7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	<input type="checkbox"/> ⑪ 認知症程度：Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M	a) 認知症の症状		
<input type="checkbox"/> ⑫ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など				d) 排泄介助の困難さ			
	<input type="checkbox"/> ⑬ 寝たきり度：J1・J2・A1・	c) 身体的自立					

	A2・B1・B2・C1・C2		度の低さ		
	<input type="checkbox"/> ⑭ 性格的問題（偏り）：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など		h)その他		
	<input type="checkbox"/> ⑮ 精神疾患 依存症		b) 精神障害 （疑いを含む）、高次脳機能障害、知的障害、認知機能の低下		
	<input type="checkbox"/> 外部サービス利用に抵抗感がある		e) 外部サービス利用に抵抗感がある		
	<input type="checkbox"/> 障害・疾病（ <input type="checkbox"/> 疑い）		f) 障害・疾病 g) 障害疑い・疾病疑い		
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	<input type="checkbox"/> ⑯ 被虐待者への拒否的感情や態度がある	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係			
	<input type="checkbox"/> ⑰ 重い介護負担感や介護疲れ	a) 介護疲れ・介護ストレス			
	<input type="checkbox"/> ⑱ 認知症や介護に関する知識・技術不足	e) 知識や情報の不足			
	<input type="checkbox"/> ⑲ 性格的問題（偏り）：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的など	q) その他			
	<input type="checkbox"/> ⑳ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など（ <input type="checkbox"/> 疑い）	h) 障害・疾病 i) 障害疑い・疾病疑い			
	<input type="checkbox"/> ㉑ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存			a) 経済的困窮・債務（経済的問題）	
	<input type="checkbox"/> 介護力の低下や不足	b) 介護力の低下や不足			
	<input type="checkbox"/> 孤立・補助介護者の不在等	c) 孤立・補助介護者の不在等			
<input type="checkbox"/> 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー	d) 「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体				

			に対するストレスやプレッシャー			
		<input type="checkbox"/> 外部サービス利用への抵抗感	g) 外部サービス利用への抵抗感			
		<input type="checkbox"/> ひきこもり	k) ひきこもり			
		<input type="checkbox"/> 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ	n) 他者との関係のとりづらさ・資源への繋がりづらさ			
		<input type="checkbox"/> 飲酒の影響	o) 飲酒の影響			
		<input type="checkbox"/> 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）	p) 依存（アルコール、ギャンブル、関係性等）			
9、虐待につながる家庭状況がある	<input type="checkbox"/> ㉒ 長年にわたる虐待者・被虐待者間の不和の関係	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係				
	<input type="checkbox"/> ㉓ 虐待者・被虐待者の共依存関係	l) 被虐待者との虐待発生までの人間関係				
	<input type="checkbox"/> ㉔ 虐待者が暴力の被害者	m) 家族環境（生育歴・虐待の連鎖）				
	<input type="checkbox"/> ㉕ その他の家族・親族の無関心			d)（虐待者以外の）配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力		
	<input type="checkbox"/> ㉖ 住環境の悪さ：狭い被虐待者の居室なし 非衛生的			e) その他		
	<input type="checkbox"/> 家庭内の経済的利害関係（財産、相続）			b) 家庭内の経済的利害関係（財産、相続）		

		<input type="checkbox"/> (虐待者以外の) 他家族との関係の悪さほか家族関係の問題			c) (虐待者以外の) 他家族との関係の悪さほか家族関係の問題	
その他		<input type="checkbox"/> ケアサービスの不足の問題				a) ケアサービスの不足の問題
		<input type="checkbox"/> ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題				b) ケアサービスのミスマッチ等マネジメントの問題
		<input type="checkbox"/> その他の要因				c) その他

付録 2-A-4. 会議記録
コアメンバー会議用帳票

被虐待者 1 名につき 1 枚

第 回コアメンバー会議録

管理番号

本人氏名 _____ 記録者氏名 _____
虐待者氏名 _____

会議日時： 年 月 日 時 分～ 時 分

出席者			
虐待事実の判断 <small>※疑いの場合は事実確認の継続必須 ※一時的解消の場合は再発可能性に留意</small>	1. 身体的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 ()	問 4 事実確認調査の結果 2)虐待の事実が確認された期日 ※判断「有」の場合転記
	具体的内容 問 5 虐待の内容 1)虐待の種別・類型	横票等()参照	
	2. 放棄・放任	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	
	具体的内容 問 5 虐待の内容 2)虐待の深刻度	横票等()参照	
	3. 心理的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	
	具体的内容 問 5 虐待の内容 3)虐待の深刻度	横票等()参照	
4. 性的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	問 4 事実確認調査の結果 1)調査の結果「c)虐待の事実の判断に至らなかった」理由	
具体的内容 問 5 虐待の内容 3)虐待の深刻度	横票等()参照		
5. 経済的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()	問 4 事実確認調査の結果 1)調査の結果「c)虐待の事実の判断に至らなかった」理由	
具体的内容 問 5 虐待の内容 3)虐待の深刻度	横票等()参照		
虐待の判断に至らなかった場合の理由			
深刻度区分 ^{※1} ※「深刻度指標」=「被虐待高齢者が虐待によって被害を受けた程度」	<input type="checkbox"/> 4. 最重度 生命・身体・生活の危機的状況	<input type="checkbox"/> 3. 重度 重大な健康被害が生じている、生活の継続に重大な支障が生じている	<input type="checkbox"/> 2. 中度 虐待が繰り返されている、心身への被害・影響や生活に支障が出ている状態
	<input type="checkbox"/> 1. 軽度 本人意思を無視した行為や介護者の都合に合わせたケアが行われている、軽度の被害・影響が生じている状態		
本人の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
養護者の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
その他家族・後見人等の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
背景要因	高齢者本人の因子	<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	関係性・世帯の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	養護者・親族の因子	<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	地域・支援者側の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	因子の確認が「その他」の場合の具体的な内容		
強み・スト	高齢者本人の強み	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	関係性・世帯の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	養護者・親族の強み	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認

レ ン グ ス		
パターン（行動・思考・問題解決方法等） <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認		
緊急性の判断（緊急対応に必要な状況の確認）※共通の指標（リスクアセスメントシート）等様票を用いている場合は、その様票を参照		
緊急性 <input type="checkbox"/> 高い（「緊急分離・保護」実施） <input type="checkbox"/> 低い（「分離・保護」検討） <input type="checkbox"/> 不明（定期的な状況確認・支援/分離・保護の可能性の検討）		
		様票等（ ）参照

問7 虐待事例への対応状況
2) 1)で分離を行った場合の対応内容
2-2) 面会制限の有無

	には具体的内容を記入	担当者	備考 (いつまで・注意事項等)	
緊急	<input type="checkbox"/> 警察への連絡・相談 (<input type="checkbox"/> 被害相談 <input type="checkbox"/> 告発 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 立入調査 (法 11 条) <input type="checkbox"/> 警察への援助要請 (法 12 条) <input type="checkbox"/> 高齢者の保護・分離 (対応開始日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 措置入所 () <input type="checkbox"/> 緊急一時保護 () <input type="checkbox"/> 養護受託 () <input type="checkbox"/> 介護保険を利用した契約入所 (契約支援者・代筆者等) <input type="checkbox"/> 医療機関への一時入院 <input type="checkbox"/> 虐待者を高齢者から分離(転居等) <input type="checkbox"/> 上記以外の住まい・施設の利用 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 在宅サービス措置 ()) <input type="checkbox"/> 面会制限 (<input type="checkbox"/> 法 13 条 <input type="checkbox"/> その他)) <input type="checkbox"/> 高齢者・養護者の受診支援 (入院支援・レスパイト入院) <input type="checkbox"/> 生活保護の医療扶助単給 <input type="checkbox"/> 介護保険制度 要介護認定申請 (申請日 /) <input type="checkbox"/> 財産保全 <input type="checkbox"/> 金融機関への紛失届 <input type="checkbox"/> 年金振込先の変更 <input type="checkbox"/> 金融機関への協力依頼 <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援事業利用 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> ライフラインの確保 <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 1)分離の有無 2) 1)で分離を行った場合の対応内容 3) 1)で分離をしていない場合の対応内容 については別の対応表の通り流し込み
成年後見人等申立	<input type="checkbox"/> 選任済 (開始年度: 年/市町村長申立 <input type="checkbox"/> 有) <input type="checkbox"/> 申立中 (市町村長申立 <input type="checkbox"/> 有) <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 申立要検討 (<input type="checkbox"/> 審判前の財産保全処分) <input type="checkbox"/> 後見人等の有無を調査			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-2)市町村長申立の有無
各種支援	<input type="checkbox"/> 虐待の事実の確認の継続 (虐待事実の判断「有」としている場合も含む) <input type="checkbox"/> 本人のアセスメント (情報収集や支援の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 判断能力程度確認 <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> 意思決定支援 (ガイドラインの活用、チーム支援、意思決定支援会議等) <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 養護者のアセスメント (情報収集や支援の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 支援の必要性の確認 <input type="checkbox"/> 虐待行為についての告知・意識づけ <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> その他関係機関からの情報収集 ()) <input type="checkbox"/> 関係部署・機関への協力要請 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> 障害福祉 <input type="checkbox"/> 保健所・保健センター <input type="checkbox"/> 自殺予防 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 認知症疾患医療センター <input type="checkbox"/> 若年性認知症総合支援センター <input type="checkbox"/> 精神保健福祉センター <input type="checkbox"/> 発達障害者支援センター <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> 生活困窮者支援 <input type="checkbox"/> 成年後見制度推進機関/中核機関 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援事業利用の開始 (開始日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 各種制度利用手続き支援等 ()) <input type="checkbox"/> 在宅サービス導入・調整支援 ()) <input type="checkbox"/> 専門医紹介・医療導入支援 ()) <input type="checkbox"/> 養護者が介護負担軽減のための事業に参加 <input type="checkbox"/> 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-1)成年後見制度利用の開始 ● 開始済み→年度により以前が対象年度中に開始 ● 申立中→利用手続き中 ● それ以外→利用手続きなし
その他	<input type="checkbox"/> 虐待判断時点で既に分離状態 (別居、入院、入所等) <input type="checkbox"/> その他 ())			問7 虐待事例への対応状況 4) 権利擁護に関する対応 4-3)日常生活自立支援事業利用の開始 4-4)権利擁護対応開始日

養護者支援の内容

- 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり
- 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント
- 他部署多機関等との連携による支援チームの形成
- 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認
- 養護者への相談・助言
- 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整

問7 虐待事例への対応状況
5) 養護者支援の取組内容

- 具体的な支援内容
- 計画期間
- 次回の会議の予定
- 連絡体制（情報集約先）
- 注意事項

上記以外にはなし

（公財）東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成（令和4年4月版）

※注）令和2年度老人保健健康増進等事業「高齢者虐待における事例研究等に関する調査研究事業報告書」に基づく

※ケース会議用帳票はコアメンバー会議用帳票と同フォーマットのため割愛

コアメンバー会議用帳票と調査票の項目対応表

帳票		調査票（空欄は対応なし）			
分類	項目（赤は追加）	問 7 虐待事例への対応状況 1) 分離の有無	問 7 虐待事例への対応状況 2) 1) で分離を行った場合の対応内容	問 7 虐待事例への対応状況 3) 1) で分離をしていない場合の対応内容	問 7 虐待事例への対応状況 5) 養護者支援の内容
緊急 対応	<input type="checkbox"/> 警察への連絡・相談 （ <input type="checkbox"/> 被害相談 <input type="checkbox"/> 告 発 <input type="checkbox"/> その他）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		f) その他	
	<input type="checkbox"/> 立入調査 （法 11 条） <input type="checkbox"/> 警察への援助要請 （法 12 条）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		f) その他	
	<input type="checkbox"/> 高齢者の保護・分離	チェックがついていれ ば a) 分離			
	<input type="checkbox"/> 措置入所		b) やむ措置		
	<input type="checkbox"/> 緊急一時保護		c) 緊急一時保護		
	<input type="checkbox"/> 養護受託		b) やむ措置		
	<input type="checkbox"/> 介護保険を利用し た契約入所		a) 契約による介護保険 サービスの利用		
	<input type="checkbox"/> 医療機関への一時 入院		d) 医療機関への一時入 院		
	<input type="checkbox"/> 虐待者を高齢者か ら分離(転居等)		f) 虐待者を高齢者から 分離(転居等)		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の住ま い・施設の利用		e) a～d 以外の住ま い・施設等の利用		
	<input type="checkbox"/> その他		g) その他		
	<input type="checkbox"/> 在宅サービス措置	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		c) 被虐待者が新たに介 護保険サービスを利用	
	<input type="checkbox"/> 面会制限 （ <input type="checkbox"/> 法 13 条 <input type="checkbox"/> その他）	チェックがついていれ ば a) 分離	法 13 条にチェックが ある場合は b) 措置 その他にチェックがあ る場合は g) その他と し、自由記述欄に「施 設管理権」と記載（空 欄に何か記載があれば それも記載）		
<input type="checkbox"/> 高齢者・養護者の受 診支援（入院支援・ レスパイト入院）	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b) 非分離		e) 被虐待者が介護保険 サービス以外のサー ビスを利用		

	<input type="checkbox"/> 生活保護の医療扶助 単給	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		e)被虐待者が介護保険 サービス以外のサー ビスを利用	
	<input type="checkbox"/> 介護保険制度 要介護認定申請 (申請日 /)	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> 財産保全 <input type="checkbox"/> 金融機関への 紛失届 <input type="checkbox"/> 年金振込先の変更 <input type="checkbox"/> 金融機関への協力 依頼 <input type="checkbox"/> 日常生活自立支援 事業利用 <input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> ライフラインの確保	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
	<input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f)その他	
各種 支援	<input type="checkbox"/> 虐待の事実の確認の 継続（虐待事実の判 断「有」としている 場合も含む）	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			
	<input type="checkbox"/> 本人のアセスメント (情報収集や支援の 必要性の分析) <input type="checkbox"/> 判断能力程度確認 <input type="checkbox"/> 意思意向の確認 <input type="checkbox"/> 意思決定支援（ガ イドラインの活 用、チーム支援、 意思決定支援会議 等) <input type="checkbox"/> その他	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			
	<input type="checkbox"/> 養護者のアセスメン ト（情報収集や支援 の必要性の分析) <input type="checkbox"/> 支援の必要性の 確認 <input type="checkbox"/> 虐待行為について	緊急対応にチェックが なくここにチェックが あれば c)検討・調整 中			

<p>の告知・意識づけ</p> <p><input type="checkbox"/>意思意向の確認</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>				
<p><input type="checkbox"/>その他関係機関からの情報収集</p>	<p>緊急対応にチェックがなくここにチェックがあれば c)検討・調整中</p>			
<p><input type="checkbox"/>関係部署・機関への協力要請</p> <p><input type="checkbox"/>警察</p> <p><input type="checkbox"/>社会福祉協議会</p> <p><input type="checkbox"/>障害福祉</p> <p><input type="checkbox"/>保健所・保健センター</p> <p><input type="checkbox"/>自殺予防</p> <p><input type="checkbox"/>医療機関</p> <p><input type="checkbox"/>認知症疾患医療センター</p> <p><input type="checkbox"/>若年性認知症総合支援センター</p> <p><input type="checkbox"/>精神保健福祉センター</p> <p><input type="checkbox"/>発達障害者支援センター</p> <p><input type="checkbox"/>生活保護</p> <p><input type="checkbox"/>生活困窮者支援</p> <p><input type="checkbox"/>成年後見制度推進機関／中核機関</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>緊急対応にチェックがなくここにチェックがあれば c)検討・調整中</p>			
<p><input type="checkbox"/>日常生活自立支援事業利用の開始（開始日： 年 月 日）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	<p>（別項目に対応）</p>	
<p><input type="checkbox"/>各種制度利用手続き支援等</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>f)その他</p>	
<p><input type="checkbox"/>在宅サービス導入・調整支援</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>c)被虐待者が新たに介護保険サービスを利用</p>	
<p><input type="checkbox"/>専門医紹介・医療導入支援</p>	<p>高齢者の保護・分離か面会制限にチェックがなくここにチェックがあれば b)非分離</p>		<p>f)その他</p>	

	<input type="checkbox"/> 養護者が介護負担軽減のための事業に参加	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		b) 養護者が介護負担軽減のための事業に参加	
	<input type="checkbox"/> 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		d) 既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し	
	<input type="checkbox"/> その他	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		f) その他	
その他	<input type="checkbox"/> 虐待判断時点で既に分離状態（別居、入院、入所等）	ここにチェックがあれば d) すでに分離			
	<input type="checkbox"/> その他	上のいずれにもチェックがなくここにチェックがあれば e) その他			
養護者 支援	<input type="checkbox"/> 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり	(対象外)			a) 養護者への定期的な声掛け、ねぎらい等による関係性の構築・維持づくり
	<input type="checkbox"/> 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント	(対象外)			b) 養護者の抱える生活課題等についてのアセスメント
	<input type="checkbox"/> 他部署多機関等との連携による支援チームの形成	(対象外)			c) 他部署多機関等との連携による支援チームの形成
	<input type="checkbox"/> 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認	(対象外)			d) 養護者支援のゴールの設定、支援方法の確認
	<input type="checkbox"/> 養護者への相談・助言	高齢者の保護・分離か 面会制限にチェックが なくここにチェックが あれば b)非分離		a) 養護者に対する助言・指導	e) 養護者への相談・助言
	<input type="checkbox"/> 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整	(対象外)			f) 家族・親族・近隣住民等との関係性の調整
	<input type="checkbox"/> 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整	(対象外)			g) 各種社会資源の紹介・つなぎ・調整
	<input type="checkbox"/> 定期的な訪問によるモニタリング	(対象外)			h) 定期的な訪問によるモニタリング
	<input type="checkbox"/> 終結の判断	(対象外)			i) 終結の判断
<input type="checkbox"/> その他	(対象外)			j) その他	

被害待者1名につき1枚

管理番号

供覧

評価ケース検討会議記録

開催日	年 月 日 ()
開催時間	時 分 ~ 時 分
開催場所	

検討対象氏名			ケース提出者	
会議出席者	所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名
経過				
検討課題				
検討内容	問13 調査対象年度末日での状況 ※シートが作成されるたびに終結/継続を判定し、終結日、継続時の選択内容を更新			
評価結果のまとめ	<input type="checkbox"/> 虐待対応の終結 (終結理由:) <input type="checkbox"/> 現在の虐待対応計画内容に基づき対応を継続 (現在の状況:)			
結論				
残された課題				
他部署・他制度等への引継ぎ				
次回開催日	年 月 日 () を予定			

付録 2-B. 従事者による虐待の記録用帳票

付録 2-B-1. 相談受付票

<p>問1 相談通報受理日・時期・自治体 1) 相談・通報受理日</p>	<p>問1 相談通報受理日・時期・自治体 3) 通報受理団体</p>	<p>管理番号</p>			
<p>介護施設従事者による高齢者虐待相談受付票</p>					
<p>受付者: _____</p>					
<p>受付日: 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 (____) 時間: ____ : ____ ~ ____ : ____</p>					
<p>通報の方法: <input type="checkbox"/>電話 <input type="checkbox"/>郵便 <input type="checkbox"/>電話 <input type="checkbox"/>来所 <input type="checkbox"/>その他 (____) ____ 回目</p>					
<p>受理者: <input type="checkbox"/>市町村 <input type="checkbox"/>都道府県</p>					
<p>問5 都道府県における事実確認調査状況 2) 都道府県が直接相談・通報等を受理した事例</p>					
<p>_____ ください</p>					
<p>1 相談者</p>					
氏名	<input type="checkbox"/> 匿名	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	情報保護希望	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
続柄関係	<p><input type="checkbox"/>本人による届出 <input type="checkbox"/>家族・親族 <input type="checkbox"/>当該施設・事業所職員 <input type="checkbox"/>当該施設・事業所元職員 <input type="checkbox"/>施設・事業所の管理者 <input type="checkbox"/>医療機関従事者(医師含む) <input type="checkbox"/>介護支援専門員 <input type="checkbox"/>介護相談員 <input type="checkbox"/>地域包括センター職員 <input type="checkbox"/>社会福祉協議会職員 <input type="checkbox"/>国民健康保険団体連合会 <input type="checkbox"/>都道府県から連絡 <input type="checkbox"/>警察 <input type="checkbox"/>家族 (_____) <input type="checkbox"/>元職員 <input type="checkbox"/>現職員 (公益通報の説明 <input type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無) <input type="checkbox"/>その他 (_____)</p>				
連絡先	<input type="checkbox"/> 秘匿				
特記	<p>後日連絡の可否: <input type="checkbox"/>可 他に虐待を認識している者の有無 <input type="checkbox"/>有 (_____)</p>				
<p>2 被虐待者 (疑いも含む)</p>					
氏名	<input type="checkbox"/> 未確認	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	年齢	歳 <input type="checkbox"/> 未確認
要介護認定	<p><input type="checkbox"/>要介護 (____) <input type="checkbox"/>要支援 (____) <input type="checkbox"/>その他 (____) <input type="checkbox"/>不明</p>				
認知症	<p><input type="checkbox"/>無 <input type="checkbox"/>有 (程度: _____) 後見人: <input type="checkbox"/>無 <input type="checkbox"/>有 (<input type="checkbox"/>後見 <input type="checkbox"/>保佐 <input type="checkbox"/>補助 <input type="checkbox"/>任意後見 <input type="checkbox"/>申立て中 <input type="checkbox"/>不明)</p>				
備考	<p><input type="checkbox"/>被虐待者が複数名 (複数の場合は備考又は裏面に記載)</p>				
<p>3 施設・虐待者情報</p>					
施設名	問2 相談・通報				
法人名	2) 相談・通報が寄せられた施設・事業所のサービス種別				
施設種別	<p><input type="checkbox"/>特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/>介護老人保健施設 <input type="checkbox"/>介護医療院・介護療養型医療施設 <input type="checkbox"/>認知症対応型共同生活介護 <input type="checkbox"/> (住宅型) 有料老人ホーム <input type="checkbox"/> (介護付き) 有料老人ホーム <input type="checkbox"/>小規模多機能型居宅介護等 <input type="checkbox"/>軽費老人ホーム <input type="checkbox"/>養護老人ホーム <input type="checkbox"/>短期入所施設 <input type="checkbox"/>訪問介護等 <input type="checkbox"/>通所介護等 <input type="checkbox"/>居宅介護支援等 <input type="checkbox"/>その他 施設種別名 (_____)</p>				
虐待者名	<input type="checkbox"/> 不明	職種	<input type="checkbox"/> 不明		

備 考	<input type="checkbox"/> 虐待者が複数名（複数の場合は備考又は裏面に記載）
-----	---

4 虐待（通報）の内容（様式2にチェックを行う）

発生日時	平成 年 月 日 時頃	発生場所	
種 別	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放任 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 経済的虐待 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
緊急性	<input type="checkbox"/> 生命・身体に危険がある <input type="checkbox"/> 継続的に虐待の恐れがある		
把握方法	<input type="checkbox"/> 現認 <input type="checkbox"/> 伝聞（誰に： ） <input type="checkbox"/> 記録を見た <input type="checkbox"/> 証拠資料有		
聞取り 内 容			

※情報提供の内容が多い場合は裏面に記載

5 その他聞取り内容及び特記事項

問3 市町村における事実確認調査状況
1-3) 事実確認調査を行っていない理由

問5 都道府県における事実確認調査状況
3) 1)もしくは2)で事実確認を行った場合の形態

6 事実調査の判断

	事実調査を実施する (<input type="checkbox"/> 都道府県と市町村で共同 <input type="checkbox"/> 都道府県単独)
	事実調査を実施しない
	相談・通報を受理した段階で、明らかに虐待ではなく、事実確認調査不要と判断
	後日、事実確認調査を予定しているまたは、事実確認調査の要否を検討中
	都道府県へ事実確認調査を依頼
	その他 ()

虐待相談・通報参考 (問合せがあった場合、必要があると判断された場合説明する)

	業務上知りえた情報であっても、虐待の通報は、法令違反にならない。ただし、虚偽、及び、過失であるものは除かれる。 (個人情報保護法16条、高齢者虐待防止法21条)
	通報者等の情報は保護され、外部に漏れることはない (高齢者虐待防止法23条、地方公務員法34条)
	通報等による解雇、その他不利益な取扱いは禁止されている。ただし、虚偽、及び、過失であるものは除かれる。 (公益通報者保護法3条・5条、高齢者虐待防止法21条)

養介護施設従事者等による高齢者虐待相談受付票（内容）

受付者：_____

区分	具体例	チェック
身体的虐待	1 あざ、傷、火傷等がある。	
	2 叩く、蹴る、つねる等の暴力がある。	
	3 ベッド等から降りられないように、体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	4 ベッド等に降りられないように、柵等をしている。	
	5 立ち上がれないように、イス・車椅子に体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	6 立ち上がれないような、イス・車椅子を使用する。	
	7 点滴・経管栄養等の医療行為のために、四肢を、ひも・ベルト等で固定する。	
	8 手足の機能を制限するミトン型の手袋等を使用する。	
	9 脱衣・オムツはずし等を制限するため、つなぎ服を使用する。	
	10 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に使用する。	
	11 自分で扉を開けられない部屋に隔離する。	
	12 微熱を理由に、ベッド上での生活を強制された。	
	13 声掛けの為に腰を叩かれ、とても痛かった。	
	14 大きなスプーンで口一杯に入れる為、上手く呑み込めず、むせてしまうことがある。	
	15 車椅子の移動、あるいは食事の介助、衣服の着脱時等、乱暴であったり、テンポが速く、入居者がおどおどとしている場面を見ることが多い。	
	16 人としての扱いに欠けているような気がする。	
	17 患者の方に布団を掛ける時、投げ捨てるように掛けた。	
	18 可動制限があるにも関わらず、健側（障害を受けていない側）から無理矢理着替えをさせた。	
	19 左手が使えないのに、両手でしか出来ない作業を与えられた。	
	20 食事をまだ口にしていないのに、強い薬（抗生剤）を飲ませようとした。	
	21 最初から、粉薬をご飯に混ぜてしまう。	
	22 鼻から入れているチューブを抜き取る事があったので、ベッドに手を縛られた。縛り方に問題があり、痛々しかった。	
	23 ベッドへ移動する時、少し乱暴に寝かせているのを見かける。	
	24 ベッドから車椅子への移乗を依頼したら、「乗っければいいんですね」と物扱いされた。	
	25 車椅子のベルトで拘束されているのを目撃した。	
	26 トイレに閉じこめられた。	
	27 つねられたか、はたかれたようで、手足に触れると「痛い、痛い」という。腕や足につねったような傷跡と内出血があった。	
	28 認知症だから分からないだろうと思って、頭を叩かれた。	
	29 車椅子を強く押し放つ。	
	30 点滴のアザと打撲と間違えるような対応の仕方があった。	
	31 声掛けなしに、ベッドから車椅子に移乗させた。	

区分	具体例	チェック
介護・世話の放棄・放任	1 入浴していない。髪・ひげ、爪が伸びている。髪・皮膚・爪が汚れている。等	
	2 トイレを使用できるのにオムツを使う。オムツが汚れているのに放置している。等	
	3 水分補給、食事量・質（消費期限等）が不十分。	
	4 衣服を汚れた（破れた）ままにしている。理由が無くいつも同じ服を着せている。季節に合わない服を着せている。	
	5 長時間、必要な介護等が行われていない。	
	6 適切な医療を受けさせていない。	
	7 必要な眼鏡、義歯、補聴器等がない	
	8 ナースコール等を使用させていない。ナースコールを意図的に無視する。	
	9 頼まれたことを意図的に行わない。	
	10 汚い・異臭がする、暑すぎる・寒すぎる等、不衛生・劣悪な生活環境がある。	
	11 他利用者からの暴力等に対策を講じていない。	
	12 まだ十分トイレで対応できる時も朝の1回のみトイレで対応。朝以外はオムツ対応。	
	13 訪問の度にめやにがたまっている。	
	14 洋服がはだけたり、汚れているのにそのまま。	
	15 いつ面会に行っても、同じ服を着ていることが多い。	
	16 夜間はオムツ交換をしてくれず、寝間着からシーツがびしょびしょになり、冷たかった。	
	17 汚れたシーツをすぐに替えてくれなかった。	
	18 ベッドのシーツ上の食べこぼしが常にある。	
	19 入浴後、髪の毛を乾かしてもらえない。	
	20 排泄後のズボンがねじれていることが結構ある。	
	21 食事量が減少している患者さんに「食べないと死んじゃうよ。」と言っていた。	
	22 一日中おしゃべりさせたり、椅子に座らせっぱなしだったり、積極的に働きかけをする姿勢がない。	
	23 忙しい時間帯は寝かされている。	
	24 床ずれで足が曲がったままである。	
	25 発熱時、家族が面会に行き、やっとうまくしてもらえた。	
	26 発熱者を寝間着に着替えさせず、服のまま、ベッドで寝かせていた。	
	27 一週間、汗疹（あせも）に気付かなかった。	
	28 涼しい日にカーディガンを着せてもらえなかった。	
	29 食事介助のスピードが早い。	
	30 介助法を工夫して、食事摂取量を増やして欲しいとお願いしたが、「うちでは出来ない。嫌なら他施設に移ってくれ。」と言われた。	
	31 粥を落下させてしまった人に対して、「あら残念ね」と言って、代わりにものを運んでこなかった。	
	32 今は忙しいから、後でと言われた。	
	33 大小便の処置に困り、呼んだが、なかなか来てくれなかった。	
	34 呼び出しボタンを押しても、なかなか来ない。	

35	職員を呼んでもなかなか来てくれないことが何度もあった。	
36	数十分ほど、食堂の片隅に留め置いた。	
37	座らせっぱなしなので、足の甲がむくんだ。	
38	ベッド上で1週間生活したため、歩けなくなった。	

区分	具体例	チェック
心理的虐待	1 怒鳴る。暴言を吐く、罵る。	
	2 脅す。	
	3 嫌がらせをする。	
	4 車椅子やベッドを蹴る。	
	5 排泄行為等の失敗を嘲笑する。	
	6 からかったり、侮辱的なことを言う。	
	7 人前で恥をかかせる。	
	8 話しかけ・ナースコール等を意図的に無視をする。	
	9 侮辱的な子供扱い。	
	10 他者との交流を制限されている。	
	11 耳の遠い方が多い為、声が大きくなるが、正常な方は怒られているように感じる。	
	12 「入院しているのは、あなた1人じゃないんだから」と言われた。	
	13 医師の心ない発言に対し、不信感を持った。	
	14 認知症老人に対して、「同じ事を何回も言わない。」「何回言ったら分かるの?」「さっきトイレに行っただけでしょう。」等と言葉を荒げて言う。	
	15 食べ残しをすると、「残した物は捨てなければならないのよ」と強い口調で言われた。	
	16 上から物を言う。高齢者(=年長者)を敬う態度から遠い。	
	17 名前を間違えられた。	
	18 「何やってるんだ」「何ぐずぐずしているんだ」等、乱暴な言葉遣い。	
	19 母の名前を呼び捨てや「お婆さん」と呼ぶ。	
	20 「それはやめましょう。駄目です。」等の指示している態度。	
	21 本人の前で気になるような言葉をしゃべっている。	
	22 本人のいる前で、トイレ(便のこと)に関して話された。	
	23 手が掛かる人に対して、聞こえない素振りをした。	
	24 忙しいことを理由に話を聞いてもらえない。	
	25 「早く食べて」と急がせる言葉を使う人がいる。	
	26 返事をしない職員がいた。	
	27 車椅子の老婦人が「帰りたい」と言っていることに対し、無視している。	
	28 怪我をした際、必要以上に「〇〇さん、分かりましたか?」と色々な職員に確認された。	
	29 認知症なので、本人は分からないが、あだ名を付けて呼んでいた。	
	30 「臭い、臭い」「ばっちいね」と声掛けしながらオムツ交換をした。	
	31 厳しい口調で入居者に対応しているのを見た。エアコンの温度を下げたら、「勝手に下げないでくれ」と言った。	

32	自室での喫煙はしていないのに、「煙草の臭いがする」と言われ、「嘘つき」と言われた。	
33	同じ事を何度も言う人に対して、「うるさい」と言う。	
34	化粧をしている母に対し、眉の描き方がおかしいと平気で言う。	
35	子供に対してするように、頭を撫でる。	
36	お願い事をした際、不快な顔をされ、少し嫌な感じだった。	
37	対応に事務的なところを感じる。	
38	一分一秒でもいたくない態度が見える。	
39	夜間の失敗に対して、「待機している人が1,000人もいるのに、入れたんだから」と思着せがましいことを言った。	
40	オムツ交換時、「またこんなに汚して」と言った。	
41	「お前なんか早く死んじゃえ。そしたら自分たちが楽になる。」と言われた。	
42	意思疎通の出来ない人に対し、「もう食べないの?」と言った。	
43	「何回も鳴らすな!」と不機嫌な顔で叱られた。	
44	「あれが悪い」「これが悪い」と短所ばかり言う。	

区分	具体例	フィック
性的虐待	1 本人の同意のない性的行為やその強要。	
	2 本人の意に反して性的な話をする・聞く。	
	3 キス、性器等への接触	
	4 下半身を露出し放置	
	5 上半身を露出し放置（女性の場合）	
	6 猥褻な行為を行わせる	
	7 カーテンを開けっ放しで、女性のオムツ交換をしていた。	
	8 カーテンもせず、廊下から丸見えの状態ですぐ側にパンツを脱がせっぱなし。	
	9 下着を履いているかどうか、ズボンを下げて確かめる。	
	10 下着をおろした状態のまま、ズボンを履かされていた。	
	11 入浴、排泄等、身体介護で恥ずかしい、嫌だと感じたことがあった。	
	12 女性看護師に「女として恥ずかしいことをされた」と言っていた。	
	13 いきなり懐に手を入れ、脇の下を触る。	
	14 男性看護師が母のオムツ替えに来たとき、他の入所者の性的なことを話題に挙げて話をしていたようだ。	
	15 男性スタッフにお風呂や下の世話をしてもらうこと。	
	16 男性が入浴介助をしてくれることに戸惑った。	
	17 短期入所の身体検査の際、傷の有無を体中調べられ、肛門まで見られた父はどんなに恥ずかしい思いをしたか。	

区分	具体例	チェック
経済的虐待	1 日常的に使用するお金を制限。	
	2 金銭管理契約の不履行。	
	3 金銭管理を施設等に任せるように強要する。	
	4 金銭・財産等の着服・窃盗等。	
	5 金銭・財産等の一時的な無断流用等	
	6 財産を無断で処分。	
	7 不本意な寄付。	
	9 高齢者に者を買わせる（本人が使用しないもの。本来、施設が負担すべきもの等）。	
	10 ヘルパーさんに金品を要求された。	
	11 出金日が決まっていて、好きなときにおろせない。	
	12 父は見聞きが満足に出来ないのに、かなり高額なテレビ使用量を取られている。	
	13 刺激を与える事を理由に、見てもいないテレビの利用料を1日630円も取られている。	
	14 不当な料金を請求されている。	
	15 事前連絡なしに、お小遣い預かり金でゴム印を購入されていた。	
	16 お風呂に入っていないのに、料金を取られた。	

付録 2-B-2. 事実確認票

1 施設につき 1 枚

管理番号

問 3 市町村における事実確認調査状況
1-1) 事実確認調査の開始日

問 2 相談・通報
2) 相談・通報が寄せられた施設・事業所のサービス種別

事実確認実施準備確認票

作成者： _____ 平成 ____ 月 ____ 日

1 事実確認の日程・対象施設

実施日時	平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () : ____ : ____ / 回目		
法人名	代表者		
施設名			
施設種別	<input type="checkbox"/> 特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 介護老人保健施設 <input type="checkbox"/> 介護医療院・介護療養型医療施設 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 <input type="checkbox"/> （住宅型）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> （介護付き）有料老人ホーム <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護等 <input type="checkbox"/> 軽費老人ホーム <input type="checkbox"/> 養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 短期入所施設 <input type="checkbox"/> 訪問介護等 <input type="checkbox"/> 通所介護等 <input type="checkbox"/> 居宅介護支援等 <input type="checkbox"/> その他 (_____)		
事業所番号	管理者		
所在地			
電話番号	ファクシミリ		
備考			

2 対象施設への連絡

連絡日	平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () 時 ____ 分		
連絡者	相手氏名		
伝達内容	<input type="checkbox"/> 虐待に関する通報があったこと。 <input type="checkbox"/> 事実確認の為事業所に訪問すること。(____ 月 ____ 日 ____ 時から ____ 時 ____ 分) <input type="checkbox"/> 虐待をされた疑いがある高齢者の状況を確認すること。 <input type="checkbox"/> 調査の進展状況により施設関係者から聴取をおこなう場合があること。		
備考			

3 事実確認参加職員

	氏名	所属	職種	役割
①				統括
②				
③				
④				
⑤				

4 携帯品・使用機材

<input type="checkbox"/> 身分証明書（担当者全員）	<input type="checkbox"/> ICレコーダー・録音テープ
<input type="checkbox"/> 「事実確認通知（必要があれば）」	(____ 台) (<input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> テープ)

問 6 虐待事例の概要
2) 虐待があった施設・事業所のサービス種別

<input type="checkbox"/> 事実確認票 (部) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> カメラ (台) (<input type="checkbox"/> フィルム・メモ리카ード <input type="checkbox"/> 電池)
--

5 事実確認実施手順確認

		担当者	備考
1	訪問の目的・職務の説明		
2	調査事項についての説明		
3	高齢者の権利についての説明		
4	施設従事者等の権利の説明		
5	情報保護の説明		
6	書類調査		
7	聞き取り調査		
8	総括		

6 被虐待者（疑いも含む）確認対象者

	氏名	虐待の種別	担当者	備考
1				
2				
3				
4				

附 1 事例ごとの被虐待者・虐待者数
2) 虐待者の人数
※コアメンバー会議録等で人数確定したら更新

7 聴取対象職員（虐待を行った疑いがある職員の、虐待者の欄には○を記入）

	氏名	地位・職種	担当者	虐待者
1		施設管理者		
2				
3				
4				
5				

8 調査必要書類（事実確認を行う際に必ず確認を行う書類とその担当者を記入）

	書類名	担当者	備考
1			
2			
3			
4			
5			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（身体的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容		
通報	確認	内容
1		あざ、傷、火傷等がある。
2		叩く、蹴る、つねる等の暴力がある。
3		ベッド等から降りられないように、体・四肢を、ひも・ベルト等で固定する。
4		ベッド等に降りられないように、柵等をしている。
5		立ち上がれないように、イス・車椅子に体・四肢を、ひも・ベルト等で固定。
6		立ち上がれないような、イス・車椅子を使用する。
7		点滴・経管栄養等の医療行為のために、四肢を、ひも・ベルト等で固定する。
8		手足の機能を制限するミトン型の手袋等を使用する。
9		脱衣・オムツはずし等を制限するため、つなぎ服を使用する。
10		行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に使用する。
11		自分で扉を開けられない部屋に隔離する。
12		その他
事実確認の証拠		
①	<input type="checkbox"/> なし	
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由	
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況	
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付	
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付	
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付	／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
⑪	<input type="checkbox"/> 身体拘束の理由の記録（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由	
⑫	<input type="checkbox"/> 身体拘束の同意書（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由	
⑬	<input type="checkbox"/> 抗精神薬処方箋（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由	
⑭	<input type="checkbox"/> 証言（誰が）※「聞き取り調査票」参照	
⑮	<input type="checkbox"/> その他	
備考		

このシートを作成した高齢者のうち、「事実確認時の指示・指導等の内容」に被虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の高齢者のデータを調査票に流し込む
・チェックがついている内容またはその他を具体的な虐待の内容に転記
・3～11 に該当する場合は身体拘束有とする

事実確認調査票（放棄・放任）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			入浴していない。髪・ひげ、爪が伸びている。髪・皮膚・爪が汚れている。等
2			トイレを使用できるのにオムツを使う。オムツが汚れているのに放置している。等
3			水分補給、食事量・質（消費期限等）が不十分。
4			衣服を汚れた（破れた）ままにしている。 理由も無くいつも同じ服を着せている。 季節に合わない服を着せている。
5			長時間、必要な介護等が行われていない。
6			適切な医療を受けさせていない。
7			必要な眼鏡、義歯、補聴器等がない。
8			ナースコール等を使用させていない。ナースコールを意図的に無視する。
9			頼まれたことを意図的に行わない。
10			汚い・異臭がする、暑すぎる・寒すぎる等、不衛生・劣悪な生活環境がある。
11			他利用者からの暴力等に対策を講じていない。
12			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由 ））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況 ）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付 / 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）		
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が ）※「聞き取り調査票」参照		
⑫	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（心理的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容		
	通報	確認
1		怒鳴る。暴言を吐く、罵る。
2		脅す。
3		嫌がらせをする。
4		車椅子やベッドを蹴る。
5		排泄行為等の失敗を嘲笑する。
6		からかったり、侮辱的なことを言う。
7		人前で恥をかかせる。
8		話しかけ・ナースコール等を意図的に無視をする。
9		侮辱的な子供扱い。
10		他者との交流を制限されている。
11		他利用者からの暴力等に対策を講じていない。
12		その他
事実確認の証拠		虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし	
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由 ））	
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況 ）	
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付 /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が ）※「聞き取り調査票」参照	
⑫	<input type="checkbox"/> その他	
備考		

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（性的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			本人の同意のない性的行為やその強要。
2			本人の意に反して性的な話をする・聞く。
3			キス、性器等への接触
4			下半身を露出し放置
5			上半身を露出し放置（女性の場合）
6			猥褻な行為を行わせる
7			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑩	<input type="checkbox"/> 診療記録（日付） <input type="checkbox"/> 資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑪	<input type="checkbox"/> 証言（誰が） ※「聞き取り調査票」参照		
⑫	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（経済的虐待）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容			
	通報	確認	内容
1			日常的に使用するお金を制限。
2			金銭管理契約の不履行。
3			金銭管理を施設等に任せるように強要する。
4			金銭・財産等の着服・窃盗等。
5			金銭・財産等の一時的な無断流用等。
6			財産を無断で処分。
7			不本意な寄付。
8			高齢者に物を買わせる (本人が使用しないもの。本来、施設が負担すべきもの等)。
9			その他
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 目視等 (確認時の状況)		
③	<input type="checkbox"/> 看護記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
④	<input type="checkbox"/> 介護記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑤	<input type="checkbox"/> 生活相談記録 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑥	<input type="checkbox"/> 事故報告書 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑦	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑧	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑨	<input type="checkbox"/> 金銭管理・寄付契約書等 (種類) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑩	<input type="checkbox"/> 通帳等 (種類) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑪	<input type="checkbox"/> 出納帳		
⑫	<input type="checkbox"/> 領収書 (日付) /資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑬	<input type="checkbox"/> 証言 (誰が) ※「聞き取り調査票」参照		
⑭	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認調査票（虐待ではないが不適切な事例）

確認日：平成 月 日 担当者① 担当者②
担当者③ 担当者④

内容（※虐待相談受付票から転記）			
	通報	確認	内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
事実確認の証拠			虐待内容の番号
①	<input type="checkbox"/> なし		
②	<input type="checkbox"/> 写真等（添付資料 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（理由））		
③	<input type="checkbox"/> 目視等（確認時の状況）		
④	<input type="checkbox"/> 看護記録（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑤	<input type="checkbox"/> 介護記録（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑥	<input type="checkbox"/> 生活相談記録（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑦	<input type="checkbox"/> 事故報告書（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑧	<input type="checkbox"/> ひやりはっと報告（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑨	<input type="checkbox"/> アセスメント票・サービス計画書等（日付） ／資料添付 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
⑩	<input type="checkbox"/> 証言（誰が）※「聞き取り調査票」参照		
⑪	<input type="checkbox"/> その他		
備考			

高齢者聞き取り・観察調査票

担当者:

1 聞き取り調査対象高齢者

氏名		生年月日	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大
年齢	歳	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/>
介護認定	<input type="checkbox"/> 要介護 () <input type="checkbox"/> 要支援 () <input type="checkbox"/> その他		
認知症	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (日常生活自立度)		
寝たきり度	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> J <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> 不明		
居所			

このシートを作成した高齢者のうち、「事実確認時の指示・指導等の内容」に被虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の高齢者のデータを調査票に流し込む
 附2 被虐待高齢者
 1) 性別
 2) 年齢階級
 3) 要支援・要介護状態区分
 4) 認知症日常生活自立度区分
 5) 介護保険認定済者の障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

2 聞き取り内容 (ゆっくり、端的に問いかけ、回答はゆっくり待つ。反応があれば様子などを記載してください。)

氏名		年齢	歳
生年月日	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 昭 年 月 日 <input type="checkbox"/> わからない		
表情	<input type="checkbox"/> 硬い <input type="checkbox"/> 柔らかい <input type="checkbox"/> 読み取れない	質問への回答	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
保護訴え			
1 施設での生活	ここ(施設)での生活はいかがですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	ご飯はおいしいですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	お風呂は気持ちよく入っていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	時々、外出はされていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	夜はよく眠れていますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	寒い(暑い)ことはないですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
2 虐待(怖いこと等)	職員の方達はやさしいですか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員の方は呼ぶとすぐ来てくれますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員の方に怒られることはありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	何か怖いこと等がありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	他の人が叩かれているところを見たことがありますか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
	職員に叩かれることはありませんか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	
3 要望・その他	なにかして欲しいことはありませんか	はい・いいえ・反応無・反応有 ()	

相手 1 名につき 1 枚

管理番号

職員聞き取り調査票（一般職員用）

担当者： _____ / 作成日：平成 ____ 月 ____ 日

所要時間： ____ 時 ____ 分 ~ ____ 時 ____ 分

1 対象者

氏名		職種	
勤続年数		性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

2 聞き取り内容

		はい	いいえ
1	仕事は大変ですか。（ねぎらい）		
2	仕事をしていて疲れたとか、ストレスを感じていますか。		
3	施設の中の雰囲気は明るいと感じますか。		
4	高齢者虐待防止法の内容を知っていますか。		
5	神奈川県が作成した、「施設職員の為の高齢者虐待防止の手引き」を知っていますか。		
6	手引きをご覧になったことはありますか。		
7	施設内で、閲覧したのですか。		
8	施設で、何か高齢者虐待防止や人権擁護に関する取り組みを行っていますか。		
9	虐待防止（権利擁護）についての職員会議を開催していますか。		
10	外部の研修などに参加していますか。		
11	どのような研修に参加していますか。		
12	施設内で、研修が行われていますか。		
13	どのような研修が行われていますか。		
14	施設に虐待に関する、マニュアル等がありますか。		
15	虐待が起きたときの報告手順などが、施設で決まっていますか。		
16	利用者の方から怒られたり、怒鳴られたりすることはありますか。		
17	利用者の方から叩かれるようなことはありますか。		
18	他の職員がご利用者から怒られたり、怒鳴られたことを見たり、噂で聞いたことはありますか。		

このシートを作成した職員のうち、別帳票に虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の職員のデータを調査票に流し込む
 附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者
 1) 年齢階級
 2) 職名または職種
 3) 性別

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.2) 職員に対する虐待防止に関する研修の実施

19	他の職員がご利用者から叩かれているのを見たり、噂で聞いたことはありますか。			
20	あなたは利用者を、怒鳴ったりしたことはありますか。			
21	他の職員が利用者を怒鳴っているのを見たり、行っているという噂を聞いたことはありますか。			
22	この施設で以前虐待が行われたという噂等を聞いたことはありますか。			
23	聞いた場合、どのような内容ですか。			
24	利用者が特定の職員を怖がっているという噂を聞いたことはありますか。			
25	入浴時や排泄介助時に身体の傷やあざ等のチェックをしていますか。			
26	傷等があった場合どのように対処していますか。			
27	傷等があった場合家族への報告はしていますか。			
28	傷等があった場合内容を記録していますか。			
29	虐待を疑うような、傷等を見たことがありますか。			
30	医師の判断を要するような利用者の事故はありましたか。			
31	特に事故または、けがが多いと思う利用者の方はいますか。			
32	施設では事故が発生した場合、市町村や県に報告していますか。			
33	こちらの施設では、介護・看護の記録はどこまで決裁していますか。			
34	施設では、上司が介護・看護の記録を見て、何らかの指導や指示はありますか。			
35	あなたはこちらの職場に不満はありますか。			
36	あなたは仕事に不満はありますか。			
37	あるとすれば、どのような点ですか。（傾聴）			
38	施設の職員の定着率が悪いと感じたことはありますか。			
39	職員会議等で、職員が自由に発言できますか。			
40	あなたはこちらの職場で不公平だと感じたりしたことはありますか。			

問 6 虐待事例の概要
 4.4)虐待を行った職員の課題
 9)待遇への不満
 ※35, 36, 40 のいずれかに当てはまれば「あり」とする

41	この施設では、職員同士のコミュニケーションは取りやすいですか。				
42	あなたは業務負担が大きいと感じますか。				
以下は個別に聞き取るか、ここまでの聞き取り内容から当てはまる場合はチェックをしてください。					
43	倫理観・理念が欠如しているか				
44	虐待や権利擁護、身体拘束に関する知識・意識が不足しているか				
45	高齢者介護や認知症ケア等に関する知識・技術が不足しているか				
46	ストレス・感情コントロール				
47	性格や資質の問題				
48	その他				

問 6 虐待事例の概要
4.3) 組織運営上の課題
選択肢 j) に使用

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
d) 職員の業務負担の大きさ

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
43→a), 44→b), 45→c), 46→e),
47→f) に対応

問 6 虐待事例の概要
4.4) 虐待を行った職員の課題
ここに記載があれば h) = あり、とし
た上で書かれた文章を転記

※お礼：「お忙しい中、ご協力ありがとうございました。」

相手 1 名につき 1 枚

管理番号

職員聞き取り調査票（管理者用）

担当者： _____ / 作成日：平成 ____ 月 ____ 日

所要時間： ____ 時 ____ 分 ~ ____ 時 ____ 分

1 対象者

氏名		職種	
勤続年数		性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

2 聞き取り内容

		はい	いいえ
1	施設の中をご覧になることはありますか。		
2	施設の中の雰囲気は明るいと感じますか。		
3	高齢者虐待防止法の内容をご存知ですか。		
4	神奈川県が作成した、「施設職員の為の高齢者虐待防止の手引き」をご存知ですか。		
5	手引きをご覧になったことはありますか。		
6	施設内で、回覧しましたか。		
7	施設で、何か高齢者虐待防止や人権擁護に関する取り組みを行っていますか。		
8	虐待防止（権利擁護）についての職員会議を開催していますか。		
9	職員の方を外部の研修などに参加をしてもらっていますか。		
10	どのような研修に参加してもらっていますか。		
11	施設内で、研修を開催していますか。		
12	どのような研修を開催していますか。		
13	施設内で、管理者研修を開催していますか。		
14	どのような研修を開催していますか。		
13	施設に虐待に関する、マニュアル等がありますか。		
14	虐待が起きたときの報告手順などが、施設で決まっていますか。		
15	利用者の方から怒られたり、怒鳴られたりすることはありますか。		
16	利用者の方から叩かれるようなことはありますか。		
17	他の職員がご利用者から怒られたり、怒鳴られたことを見たり、噂で聞いたことはありますか。		

このシートを作成した管理者のうち、別帳票に虐待者として記載された対象者氏名と同じ氏名の職員のデータを調査票に流し込む
 附 4 虐待を行った養介護施設等の従事者
 1) 年齢階級
 2) 職名または職種
 3) 性別

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.3) 虐待防止委員会の設置

問 6 虐待事例の概要

6) 事実確認時における当該施設の虐待防止に関する取組
 6.1) 管理者の虐待防止に関する研修の実施

18	他の職員がご利用者から叩かれているのを見たり、噂で聞いたことはありますか。			
19	利用者を、怒鳴ったりしたことはありますか。			
20	他の職員が利用者を怒鳴っているのを見たり、行っているという噂を聞いたりすることはありますか。			
21	この施設で以前虐待が行われたという噂等を聞いたことはありますか。			
22	聞いた場合、どのような内容ですか。			
23	利用者が特定の職員を怖がっているという噂を聞いたことはありますか。			
24	入浴時や排泄介助時に身体の傷やあざ等のチェックをしていますか。			
25	傷等があった場合どのように対処していますか。			
26	傷等があった場合家族への報告はしていますか。			
27	傷等があった場合内容を記録していますか。			
28	虐待を疑うような、傷等を見たことがありますか。			
29	医師の判断を要するような利用者の事故はありましたか。			
30	特に事故または、けがが多いと思う利用者の方はいますか。			
31	施設では事故が発生した場合、市町村や県に報告していますか。			
32	こちらの施設では、介護・看護の記録はどこまで決裁していますか。			
33	あなたが、介護・看護の記録を見て、何らかの指導や指示をすることはありますか。			
34	あなたは職場に対する不満を聞くことはありますか。			
35	あるとすれば、どのような内容ですか。(傾聴)			
36	施設の職員の定着率が悪いと感じたことはありますか。			
37	職員会議等で、職員は自由に発言できますか。			
38	管理者として、問題があると考えている職員はいますか。			
39	経営層の倫理観・理念が欠如していると思いませんか。			

40	経営層の虐待や身体拘束に関する知識は十分だと思いますか。	問 6 虐待事例の概要 4.2) 運営法人の課題 33~44 を使用		
41	経営層は現場の実態を十分理解していると思いますか。			
42	経営層による業務環境変化への対応取組は十分だと思いますか。			
43	経営状態は安定していると思いますか。			
44	その他に、経営層について課題と感ずることはありますか。			
45	この施設の介護方針は適切だと思いますか。	問 6 虐待事例の概要 4.3) 組織運営上の課題 7, 9~12, 31, 33, 37, 45~50 を使用		
46	この施設では、利用者へのアセスメントは十分に行なわれていますか。			
47	この施設では、チームケア体制・連携体制は十分ですか。			
48	この施設では、開かれた施設・事業所運営がなされていると思いますか。			
49	この施設では、業務負担の軽減に向けた取組は十分に行われていますか。			
50	その他に、組織運営について課題と感ずることはありますか。			
51	その他			

※お礼：「お忙しい中、ご協力ありがとうございました。」

被虐待者 1 名につき 1 枚

管理番号
対象者氏名

事実確認時の指示・指導等の内容

1 被虐待者の状況

本人要望	
健康状態	
精神状態	
生活状況	
その他	

2 虐待の確認

明らかな虐待が確認できた 事業者から虐待の報告があった → 指示・指導等
 虐待は認められないが改善を要する → 指示
 事実確認のみを行い、担当課にもどり検討
指示・指導の内容（指示・指導を行った場合）

問 3 市町村における事実確認調査状況
1-2) 事実確認調査を行った結果

3 事実確認の結果と今後の対応（市町村に戻り、責任者とともに検討し該当項目にチェック）

<input type="checkbox"/>	虐待が認められた
<input type="checkbox"/>	虐待が確認できなかった
<input type="checkbox"/>	虐待が確認できなかったが指示・指導が必要
<input type="checkbox"/>	虐待の判断に至らなかった（理由： 悪質なケースであり、〇〇県との連携をもとに迅速な対応が必要
<input type="checkbox"/>	施設・事業者が事実確認に応じない
<input type="checkbox"/>	重篤な事態が想定され、早急に老人福祉法・介護保険法に基づく指導等が必要
<input type="checkbox"/>	過去にも虐待が起きた施設・事業者である （詳細： 指導等を繰り返している施設・事業者で県として介入する
<input type="checkbox"/>	〇〇県と共同して事実確認を行う必要がある
<input type="checkbox"/>	介護保険法の規定に基づく権限行使を行う（開始日： 年 月 日）
<input type="checkbox"/>	報告徴収、質問、立入検査を行う
<input type="checkbox"/>	改善勧告を行う

問 6 虐待事例の概要
5) 当該施設等に対する過去の指導等

問 4 都道府県への報告状況
2-1) 市町村で調査を行ったが虐待の事実の判断に至らず、都道府県に調査を依頼

問 8 介護保険法の規定に基づく権限の行使

問 5 都道府県における事実確認調査状況
1) 市町村から「都道府県と共同して事実確認を行う必要がある」と報告された事例

	改善勧告に従わない場合の公表を行う
	改善命令を行う
	指定の効力の全部又は一部停止を行う
	指定取消を行う
	現在対応中
	その他（ ）
老人福祉法の規定に基づく権限行使を行う（開始日： 年 月 日）	
	報告徴収、質問、立入検査
	改善命令
	事業の制限、停止、廃止
	認可取消
	現在対応中
	その他（ ）
老人福祉法、介護保険法上の権限行使以外の対応（開始日： 年 月 日）	
	施設等に対する指導
	施設等からの改善計画の提出を依頼する
	虐待を行った養介護施設従事者等への注意・指導
介護保険法の規定に基づく勧告・命令・処分（主に地域密着型）	
	その他（ ）

問9 老人福祉法の規定に基づく権限の行使

問7 老人福祉法、介護保険法上の
権限行使以外の対応

4 決定権者（日付・職位・氏名）

平成 年 月 日 _____ 印

付録 2-B-3. リスクアセスメント

管理番号=1施設(1ケース)が1番号
 対象者氏名=非虐待者氏名(1人につきこのシート1枚作成)

管理番号
 対象者氏名

高齢者虐待リスク評価票

被虐待者の状況	
<input type="checkbox"/> ア 被虐待者自身による意思疎通が可能である ⇒ 本人の訴え、客観的な事実と照らし合わせて、現在の危険度を評価すること。	
<input type="checkbox"/> イ 認知症等により、正確な意思の疎通が困難である ⇒ 本人の訴えを基礎とし、聴取情報ならびに看護・介護記録、事故報告等の客観的な記録情報と照らし合わせて評価すること。また、既に重症化している可能性が高いことに注意すること。	
客観的な事実確認により得た情報	危険度
1、当事者が保護を求めている	A (緊急度：高) 速やかに保護等の緊急措置を検討する必要がある
<input type="checkbox"/> ① 被虐待者自身が保護を求めている	
<input type="checkbox"/> ② 被虐待者の親族が当該高齢者の保護を求めている	
2、すでに重大な結果が生じている	
<input type="checkbox"/> ③ 他害による頭部や腹部の外傷(血腫・骨折)、重度の内出血、意識混濁、重度の褥そう、脱水症状、栄養失調、全身衰弱、強い自殺念慮、等に準ずる状況	
3、重大な結果が生じる状況が差し迫っている	B (緊急度：中) 集中的な支援のほか、保護等の緊急措置の検討が必要である
<input type="checkbox"/> ④ 被虐待者：「殺される」「〇〇が怖い」「何も食べていない」等の訴え	
<input type="checkbox"/> ⑤ 虐待者：「何をするかわからない」「殺してしまうかもしれない」等の訴え	
4、今後、重大な結果が生じるおそれが高い	
<input type="checkbox"/> ⑥ 頭部打撲、顔面打撲、腫脹、不自然な内出血、やけど、刺し傷、極端な怯え、きわめて非衛生的、等に準ずる状況	
5、繰り返されるおそれが高い	C (緊急度：低) すぐに保護等の緊急措置を講ずる必要はない
<input type="checkbox"/> ⑦ 習慣的な暴力、新旧の傷や内出血、入退院の繰り返し	
<input type="checkbox"/> ⑧ 虐待者の認識：虐待の自覚なし、援助者との接触回避	
<input type="checkbox"/> ⑨ 虐待者の精神的不安定、判断力の低下、非現実的な認識	
6、過去に虐待をされた旨で訴えがある(現在進行形でない)	問6 虐待事例の概要 4.5) 被虐待高齢者の状況 a) 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回→16 b) 認知症によるBPSD(行動・心理症状)がある→12 c) 医療依存度が高い→17 d) 意思表示が困難→上の「ア」 e) 職員に暴力・暴言を行う→12 f) 他の利用者とのトラブルが多い→18 g) その他→14、15
<input type="checkbox"/> ⑩ 「昔、〇〇をされた」「あらためて考えると虐待ではないか」など	
7、被虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑪ 認知症程度：I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M	
<input type="checkbox"/> ⑫ 行動上の問題：徘徊、暴力行為、昼夜逆転、不穏興奮、失禁など	
<input type="checkbox"/> ⑬ 寝たきり度：J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2	
<input type="checkbox"/> ⑭ 性格の問題(偏り)：衝動的、攻撃的、粘着質、依存的など	
<input type="checkbox"/> ⑮ 精神疾患() 依存症()	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑯ 介護に手が掛かる、排泄や呼び出しが頻回	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑰ 医療依存度が高い	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑱ 他の利用者とのトラブルが多い	
8、虐待者に虐待につながるリスク要因がある	
<input type="checkbox"/> ⑲ 被虐待者への拒否的感情や態度がある	
<input type="checkbox"/> ⑳ 重い介護負担感や介護疲れ	
<input type="checkbox"/> ㉑ 認知症や介護に関する知識・技術不足	
<input type="checkbox"/> ㉒ 性格の問題(偏り)：衝動的、攻撃的、未熟性、支配的、依存的	
<input type="checkbox"/> ㉓ 障害・疾患：知的障害、精神疾患、依存症など	
<input type="checkbox"/> ㉔ 経済的問題：低所得、失業、借金、被虐待者への経済的依存	
9、虐待につながる家庭状況がある	

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ㉔ 長期にわたる虐待者・被虐待者間の不和の関係
<input type="checkbox"/> ㉕ 虐待者・被虐待者の共依存関係
<input type="checkbox"/> ㉖ 虐待者が暴力の被害者
<input type="checkbox"/> ㉗ その他の家族・親族の無関心
<input type="checkbox"/> ㉘ 住環境の悪さ：狭い 被虐待者の居室なし 非衛生的 | |
|---|--|

付録 2-B-4. 会議記録
コアメンバー会議用帳票

第 回コアメンバー会議録

管理番号

本人氏名

記録者氏名

問 6 虐待事例の概要

1) 虐待の事実が確認された期日

(1~5いずれかが有の場合にデータ流し込み)

会議日時: 年 月 日 時 分~ 時 分

虐待事実の判断 ※疑いの場合は事実確認の継続必須 ※一時的解消の場合には再発可能性に留意	1. 身体的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠	附 3 虐待の種別・類型 1) 虐待の種別		帳票等() 参照
	2. 放棄・放任	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠			帳票等() 参照
	3. 心理的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
具体的内容と判断根拠			帳票等() 参照	
4) 虐待の深刻度	4. 性的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
	具体的内容と判断根拠			帳票等() 参照
	5. 経済的虐待	<input type="checkbox"/> 有 (判断日) <input type="checkbox"/> 疑い () <input type="checkbox"/> 一時的解消 () <input type="checkbox"/> 解消 () <input type="checkbox"/> 無 () <input type="checkbox"/> 不明 ()		
具体的内容と判断根拠			帳票等() 参照	
深刻度区分 [※] ※「深刻度指標」=「被虐待高齢者が虐待によって被害を受けた程度」	<input type="checkbox"/> 4. 最重度 生命・身体・生活の危機的状況	<input type="checkbox"/> 3. 重度 重大な健康被害が生じている、生活の継続に重大な支障が生じている	<input type="checkbox"/> 2. 中度 虐待が繰り返されている、心身への被害・影響や生活に支障が出ている状態	<input type="checkbox"/> 1. 軽度 本人意思を無視した行為や介護者の都合に合わせたケアが行われている、軽度の被害・影響が生じている状態
被虐待者の死亡の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
本人の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
要介護者の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
その他家族・後見人等の意見・希望	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認			
背景要因	高齢者本人の因子 (不明・未確認の場合は理由を記述)		<input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他	関係性・世帯の因子 <input type="checkbox"/> 未確認 <input type="checkbox"/> その他
	要介護者・親族の因子		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の因子 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	因子の確認が「その他」の場合の具体的内容			
強み・ストレングス	高齢者本人の強み		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	関係性・世帯の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認
	要介護者・親族の強み		<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認	地域・支援者側の強み <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 未確認

附 3 虐待の種別・類型
4) 虐待の深刻度

附 3 虐待の種別・類型
5) 被虐待者の死亡の有無

問 6 虐待事例の概要
3) 虐待対応ケース会議での発生要因の分析

問 6 虐待事例の概要
4.1) 虐待の発生要因
ケース会議の内容と結合して流し込み

管理番号

供 覧

評価ケース検討会議記録

開催日	年 月 日 ()
開催時間	時 分 ~ 時 分
開催場所	

検討対象氏名	ケース提出者	
	所属(職種)	氏名
会議出席者		
経過		
検討課題		
検討内容	問 10 市町村・都道府県の対応に対して当該養介護施設等において行われた措置	
市町村・都道府県の対応に対して施設・事業所等で行われた措置	<input type="checkbox"/> 改善計画の提出(提出日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> 老人保健法、介護保険法の規定に基づく勧告・命令等への対応(対応日: 年 月 日) <input type="checkbox"/> その他 ()	
モニタリング評価	<input type="checkbox"/> 施設訪問による確認 <input type="checkbox"/> 施設からの報告 <input type="checkbox"/> その他 () 問 11 改善取組のモニタリング評価	
老人福祉法、介護保険法に基づく措置を行った場合の具体的内容	問 12 老人福祉法、介護保険法に基づく措置を行った事例の具体的内容	

評価結果のまとめ	(年 月 日現在の状況) <input type="checkbox"/> 虐待対応の終結 (終結理由：) <input type="checkbox"/> 現在の虐待対応計画内容に基づき対応を継続 (現在の状況：)
結 論	
残された課題	
次回開催日	年 月 日 () を予定

問13 調査対象年度末日での状況

※シートが作成されるたびに、終結/継続を判定し、終結日、継続時の選択内容を更新

※ケース進行管理表は養護者用帳票と同フォーマットのため割愛